# Intel Active Management Technology v7.0 管理者ガイド

## 概要



## メニューおよびデフォルト



### MEBx のデフォルト



## Setup and Configuration（セットアップおよび設定）



## 管理



## AMT リダイレクション（SOL / IDE-R）



## Intel Management and Security Status アプリケーション



## トラブルシューティング



---

DELL™ n シリーズコンピュータをご購入いただいた場合、本書の Microsoft® Windows® OS についての説明は適用されません。

---



2011 年 3 月　 改訂 A00

# 製品概要

Intel Active Management Technology（Intel AMT）により、企業はネットワークコンピュータを容易に管理できます。

- コンピュータの電源が入っているかどうかに関わらず、ネットワーク上のコンピュータ資産を検出 – Intel AMT は、不揮発性システムメモリに保存されている情報を使用してコンピュータにアクセスします。このため、コンピュータの電源が切断されている場合でもアクセス可能です（帯域外または OOB アクセスとも呼ばれます）。
- オペレーティングシステムに障害が発生した後でも、リモートでシステムを修復 – ソフトウェアまたはオペレーティングシステムに不具合が発生した場合、修復を目的として Intel AMT を使用し、コンピュータにリモートでアクセスできます。また IT 管理者は、Intel AMT の帯域外イベントのログおよび警告機能を使用して、システムの問題を容易に検出することもできます。
- ネットワークでソフトウェアとウィルス保護を最新の状態に保ちながら、侵入しようとする脅威からネットワークを保護します。

# ソフトウェアサポート

一部の独立系ソフトウェアベンダー（ISV）は、Intel AMT の機能と互換性のあるソフトウェアパッケージを構築しています。これにより、企業内でネットワークコンピュータ資産をリモート管理することになった場合でも、IT 管理者は多数のオプションを使用できます。

# 機能と利点

| **Intel AMT** | |
|---|---|
| 機能 | 利点 |
| 帯域外（OOB）アクセス | システム電源やオペレーティングシステムの状態に関係なく、プラットフォームをリモート管理できます。 |
| リモートでのトラブルシューティングおよび回復 | 現場に出向く回数を大幅に削減し、IT テクニカルスタッフの効率を向上させせます。 |
| 問題先取り型警告 | ダウンタイムを短縮し、修復時間を最小限に抑えます。 |

# vPro7 の新機能

## AMT7

- ホストベースのプロビジョニング：AMT に対応したユニットを顧客が容易にインストール可能
- 通信プロキシのサポート：外部ネットワークへの AMT 通信が可能（たとえば IT を外部委託している場合）
- AMT を介したデル独自のリモート BIOS（DT/NB）およびバッテリ（NB）管理

## MEFW ロールバック

vPro システム上で MEFW のダウングレードが可能になり、CFI や顧客がより容易に BIOS のリビジョンを追跡できます。

# AT-p 3.0

- AT-p 向けの WWAN（3G）サポート（NB 上の Ericsson ワイヤレスのみ）
- AT-p サスペンド / 再開コマンドによる一時的な無効化
- S3 再開時の AT-p 認証（オプション）

## デスクトップワークステーションのサポートを追加

# その他の新機能（MEFW 関連）

### LAN ARP のサポート

Sx のコンソールシステムをウェイクせずに通知することによって、ME が LAN ARP 要求（IPV4）および近隣探索パケット（IPV6）に応答します。

- Win7 LAN の新しい要件
- 5MB SKU および電源ポリシー 2 のみ

### ディープ S4 / S5

AMT が PP2 でプロビジョニングされると、これは自動的に無効になります。

### Identify Protection Technology（IPT）

ワンタイムパスワードによるセキュアログインと、ME ベースの認証による Web トランザクションを有効にします。

## クライアントシステムの要件

このドキュメントでのクライアントシステムとは、Intel 6 シリーズチップセットファミリ / Intel PCH プラットフォームをベースとし、Intel Management Engine で管理されているものを言います。次のファームウェア要件およびソフトウェア要件は、クライアントシステムで Intel Management Engine を設定して実行する前に、インストールとセットアップが必要なものです。

- Intel AMT 7.0 にプログラムされた SPI フラッシュデバイスは、 統合 BIOS、Intel Management Engine、および GbE コンポーネントのイメージをフラッシュします。
- Intel AMT を有効にしてセットアップされた BIOS では、F12 メニューから MEBx セットアップにアクセスできます。
- Microsoft オペレーティングシステムで Intel Management Engine 機能のすべてを有効化するには、クライアントシステムにデバイスドライバ（Intel MEI/SOL/LMS）がインストールされ設定されている必要があります。

* 本ページに記載の情報は Intel により提供されています。

**メモ：**Intel Management Engine BIOS Extension（MEBx）は、Intel からデルに提供されたオプションの ROM モジュールで、Dell BIOS に含まれています。MEBx は Dell コンピュータ向けにカスタマイズされています。

# Out of Box Experience

Intel Active Management Technology（Intel AMT）コンピュータには次の資料をご利用いただけます。

- 工場出荷時のインストール
  - Intel AMT 7.0 はデルの工場から工場出荷時の設定で発送されます。
- セットアップおよびクイックリファレンスガイド
  - Dell テクノロジガイドへのリンク付き Intel AMT 概要です。
- Dell テクノロジガイド
  - 高レベルの Intel AMT 概要、セットアップ、プロビジョニング、およびサポートです。
- バックアップメディア
  - ファームウェアおよび重要なドライバはリソース CD に収録されています。

Intel AMT に関する詳細は、『管理者ガイド』をご覧ください。ガイドはウェブサイトに掲示されており、**support.dell.com\manuals** から入手できます。

# 動作モード

Intel AMT 5.0 以前のバージョンでは、SMB と Enterprise（エンタープライズ）の 2 つの操作モードがありました。Intel AMT 6.0 および AMT 7.0 では、これらの機能は統合され、以前の Enterprise（エンタープライズ）モードと同じ機能が提供されます。

新しい設定オプションには次のものがあります。

- Manual Setup and Configuration（手動セットアップと設定）（SMB 顧客向け）
- Automatic Setup（自動セットアップ）
- Configuration

| 設定 | **Intel AMT 5.0** デフォルト | | **Intel AMT 6.0 / 7.0**（デフォルトオプション） |
|---|---|---|---|
| | **Enterprise**（エンタープライズ）モード | **SMB SMB** モード | |
| TLS モード | Enabled（有効） | Disabled（無効） | Disabled（無効）ですが、後で有効化することができます |
| Web UI | Disabled（無効） | Enabled（有効） | Enabled（有効） |
| IDER/SOL/KVM リダイレクションネットワークインタフェースの有効化 | Disabled（無効） | Intel® MEBx で機能が有効化されている場合は Enabled（有効） | Enabled（有効）ですが、後で無効化することができます。 |
| Legacy リダイレクションモード（リダイレクト接続の受け入れを待っている FW を制御） | Disabled（無効） | Intel® MEBx で機能が有効化されている場合は Enabled（有効） | Disabled（無効）（レガシーの SMB コンソールで使用するには **Enabled**（有効）にする必要がある） |

メモ：出荷先の国における暗号化テクノロジに関する規制により、お届けする製品で TLS が恒久的に無効化されている場合があります。この場合、TLS を再び有効化することはできません。

メモ：KVM は内蔵型グラフィック CPU でのみサポートされます。システムは内蔵グラフィックモードである必要があります。

手動設定は、次の手順に従って実行することができます。

□□□ システム BIOS および FW でイメージをフラッシュします。
□□□ <F12> メニューから Intel MEBx を選択し、デフォルトのパスワード **admin** を入力します。ログイン後、パスワードを変更します。
□□□ Intel ME General Settings（Intel ME 一般設定）メニューを選択します。
□□□ Activate Network Access（ネットワークアクセスの有効化）を選択します。
□□□ 確認メッセージで **Y** を選択します。
□□□ Intel MEBx を終了します。

メモ：外部手段、または Intel Activator ツールを使用するオペレーティングシステムを介してアクティブ化することも可能です。

# セットアップおよび設定の概要

Intel AMT のセットアップおよび設定に関する重要な用語を以下に示します。

- セットアップおよび設定 — Intel AMT によって管理されるコンピュータに、リモート管理を可能にするためのユーザー名、パスワード、ネットワークパラメータを設定するプロセス。
- 設定サービス — Intel AMT のプロビジョニングを完了するためのサードパーティ製アプリケーション。
- **Intel AMT WebGUI** — 制限付きでリモートコンピュータの管理を行える Web ブラウザをベースとしたインタフェース。

Intel AMT を使用する前に、コンピュータでセットアップおよび設定を行う必要があります。Intel AMT セットアップでは、コンピュータを Intel AMT モードで使用する準備をして、ネットワーク接続を有効にします。このセットアップを実行するのは通常、コンピュータの耐用期間中 1 回だけです。Intel AMT が有効な場合は、ネットワーク上の管理ソフトウェアによる検出が可能です。

Intel AMT を Enterprise（エンタープライズ）モードでセットアップした後は、機能の設定を独自でいつでも開始できます。必要なすべてのネットワーク要素が使用可能になった時点で、コンピュータを電源とネットワークに接続すると、Intel AMT は自動的に設定を開始します。設定サービス（サードパーティ製アプリケーション）によって、このプロセスが完了されます。以上で Intel AMT はリモート管理を行う準備が整います。この設定には、通常 2～3 秒しかかかりません。Intel AMT セットアップおよび設定が完了した後は、お客様のビジネス環境に応じたテクノロジを再設定できます。

Intel AMT を SMB モードでセットアップすると、コンピュータはネットワーク全体の設定を行いません。コンピュータは手動で設定し、これにより、Intel AMT Web GUI で動作する準備が完了します。

# Intel AMT のセットアップおよび設定の状態

Intel AMT のセットアップおよび設定操作は、プロビジョニングとも呼ばれます。Intel AMT 対応コンピュータは、次の 3 種類のセットアップおよび設定状態のいずれかの状態になっています。

- Factory-default（工場出荷時）状態
- Setup（セットアップ）状態
- Provisioned（プロビジョニング済み）状態

**Factory-Default State**（工場出荷時状態）とは、何も設定されていない状態であり、セキュリティ信用証明書がまだ設定されておらず、Intel AMT 機能を管理アプリケーションで使用できません。Factory-Default State（工場出荷時状態）では、Intel AMT は工場出荷時の設定になっています。

**Setup State**（セットアップ状態）とは、部分的に設定された状態であり、Intel AMT に初期ネットワークとトランスポート層セキュリティ（TLS）情報（初期設定の管理者用パスワード、プロビジョニングパスフレーズ（PPS）、プロビジョニング ID（PID））が設定されています。Intel AMT のセットアップが完了すると、Intel AMT はエンタープライズ設定を設定サービスから受け取る準備が整います。

**Provisioned State**（プロビジョニング済み状態）とは、完全に設定済みの状態であり、Intel Management Engine（ME）に電源オプションが設定されており、Intel AMT に、セキュリティ設定、証明書、Intel AMT 機能の起動設定といった設定が完了しています。Intel AMT の設定が完了すると、Intel AMT の機能は管理アプリケーションとやりとりを行う準備が整います。

## プロビジョニング方法

### TLS-PKI

TLS-PKI は、「リモート設定」とも呼ばれます。SCS は TLS-PKI（公開キー基盤）証明書を使用して Intel AMT 有効のコンピュータに安全に接続します。この証明書は、次のいずれかの方法で生成できます。

- SCS は、コンピュータに事前にプログラミングされているデフォルトの証明書の 1 つを使用して接続できます。詳細は、本書の MEBx インタフェースの項に記載されています。
- SCS は、専用にフォーマットされた USB サムドライブを使用してデスク側で対応することによって、AMT コンピュータに展開できるカスタム証明書を作成できます。詳細は、本書の設定サービスの項に記載されています。
- SCS は、カスタムファクトリーインテグレーション（CFI）プロセスによってデルの工場で事前にプログラミングされたカスタム証明書を使用することもできます。

### TLS-PSK

TLS-PSK は「ワンタッチ設定」とも呼ばれます。SCS は、PSK （事前共有キー）を使用して AMT コンピュータとの安全な接続を確立しま

す。これらのキーは 52 文字で構成され、SCS によって作成することができます。次の 2 種類の方法でデスク側から対応することによって、AMT コンピュータに展開されます。

- このキーは、手動で MEBx に入力できます。
- SCS はカスタムキーのリストを作成し、専用にフォーマットされた USB サムドライブにこれらのキーを記録できます。各 AMT コンピュータは、BIOS の起動中に、専用にフォーマットされた USB サムドライブからカスタムキーを取得します。詳細は、本書の設定サービスの項に記載されています。

# MEBx 設定の概要

Intel Management Engine BIOS Extension（MEBx）で提供されるプラットフォームレベルの設定オプションにより、Management Engine（ME）プラットフォームの動作を設定できます。オプションには、各機能を有効および無効にしたり、電源に関する設定などがあります。

本項では、MEBx 設定オプションの詳細および制約（該当する場合）について説明します。

# MEBx 設定ユーザーインタフェースへのアクセス

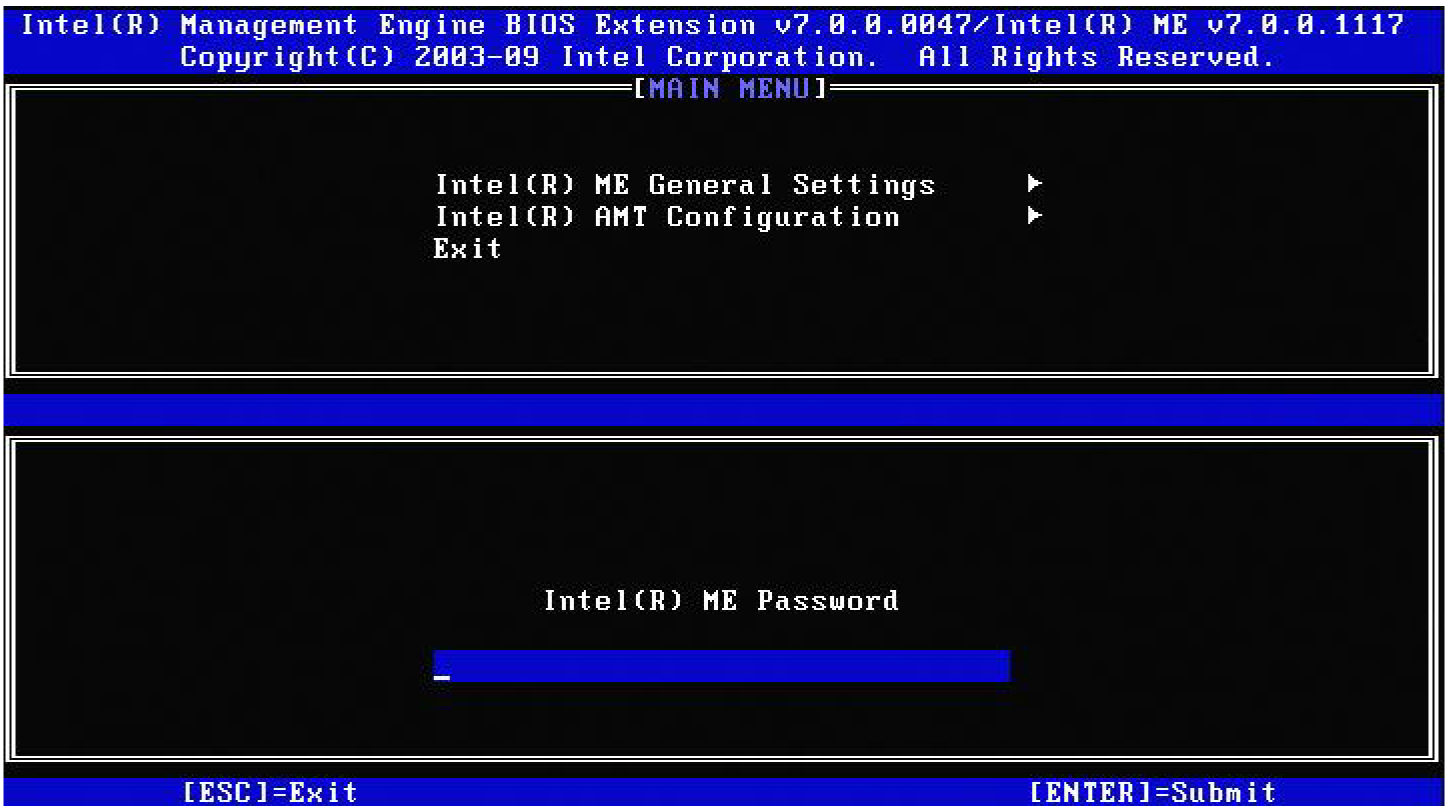
コンピュータの MEBx 設定ユーザーインタフェースにアクセスするには、次の手順を実行します。

□□□ コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
□□□ 青い DELL™ ロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押して MEBx を選択します。

> **メモ：**キーを押すタイミングが遅れて、オペレーティングシステムのロゴが表示されてしまった場合は、Microsoft Windows デスクトップが表示されるまでそのまま待機します。コンピュータをシャットダウンして操作をやりなおしてください。

□□□ ME パスワードを入力します。<Enter> を押します。デフォルトのパスワードは「admin」です。これはユーザーが変更することができます。

次に示す MEBx 画面が表示されます。




メインメニューには、3 種類の機能が表示されます。

- Intel ME General Settings（Intel ME 全般設定）
- Intel AMT Configuration（Intel AMT 設定）
- Exit（終了）

> **メモ：**Intel MEBx は、検出されたオプションのみを表示します。これらのオプションのうち 1 つまたは複数のオプションが表示されない場合は、表示されていない機能がシステムでサポートされているかどうかを確認してください。

# Intel ME パスワードの変更

デフォルトのパスワードは `admin` で、新しく展開されるプラットフォームですべて同じです。機能の設定オプションを変更する前に、デフォルトパスワードを変更する必要があります。

IT 管理者がデフォルトのパスワードで最初に Intel MEBx 設定メニューを起動したとき、その管理者はデフォルトのパスワードを変更するまでどの機能も使用できません。

新しいパスワードには必ず次の要素を含めます。

- 8 文字（32 文字以下）
- 大文字 1 文字
- 小文字 1 文字
- 数字 1 文字
- 英数字以外の特殊文字（ !、$、; など。:、"、, は除く）

メモ：下線（ _ ）およびスペースバーは有効なパスワードですが、パスワードの複雑性を増すものではありません。

メモ：システムをシャットダウンし、AC および DC 電源を取り外して RTC リセットを実行することによって、パスワードをデフォルト設定（admin）にリセットすることができます。

* 本ページに記載の情報は Intel により提供されています。

# ME General Settings（ME 一般設定）

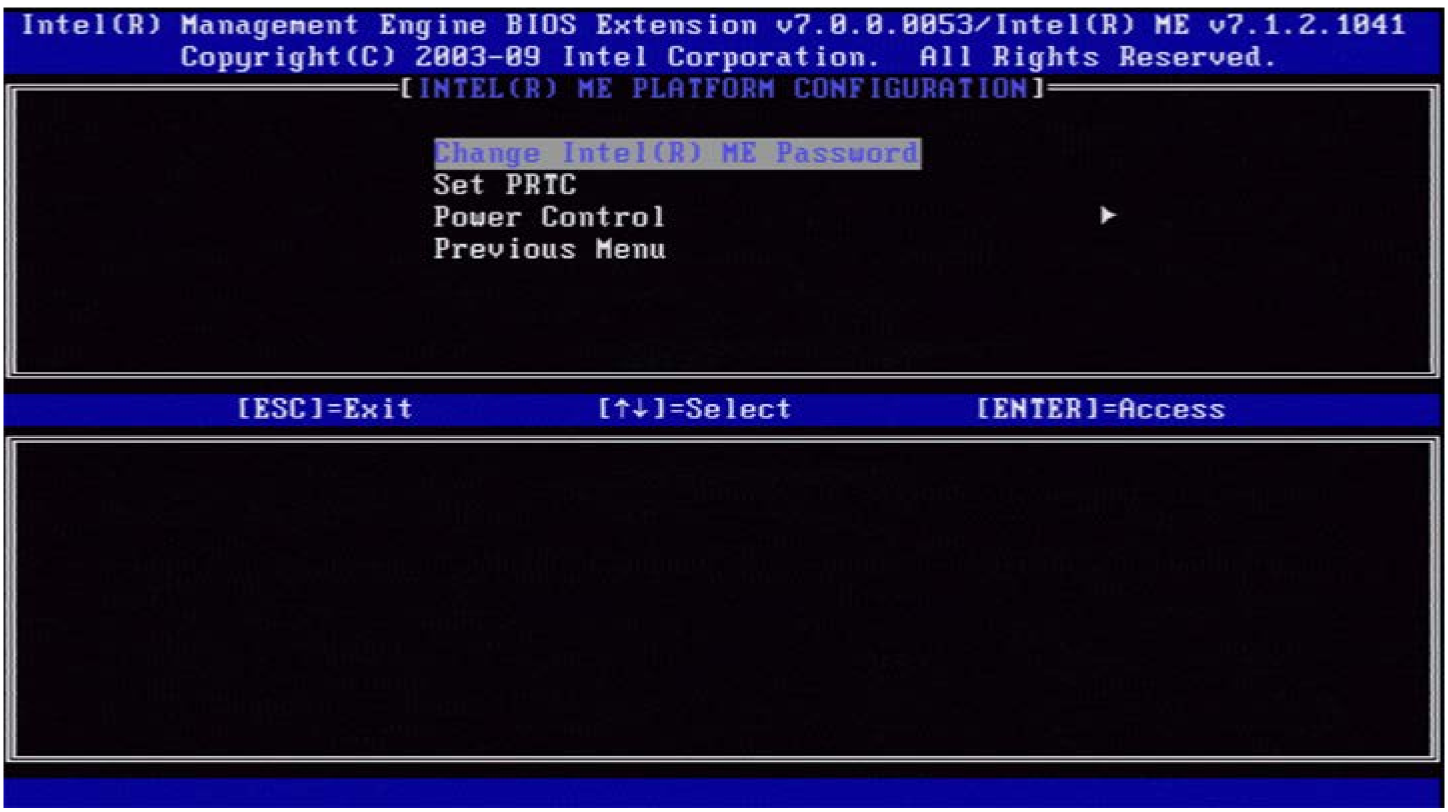
**Intel Management Engine (ME) Platform Configuration** （Intel Management Engine（ME）プラットフォーム設定）ページを表示するには、次の手順を実行します。

□□□ Management Engine BIOS Extension（MEBx）（Management Engine BIOS Extension（MEBx））メインメニューで、**Intel ME General Settings**（Intel ME 全般設定）を選択します。<Enter> を押します。
□□□ 次のメッセージが表示されます：「Acquiring General Settings configuration」（一般設定を取得しています）。

Intel MEBX メインメニューから **Intel ME Platform Configuration**（Intel ME プラットフォーム設定）ページに切り替わります。このページでは、IT 管理者がパスワードや電源オプションなどの Intel ME の特定の機能を設定できるようにします。各セクションへのクイックリンクを次に示します。

- Change Intel ME Password（Intel ME パスワードの変更）
- Set PRTC（PRTC の設定）
- Power Control（電源制御）
  - Intel ME ON in Host Sleep（ホストのスリープ時に Intel ME をオン）
  - Idle Timeout（アイドルタイムアウト）
  - Previous Menu（前のメニュー）
- Previous Menu（前のメニュー）

## Intel ME Platform Configuration（Intel ME プラットフォーム設定）




メモ：以前のバージョンの MEBx にあった「Intel ME State Control」（Intel ME 状態の制御）オプションは、エンドユーザーが誤って Intel ME を無効にするのを防ぐために削除されました。このオプションは、現在はシステム BIOS で提供されています。

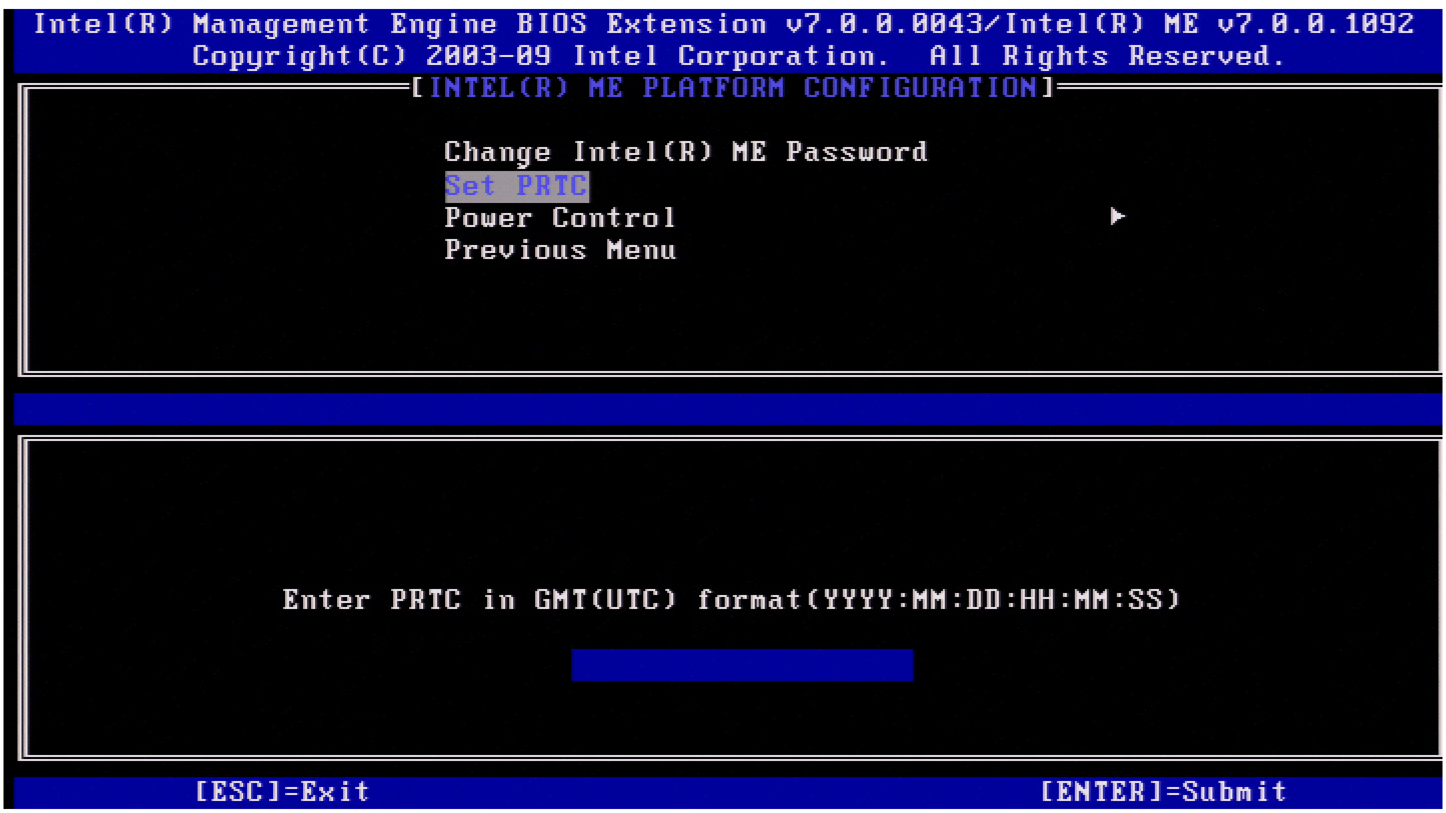
## Change Intel ME Password（Intel ME パスワードの変更）

□□□ Intel ME 新規パスワードのプロンプトで、新しいパスワードを入力します（パスワードのポリシーと制限事項はこちらで参照できます）。
□□□ パスワードの確認プロンプトで、新しいパスワードを再入力します。これでパスワードが変更されました。




## Set PRTC（PRTC の設定）

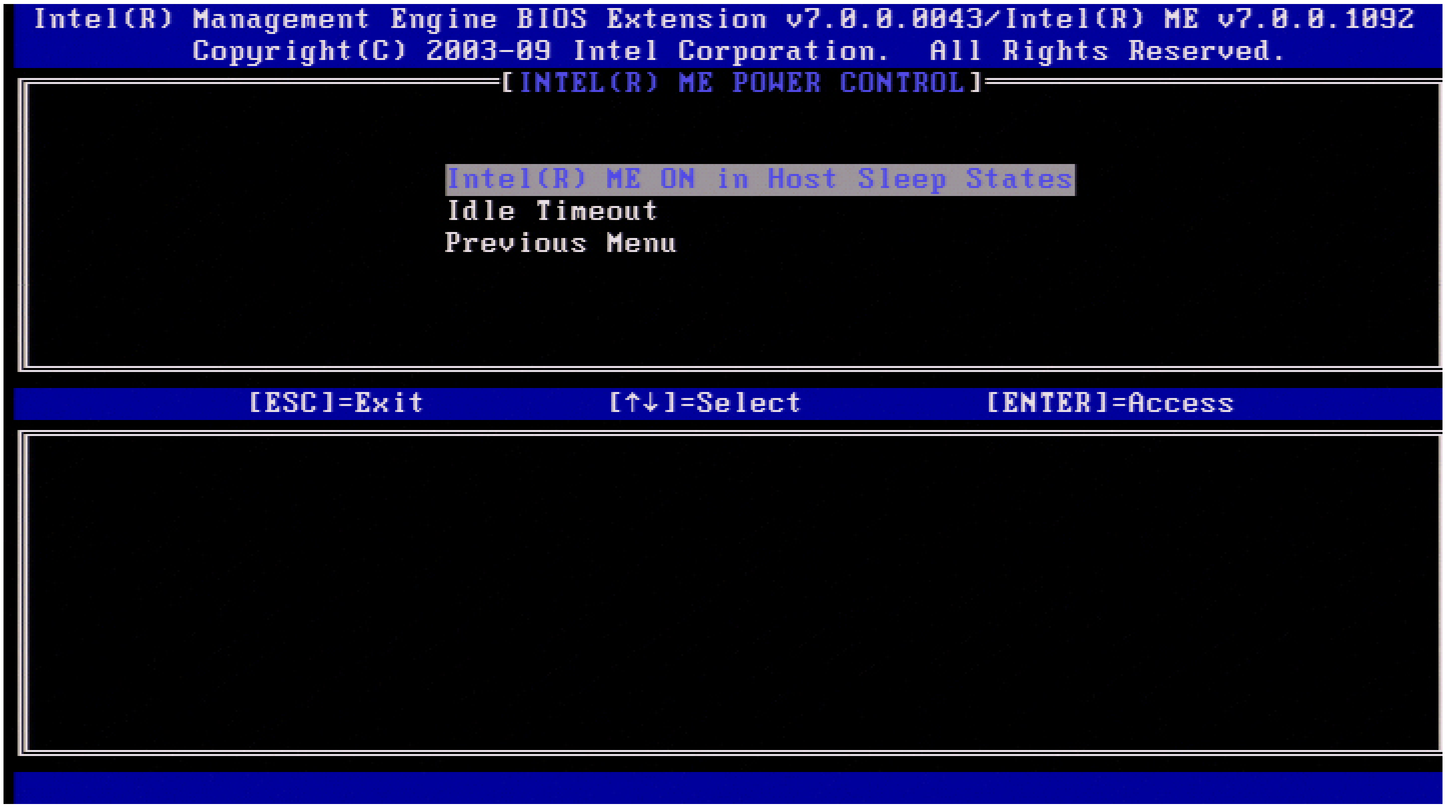
Intel ME Platform Configuration（Intel ME プラットフォーム設定）メニューで **Set PRC**（PRC の設定）を選択し、<Enter> を押します。




有効な日付の範囲は、1/1/2004〜1/4/2021 です。設定した PRTC 値は、電源オフ（G3）状態の場合に PRTC を事実上保持するのに使用されます。
PRTC を GMT（UTC）形式（YYYY:MM:DD:HH:MM:SS）で入力し、<Enter> を押します。

# Power Control（電源制御）

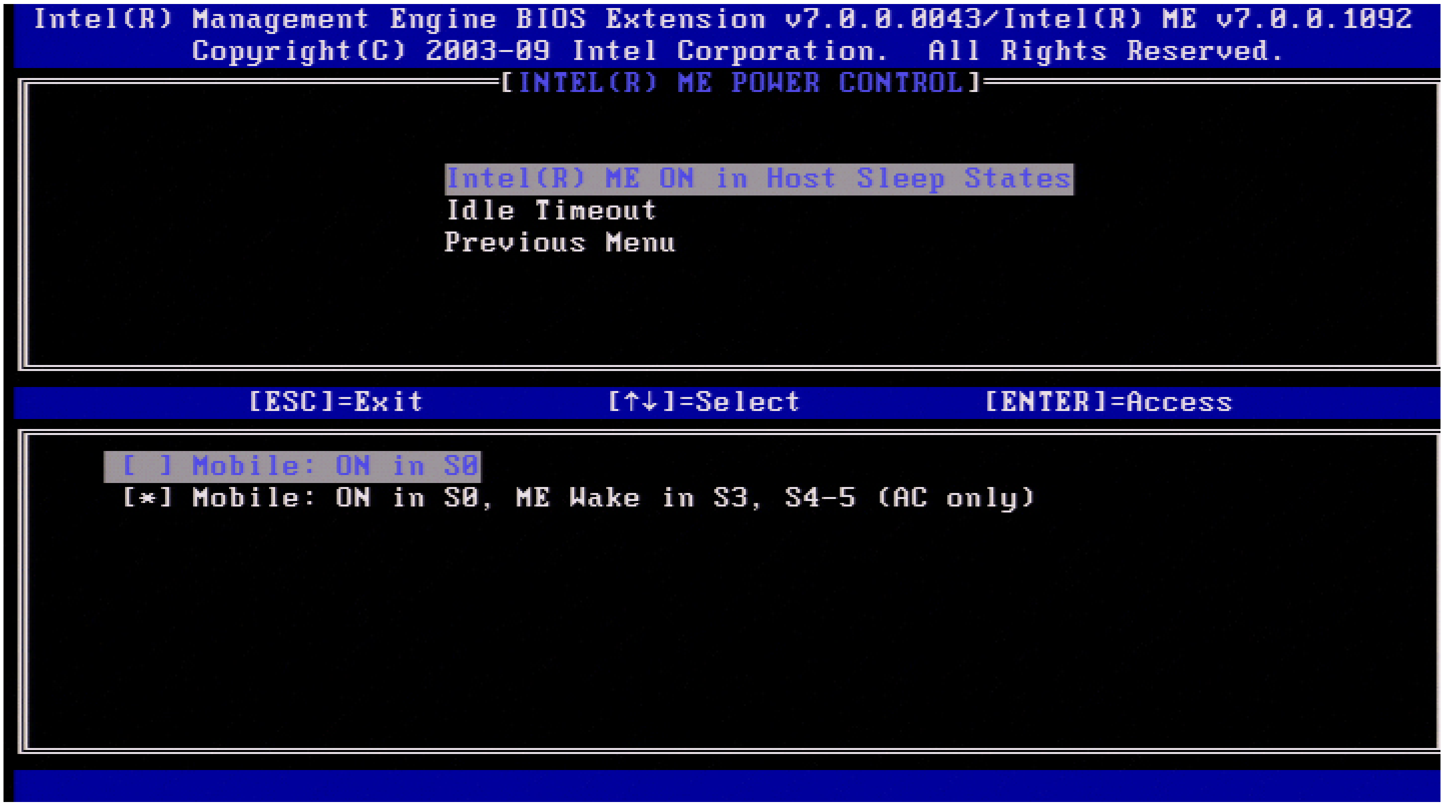
Intel ME Platform Configuration（Intel ME プラットフォーム設定）メニューで **Power Control**（電源制御）を選択し、<Enter> を押します。
Intel Power Control（Intel 電源制御）ページが表示されます。




ENERGY STAR* および EUP LOT6 要件に準拠するため、各種スリープ状態で Intel ME をオフにすることができます。Intel ME Power Control（Intel ME 電源制御）メニューでは、Intel ME プラットフォームの電源関連ポリシーを設定します。

## Intel ME ON in Host Sleep States（ホストのスリープ状態時に Intel ME をオン）

Intel ME Power Control（Intel ME 電源制御）メニューで **Intel ME ON in Host Sleep States**（ホストのスリープ状態時に Intel ME をオン）を選択し、<Enter> を押します。
上下矢印キーを押して希望の電源ポリシーを選択し、<Enter> を押します。




エンドユーザー管理者は、システム使用状況に応じて使用する電源パッケージを選択できます。

Intel ME WoL では、タイムアウトタイマーが切れた後、コマンドが ME に送信されるまで、Intel ME は引き続き M-Off 状態になります。このコマンドが送信されると、Intel ME は M0 または M3 状態に移行し、次に送信されるコマンドに応答します。Intel ME への Ping でも、Intel ME が M0 または M3 状態になります。

Intel ME が M-off 状態から M0 または M3 状態に移行するには少し時間がかかります。この時間中、Intel AMT はいずれの Intel ME コマンドにも応答しません。Intel ME が M0 または M3 状態に達すると、システムが Intel ME コマンドに応答するようになります。

次の表では、電源パッケージの詳細を説明します。

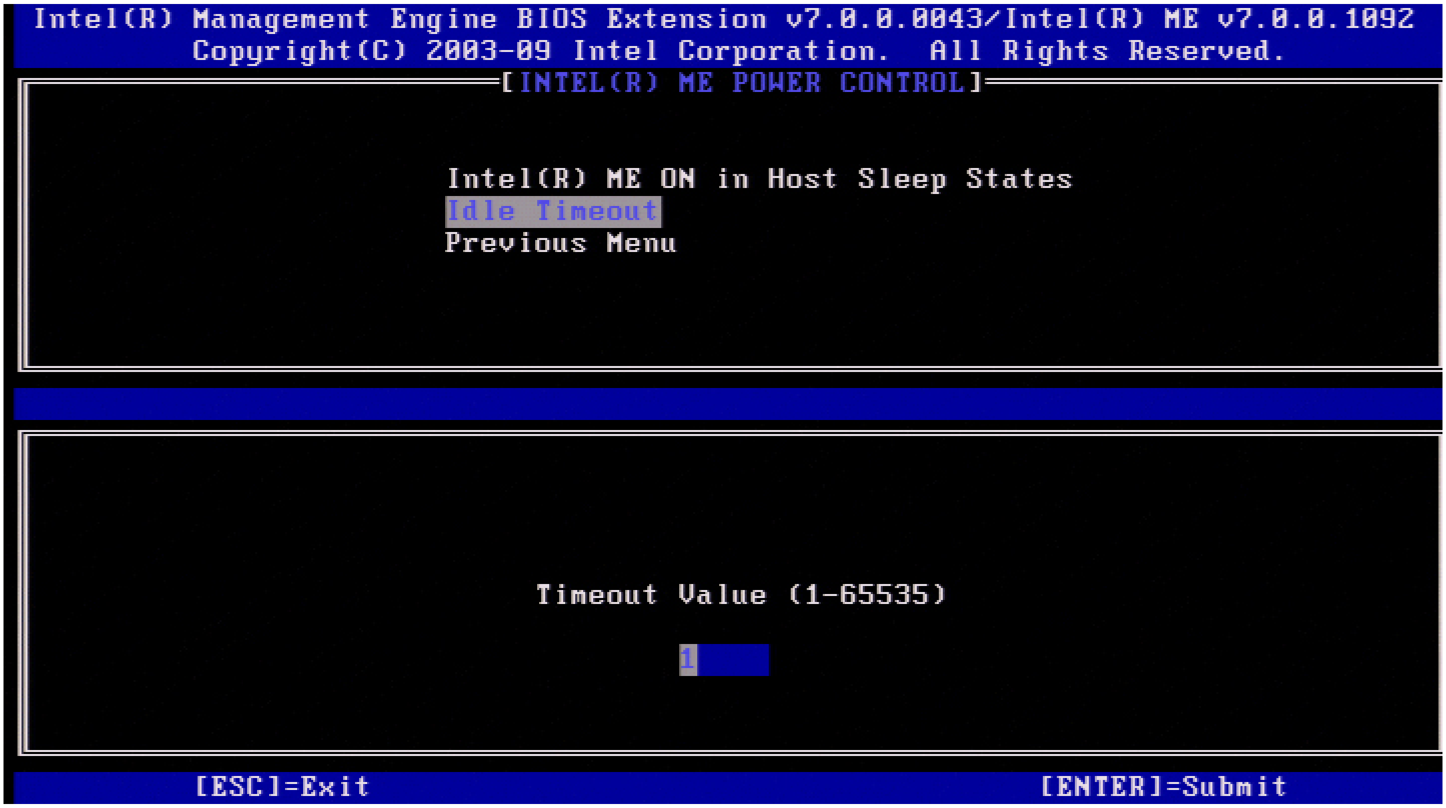
| 電源パッケージ | 1 | 2 |
|---|---|---|
| **S0** | ON | ON |
| **S3** | OFF | ON/ ME WoL |
| **S4 / S5** | OFF | ON/ ME WoL |

希望の電源ポリシーを選択し、<Enter> を押します。

**メモ:** システムをプロビジョニング状態にすると、自動的に電源パッケージ 2 に切り替わります。これは後で WebUI、管理コンソール、または MEBx を介して変更できます。

## Idle Timeout（アイドルタイムアウト）

Intel ME Power Control（Intel ME 電源制御）メニューで **Idle Time Out**（アイドルタイムアウト）を選択し、<Enter> を押します。




この設定はタイムアウト値を設定するために使用され、M3 状態での Intel ME のアイドルタイムアウトを定義します。この値は、分単位で入力します。この値は、Intel ME が M-off 状態に移行する前に M3 のアイドル状態を維持できる時間を示します。

メモ：Intel ME が M0 の場合は、M-off に移行しません。

### Previous Menu（前のメニュー）

Intel ME Platform Configuration（Intel ME プラットフォーム設定）メニューで **Previous Menu**（前のメニュー）を選択し、<Enter> を押します。
Intel ME Platform Configuration（Intel ME プラットフォーム設定）ページが表示されます。

## Previous Menu（前のメニュー）

Intel ME Platform Configuration（Intel ME プラットフォーム設定）メニューで **Previous Menu**（前のメニュー）を選択し、<Enter> を押します。
メインメニューが表示されます。

* 本ページに記載の情報は Intel により提供されています。

# AMT 設定

Intel Management Engine（ME）機能の設定完了後は、Intel AMT を設定する前にまずシステムを再起動して、システムがクリーンブートできるようにする必要があります。次の図は、**Intel AMT configuration**（Intel AMT 設定）メニューを示しています。このメニューは、**Intel AMT Configuration**（Intel AMT 設定）オプションを **Management Engine BIOS Extension (MEBx)**（Management Engine BIOS Extension（MEBx））メインメニューから選択すると表示されます。この機能により、Intel AMT 対応コンピュータが Intel AMT 管理機能をサポートするよう設定できます。

**メモ：**ネットワークやコンピュータテクノロジに関する用語（TCP/IP、DHCP、VLAN、IDE、DNS、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、ドメイン名など）に関する基礎知識が必要です。このドキュメントでは、これらの用語について説明していません。

**Intel AMT Configuration**（Intel AMT 設定）ページに移動するには、次の手順を実行します。

□□□ **Management Engine BIOS Extension**（**MEBx**）（Management Engine BIOS Extension（MEBx））メインメニューで、**Intel AMT Configuration**（Intel AMT 設定）を選択します。<Enter> を押します。Intel AMT Configuration（Intel AMT 設定）画面が表示されます。

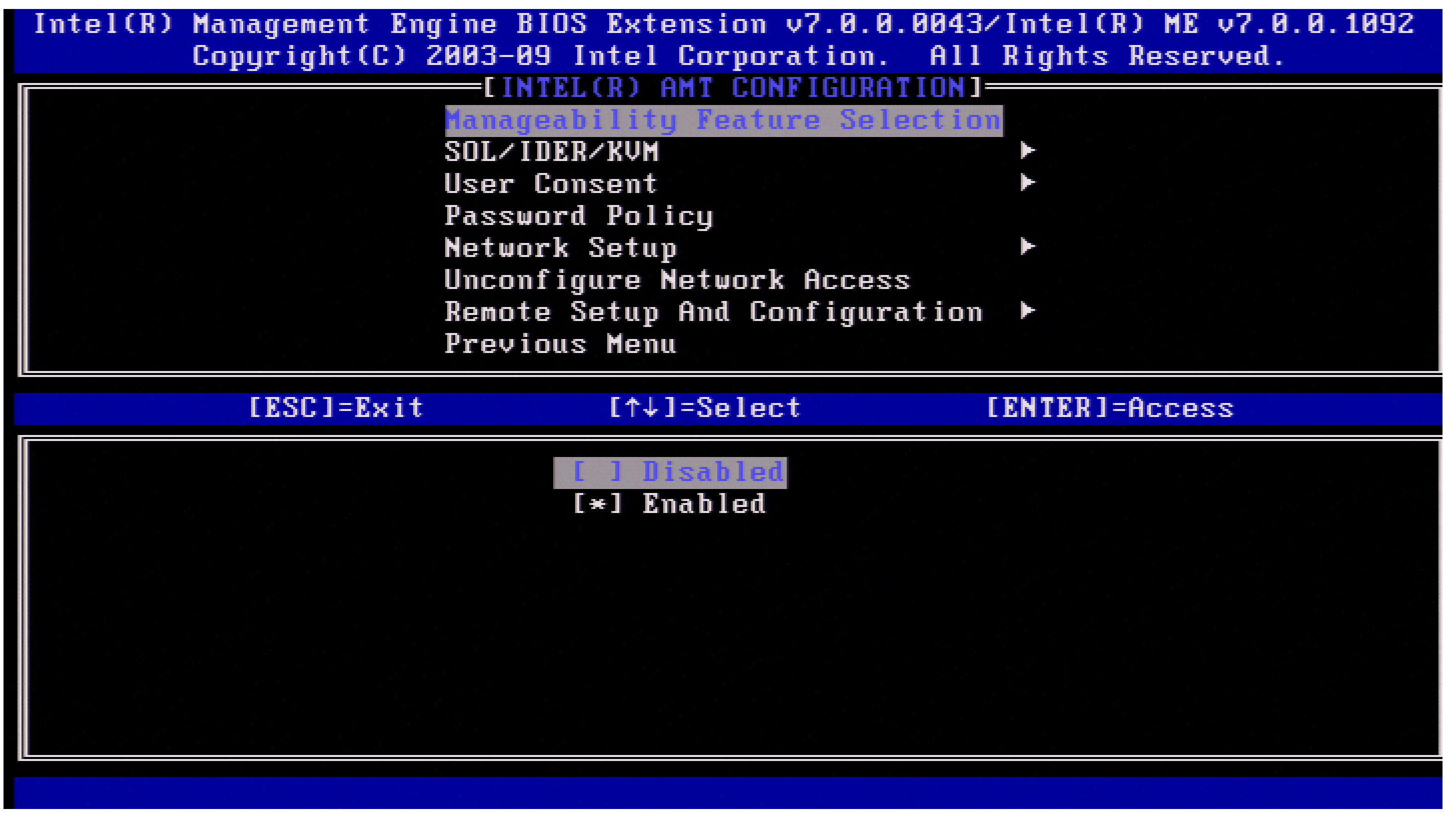
Intel AMT Configuration（Intel AMT 設定）画面には、次のクイックリンクが表示されます。

- Manageability Feature Selection（管理機能選択）
- SOL/IDER/KVM
  - Username and Password（ユーザー名とパスワード）
  - SOL
  - IDER
  - Legacy Redirection Mode（Legacy リダイレクションモード）
  - KVM
  - Previous Menu（前のメニュー）
- User Consent（ユーザーの同意）
  - User Opt-in（ユーザー選択）
  - Opt-in Configurable from remote IT（リモート IT からの選択設定）
  - Previous Menu（前のメニュー）
- Password Policy（パスワードポリシー）
- Network Setup（ネットワークのセットアップ）
  - Network Name Settings（ネットワーク名の設定）
    - Host Name（ホスト名）
    - Domain Name（ドメイン名）
    - Shared/Dedicated FQDN（共有 / 専用 FQDN）
    - Dynamic DNS Update（ダイナミック DNS アップデート）
    - Periodic Update Interval（定期アップデートの間隔）
    - TTL
    - Previous Menu（前のメニュー）
  - TCP/IP Settings（TCP/IP 設定）
    - Wired LAN IPv4 Configuration（有線 LAN IPv4 設定）
      - DHCP Mode（DHCP モード）
      - IPv4 Address（IPv4 アドレス）
      - Subnet Mask Address（サブネットマスクアドレス）
      - Default Gateway Address（デフォルトゲートウェイアドレス）
      - Preferred DNS Address（優先 DNS アドレス）
      - Alternate DNS Address（代替 DNS アドレス）
      - Previous Menu（前のメニュー）
    - Wired LAN IPv6 Configuration（有線 LAN IPv6 設定）
      - IPv6 Feature Selection（IPv6 機能選択）
      - IPv6 Interface ID Type（IPv6 インタフェース ID タイプ）
      - IPv6 Address（IPv6 アドレス）
      - IPv6 Default Router（IPv6 デフォルトルータ）
      - Preferred DNS IPv6 Address（優先 DNS IPv6 アドレス）
      - Alternate DNS IPv6 Address（代替 DNS IPv6 アドレス）
      - Previous Menu（前のメニュー）
    - Wireless LAN IPv6 Configuration（ワイヤレス LAN IPv6 設定）
      - IPv6 Feature Selection（IPv6 機能選択）
      - IPv6 Interface ID Type（IPv6 インタフェース ID タイプ）
      - Previous Menu（前のメニュー）
    - Previous Menu（前のメニュー）
  - Previous Menu（前のメニュー）

# Manageability Feature Selection（管理機能選択）

□□□ Intel AMT Configuration（Intel AMT 設定）メニューで **Manageability Feature Selection**（管理機能選択）を選択して、<Enter> を押します。

□□□ メッセージが表示されます。
**[Caution] Disabling reset network settings including network ACLs to factory default.**（［注意］無効化すると、ネットワーク ACL を含むネットワーク設定が工場出荷時のデフォルトにリセットされます。）**System resets on MEBx exit.**（MEBx を終了するとシステムがリセットされます。）**Continue: (Y/N)**（続行しますか：（Y/N））
**Y** を押して設定を変更するか、**N** を押してキャンセルします。



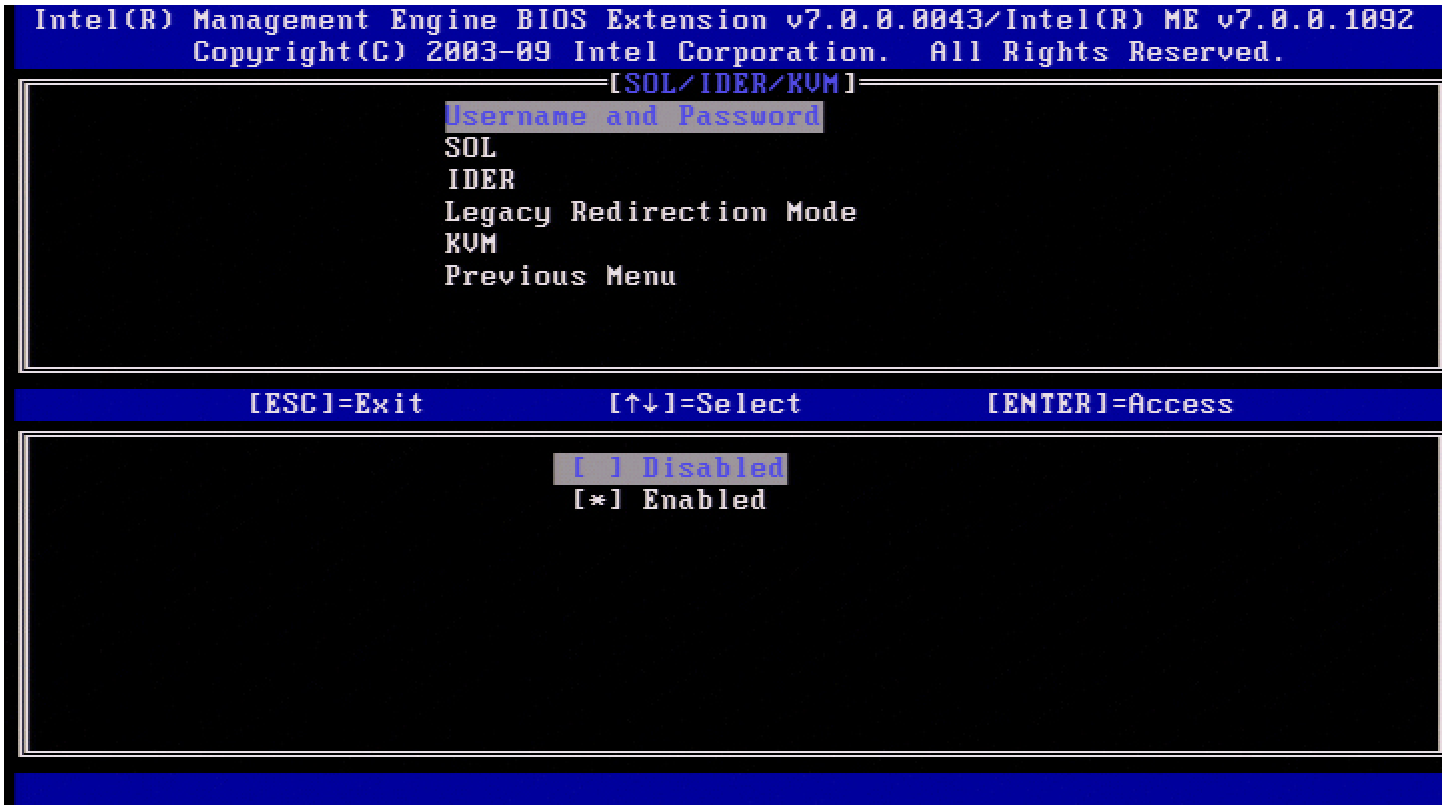
Manageability Feature Selection（管理選択機能）が有効になると、Intel ME Manageability Feature（Intel ME 管理機能）メニューが表示されます。これを無効のままにしておくと、管理機能は有効化されません。

# SOL / IDER / KVM

（Intel AMT を有効にしている場合）Intel AMT Configuration（Intel AMT 設定）ページで **SOL / IDER / KVM** を選択して <Enter> を押します。
Intel AMT Configuration（Intel AMT 設定）ページが SOL/IDER ページに変わります。

# Username and Password（ユーザー名とパスワード）

SOL/IDER ページで **Username and Password**（ユーザー名とパスワード）を選択して <Enter> を押します。

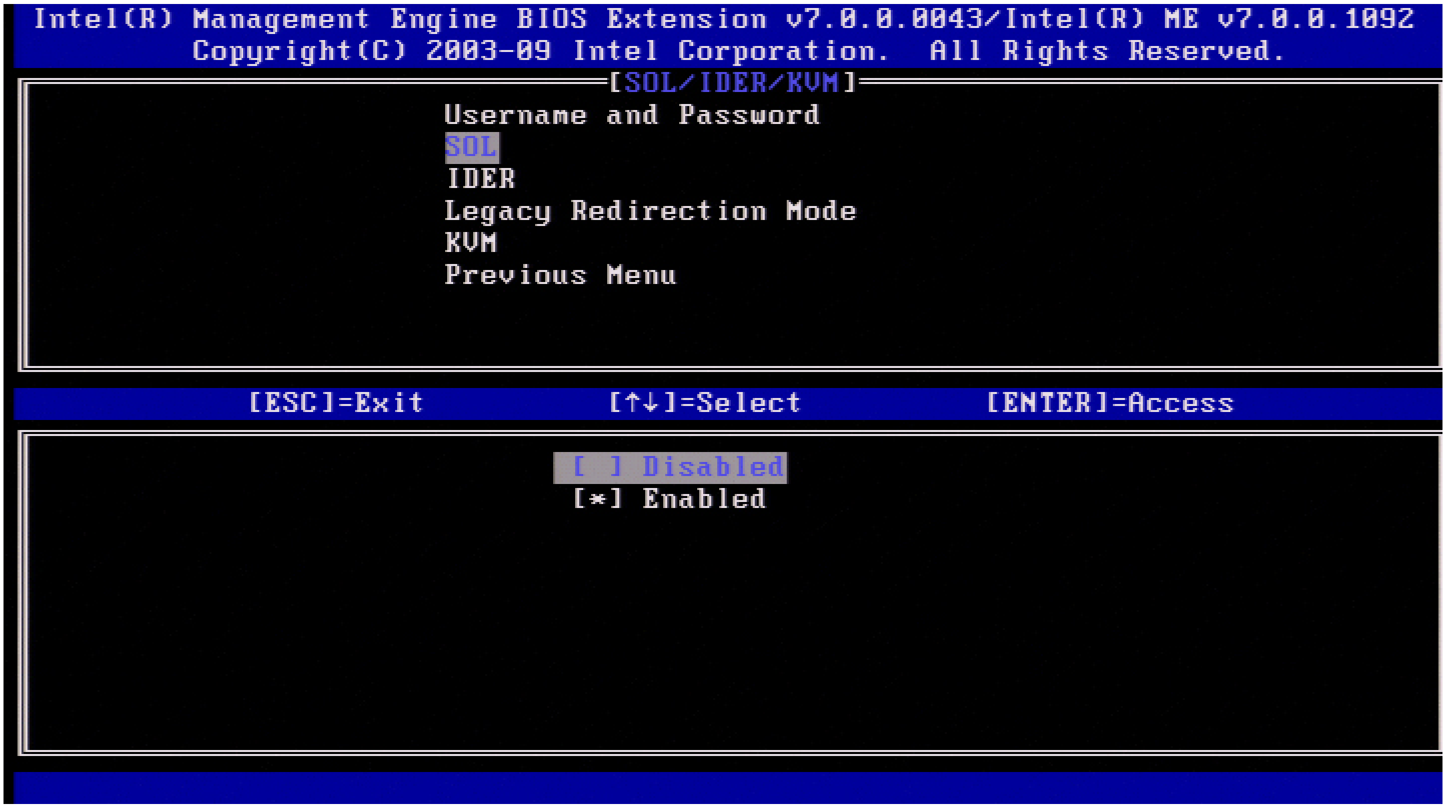



このオプションでは、SOL/IDER セッションに対するユーザー認証を行います。Kerberos* が使用されている場合、このオプションは DISABLED（無効）に設定するようにします。ユーザー承認は Kerberos によって行われます。Kerberos が使用されていない場合は、IT 管理者が SOL/IDER セッションでのユーザー認証を有効または無効にするかを選択できます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| **Enabled**（有効） | ユーザー名とパスワードが有効です。 |
| **Disabled**（無効） | ユーザー名とパスワードが無効です。 |

# SOL

SOL/IDER ページで **SOL** を選択して <Enter> を押します。



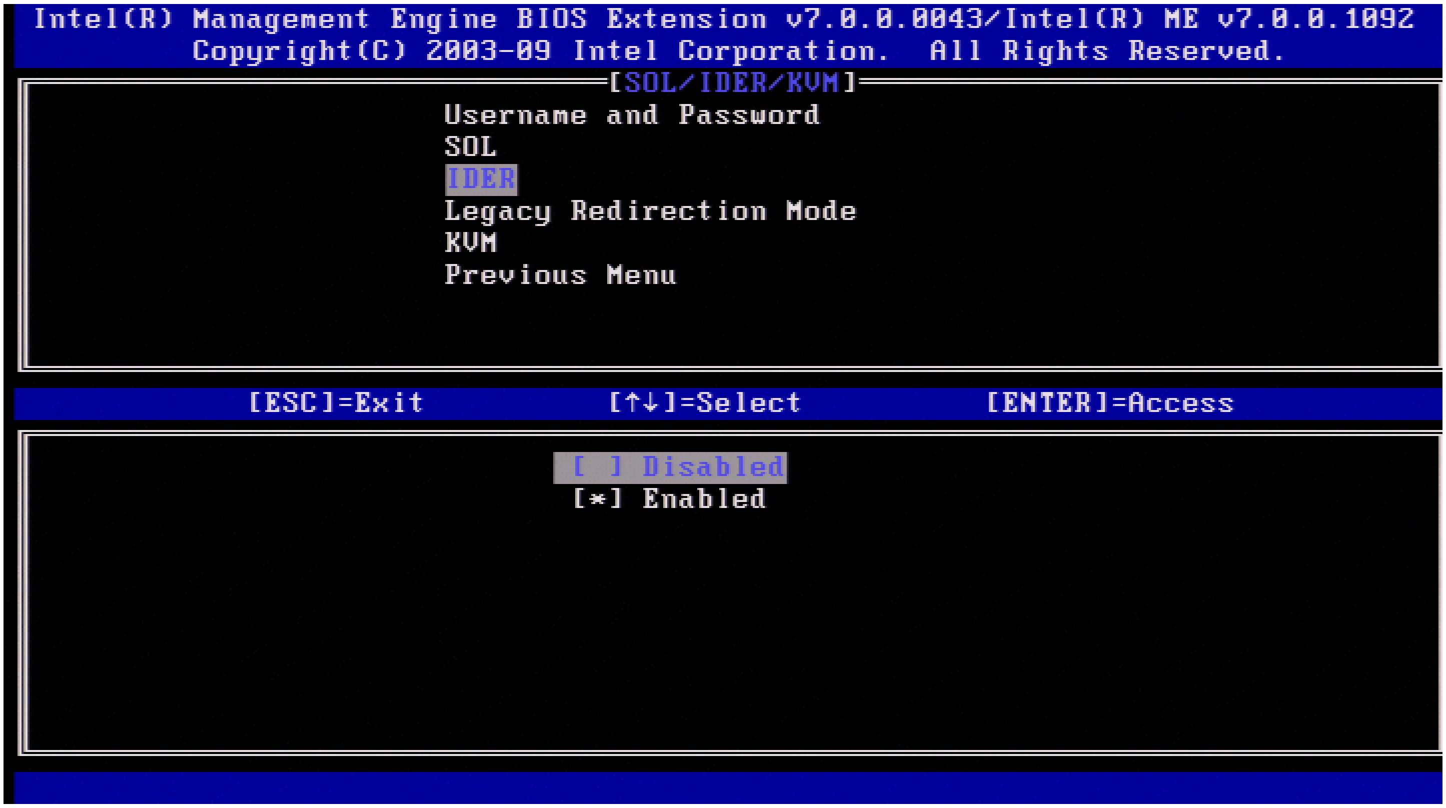

クライアントシステムで SOL がサポートされている場合は、SOL を使用して、Intel AMT で管理されているクライアントのコンソールの入出力を管理サーバーコンソールにリダイレクトできます。SOL がサポートされていない場合は、この値で有効にすることはできません。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| **Enabled**（有効） | SOL は有効です。 |
| **Disabled**（無効） | SOL は無効です。 |

メモ：SOL を無効化してもこの機能は削除されず、使用が阻止されるだけです。

## IDER

SOL/IDER ページで **IDER** を選択して <Enter> を押します。



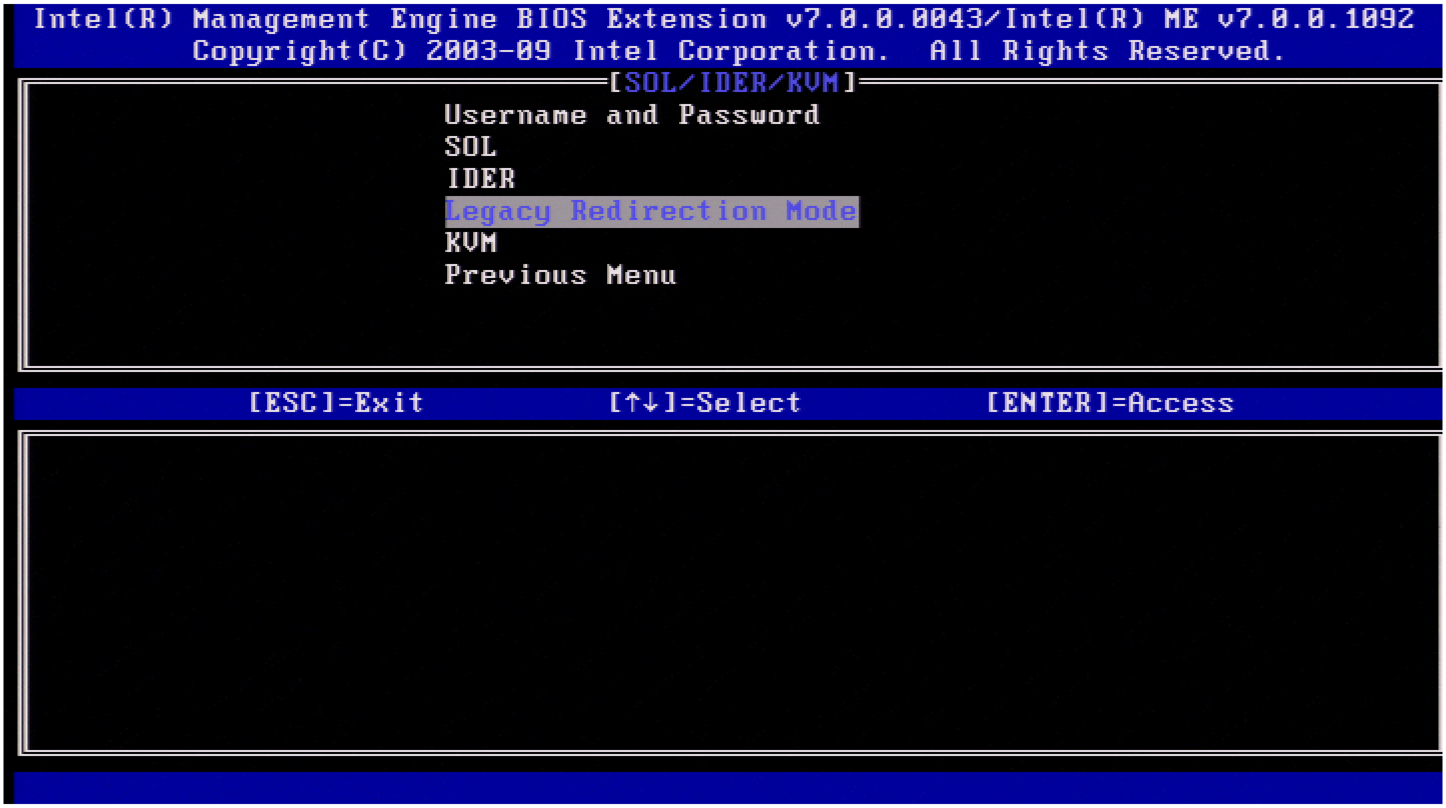

IDER を使用すると、Intel AMT で管理されたクライアントを、リモートディスクイメージから管理コンソールで起動できます。クライアントシステムで IDER がサポートされていない場合は、この値を指定しても有効にすることはできません。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| **Enabled**（有効） | IDER は有効です。 |
| **Disabled**（無効） | IDER は無効です。 |

メモ：IDER を無効化してもこの機能は削除されず、使用が阻止されるだけです。

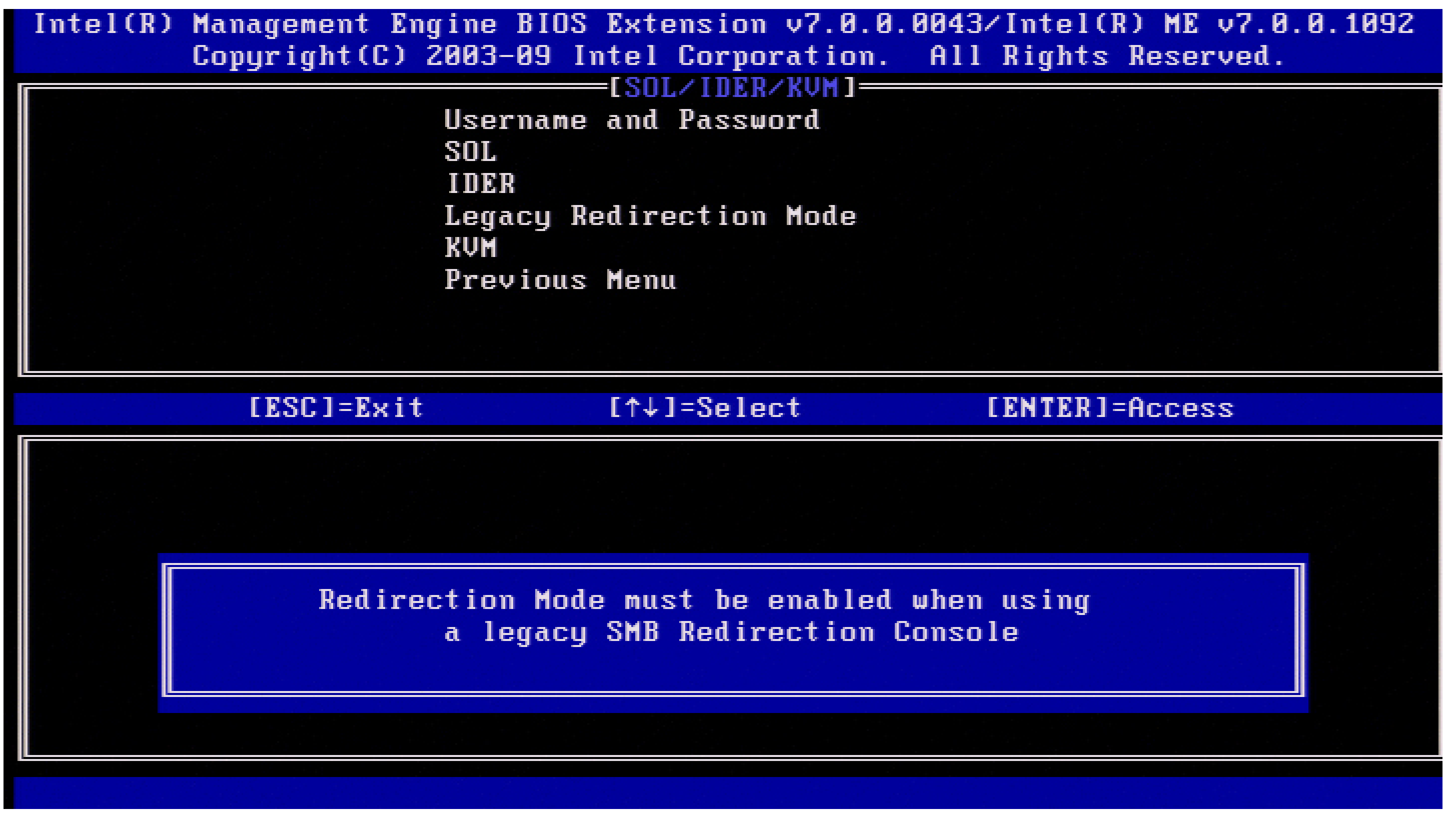
## Legacy Redirection Mode（Legacy リダイレクションモード）

SOL/IDER ページで、**Legacy Redirection Mode**（Legacy リダイレクションモード）を選択して <Enter> を押します。




Legacy リダイレクションモードは、リダイレクションがどう機能するかを制御します。無効に設定されていると、各セッションの前に、コンソールでリダイレクションポートを開放する必要があります。これは、リダイレクションポートの開放をサポートする Enterprise（エンタープライズ）コンソールおよび新しい SMB コンソール用です。リダイレクションポートを開放する機能をサポートしない古い SMB コンソール（Intel AMT 6.0 以前）では、この Intel MEBx オプションを介してリダイレクションポートを手動でオンにする必要があります。

このモードを選択すると、次のメッセージが表示されます。




| オプション | 説明 |
|---|---|
| **Disabled**（無 | |

| | |
|---|---|
| 効） | Legacy リダイレクションモードは無効です（デフォルト）。 |
| **Enabled**（有効） | Intel MEBx でリダイレクションを有効にすると、常にポートが開放されたままになります。Intel AMT 6.0 以前の SMB コンソールでは、リダイレクションセッション用にこのモードを有効にする必要があります。 |

## KVM

SOL/IDER ページで **KVM** を選択して <Enter> を押します。




| オプション | 説明 |
|---|---|
| **Disabled**（無効） | KVM 機能が無効です。 |
| **Enabled**（有効） | KVM 機能が有効です。 |

## Previous Menu（前のメニュー）

SOL/IDER ページで、**Previous Menu**（前のメニュー）を選択して <Enter> を押します。
SOL/IDER ページから **Intel AMT Configuration**（Intel AMT 設定）ページに切り替わります。

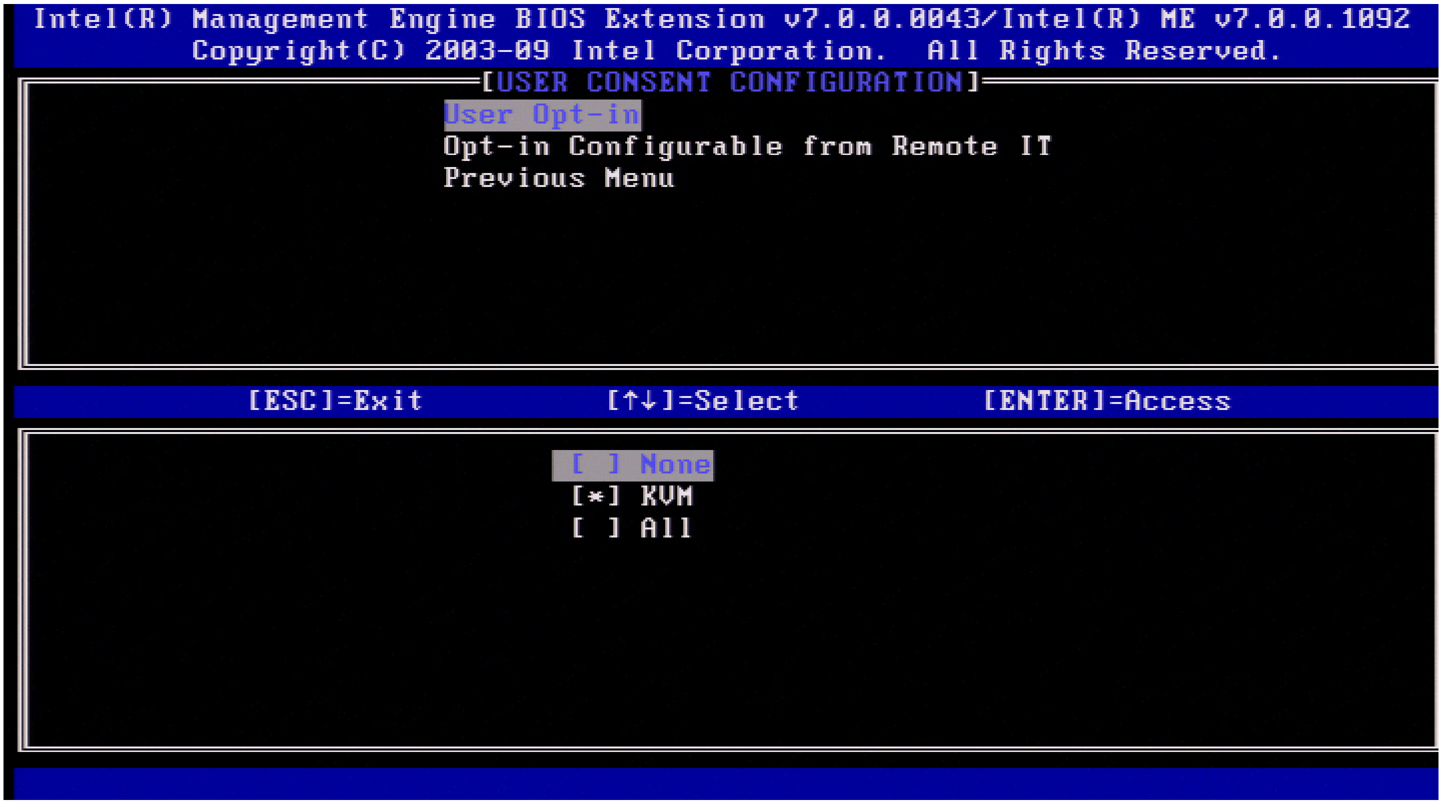
## User Consent（ユーザーの同意）

Intel AMT Configuration（Intel AMT 設定）ページで、**User Consent**（ユーザーの同意）を選択して <Enter> を押します。
User Consent Configuration（ユーザーの同意の設定）画面が表示されます。

リモートコンピュータがローカルコンピュータに対する KVM リモートコントロールセッションを確立する前に、ローカルユーザーの同意が必要かどうかを設定します。また、リモートコンピュータのユーザーが KVM 選択ポリシーを設定できるかどうかも設定します。

## User Opt-in（ユーザー選択）

User Consent Configuration（ユーザーの同意の設定）ページで、**User Opt-in**（ユーザー選択）を選択して <Enter> を押します。




次のオプションを選択することができます。

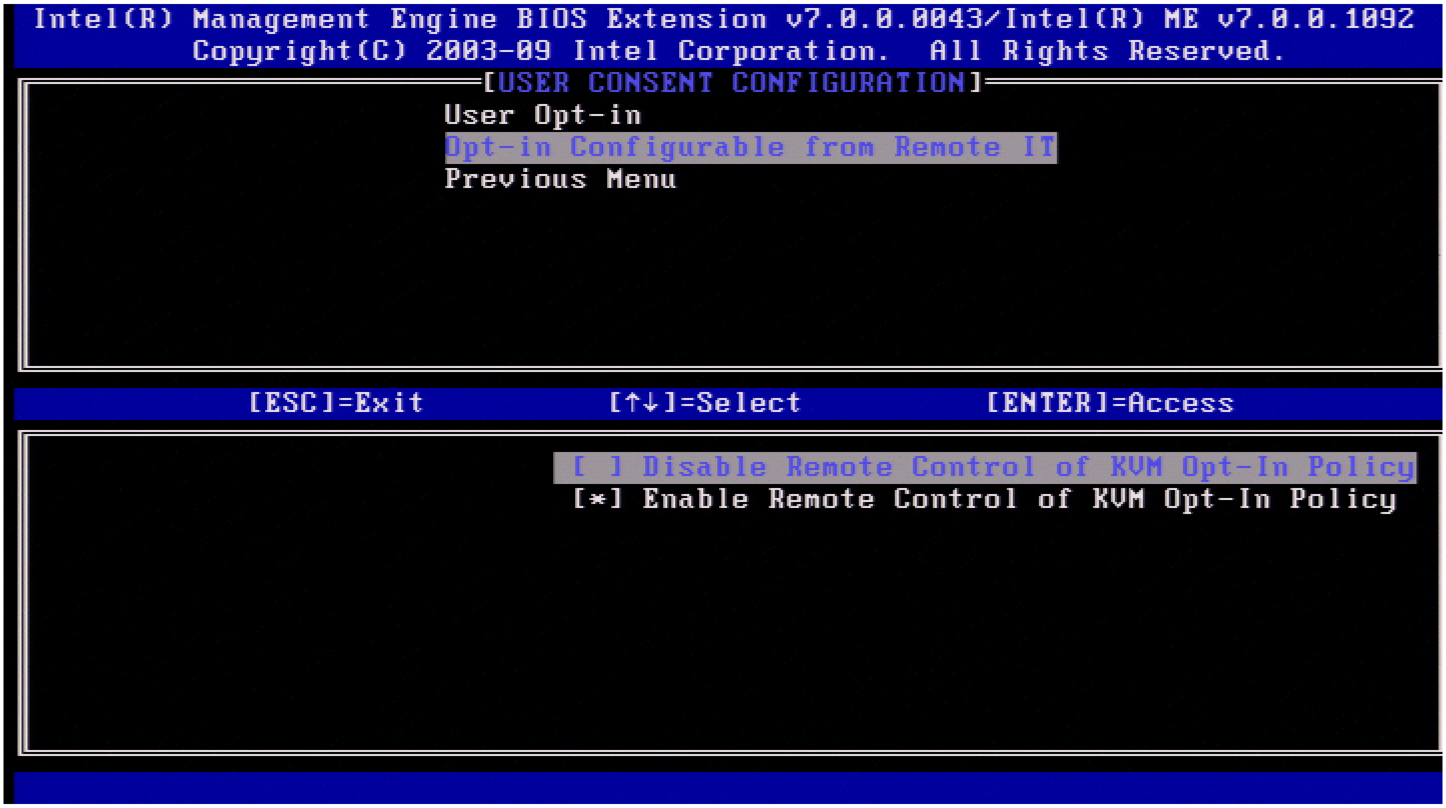
| オプション | 説明 |
|---|---|
| **None**（なし） | リモートコンピュータが KVM リモートコントロールセッションを確立するのに、ローカルユーザーの同意は必要ありません。 |
| **KVM** | リモートコンピュータが KVM リモートコントロールセッションを確立するのに、ローカルユーザーの同意が必要です。 |
| **All**（すべて） | SOL、IDER、および KVM についてローカルユーザーの同意が必要です。 |

メモ：ホストベースのプロビジョニングを使用するときは、この設定よりもクライアントモードが優先され、「ALL」（すべて）オプションが選択されている場合のように動作します。ホストベースのプロビジョニングとクライアントモードの詳細については、SDK キットに含まれている Activator++ のユーザーガイド および UCT（User Consent Tool）のユーザーガイドを参照してください。

## Opt-in Configurable from remote IT（リモート IT からの選択設定）

IKVM Configuration（IKVM 設定）ページで、**Opt-in Configurable from remote IT**（リモート IT から選択設定可能）を選択して <Enter> を押します。

この設定により、リモートコンピュータのユーザーが このコンピュータに対する KVM リモートコントロールセッションを確立するときにユーザー選択ポリシーを設定できるかどうかが決定されます。




| オプション | 説明 |
|---|---|
| **Disable Remote Control of KVM Opt-in Policy**（**KVM** 選択ポリシーのリモートコントロールの無効化） | リモートユーザーがユーザー選択ポリシーを選択できないようにします。この場合、ローカルユーザーのみがオプトインポリシーを制御できます。 |
| **Enable Remote Control of KVM Opt-in Policy**（**KVM** オプトインポリシーのリモートコントロールの有効化） | リモートユーザーがユーザー選択ポリシーを選択できるようにします。 |

## Previous Menu（前のメニュー）

User Consent Configuration（ユーザーの同意の設定）ページで、**Previous Menu**（前のメニュー）を選択して <Enter> を押します。Intel AMT Configuration（Intel AMT 設定）ページが表示されます。

## Password Policy（パスワードポリシー）

Intel AMT Configuration（Intel AMT 設定）ページで、**Password Policy**（パスワードポリシー）を選択して <Enter> を押します。

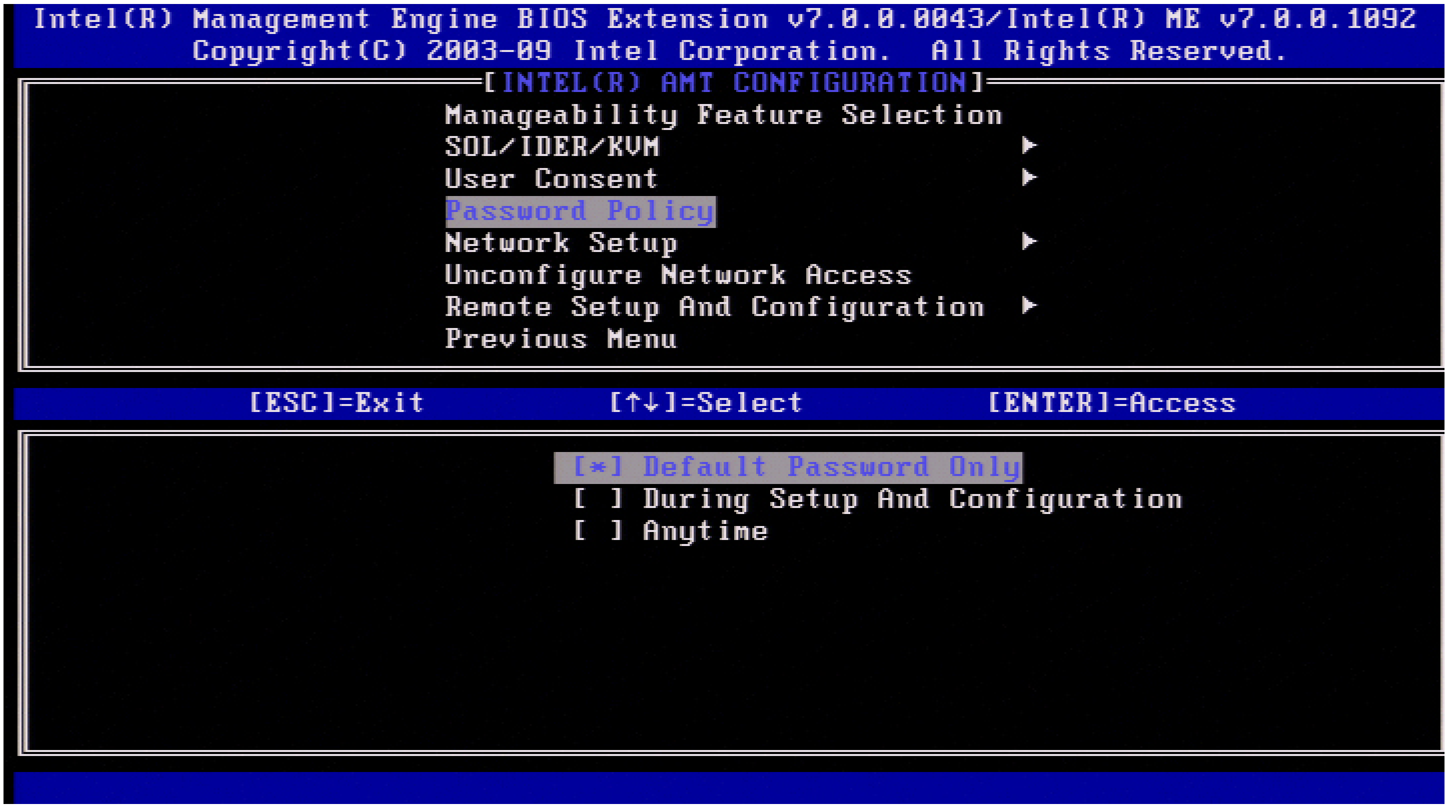
このオプションは、ユーザーがネットワーク経由で Intel MEBx パスワードを変更できるかどうかを決定します。

- ファームウェアには 2 種類のパスワードがあります。
- MEBx パスワードは、ユーザーがシステムを実際に使用するときに入力するパスワードです。
- ネットワークパスワードは、ネットワーク経由で Intel ME 対応のシステムにアクセスするときに入力するパスワードです。

メモ：デフォルトでは、ネットワークを介してネットワークパスワードを変更しない限り、両方のパスワードは同じです。ネットワーク経由でネットワークパスワードを変更すると、ネットワークパスワードはローカルの Intel MEBx パスワードとは常に異なるものとして保持されます。

このオプションは、ユーザーがネットワーク経由で Intel MEBx パスワードを変更できるかどうかを決定します。

メモ：Intel MEBx パスワードは、Intel MEBx ユーザーインタフェースを使用して変更できます。




オプションは次のとおりです。

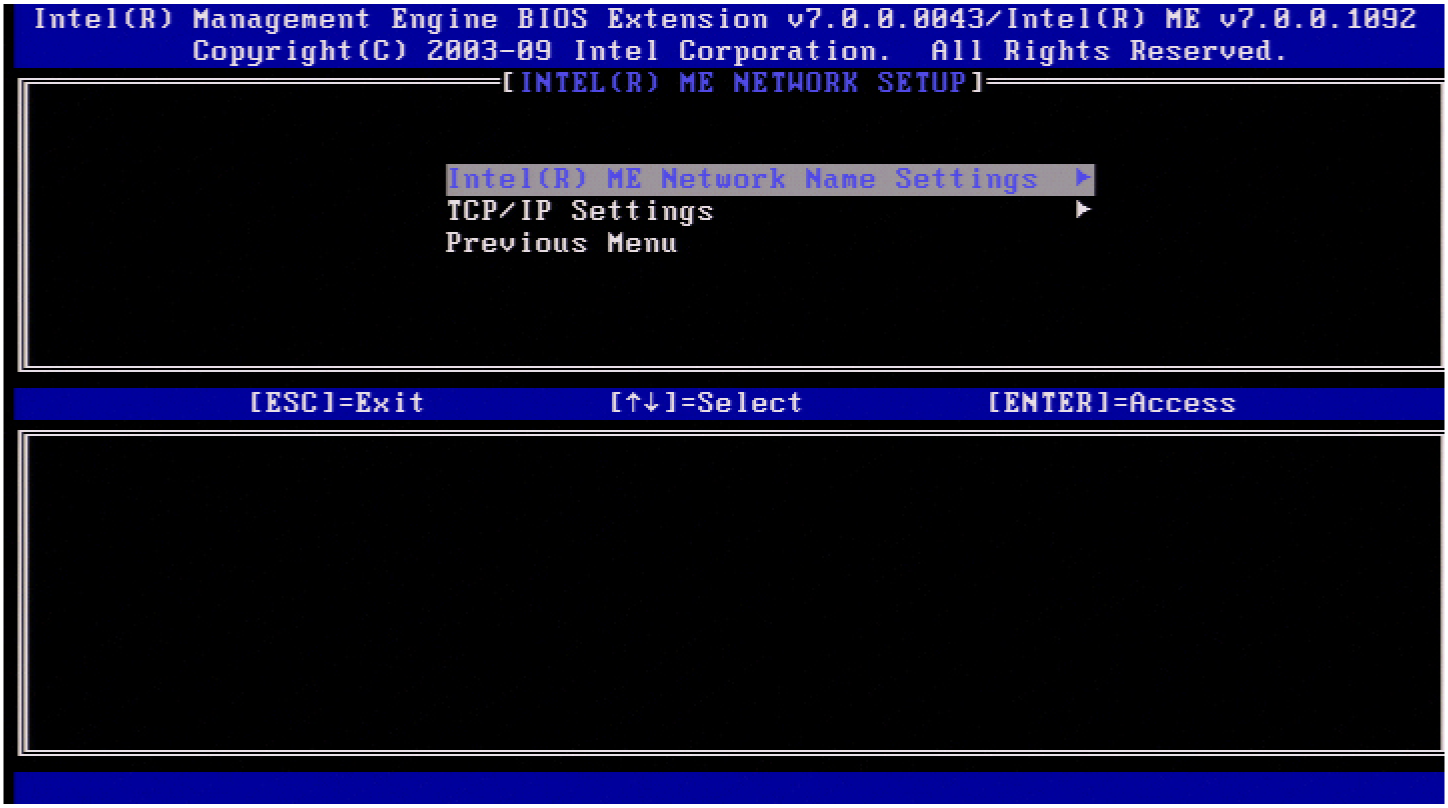
| オプション | 説明 |
|---|---|
| **Default Password Only**（デフォルトのパスワードのみ） | デフォルトのパスワードがまだ変更されていない場合は、ネットワークインタフェースから Intel MEBx パスワードを変更できます。 |
| **During Setup and Configuration**（セットアップおよび設定時） | Intel MEBx パスワードをネットワークインタフェースから変更できるのは、セットアップおよび設定のプロセスの間のみであり、これ以外のときには変更できません。セットアップと設定のプロセスが完了すると、ネットワークインタフェースを使用した Intel MEBx パスワード変更はできません。 |
| **Anytime**（随時） | Intel MEBx パスワードを、いつでもネットワークインタフェースから変更できます。 |

## Network Setup（ネットワークのセットアップ）

Intel ME Platform Configuration（Intel ME プラットフォーム設定）メニューで、**Network Setup**（ネットワークのセットアップ）を選択して <Enter> を押します。
Intel ME Network Setup（Intel ME ネットワークのセットアップ）ページが表示されます。

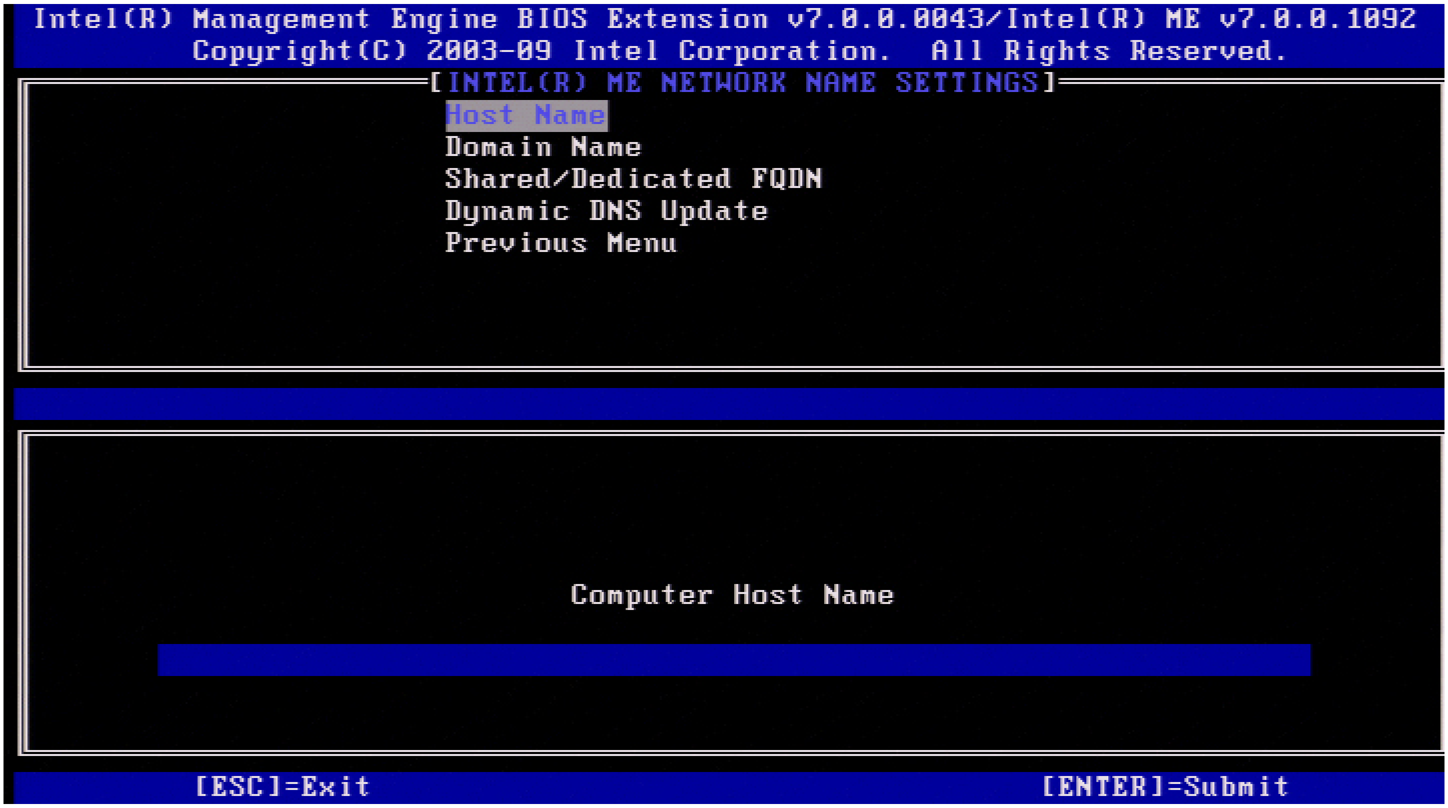
## Network Name Settings（ネットワーク名の設定）

Intel ME Network Name Settings（Intel ME ネットワーク名設定）で、**Intel ME Network Name Settings**（Intel ME ネットワーク名設定）を選択して <Enter> を押します。



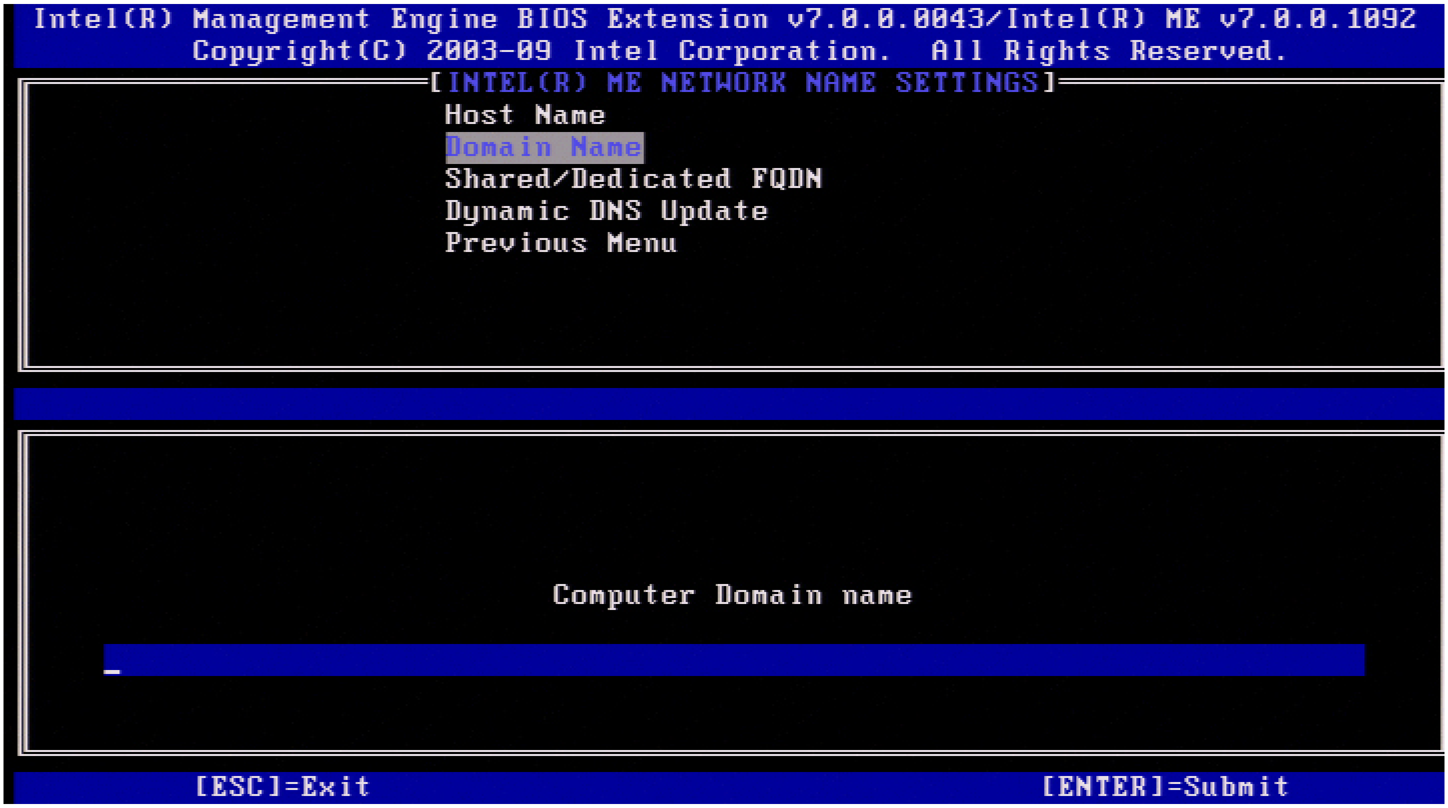

## 1. Host Name（ホスト名）

Intel ME Network Name Settings（Intel ME ネットワーク名設定）で、**Host Name**（ホスト名）を選択して <Enter> を押します。Intel AMT マシンにホスト名を割り当てることができます。これが Intel AMT 対応システムのホスト名になります。



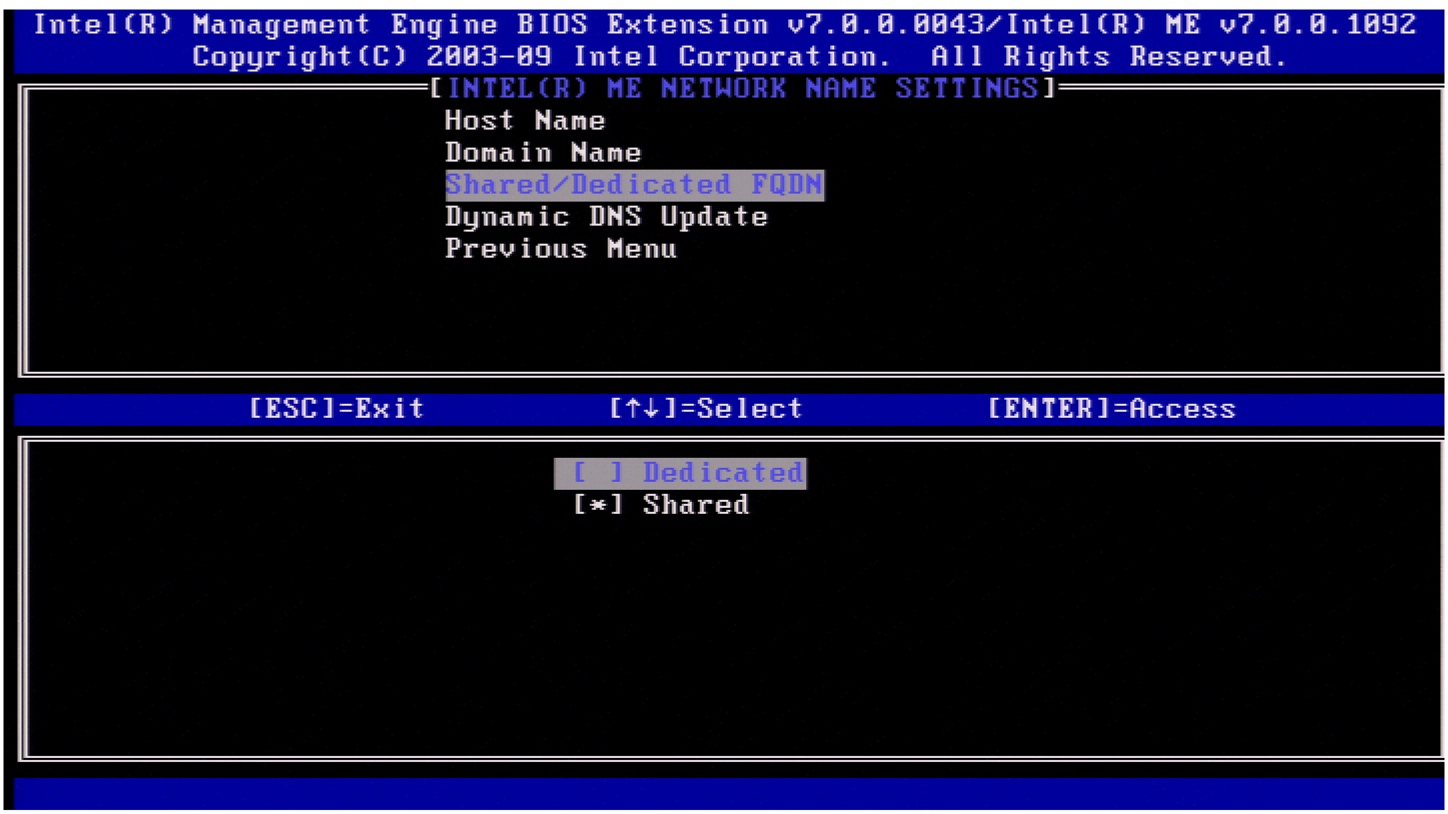

## 2. Domain Name（ドメイン名）

Intel ME Network Name Settings（Intel ME ネットワーク名設定）で、**Domain Name**（ドメイン名）を選択して <Enter> を押します。
ドメイン名は Intel AMT マシンに割り当てることができます。




## 3. Shared / Dedicated FQDN（共有 / 専用 FQDN）

Intel ME Network Name Settings（Intel ME ネットワーク名設定）で、**Shared / Dedicated FQDN**（共有 / 専用 FQDN）を選択して <Enter> を押します。

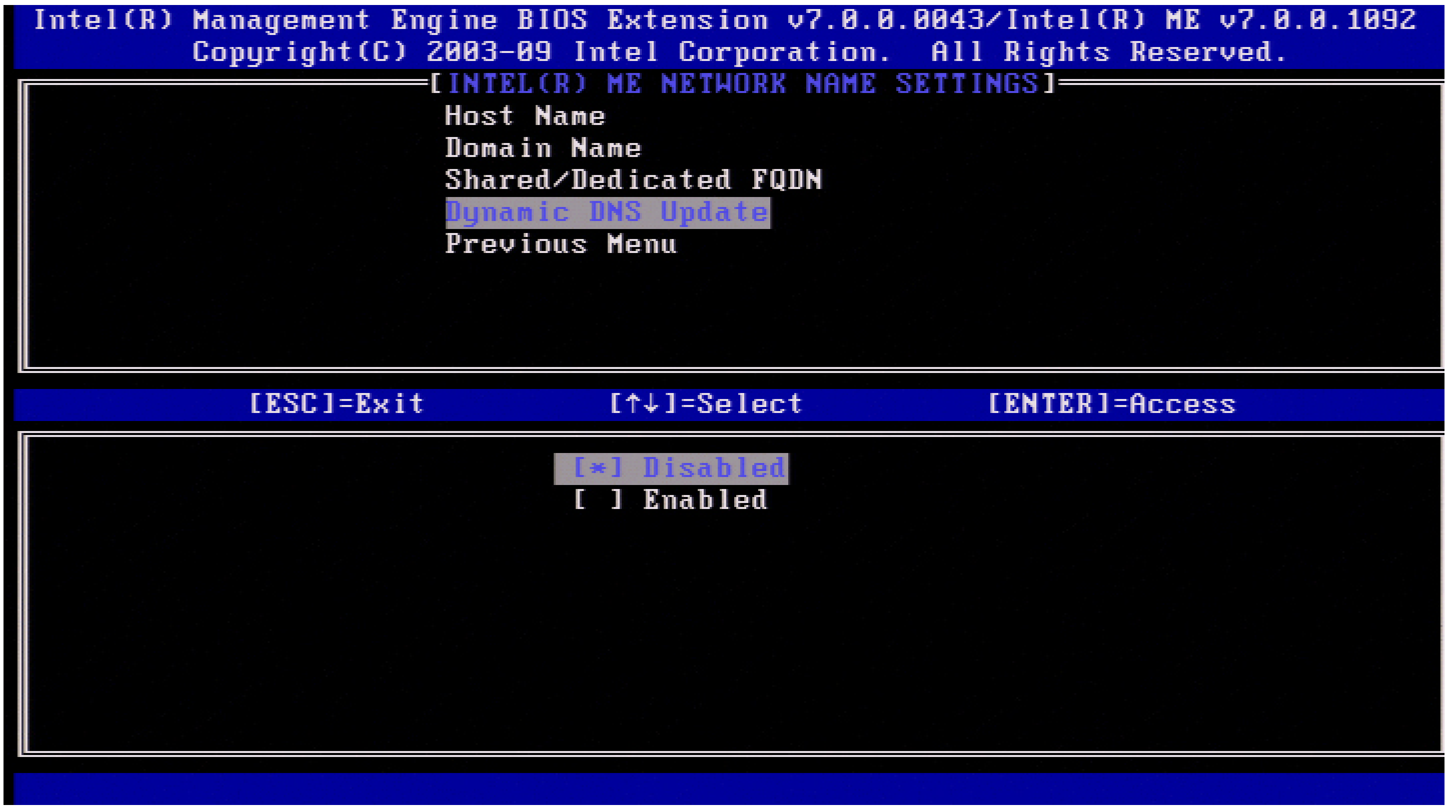


この設定により、Intel ME の完全修飾ドメイン名（FQDN）（「ホスト名.ドメイン名」の形式）をホストと共有してオペレーティングシステムマシン名と同じにするか、Intel ME 専用にするかを決定します。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| **Dedicated**（専用） | FQDN ドメイン名は ME 専用。 |
| **Shared**（共有） | FQDN ドメイン名をホストと共有。 |

## 4. Dynamic DNS Update（ダイナミック DNS アップデート）

Intel ME Network Name Settings（Intel ME ネットワーク名設定）で、**Dynamic DNS Update**（ダイナミック DNS アップデート）を選択して <Enter> を押します。

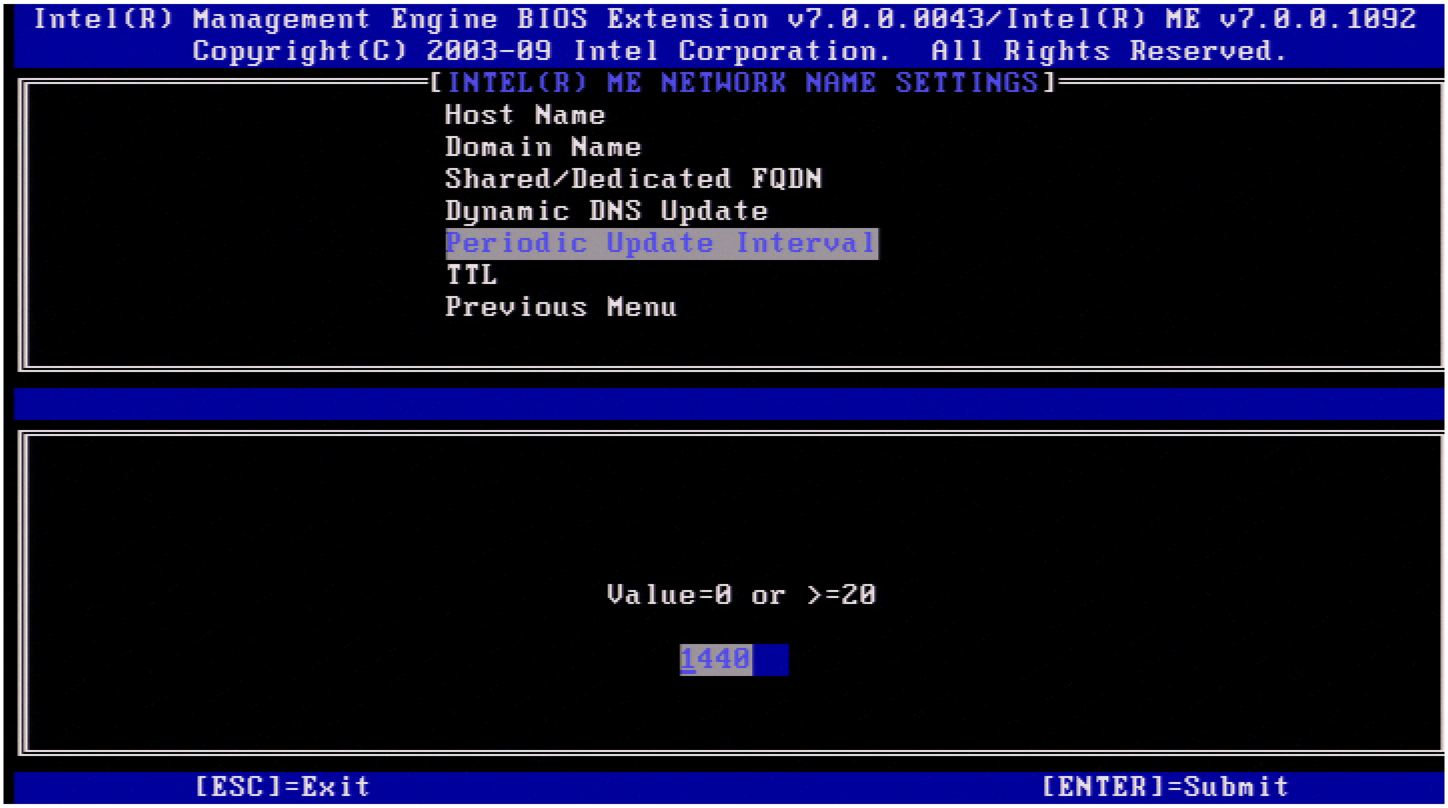



Dynamic DNS Update（ダイナミック DNS アップデート）が有効な場合、ファームウェアは、ダイナミック DNS アップデートプロトコルを使用して、能動的に DNS に IP アドレスと FQDN を登録しようとします。DDNS アップデートが無効な場合、ファームウェアは、DHCP オプション 81 またはダイナミック DNS アップデートを使用した DNS のアップデートを試行しません。DDNS アップデートの状態（Enabled（有効）または Disabled（無効））がユーザーによって設定されていない場合、ファームウェアは以前の実装を引き継ぎます。つまり、DNS 登録に DHCP オプション 81 が使用されますが、DDNS アップデートプロトコルを使用した DNS の直接アップデートは行いません。ダイナミック DNS アップデートに「Enabled」（有効）を選択する場合、ホスト名およびドメイン名が設定されている必要があります。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| **Enabled**（有効） | FW のダイナミック DNS アップデートクライアントが有効です。 |
| **Disabled**（無効） | FW のダイナミック DNS アップデートクライアントが無効です。 |

## 5. Periodic Update Interval（定期アップデートの間隔）

Intel ME Network Name Settings（Intel ME ネットワーク名設定）で、**Periodic Update Interval**（定期アップデートの間隔）を選択して <Enter> を押します。
希望の間隔を入力して <Enter> を押します。

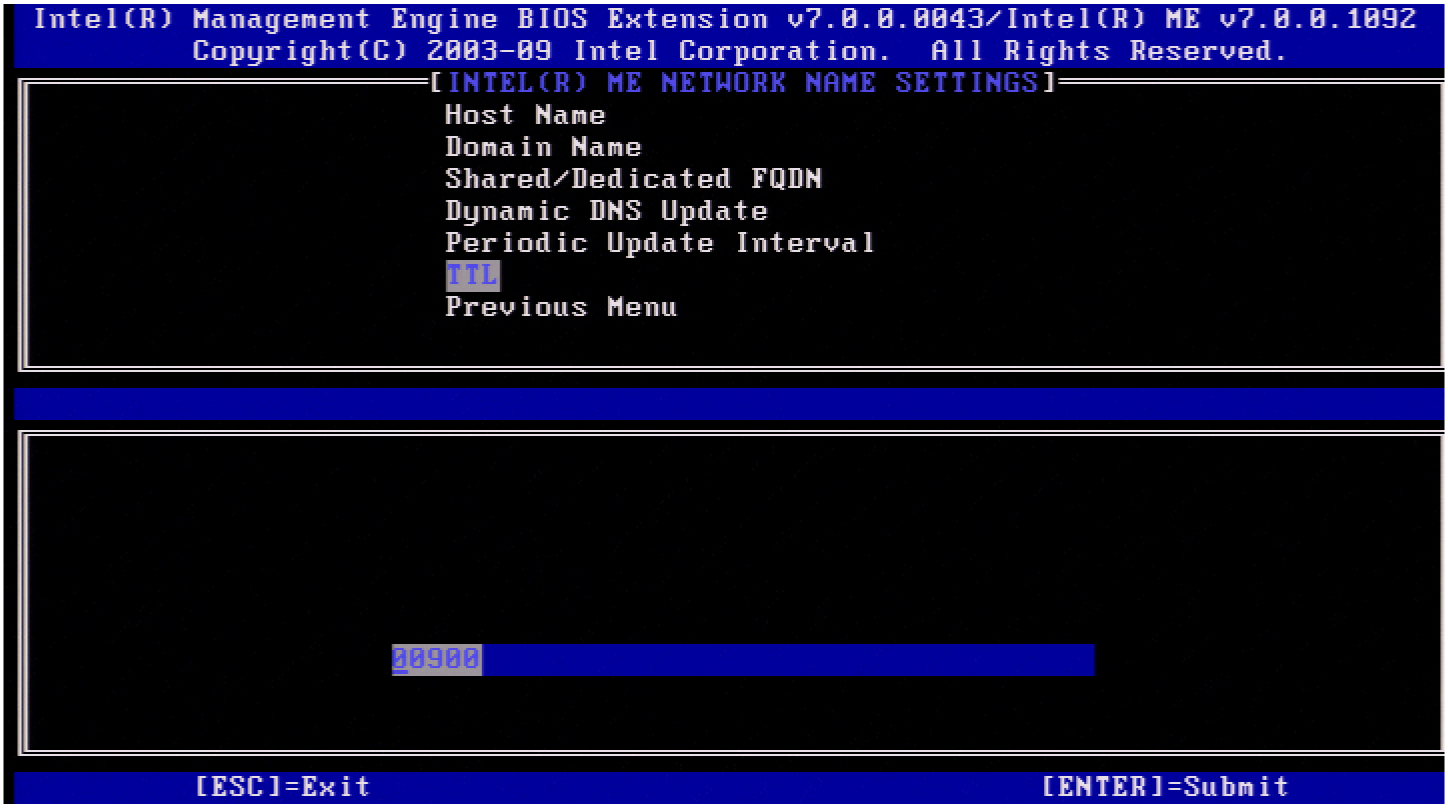



メモ：**Periodic Update Interval**（定期アップデートの間隔）オプションは、ダイナミック DNS アップデートが有効になっている場合にのみ選択可能です。

ファームウェア DDNS アップデートクライアントが定期的なアップデートを送信する間隔を定義します。これは、社内の DNS スカベンジングポリシーに沿って設定してください。単位は分です。0 の値は定期アップデートを無効にします。設定する値は、20 分以上にするようにしてください。このプロパティのデフォルト値は 24 時間（1440 分）です。

## 6. TTL

Intel ME Network Name Settings（Intel ME ネットワーク名設定）で、**TTL** を選択して <Enter> を押します。
希望の時間（秒）を入力して <Enter> を押します。




メモ：TTL オプションは、ダイナミック DNS アップデートが有効になっている場合にのみ選択可能です。

この設定では、TTL 時間を秒単位で設定することができます。値は 1 以上にしてください。0 に設定すると、ファームウェアは内蔵デフォルト値である 15 分、または DHCP リース期間の 3 分の 1 を使用します。

### 7. Previous Menu（前のメニュー）

Intel ME Network Name Settings（Intel ME ネットワーク名設定）で、**Previous Menu**（前のメニュー）を選択して <Enter> を押します。
Intel ME Network Name Settings（Intel ME ネットワーク名設定）メニューが Intel Network Setup（Intel ネットワークセットアップ）メニューに変わります。

## TCP / IP Settings（TCP / IP 設定）

Network Setup（ネットワークセットアップ）メニューで、**TCP / IP Settings**（TCP/IP 設定）を選択して <Enter> を押します。
Intel Network Setup（Intel ネットワークのセットアップ）ページが表示されます。

Intel Network Setup（Intel ネットワークセットアップ）メニューが TCP/IP Settings（TCP/IP 設定）ページに変わります。

メモ：Intel MEBx にはワイヤレス IPv6 のメニューはありますが、ワイヤレス IPv4 のメニューはありません。Intel MEBx は、起動時に、ワイヤレス IP v 6 メニューを表示するかどうかを決定するためにワイヤレスインタフェースをチェックします。

### Wired LAN IPv4 Configuration（有線 LAN IPv4 設定）

TCP/IP Settings（TCP/IP 設定）で、**Wired LAN IPv4 Configuration**（有線 LAN IP v 4 設定）を選択して <Enter> を押します。
Wired LAN IPv4 Configuration（有線 LAN IPv4 設定）ページが表示されます。

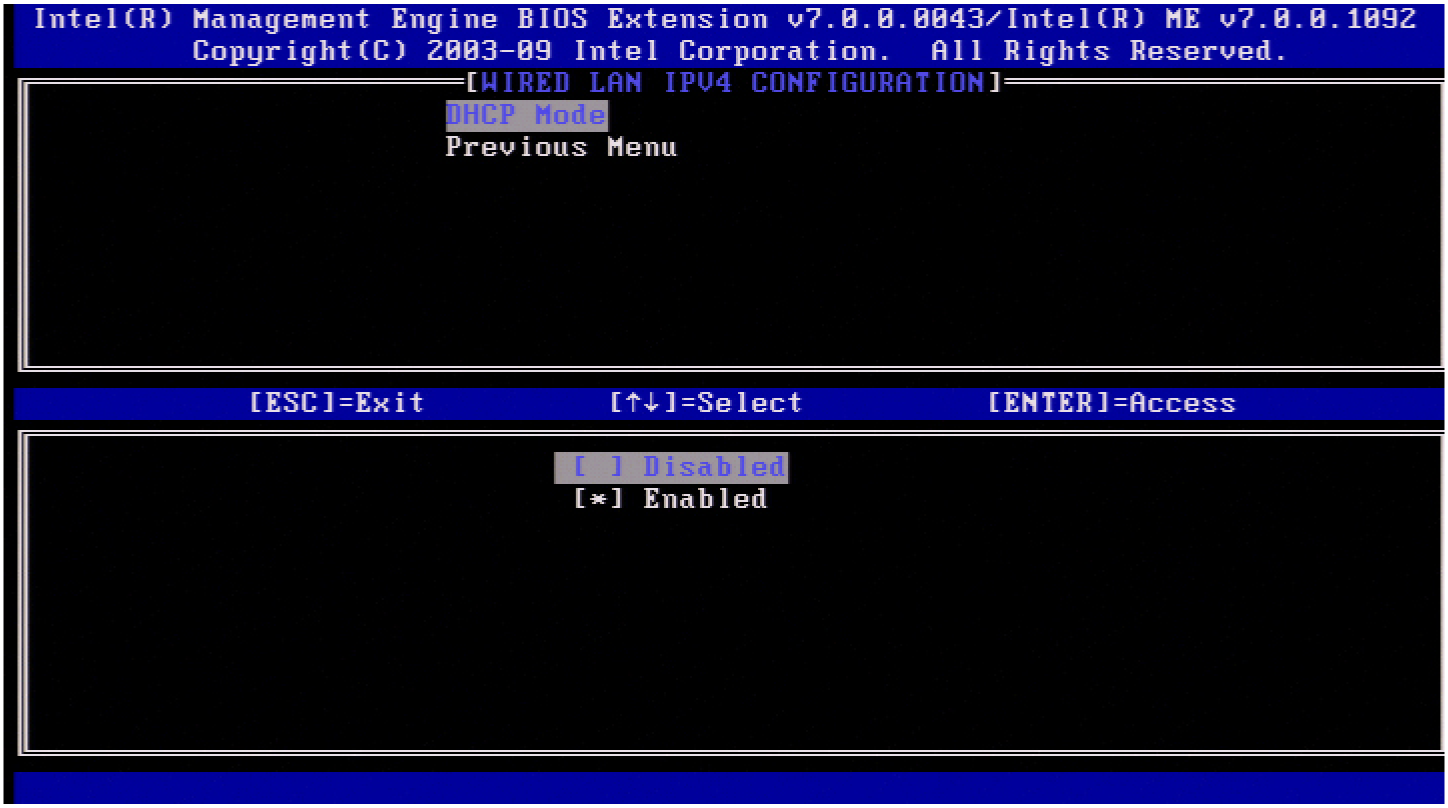



### 1. DHCP Mode（DHCP モード）

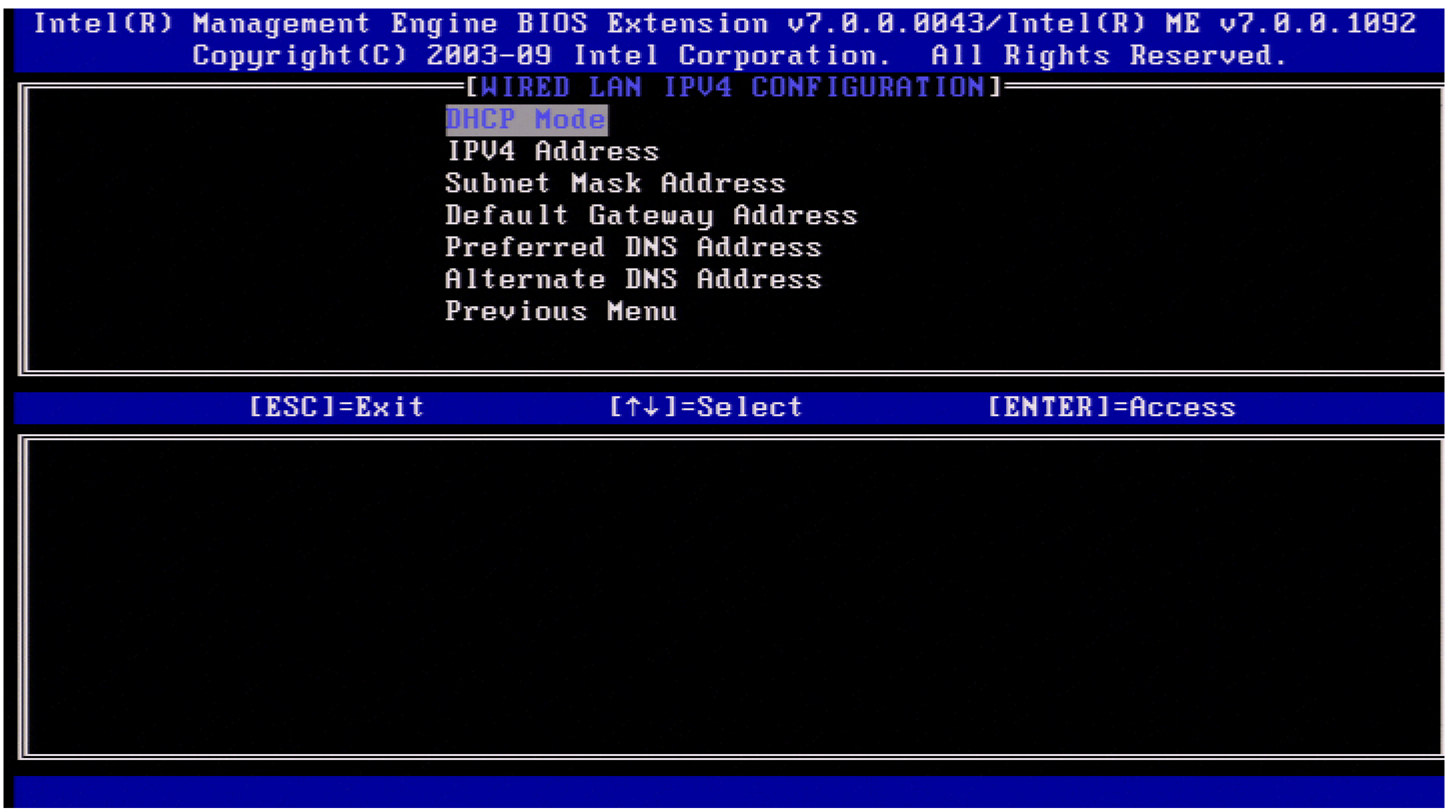
Wired LAN IPv4 Configuration（有線 LAN IPv4 設定）で、**DHCP Mode**（DHCP モード）を選択して <Enter> を押します。Wired LAN IPv4 Configuration（有線 LAN IPv4 設定）ページが表示されます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| **Disabled**（無効） | DHCP Mode（DHCP モード）が無効な場合、Intel AMT には次の静的 TCP/IP 設定が必要です。システムが静的モードの場合、第 2 の IP アドレスが必要な場合があります。この IP アドレスは、Intel ME IP アドレスとも呼ばれますが、ホスト IP アドレスとは異なる場合があります。 |
| **Enabled**（有効） | DHCP Mode（DHCP モード）が有効な場合、TCP/IP 設定は DHCP サーバーによって設定されます。 |

DHCP モードが有効になりました。

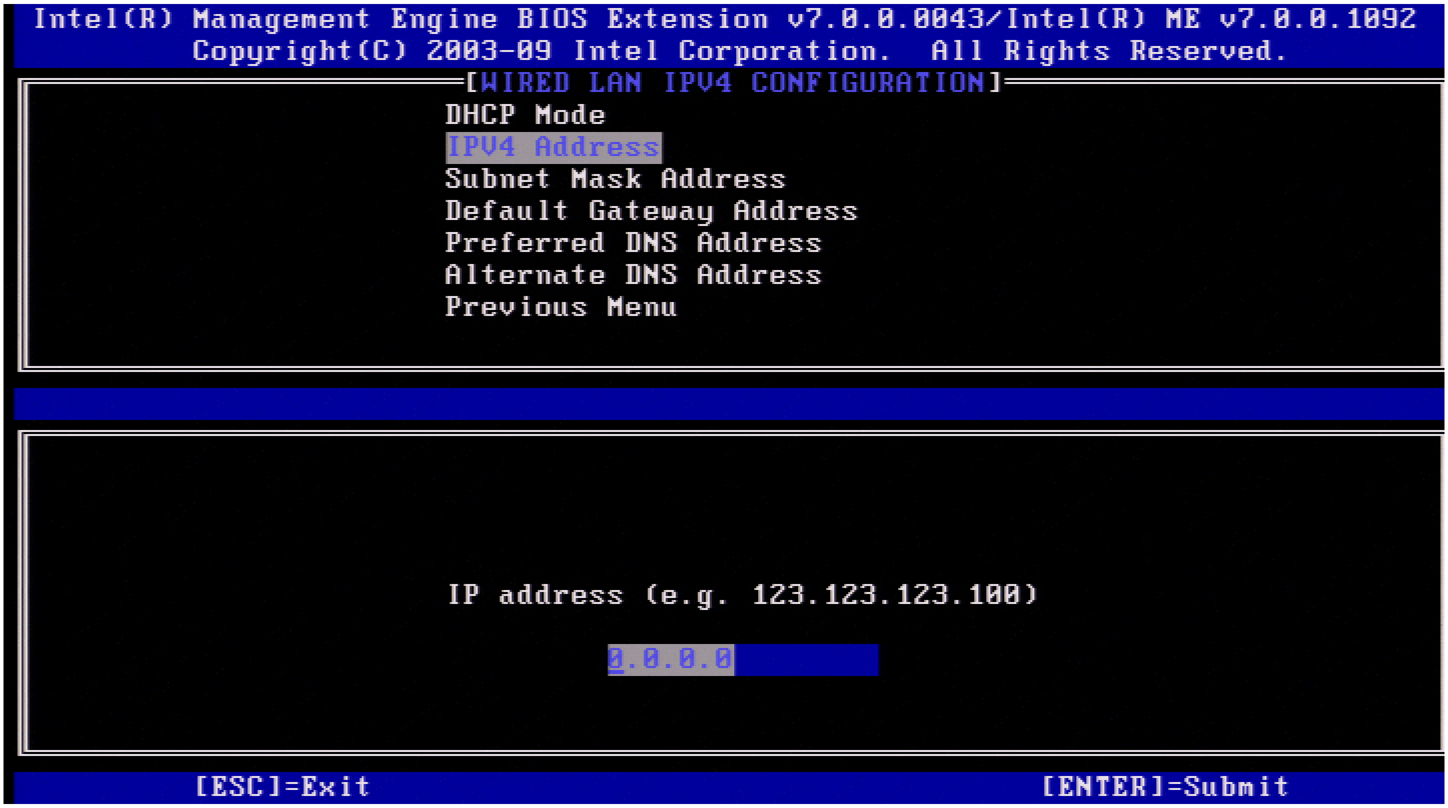



DHCP モードが無効になりました。



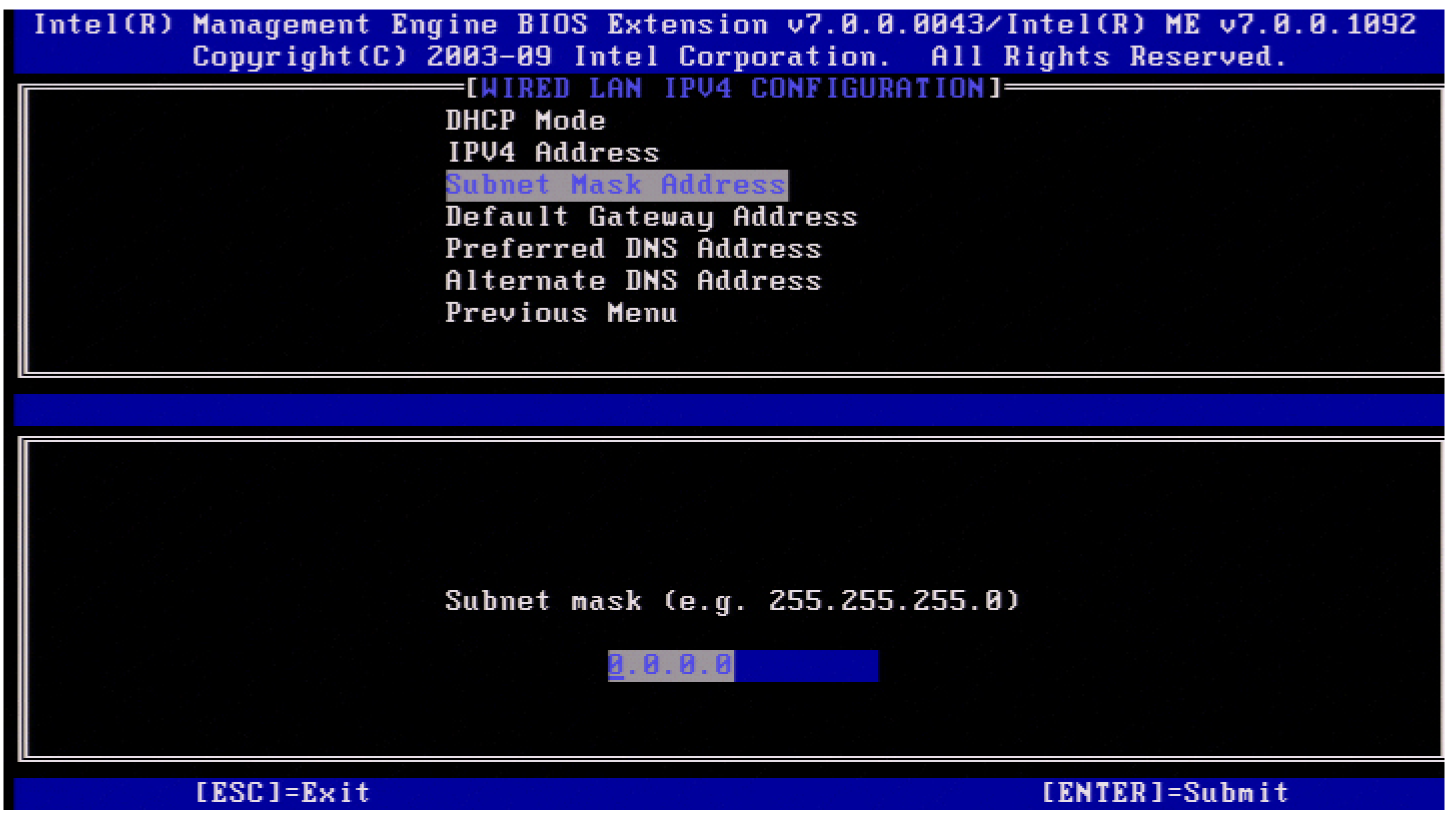

### 2. IPv4 Address（IPv4 アドレス）

**IPv4 Address**（IPv4 アドレス）を選択して <Enter> を押します。
アドレス列に IPv4 アドレスを入力して <Enter> を押します。



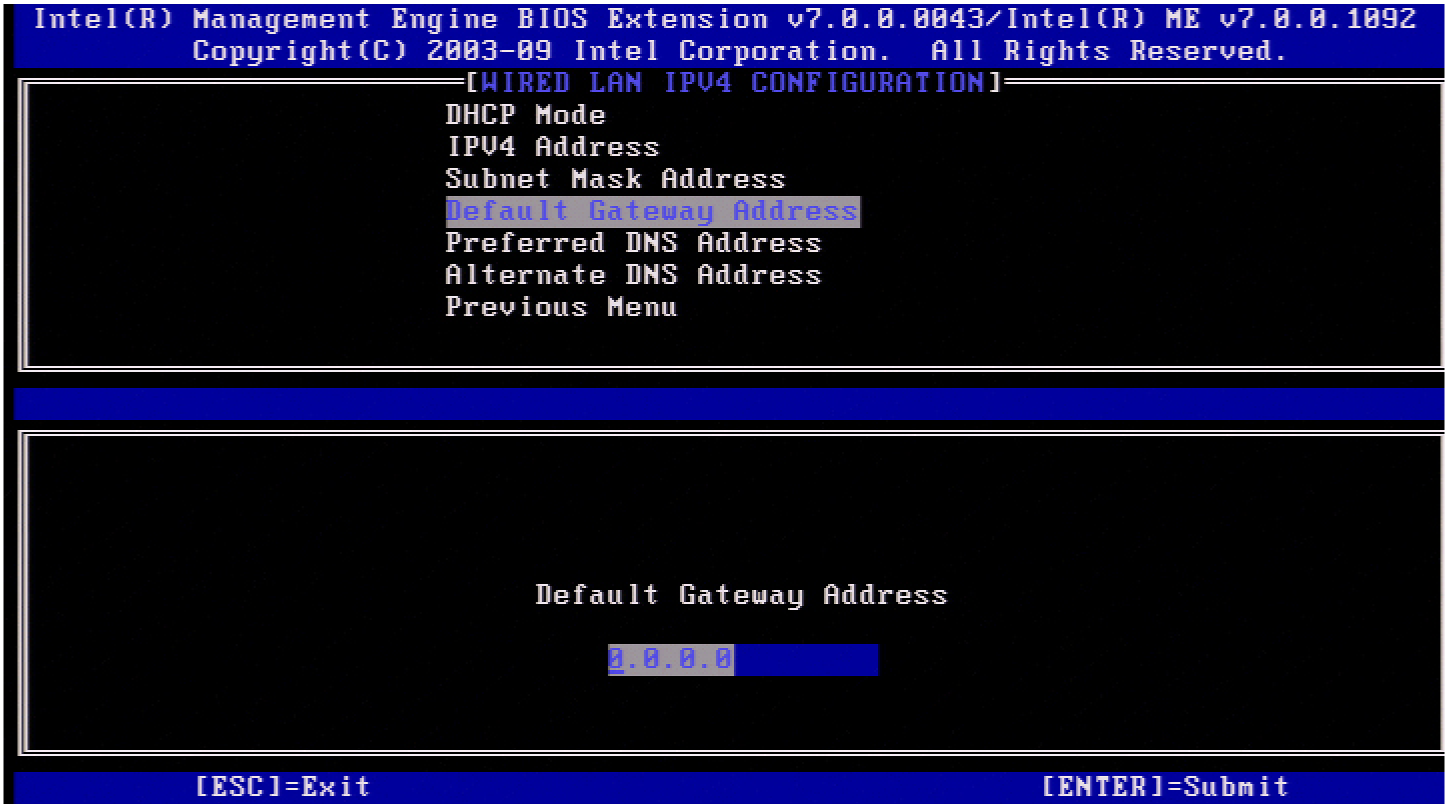

### 3. Subnet Mask Address（サブネットマスクアドレス）

**Subnet Mask Address**（サブネットマスクアドレス）を選択して <Enter> を押します。
アドレス列にサブネットマスクアドレスを入力して <Enter> を押します。



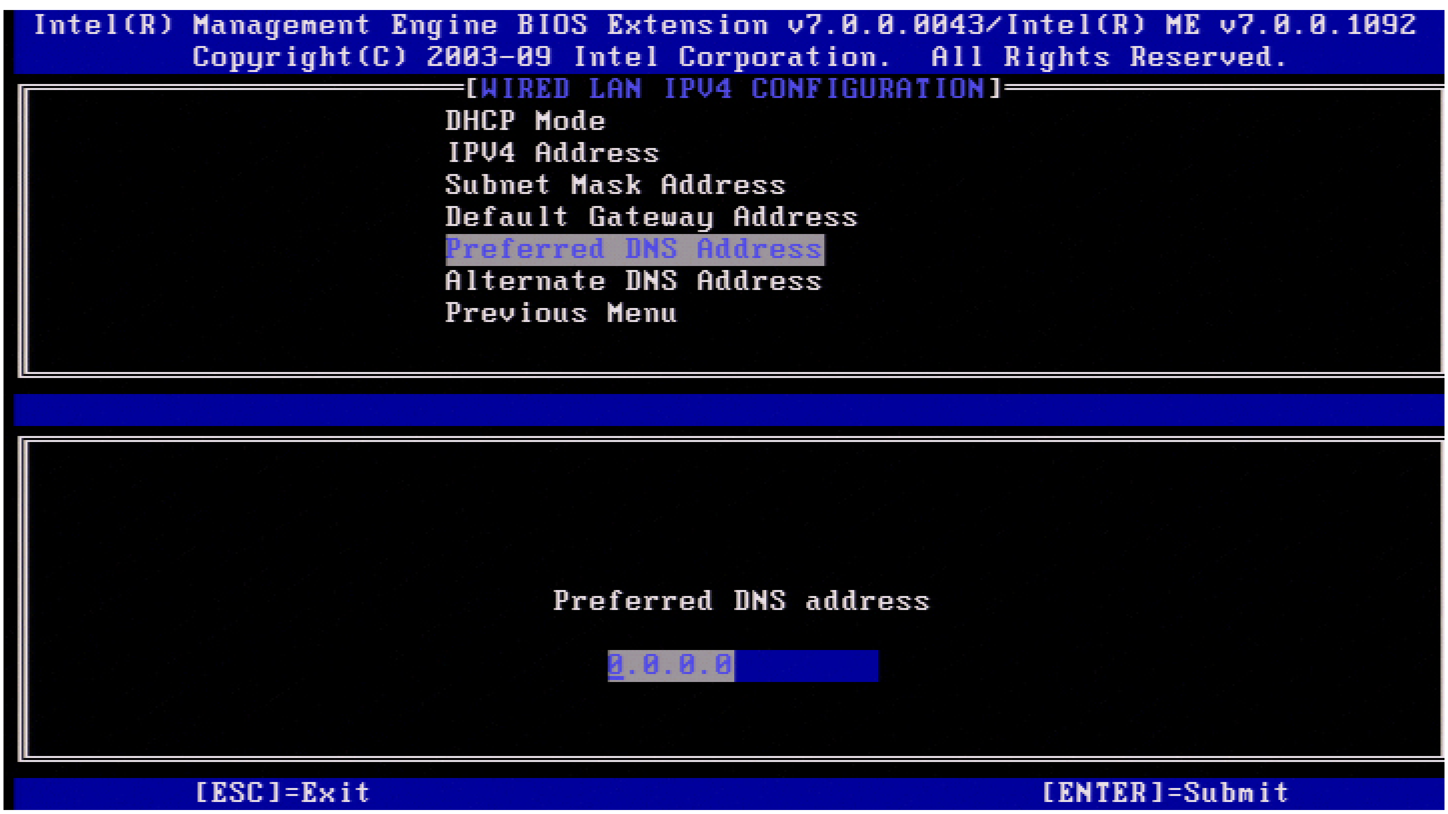

### 4. Default Gateway Address（デフォルトゲートウェイアドレス）

**Default Gateway Address**（デフォルトゲートウェイアドレス）を選択して <Enter> を押します。
アドレス列にデフォルトゲートウェイアドレスを入力して <Enter> を押します。



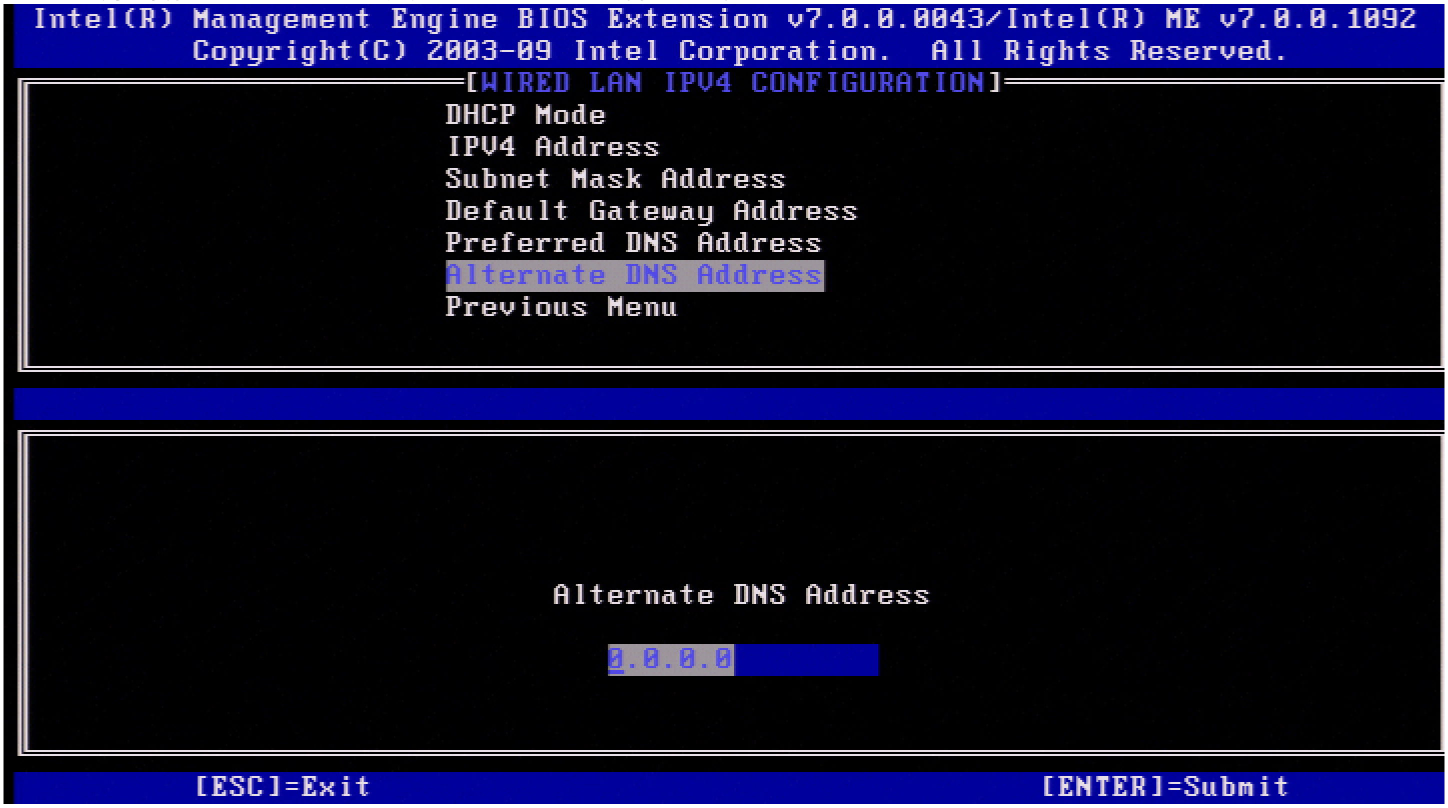

## 5. Preferred DNS Address（優先 DNS アドレス）

**Preferred DNS Address**（優先 DNS アドレス）を選択して <Enter> を押します。
アドレス列に優先 DNS アドレスを入力して <Enter> を押します。



### 6. Alternate DNS Address（代替 DNS アドレス）

**Alternate DNS Address**（代替 DNS アドレス）を選択して <Enter> を押します。
アドレス列に代替 DNS アドレスを入力して <Enter> を押します。



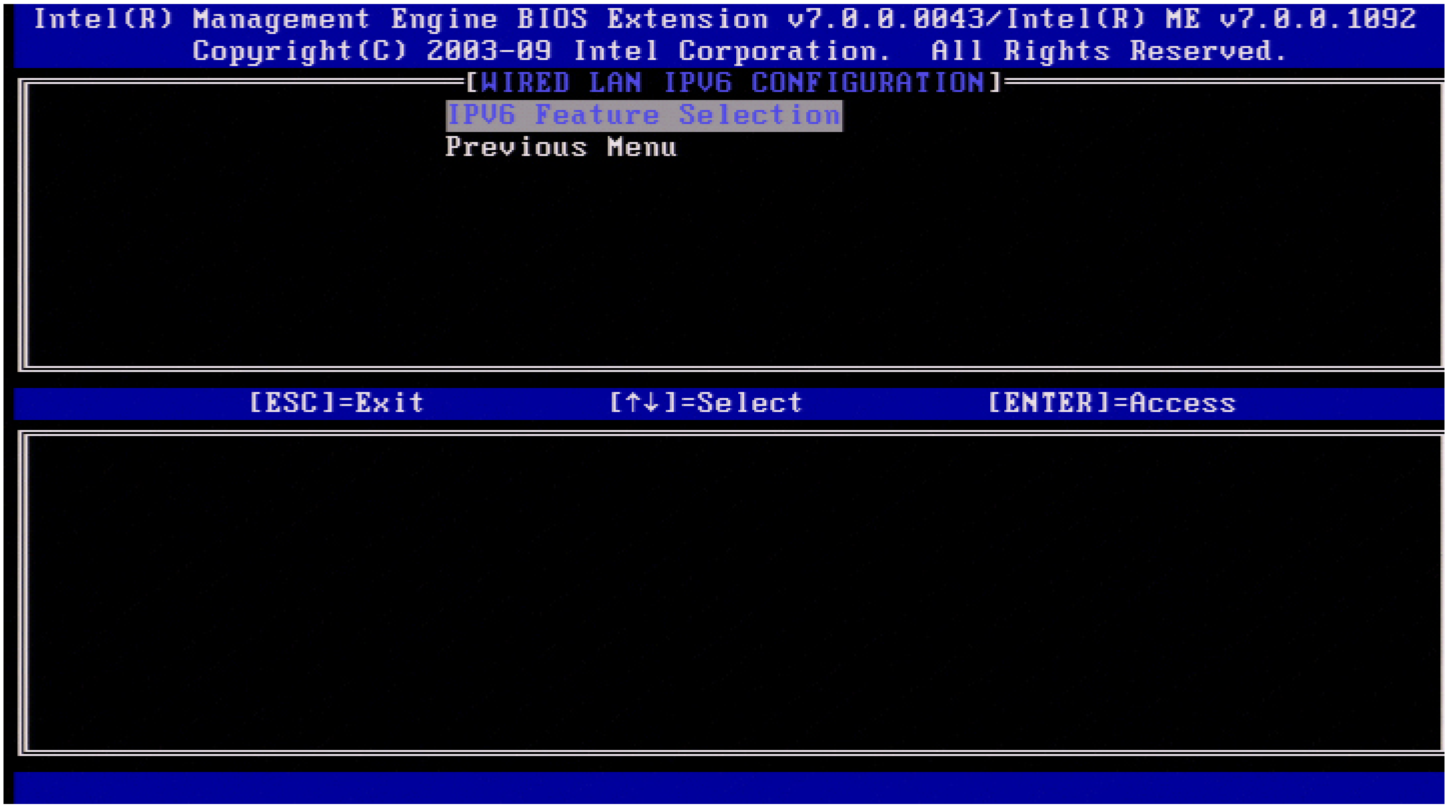

### 7. Previous Menu（前のメニュー）

Wired LAN IPv4 Configuration（有線 LAN IPｖ4 設定）で、**Previous Menu**（前のメニュー）を選択して <Enter> を押します。
TCP/IP Settings（TCP/IP 設定）メニューが表示されます。

## Wired LAN IPv6 Configuration（有線 LAN IPv6 設定）

TCP/IP Settings（TCP/IP 設定）で、**Wired LAN IPv6 Configuration**（有線 LAN IPｖ6 設定）を選択して <Enter> を押します。
Wired LAN IPv6 Configuration（有線 LAN IPv6 設定）ページが表示されます。

Intel ME IPv6 アドレスは専用アドレスで、ホストオペレーティングシステムとは共有されません。IPv6 アドレスに対してダイナミック DNS 登録を有効にするためには、専用 FQDN を設定する必要があります。



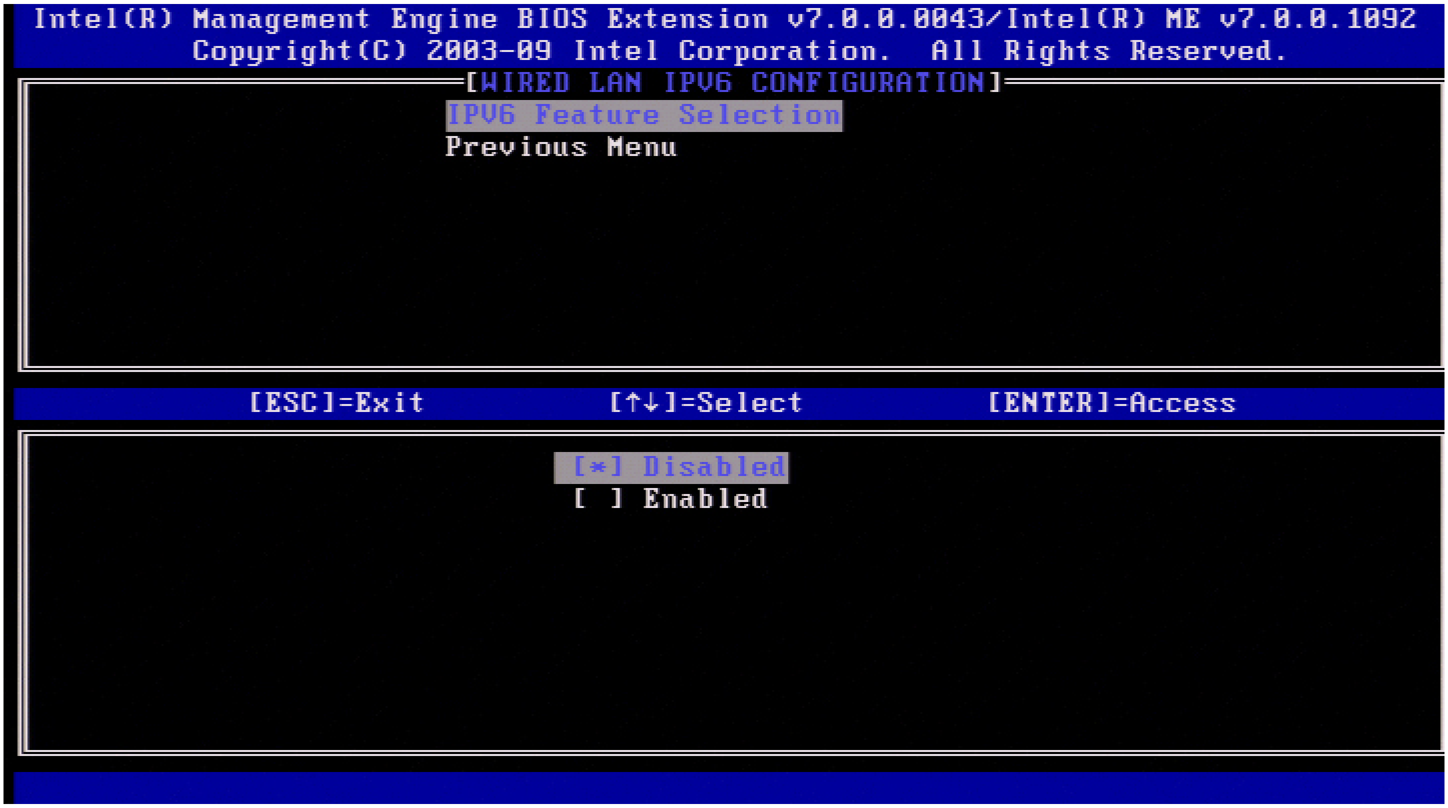

**メモ：**Intel ME ネットワークスタックは、マルチホームの IPv6 インタフェースをサポートします。各ネットワークインタフェースには次の IPv6 アドレスを設定することが可能です。

□□□ 1 つのリンクローカル自動設定アドレス
□□□ 3 つの自動設定グローバルアドレス
□□□ 1 つの DHCPv6 設定アドレス
□□□ 1 つの静的設定 IPv6 アドレス

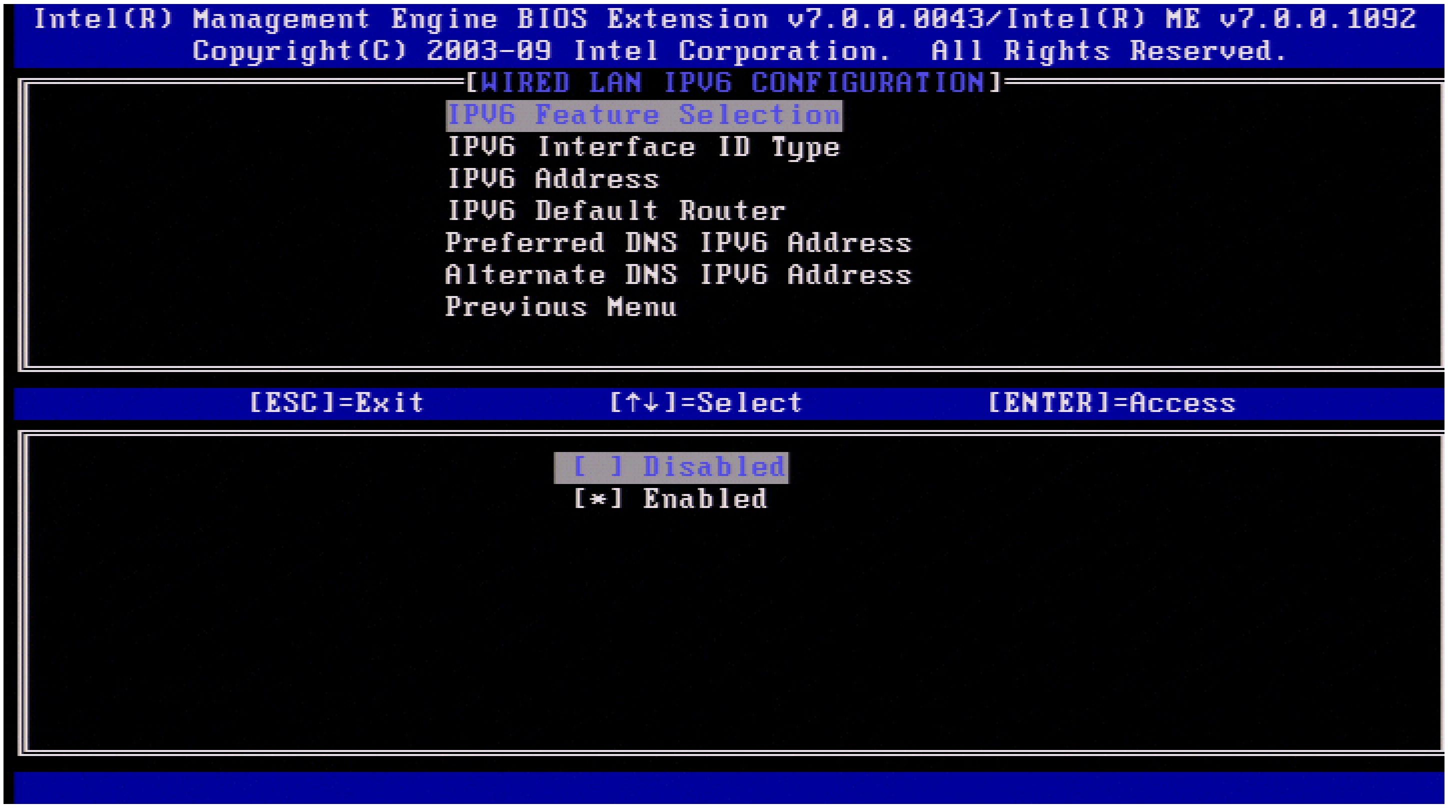
### 1. IPv6 Feature Selection（IPv6 機能選択）

Wired LAN IPv6 Configuration（有線 LAN IPv6 設定）で、**IPv6 Feature Selection**（IPv6 機能選択）を選択して <Enter> を押します。

**DISABLED**：Disabled（無効）を選択して <Enter> を押します。IPv6 機能選択が無効になりました。



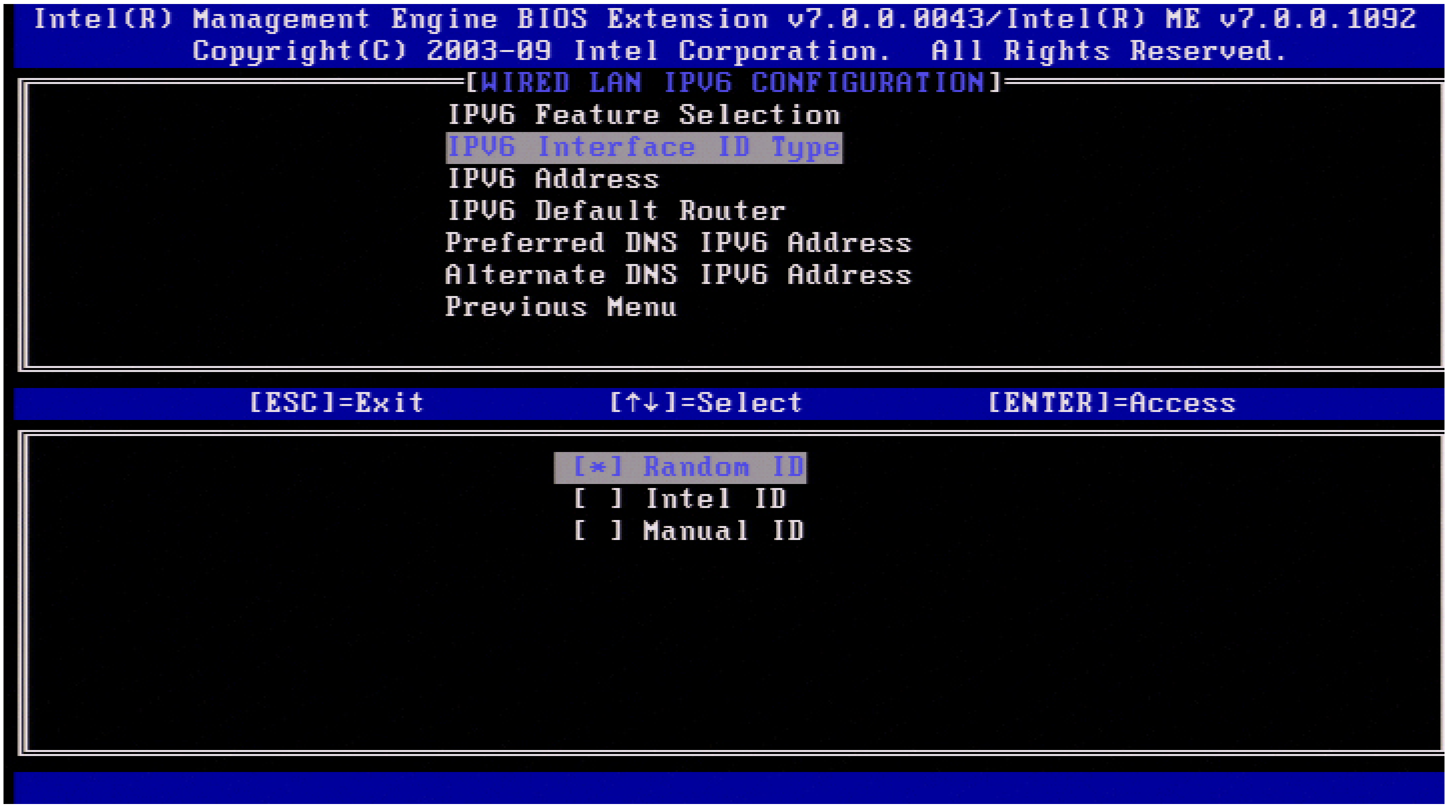

**ENABLED**：Enabled（有効）を選択して <Enter> を押します。
IPv6 機能選択が有効化され、追加設定が可能になります。




**2. IPv6 Interface ID Type**（**IPv6** インタフェース **ID** タイプ）

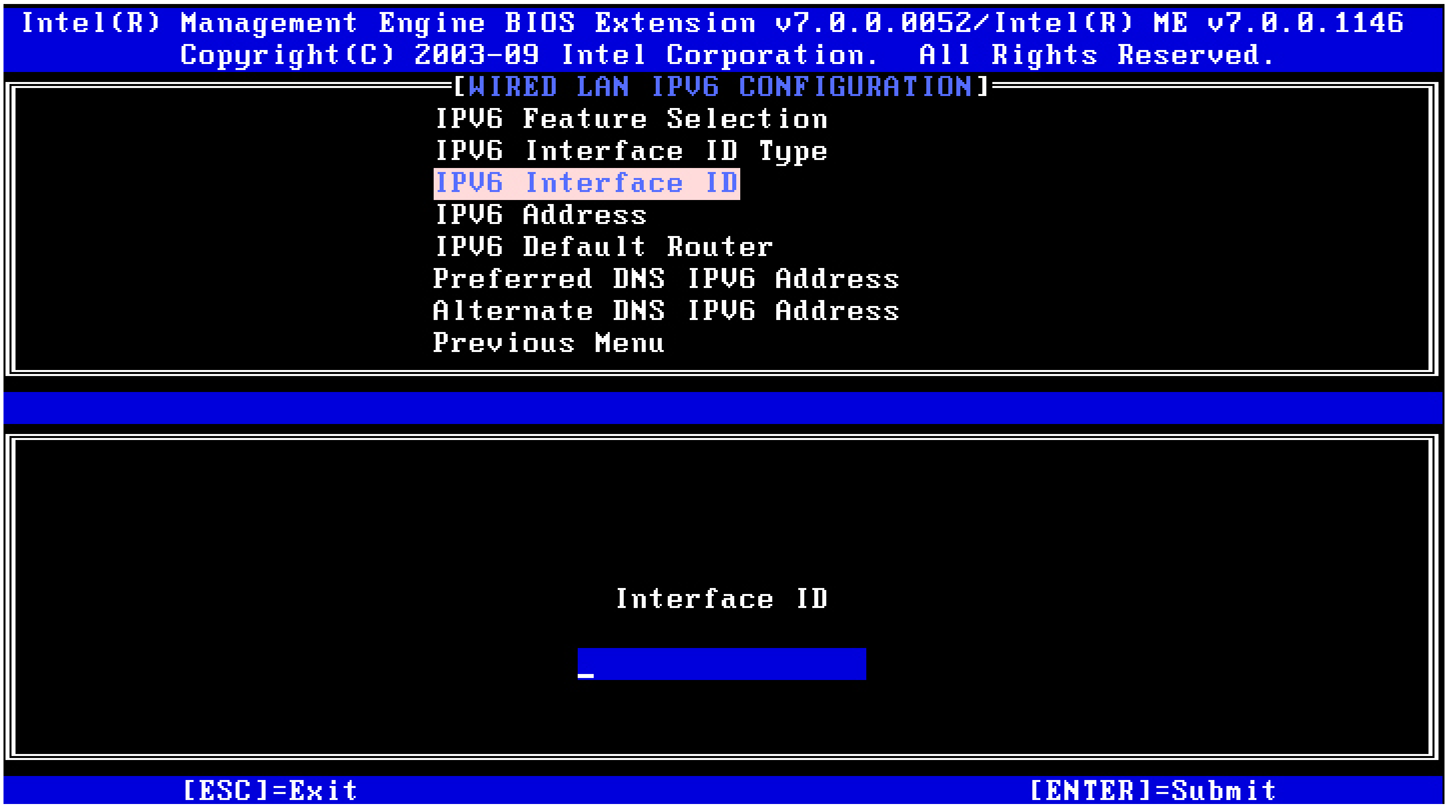
Wired LAN IPv6 Configuration（有線 LAN IPv6 設定）で、**IPv6 Interface ID Type**（IPv6 インタフェース ID タイプ）を選択して <Enter> を押します。
自動設定 IPv6 アドレスは 2 つの部分で構成されています。IPv6 ルータによって設定された IPv6 プレフィックスが最初の部分で、インタフェース ID が 2 番目の部分です（各 64 ビット）。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| **Random ID**（ランダム ID） | IPv6 インタフェース ID は RFC 3041 で説明されているランダムな番号を使用して自動的に生成されます。これはデフォルトオプションです。 |
| **Intel ID** | IPv6 インタフェース ID は、MAC アドレスを使用して自動的に生成されます。 |
| **Manual ID**（手動 ID） | IPv6 インタフェース ID は手動で定義されます。このタイプを選択するには、有効な値で手動インタフェース ID を設定する必要があります。 |



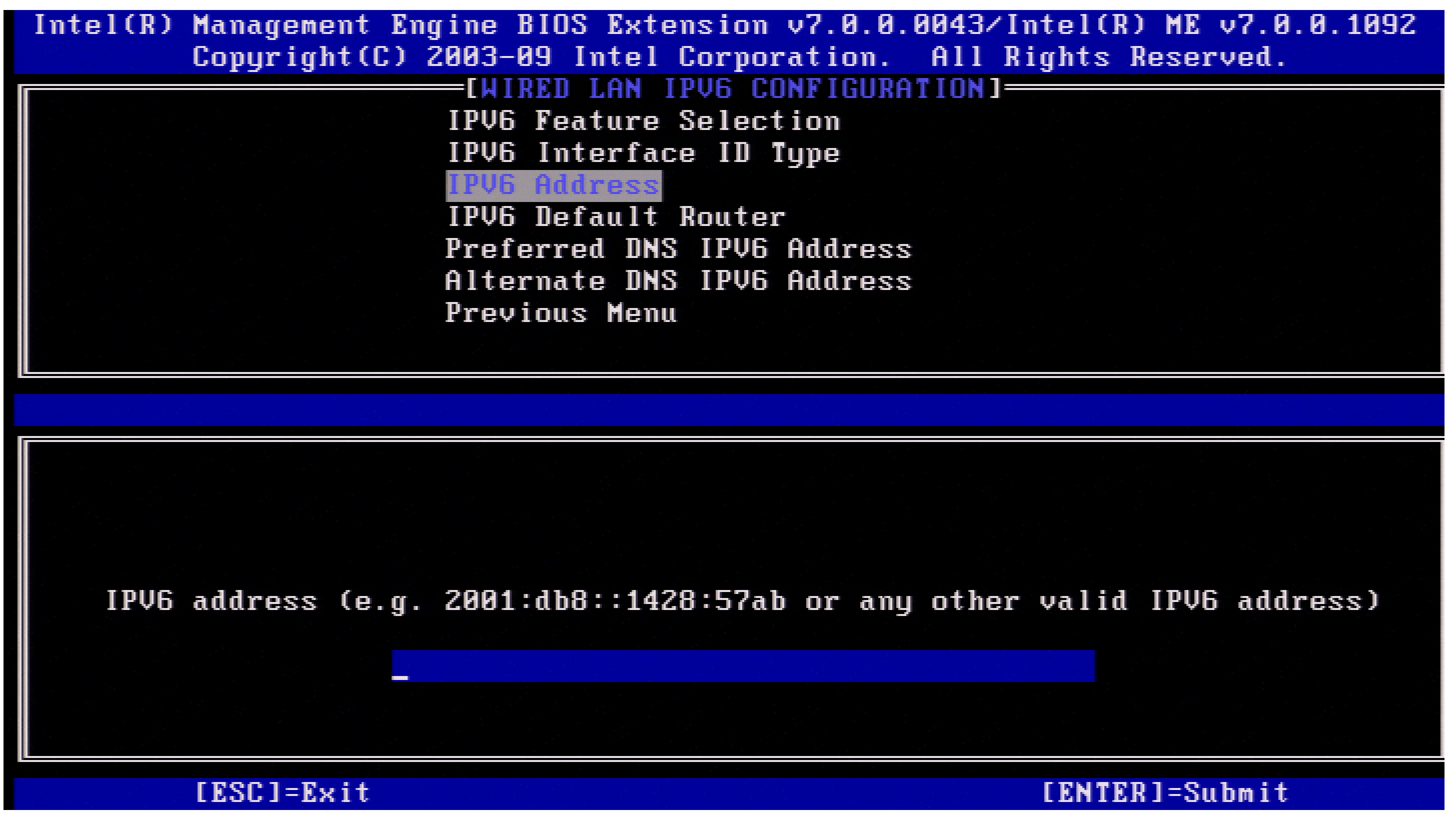

手動 ID を選択するには

□□□ 「Manual ID」（手動 ID）を選択します。
□□□ <Enter> を押します。IPV6 Interface ID（IPv6 インタフェース ID）の新しいオプションが、IPV6 Interface ID Type（IPv6 インタフェース ID タイプ）の下に表示されます。
□□□ IPV6 Interface ID（IPv6 インタフェース ID）を選択します。
□□□ <Enter> を押します。
□□□ 希望の手動 ID を入力します。




**3. IPv6 Address**（**IPv6** アドレス）

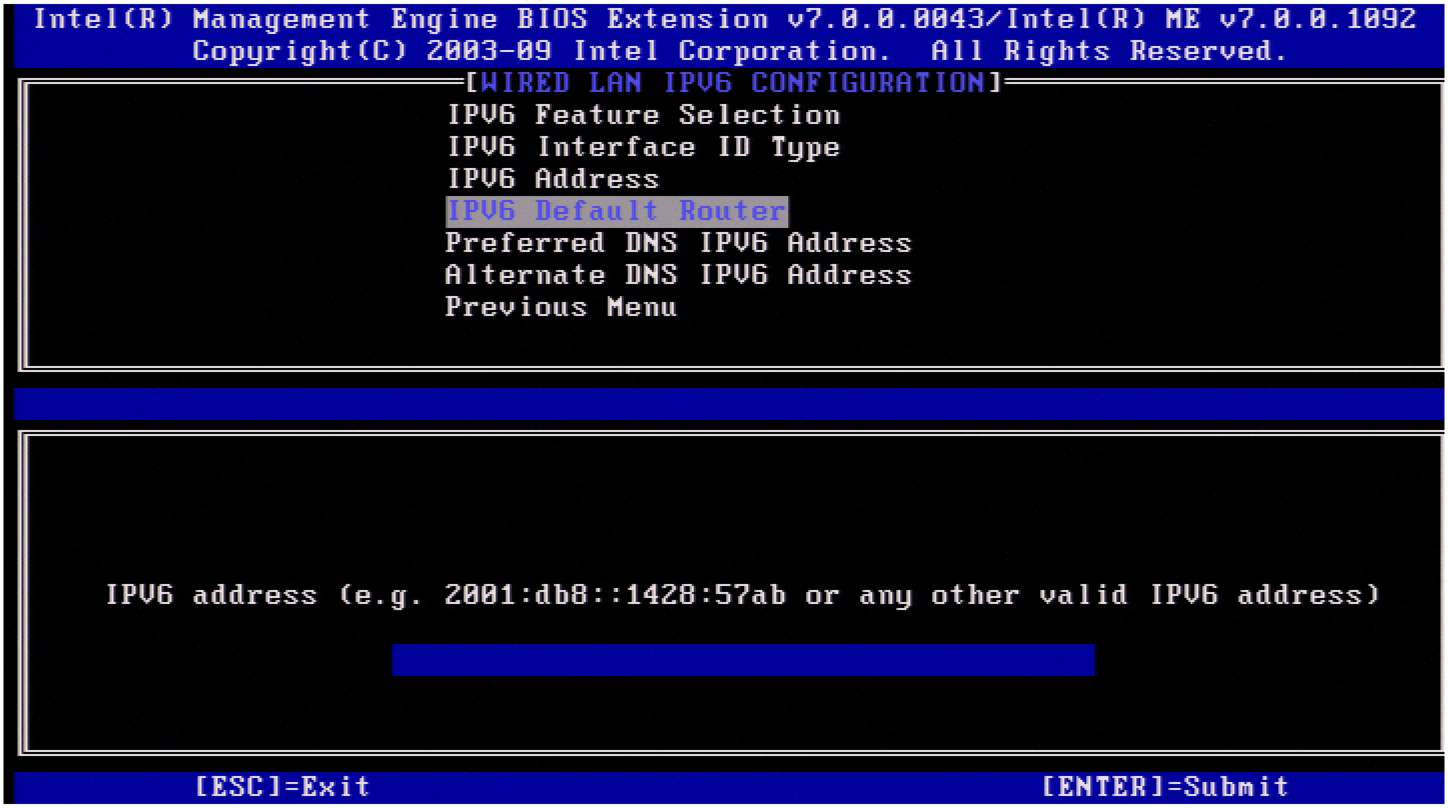
Wired LAN IPv6 Configuration（有線 LAN IPv6 設定）で、**IPv6 Address**（IPv6 アドレス）を選択して <Enter> を押します。IPv6 アドレスを入力して <Enter> を押します。




**4. IPv6 Default Router**（**IPv6** デフォルトルータ）

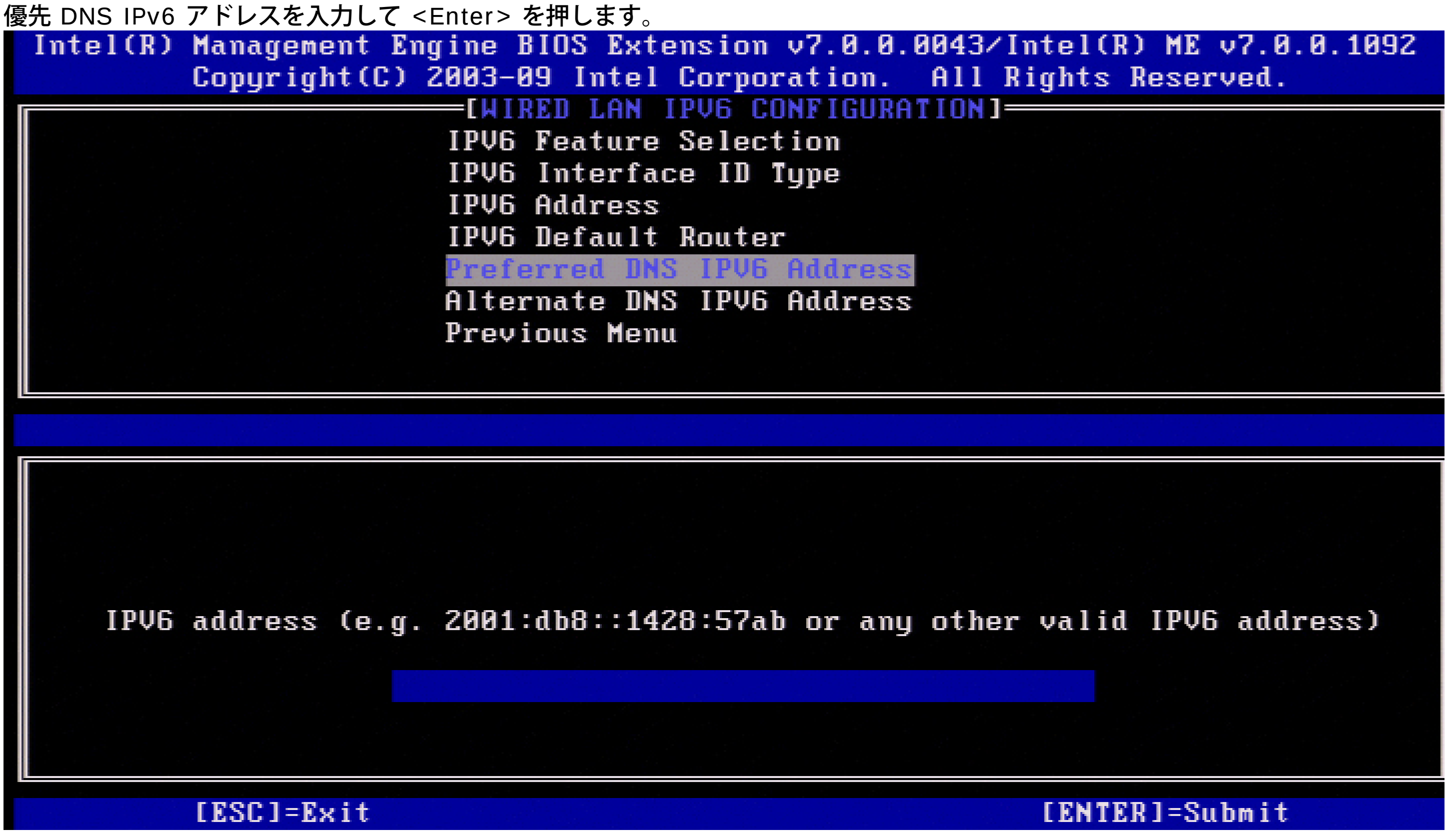
Wired LAN IPv6 Configuration（有線 LAN IPv6 設定）で、**IPv6 Default Router**（IPv6 デフォルトルータ）を選択して <Enter> を押

します。
IPv6 デフォルトルータを入力して <Enter> を押します。




**5. Preferred DNS IPv6 Address**（優先 **DNS IPv6** アドレス）

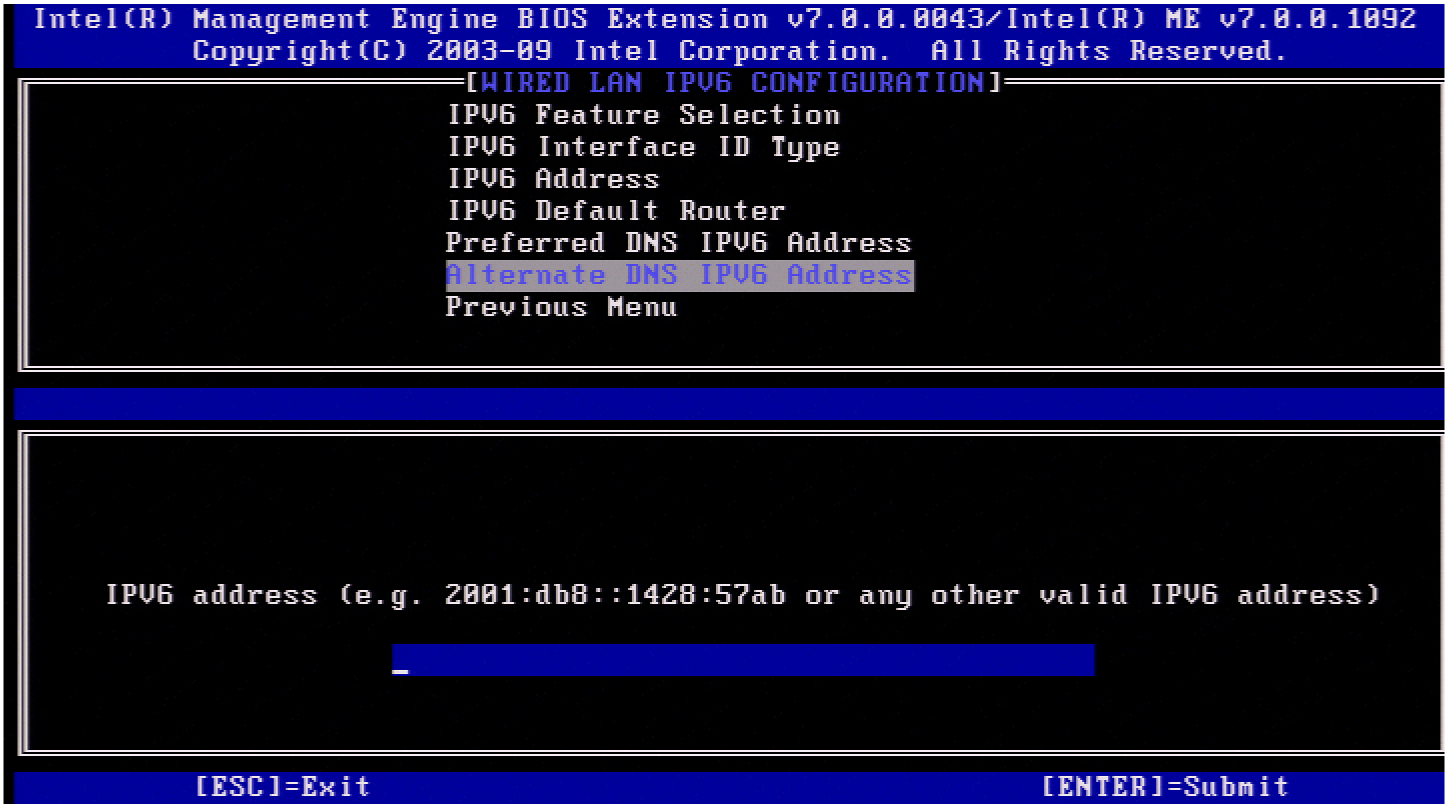
Wired LAN IPv6 Configuration（有線 LAN IPv6 設定）で、**Preferred DNS IPv6 Address**（優先 DNS IPv6 アドレス）を選択して <Enter> を押します。
優先 DNS IPv6 アドレスを入力して <Enter> を押します。




**6. Alternate DNS IPv6 Address**（代替 **DNS IPv6** アドレス）

Wired LAN IPv6 Configuration（有線 LAN IPv6 設定）で、**Alternate DNS IPv6 Address**（代替 DNS IPv6 アドレス）を選択して

<Enter> を押します。
代替 DNS IPv6 アドレスを入力して <Enter> を押します。

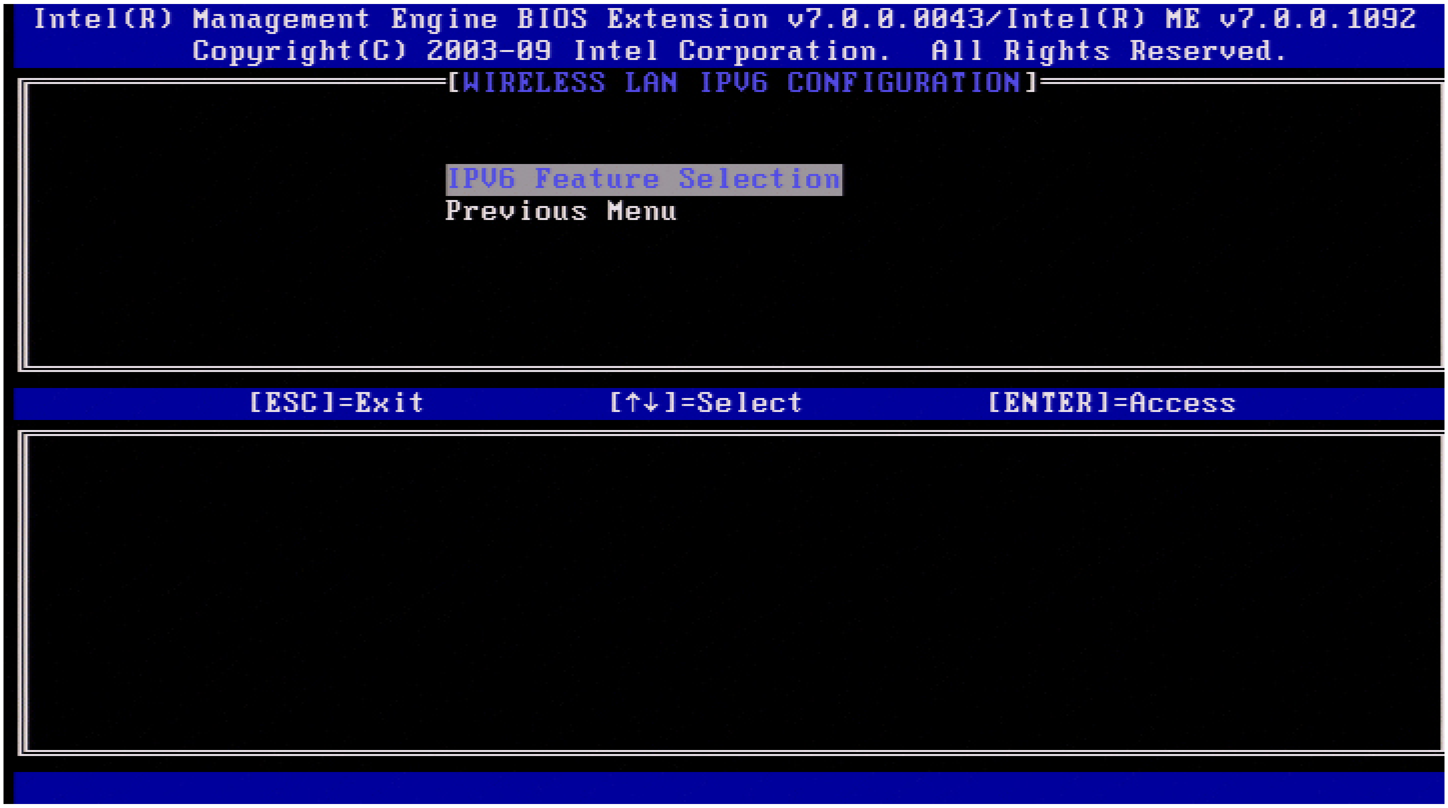



**7. Previous Menu**（前のメニュー）

Wired LAN IPv6 Configuration（有線 LAN IP v 6 設定）で、**Previous Menu**（前のメニュー）を選択して <Enter> を押します。
TCP/IP Settings（TCP/IP 設定）メニューが表示されます。

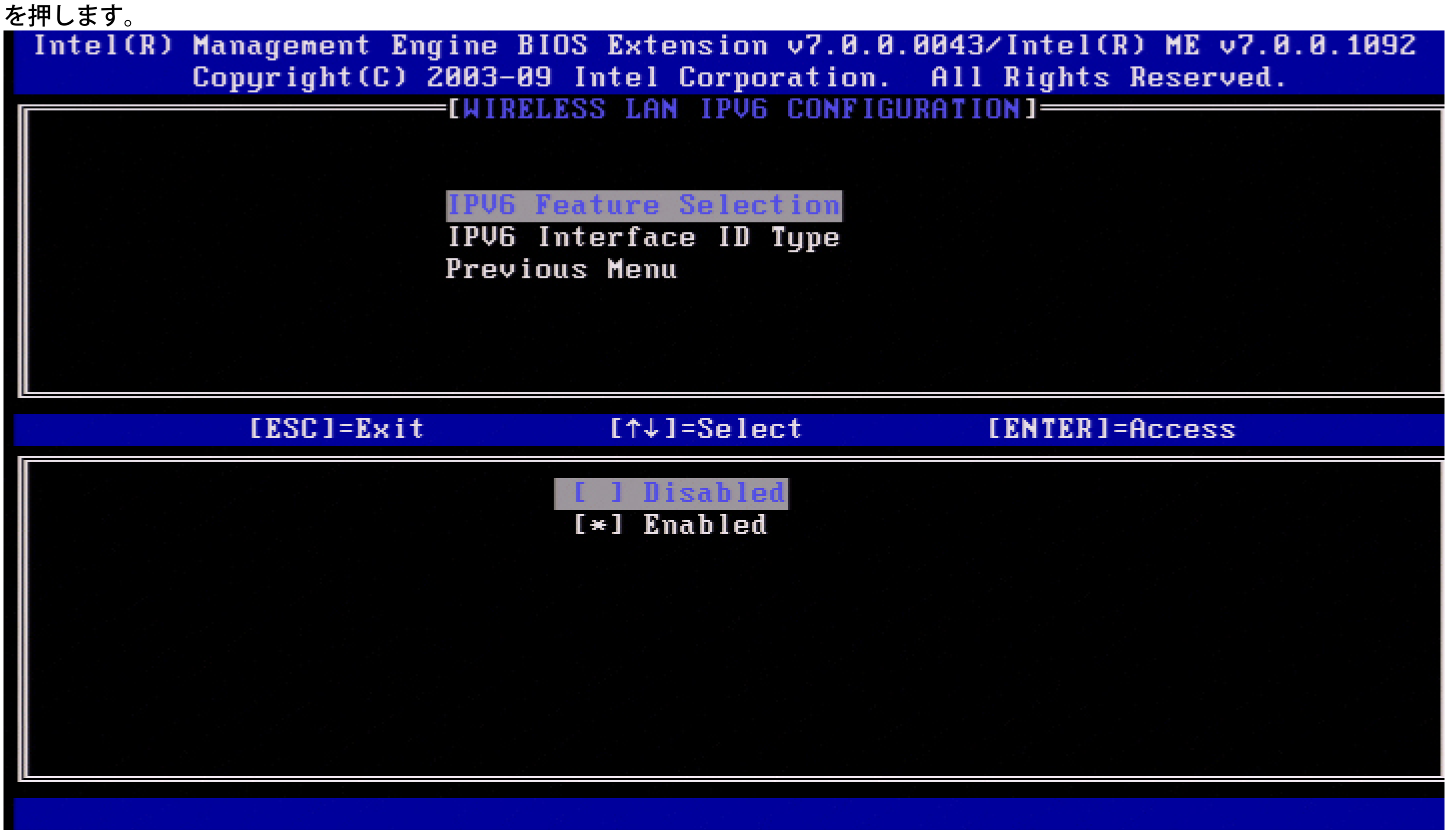
## Wireless LAN IPv6 Configuration（ワイヤレス LAN IPv6 設定）

TCP/IP Settings（TCP/IP 設定）で、**Wireless LAN IPv6 Configuration**（ワイヤレス LAN IP v 6 設定）を選択して <Enter> を押します。
Wireless LAN IPv6 Configuration（ワイヤレス LAN IPv6 設定）ページが表示されます。




### 1. IPv6 Feature Selection（IPv6 機能選択）

Wireless LAN IPv6 Configuration（ワイヤレス LAN IPv6 設定）で、**IPv6 Feature Selection**（IPv6 機能選択）を選択して <Enter> を押します。



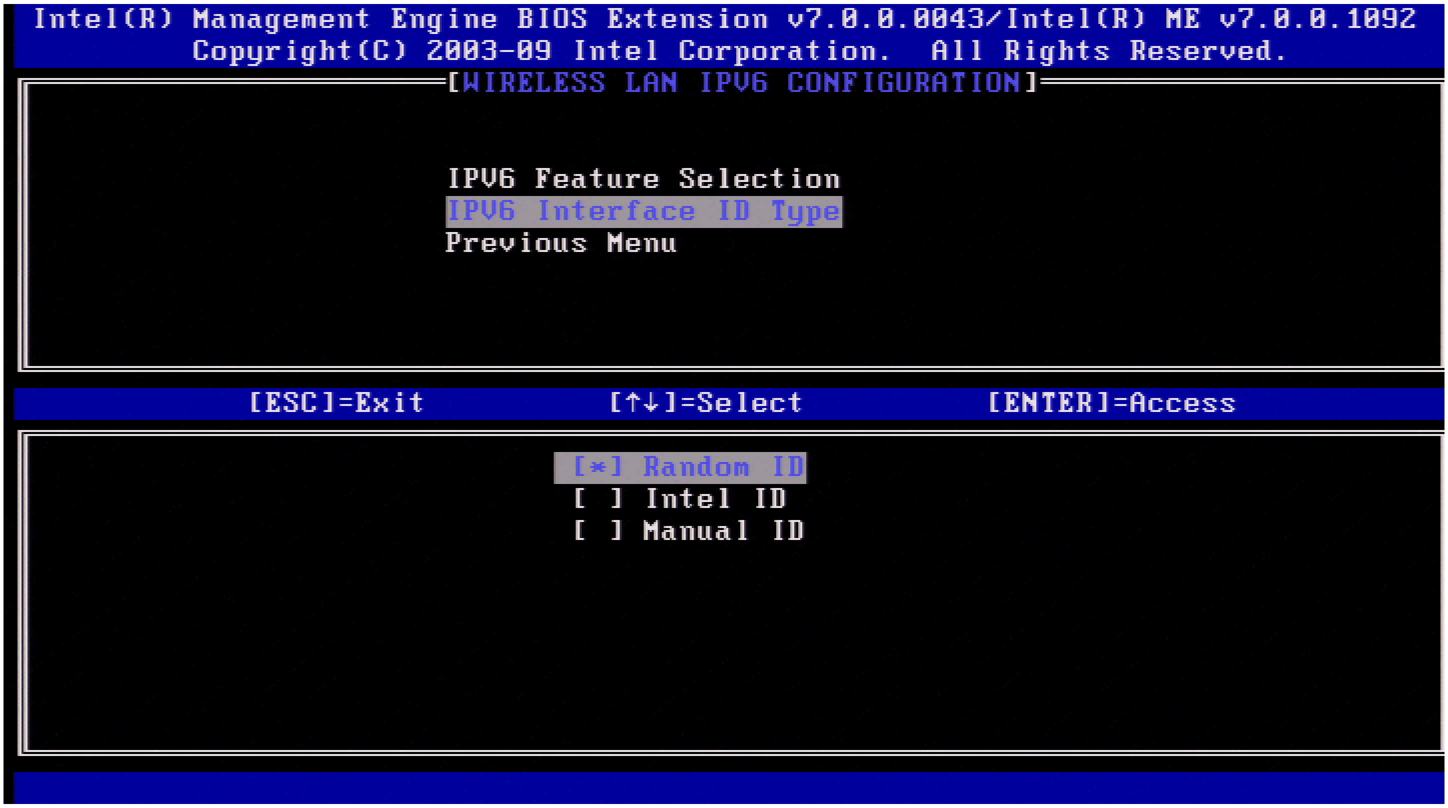

### 2. IPv6 Interface ID Type（IPv6 インタフェース ID タイプ）

Wired LAN IPv6 Configuration（有線 LAN IPv6 設定）で、**IPv6 Interface ID Type**（IPv6 インタフェース ID タイプ）を選択して

<Enter> を押します。
自動設定 IPv6 アドレスは 2 つの部分で構成されています。

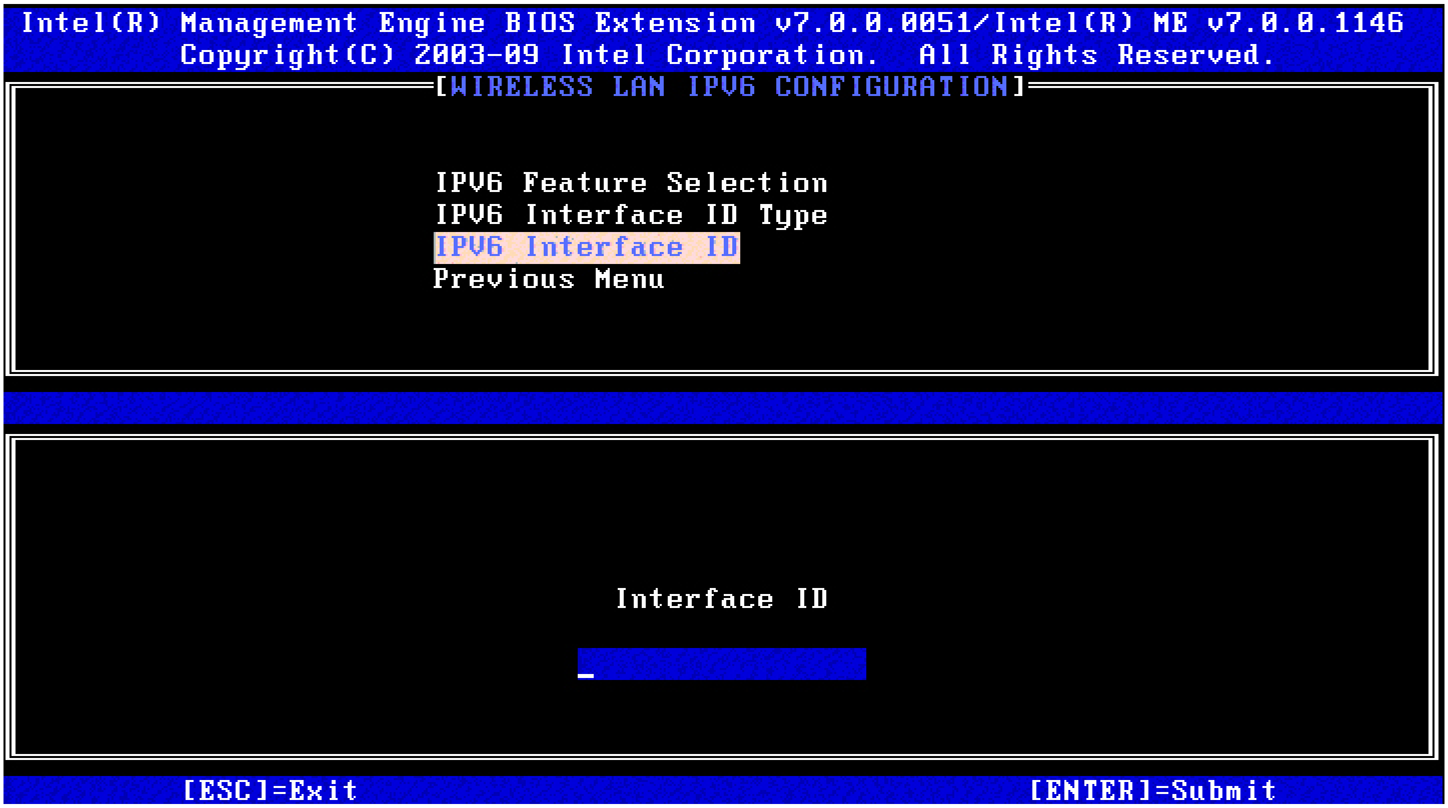
- IPv6 プレフィックス（IPv6 ルータによって設定される）
- インタフェース ID（各 64 ビット）

| オプション | 説明 |
|---|---|
| **Random ID**（ランダム **ID**） | IPv6 インタフェース ID は RFC 3041 で説明されているランダムな番号を使用して自動的に生成されます。これはデフォルトオプションです。 |
| **Intel ID** | IPv6 インタフェース ID は、MAC アドレスを使用して自動的に生成されます。 |
| **Manual ID**（手動 **ID**） | IPv6 インタフェース ID は手動で定義されます。このタイプを選択するには、有効な値で手動インタフェース ID を設定する必要があります。 |




手動 ID を選択するには：

□□□ **Manual ID**（手動 ID）を選択します。
□□□ <Enter> を押します。IPV6 Interface ID（IPv6 インタフェース ID）の新しいオプションが、IPV6 Interface ID Type（IPv6 インタフェース ID タイプ）の下に表示されます。
□□□ **IPV6 Interface ID**（IPv6 インタフェース ID）を選択します。
□□□ <Enter> を押します。
□□□ 希望の手動 ID を入力します。




### 3. Previous Menu（前のメニュー）

Wireless LAN IPv6 Configuration（ワイヤレス LAN IP v 6 設定）で、**Previous Menu**（前のメニュー）を選択して <Enter> を押します。
TCP/IP Settings（TCP/IP 設定）メニューが表示されます。

## Previous Menu（前のメニュー）

TCP/IP Setting（TCP/IP 設定）メニューで、**Previous Menu**（前のメニュー）を選択して <Enter> を押します。
Intel ME Network Setup（Intel ME ネットワークのセットアップ）メニューが表示されます。

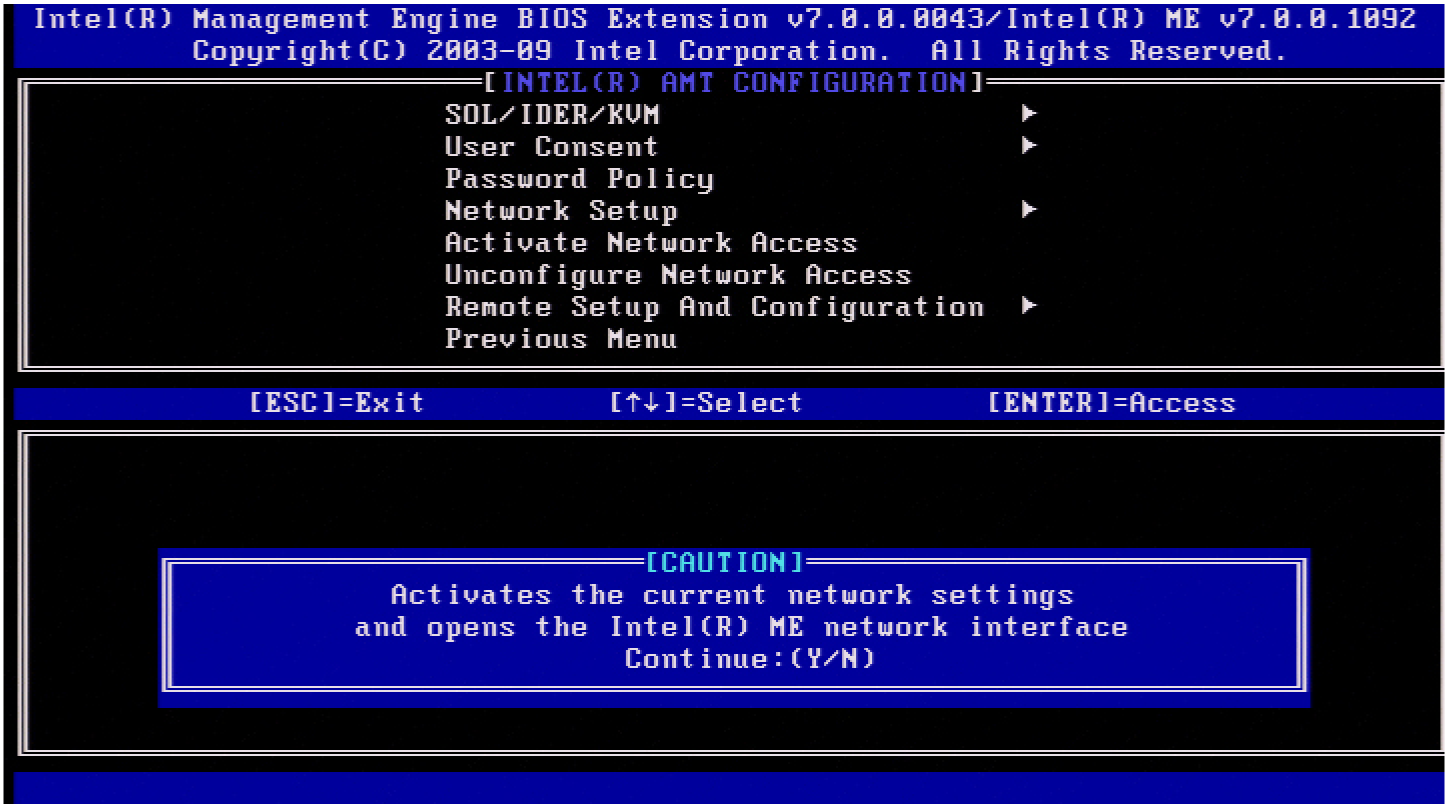
# Previous Menu（前のメニュー）

Intel ME Network Setup（Intel ME ネットワークのセットアップ）で、**Previous Menu**（前のメニュー）を選択して <Enter> を押します。
AMT Configuration（AMT 設定）メニューが表示されます。

# Activate Network Access（ネットワークアクセスの有効化）

Intel AMT Configuration（Intel AMT 設定）ページで、**Activate Network Access**（ネットワークアクセスの有効化）を選択して <Enter> を押します。
「**Y**」を押して有効化するか、「**N**」を押してキャンセルします。

ネットワークアクセスを有効化すると、必要な設定がすべて設定済みである場合、Intel ME はプロビジョニング後の状態に推移します。ネットワークアクセスを有効にしないと、ME はネットワークに接続できません。



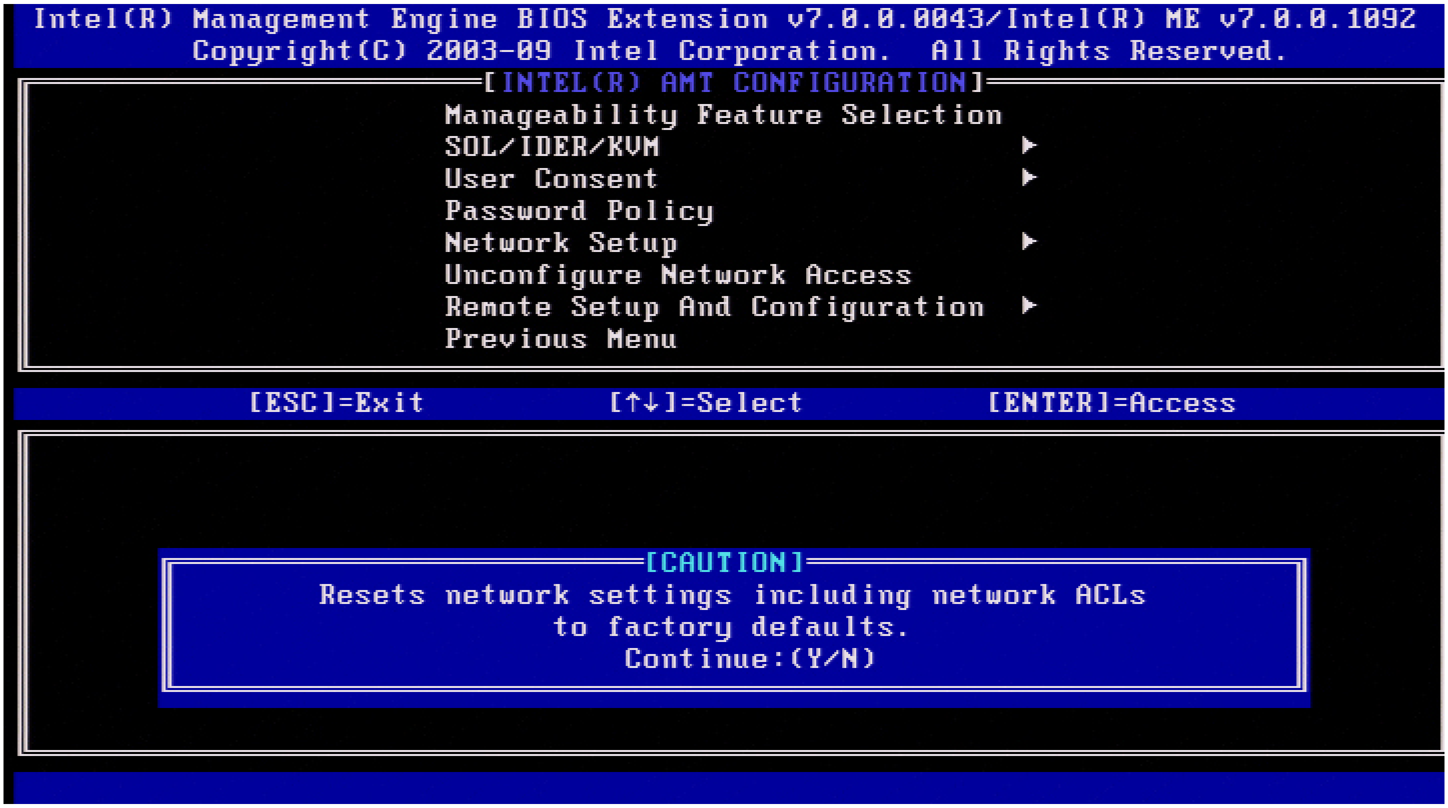

**メモ：**デフォルトの電源ポリシーが PP1 に設定されている場合、有効化の後に電源ポリシーが PP2 に変更されます。

## Unconfigure Network Access（ネットワークアクセスの設定解除）

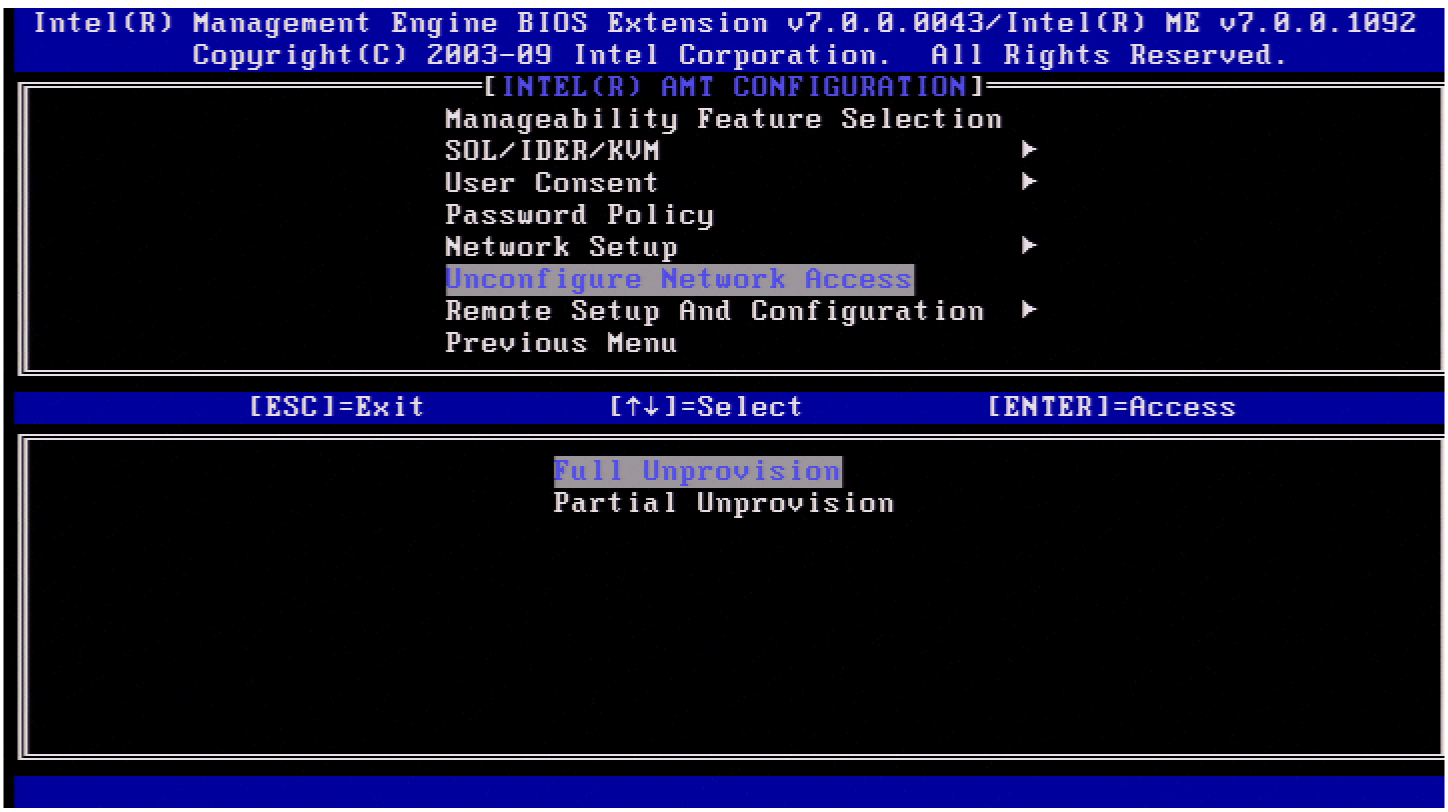
Intel ME Platform Configuration（Intel ME プラットフォーム設定）メニューで、**Unconfigure Network Access**（ネットワークアクセスの設定解除）を選択して <Enter> を押します。

**メモ：**これにより、Intel ME はプロビジョニング前の状態に推移します。

**Y** を選択して、設定を解除します。



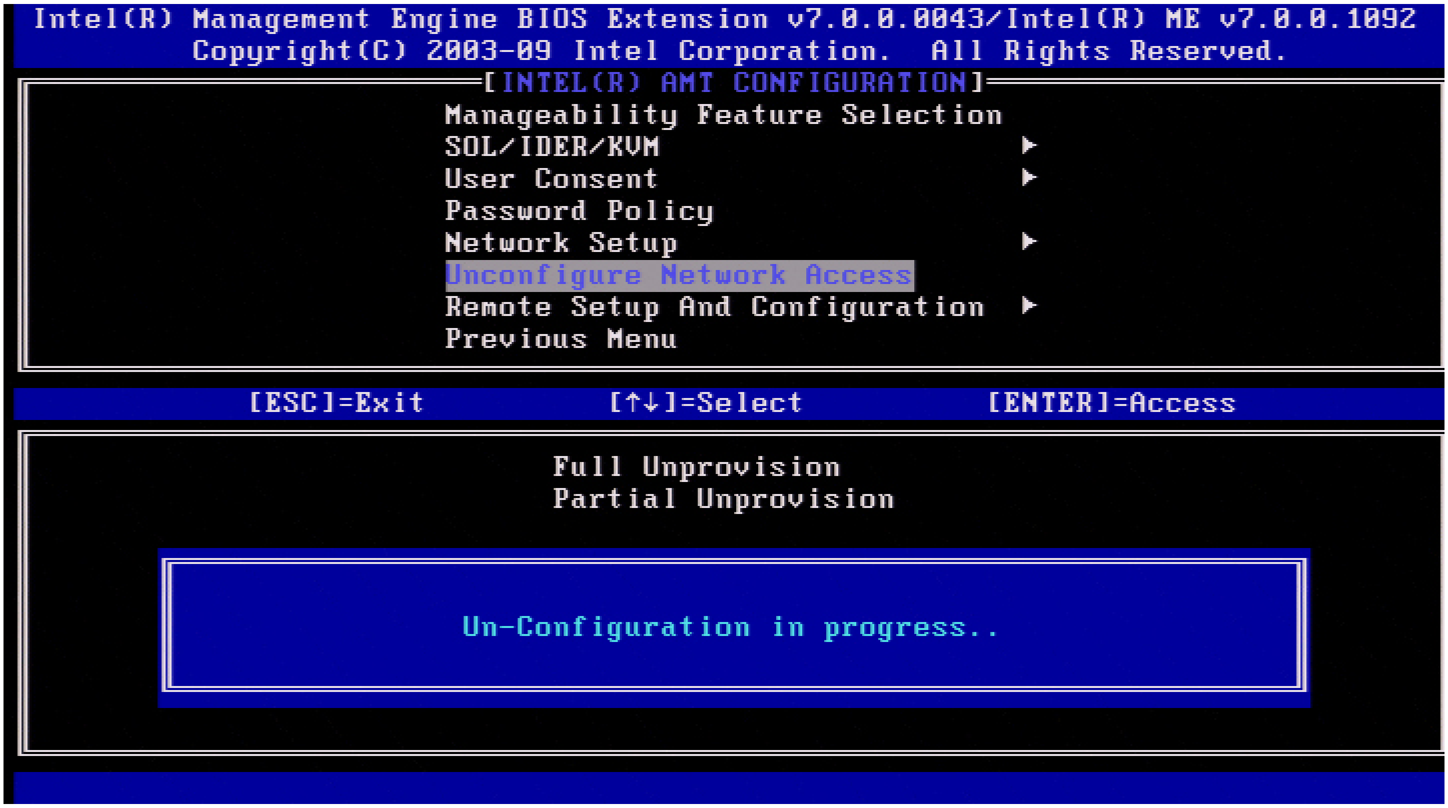

**Full Unprovisioning**（完全なプロビジョニング解除）を選択して <Enter> を押します。




| オプション | 説明 |
|---|---|
| **Full Unprovision**（完全なプロビジョニング解除） | IPv6 インタフェース ID は RFC 3041 で説明されているランダムな番号を使用して自動的に生成されます。これがデフォルトです。<br>完全なプロビジョニング解除を選択すると、AMT のプロビジョニングが解除され、すべての PID/PPS 情報または入力済みの新規認証情報（ある場合）が削除されます。 |
| **Partial** | IPv6 インタフェース ID は、MAC アドレスを使用して自動的に生成されます。部分 |

| | |
|---|---|
| **Unprovision**（部分的なプロビジョニング解除） | 的なプロビジョニング解除を選択すると、AMT のプロビジョニングが解除されますが、入力済みの PID/PPD 情報または新規認証情報（ある場合）は保持されます。 |

プロビジョニング解除が進行中です。




## Remote Setup and Configuration（リモートセットアップおよび設定）

Intel AMT Configuration（Intel AMT 設定）メニューで **Remote Setup and Configuration**（リモートセットアップおよび設定）を選択して、<Enter> を押します。
Intel Automated Setup and Configuration（Intel 自動セットアップと設定）ページが表示されます。




## Current Provisioning Mode（現在のプロビジョニングモード）

Automated Setup and Configuration（自動セットアップと設定）で、**Current Provisioning Mode**（現在のプロビジョニングモード）を選択して <Enter> を押します。
**Current Provisioning Mode**（現在のプロビジョニングモード）– 現在のプロビジョニング TLS モード（None（なし）、PKI、または PSK）を表示します。



# Provisioning Record（プロビジョニング記録）

Automated Setup and Configuration（自動セットアップと設定）で、**Provisioning Record**（プロビジョニング記録）を選択して <Enter> を押します。
**Provisioning Record**（プロビジョニング記録）– システムのプロビジョニング PSK/PKI 記録データを表示します。データが未入力の場合は、Intel MEBx で次のメッセージが表示されます。 「Provision Record not present」（プロビジョニング記録がありません）。



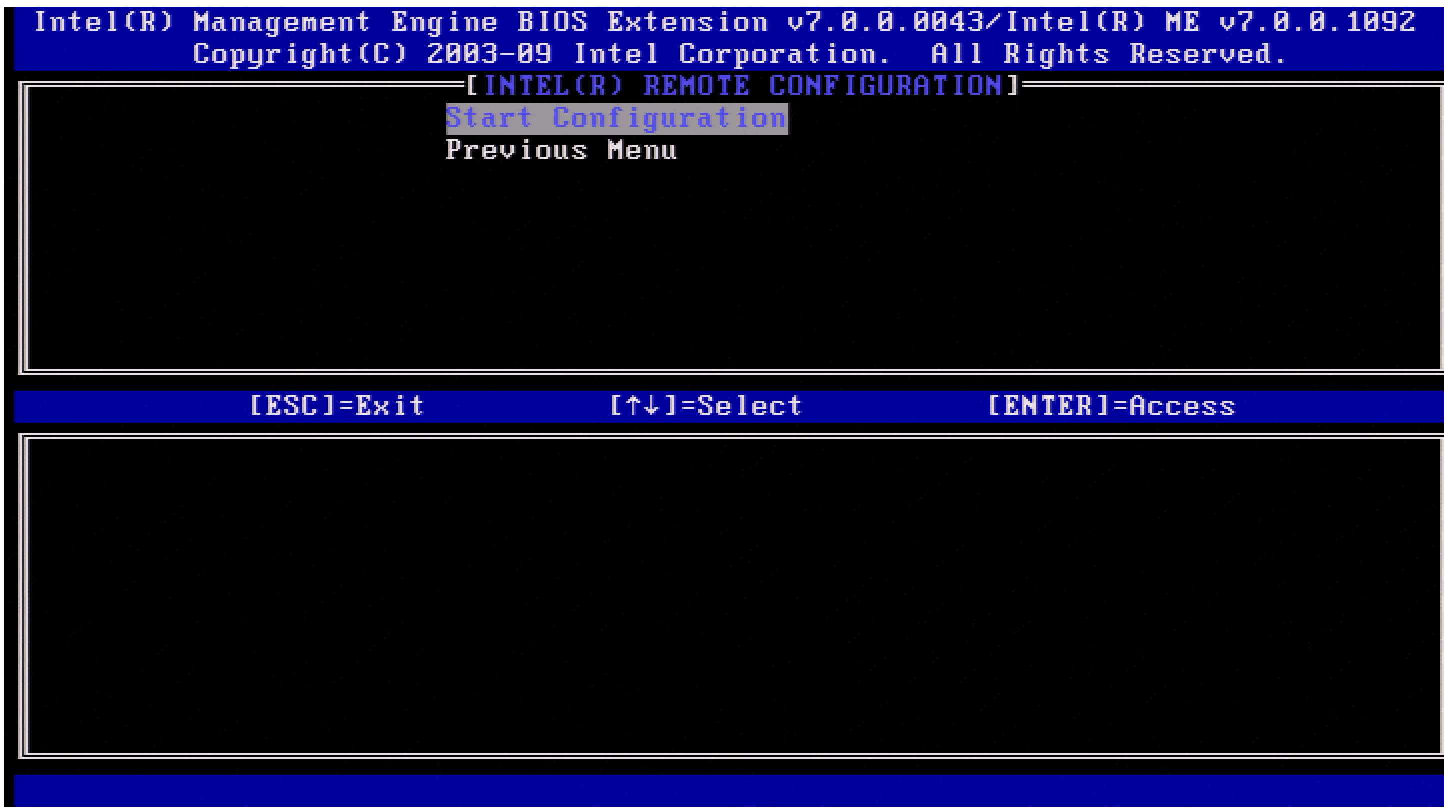

データが入力されると、プロビジョニング記録が次のように表示されます。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| **TLS provisioning mode**（**TLS** プロビジョニングモード） | システムの現在の設定モード（None（なし）、PSK、または PKI）を表示します。 |
| **Provisioning IP**（プロビジョニング **IP**） | セットアップおよび設定サーバーの IP アドレスです。 |
| **Date of Provision**（プロビジョニング日） | プロビジョニングの日付と時間を MM/DD/YYYY、HH:MM の形式で表示します。 |
| **DNS** | リモート設定が行われる前に「PKI DNS サフィックス」が設定されたかどうかを示します。0 の値は、DNS サフィックスが設定されておらず、ファームウェアは DHCP オプション 15 に依存し、このサフィックスを設定サーバーのクライアント証明書の FQDN と比較することを示します。1 の値は、DNS サフィックスが 設定されており、ファームウェアはそのサフィックスと、 設定サーバーのクライアント証明書の DNS サフィックスとが照合されたことを示します。Host Initiated（ホストによる開始）– セットアップと設定のプロセスがホストによって開始されたかどうかを示します。 「No」はセットアップと設定のプロセスがホストによって開始されていないことを示し、「Yes」はセットアップと設定のプロセスがホストによって開始されたことを示します（PKI のみ）。 |
| **Hash Data**（ハッシュデータ） | 40 文字の証明書ハッシュデータを表示します（PKI のみ）。 |
| **Hash Algorithm**（ハッシュアルゴリズム） | ハッシュタイプを示します。現在は、SHA1 のみがサポートされています（PKI のみ）。 |

| | |
|---|---|
| **IsDefault**（デフォルト） | ハッシュアルゴリズムがデフォルトのアルゴリズムとして選択されている場合は、「Yes」が表示されます。ハッシュアルゴリズムがデフォルトのアルゴリズムとして使用されていない場合は、「No」と表示されます（PKI のみ）。 |
| **FQDN** | 証明書に記載されているプロビジョニングサーバーの FQDN（PKI のみ）。 |
| **Serial Number**（シリアル番号） | 認証局シリアルナンバーを示す 32 文字のストリングです。 |
| **Time Validity Pass**（時間有効性合格） | 証明書が時間有効性チェックに合格したかどうかを示します。 |

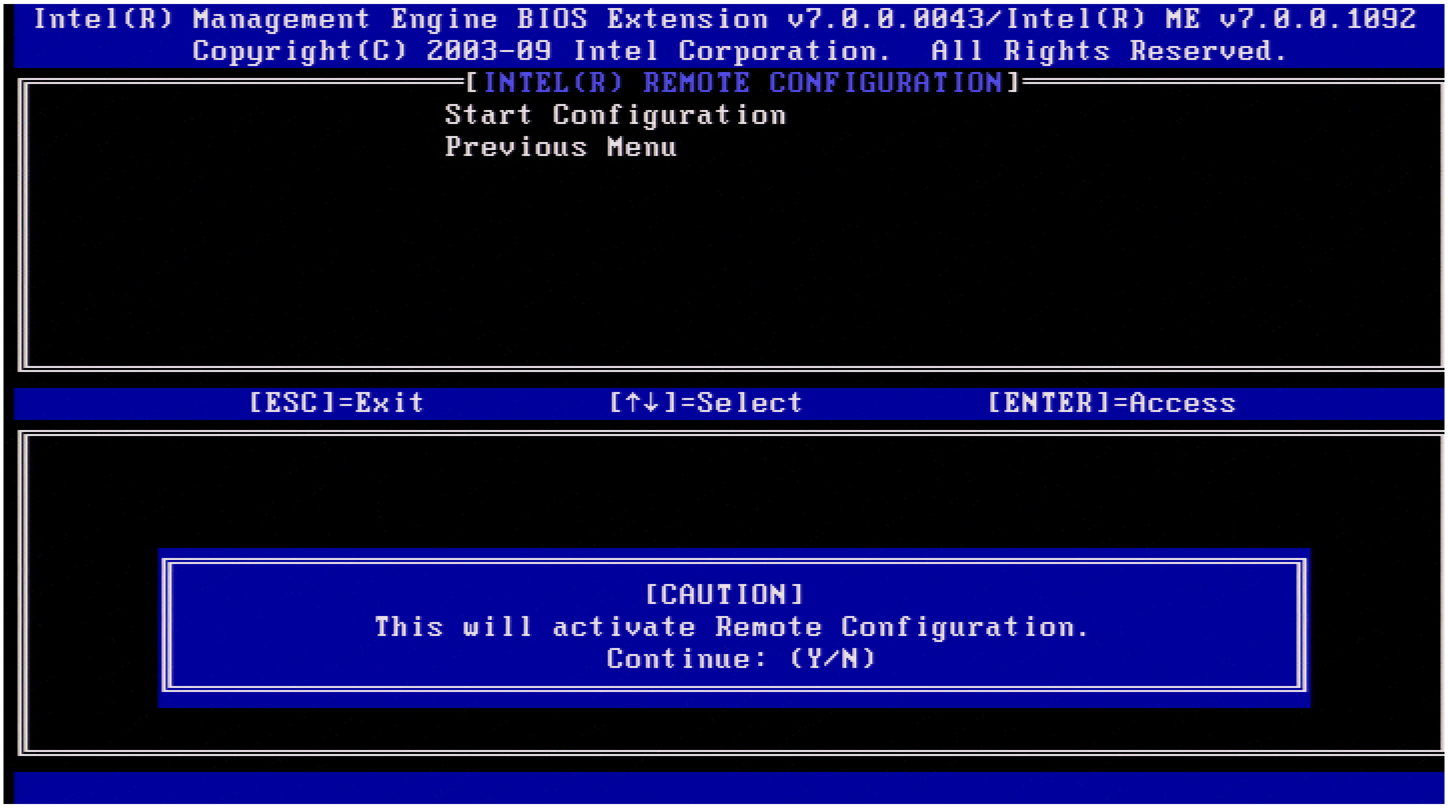
## RCFG

Intel Automated Remote Setup and Configuration（自動リモートセットアップおよび設定）メニューで、**RCFG** を選択して <Enter> を押します。
Intel Remote Configuration（Intel リモート設定）ページが表示されます。




### Start Configuration（設定の開始）

Intel Remote Configuration（Intel リモート設定）メニューで、**Start Configuration**（設定の開始）を選択して <Enter> を押します。
リモート設定がアクティブ化されない場合、リモート設定は実行できません。
リモート設定をアクティブ化（有効化）するには、**Y** を選択します。




## Previous Menu（前のメニュー）

Intel Remote Configuration（Intel リモート 設定）メニューで、**Previous Menu**（前のメニュー）を選択して <Enter> を押します。Intel Automated Setup and Configuration（Intel 自動セットアップと設定）ページが表示されます。

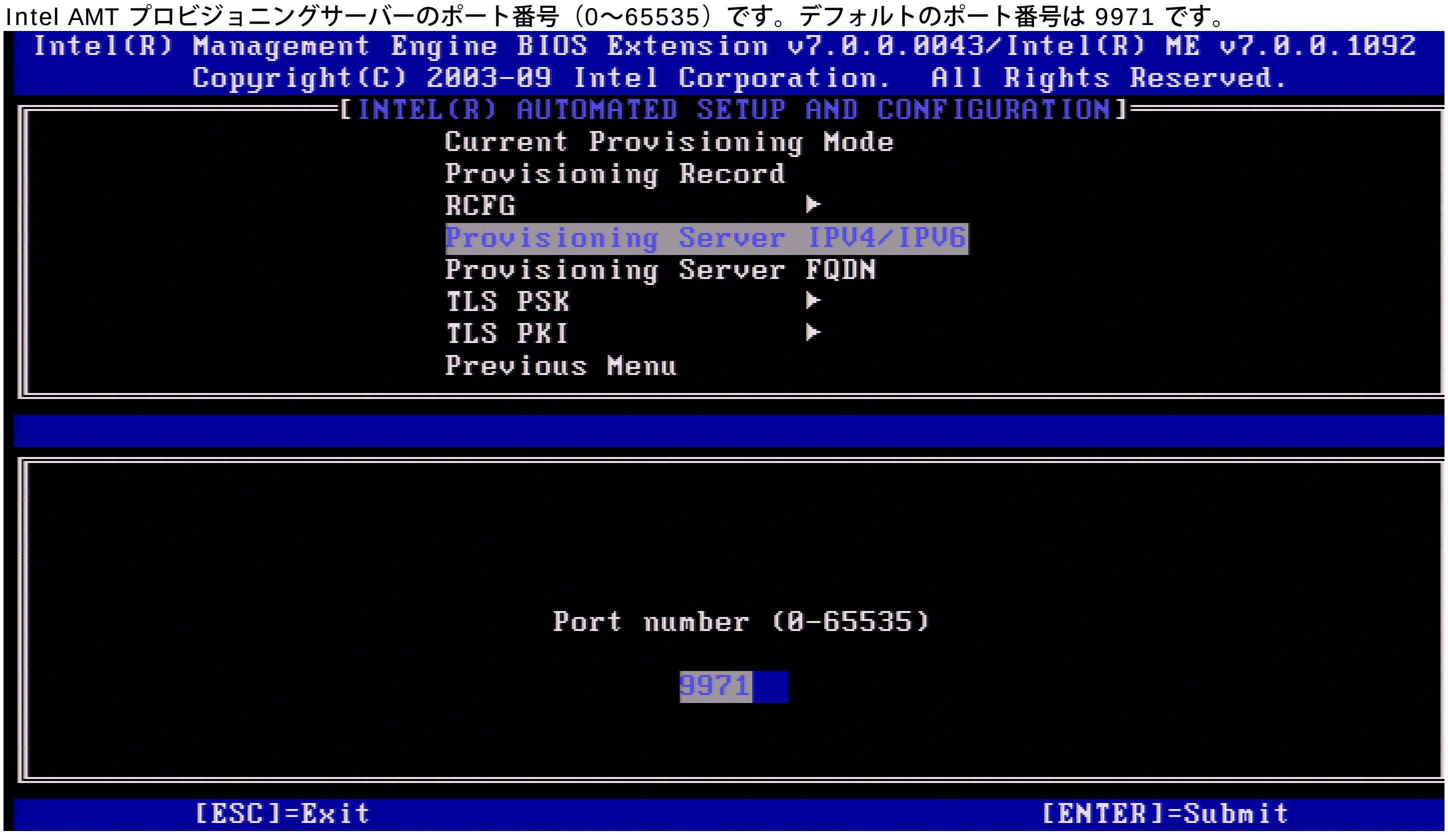
## Provisioning Server IPv4 / IPv6（プロビジョニングサーバー IPv4 / IPv6）

Intel Automated Setup and Configuration（自動セットアップおよび設定）メニューで、**Provisioning Server IPv4 / IPv6**（プロビジョニングサーバー IPv4/IPv6）を選択して <Enter> を押します。

1. プロビジョニングサーバーのアドレスを入力して <Enter> を押します。




2. プロビジョニングサーバーのポート番号を入力して <Enter> を押します。
Intel AMT プロビジョニングサーバーのポート番号（0〜65535）です。デフォルトのポート番号は 9971 です。




## プロビジョニングサーバー FQDN

Intel Automated Remote Setup and Configuration（自動リモートセットアップおよび設定）メニューで、**Provisioning Server FQDN**（プロビジョニングサーバー FQDN）を選択して <Enter> を押します。
プロビジョニングサーバーの FQDN を入力して <Enter> を押します。

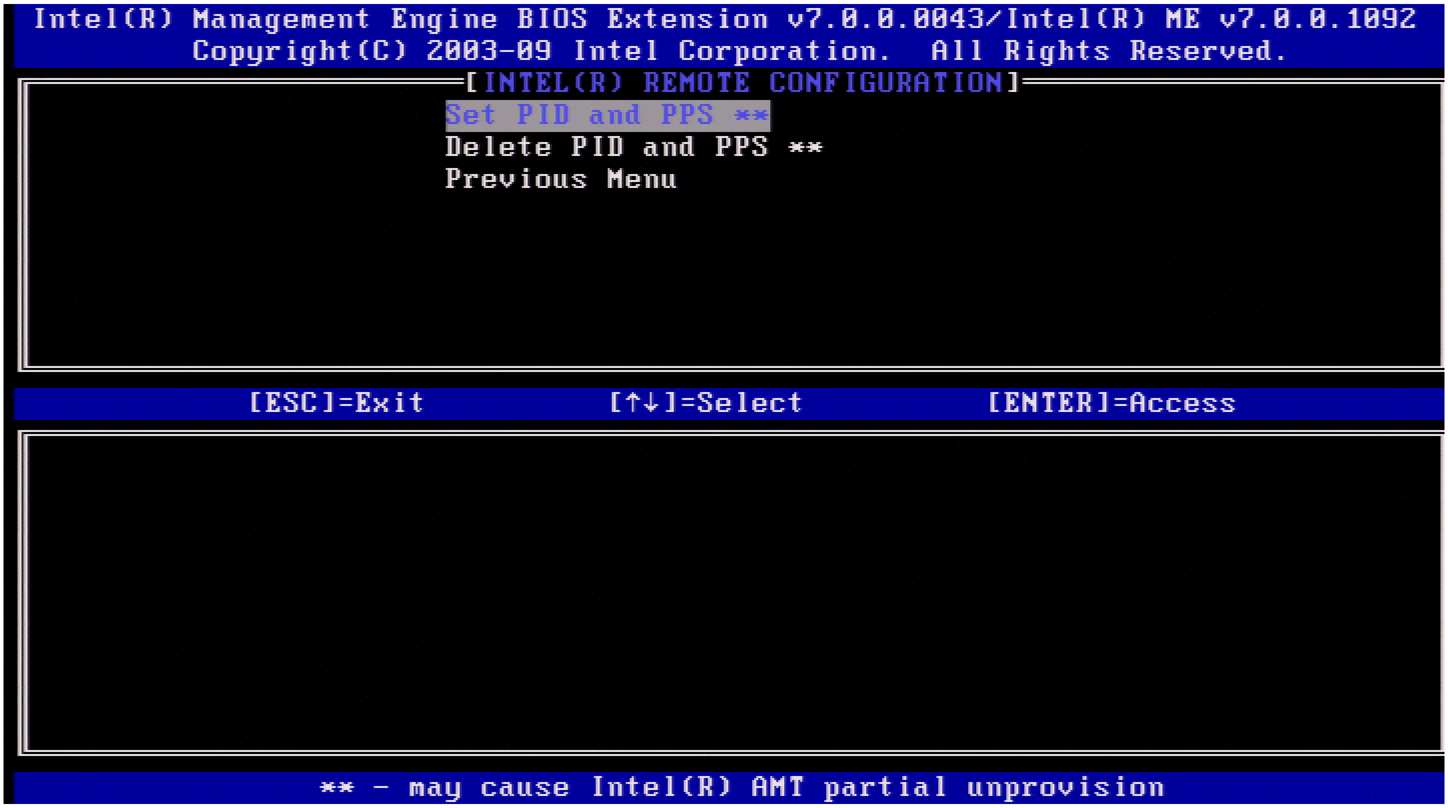



証明書に記載されているプロビジョニングサーバーの **FQDN**（**PKI** のみ）。これは、AMT が PSK および PKI の両方にハローパケットを送付するサーバーの FQDN でもあります。

## TLS PSK

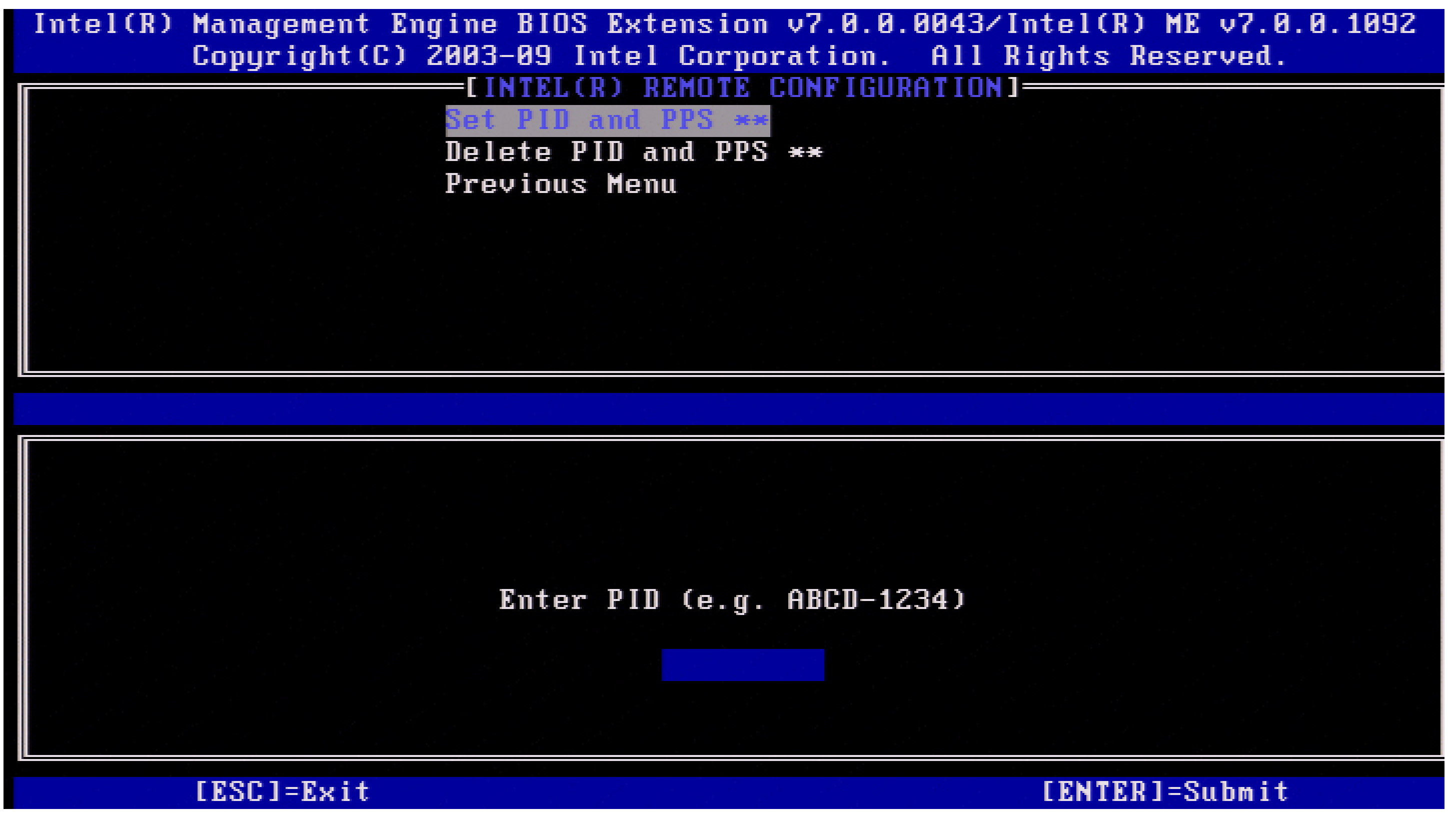
Intel Automated Setup and Configuration（Intel 自動リモートセットアップおよび設定）メニューで、**TLS PSK** を選択して <Enter> を押します。
Intel TLS PSK Configuration（Intel TLS PSK 設定）ページが表示されます。

このサブメニューには、TLS PSK 設定値が含まれます。




## Set PID and PPS（PID および PPS の設定）

Intel TLS PSK Configuration（Intel TLS PSK 設定）メニューで、**Set PID and PPS**（PID および PPS の設定）を選択して <Enter> を押します。
PID を入力して <Enter> を押します。
PPS を入力して <Enter> を押します。

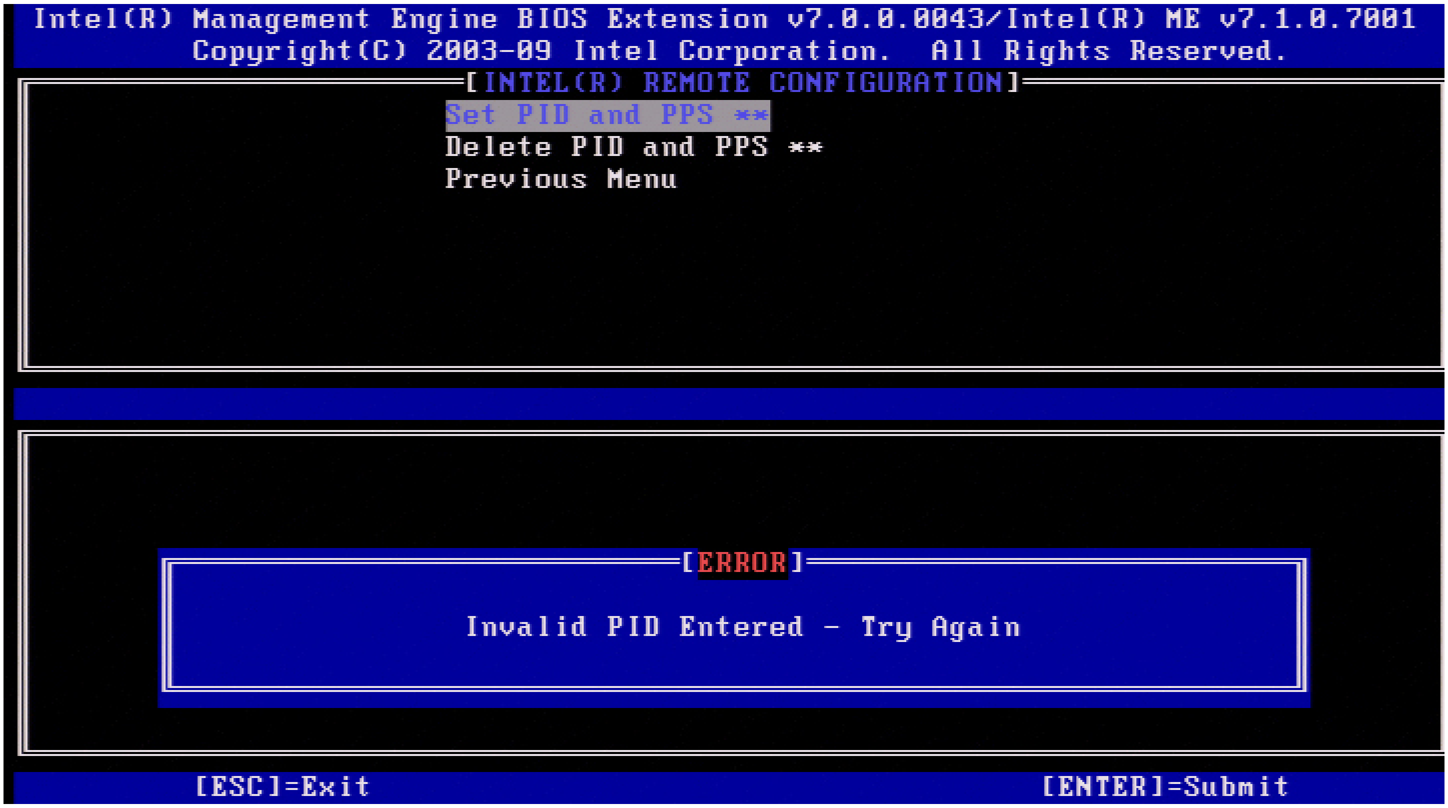



セットアップと設定が「処理中」の場合に PID/PPS を設定すると、部分的なプロビジョニング解除の原因となります。PID および PPS は

ダッシュ形式で入力するようにしてください（例：PID：1234-ABCD、PPS：1234-ABCD-1234-ABCD-1234-ABCD-1234-ABCD）。

メモ：PPS 値 0000-0000-0000-0000-0000-0000-0000-0000 では、セットアップおよび設定状態は変更されません。この値が使用されている場合は、セットアップおよび設定状態は Not-started（起動しない）のままになります。

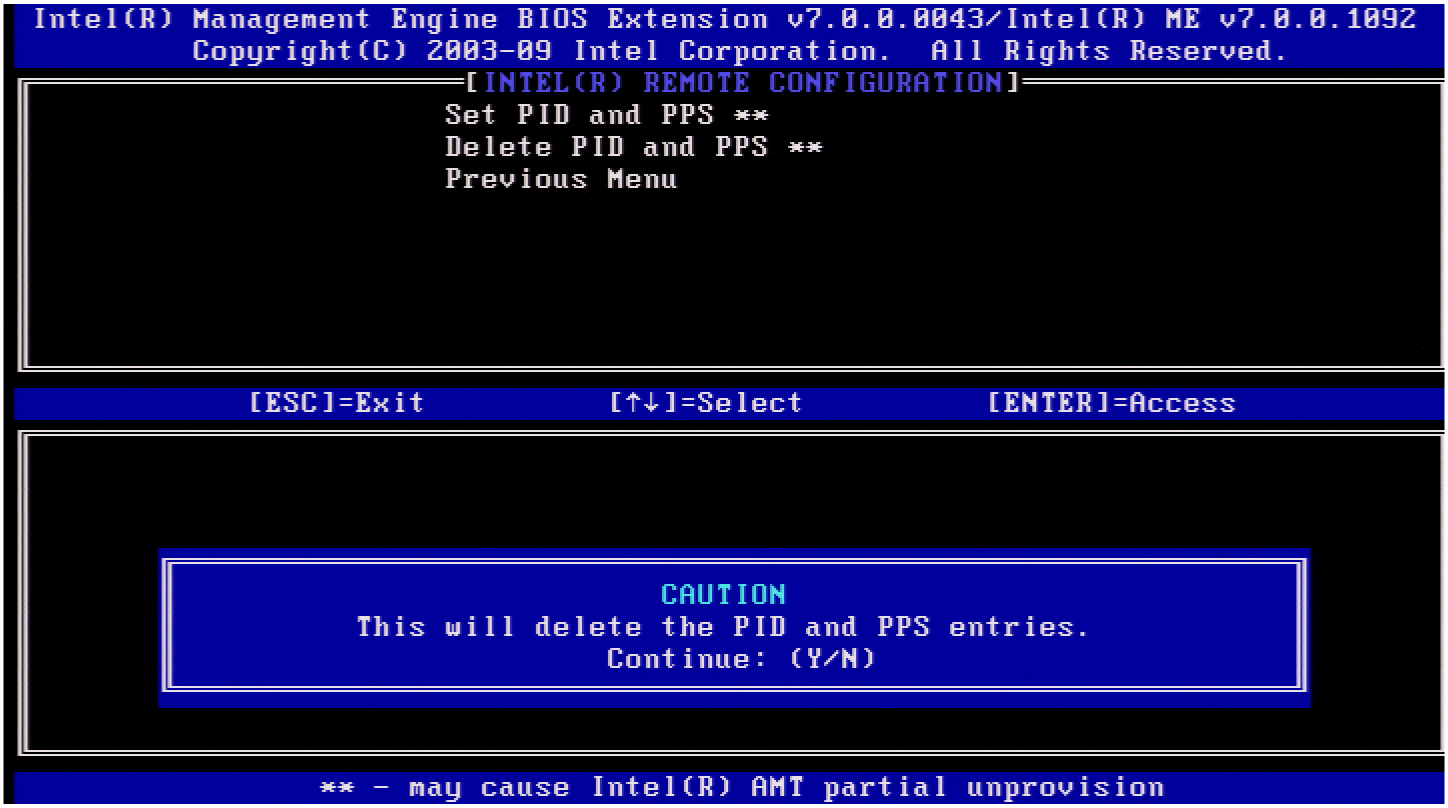
無効な入力が試行された場合、エラーメッセージが表示されます。




## Delete PID and PPS（PID および PPS の削除）

Intel TLS PSK Configuration（Intel TLS PSK 設定）メニューで、**Delete PID and PPS**（PID および PPS の削除）を選択して <Enter> を押します。
このオプションでは、Intel ME に保存された現在の PID および PPS を削除します。以前に PID および PPS が入力されなかった場合、Intel MEBx はエラーメッセージを返します。

PID および PPS エントリを削除する場合は **Y** を選択し、削除しない場合は **N** を選択します。




## Previous Menu（前のメニュー）

Intel TLS PSK Configuration（Intel TLS PSK 設定）メニューで、**Previous Menu**（前のメニュー）を選択して <Enter> を押します。
Intel Automated Setup and Configuration（Intel 自動セットアップと設定）ページが表示されます。

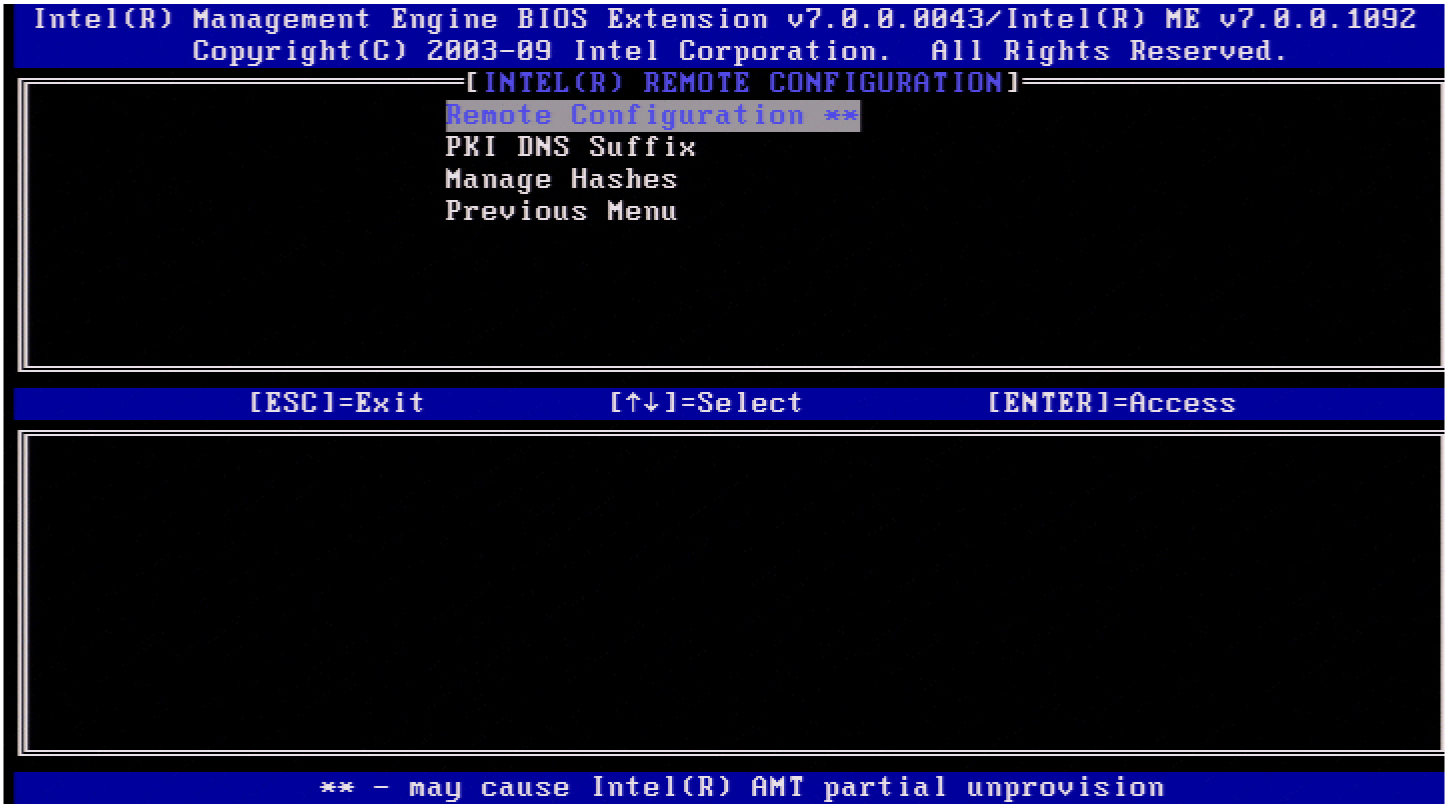
# TLS PKI

Intel Automated Setup and Configuration（Intel 自動リモートセットアップおよび設定）メニューで、**TLS PKI** を選択して <Enter> を押します。
Intel Remote Configuration（Intel リモート設定）ページが表示されます。

## Remote Configuration（リモート設定）

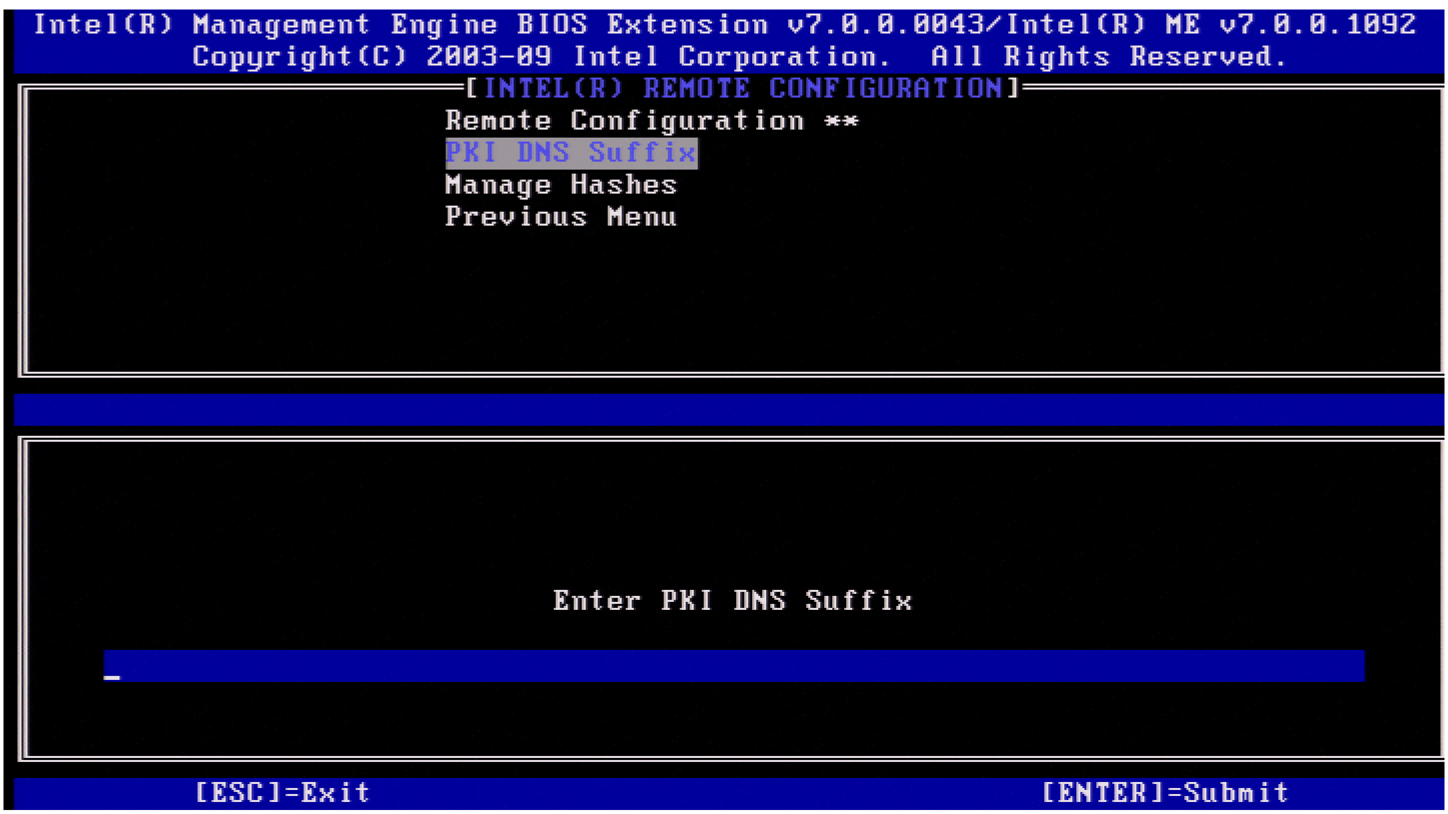
Intel Remote Configuration（Intel リモート設定）メニューで、**Remote Configuration**（リモート設定）を選択して <Enter> を押します。
セットアップおよび設定サーバーが「処理中」状態の場合、リモート設定を有効 / 無効にすると、部分的なプロビジョニング解除の原因となります。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| **Disabled**（無効） | リモート設定は無効です。Remote Configuration（リモート設定）および Previous Menu（前のメニュー）の項目のみが表示されます。無効にするには、このオプションを選択して <Enter> を押します。 |
| **Enabled**（有効） | リモート設定が有効で、追加フィールドが表示されます。有効にするには、このオプションを選択して <Enter> を押します。 |



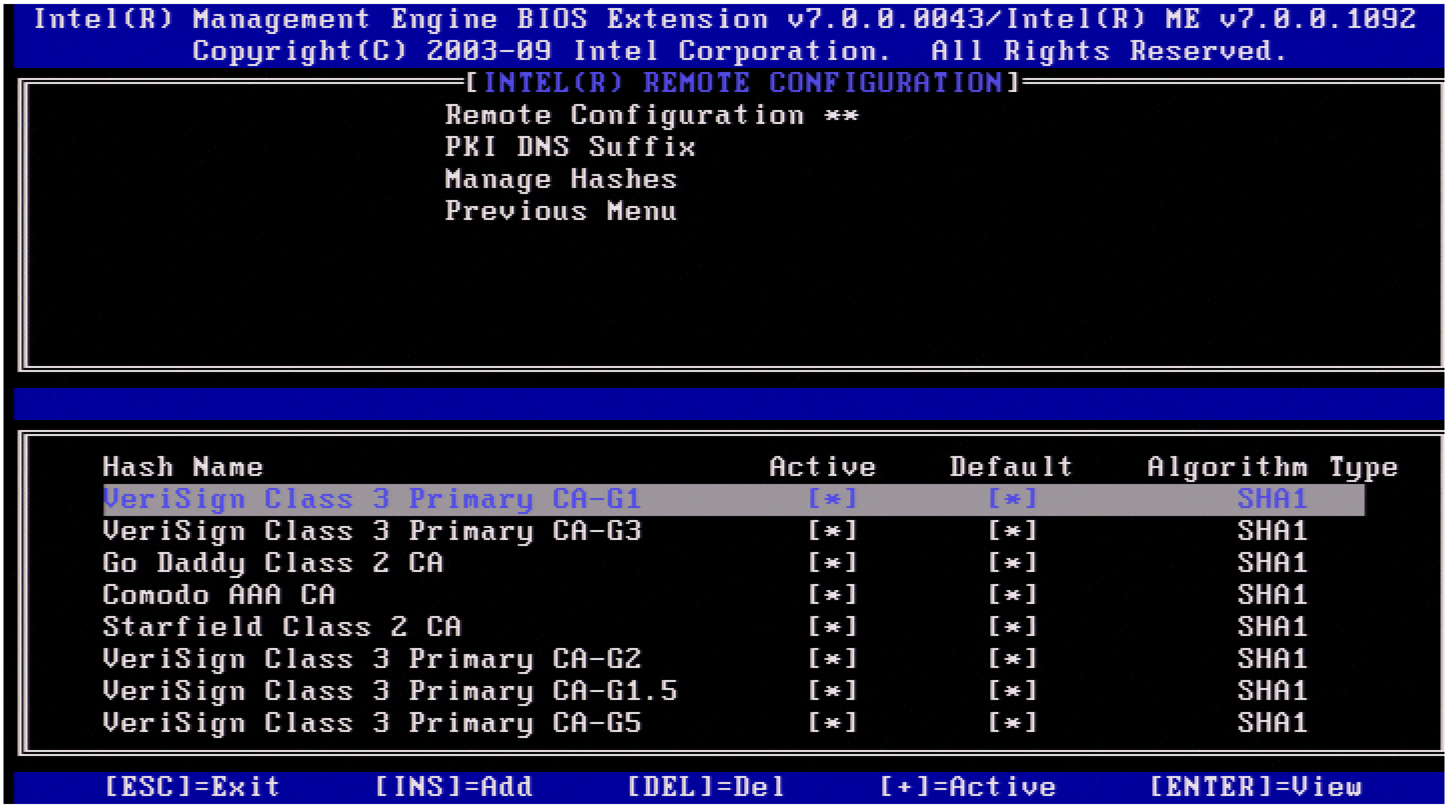

## PKI DNS Suffix（PKI DNS サフィックス）

Intel Remote Configuration（Intel リモート設定）メニューで、**PKI DNS Suffix**（PKI DNS サフィックス）を選択して <Enter> を押します。
PKI DNS サフィックスを入力して <Enter> を押します。キーの値は EPS に保持されます。

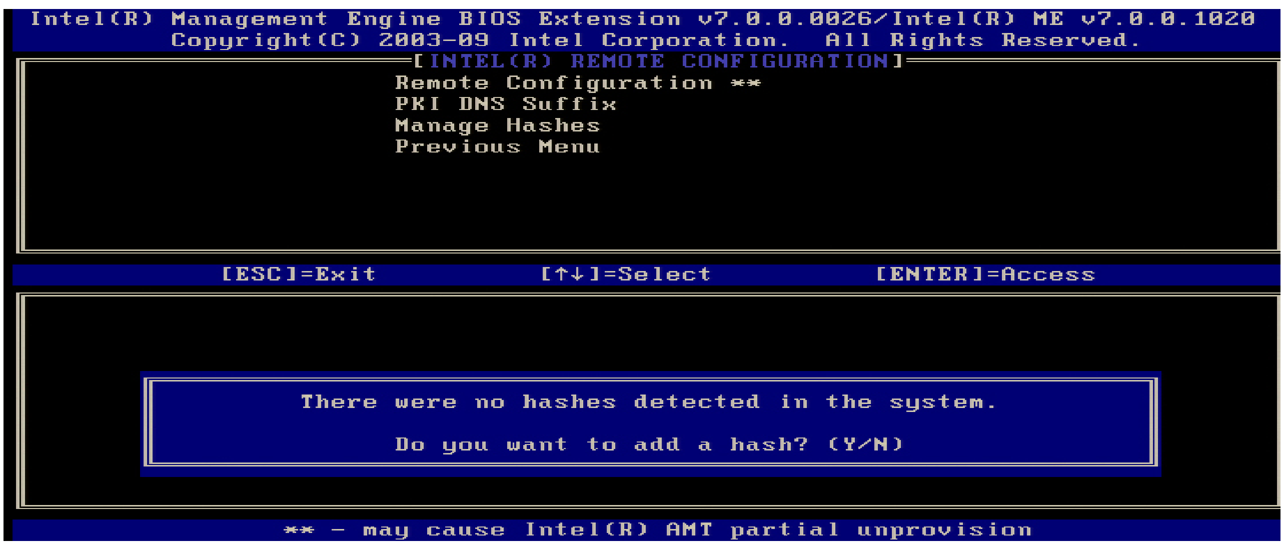



## Manage Hashes（ハッシュの管理）

Intel Remote Configuration（Intel リモート設定）メニューで、**Manage Hashes**（ハッシュの管理）を選択して <Enter> を押します。




このオプションを選択することによって、システムのハッシュが列挙され、ハッシュ名、アクティブ状態、およびデフォルト状態を表示します。システムにハッシュがない場合、Intel MEBx は次の画面を表示します。



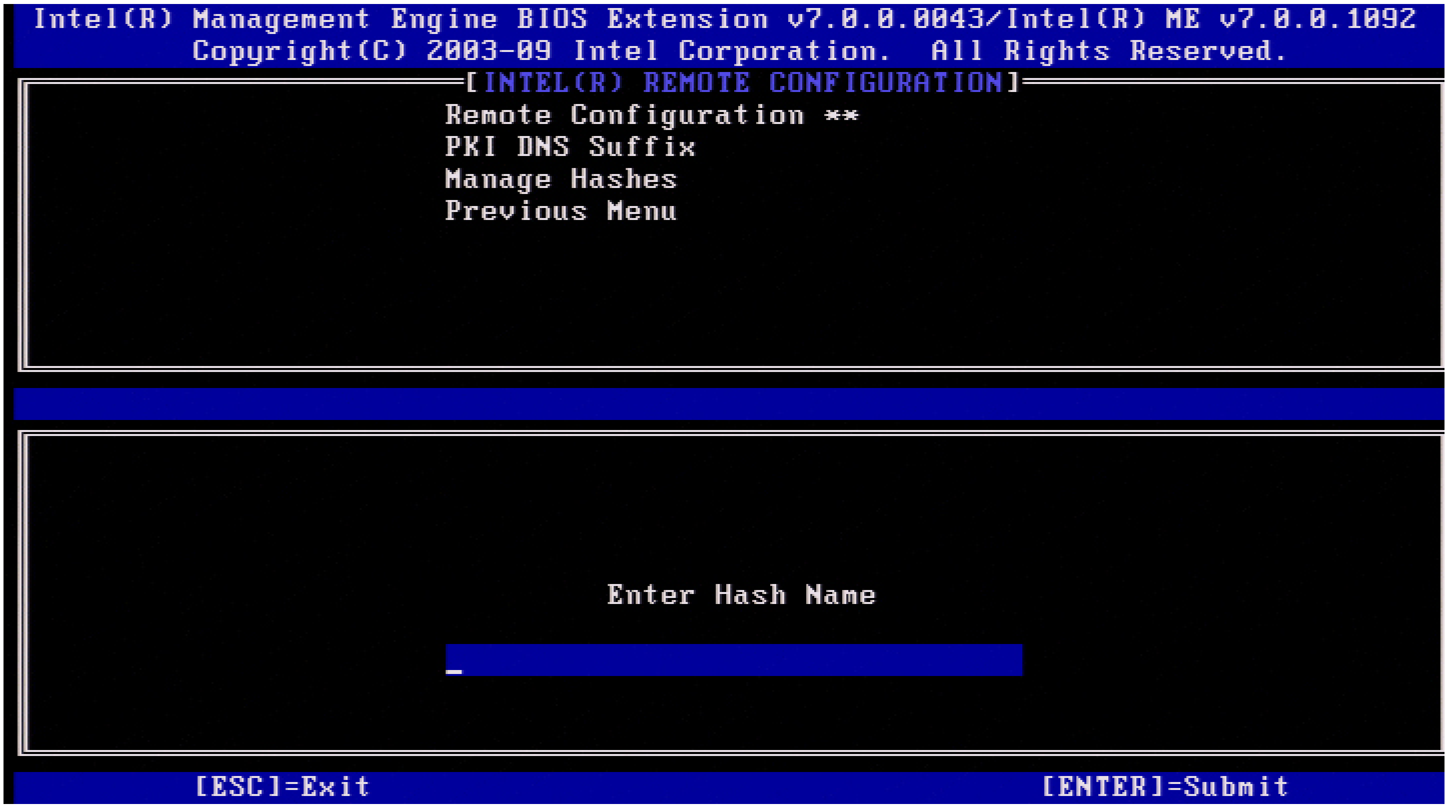

「Yes」と応答すると、カスタマイズされたハッシュの追加プロセスが開始されます。管理証明書ハッシュ画面では、システムのハッシュを管理するためのキーボードコントロールが提示されます。Manage Certificate Hash（証明書ハッシュの管理）メニューの表示時は次のキーが有効です。

| キー | 説明 |
| --- | --- |
| **Escape**（エスケープキー） | メニューを終了します。 |
| **Insert**（挿入キー） | カスタマイズされた証明書ハッシュをシステムに追加します。 |
| **Delete**（削除キー） | 現在選択されている証明書ハッシュをシステムから削除します。 |

| | |
|---|---|
| **+**（**+** キー） | 現在選択されている証明書ハッシュのアクティブな状態を変更します。 |
| **<Enter>** | 現在選択されている証明書ハッシュの詳細を表示します。 |

### Adding Customized Hash（カスタマイズされたハッシュの追加）

Manage Certificate Hash（証明書ハッシュの管理）画面で 挿入キーを押すと、次の画面が表示されます。



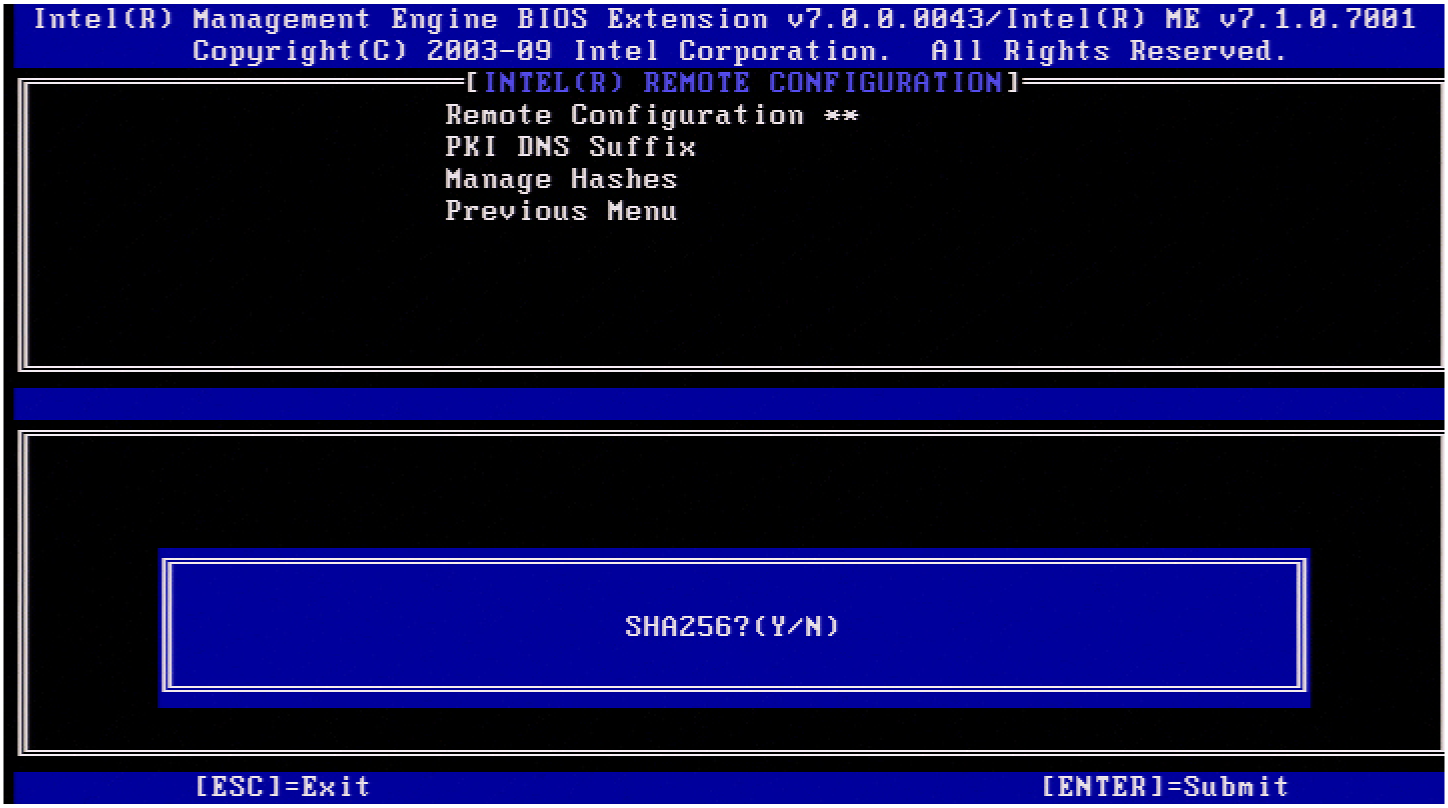

カスタマイズされた証明書ハッシュの追加：ハッシュ名を入力します（最大 32 文字）。<Enter> を押すと、PKI プロビジョニングに使用されるハッシュアルゴリズムを選択するプロンプトが表示されます。SHA1 を使用する場合は **Y** と入力し、それ以外の場合は **N** と入力します。



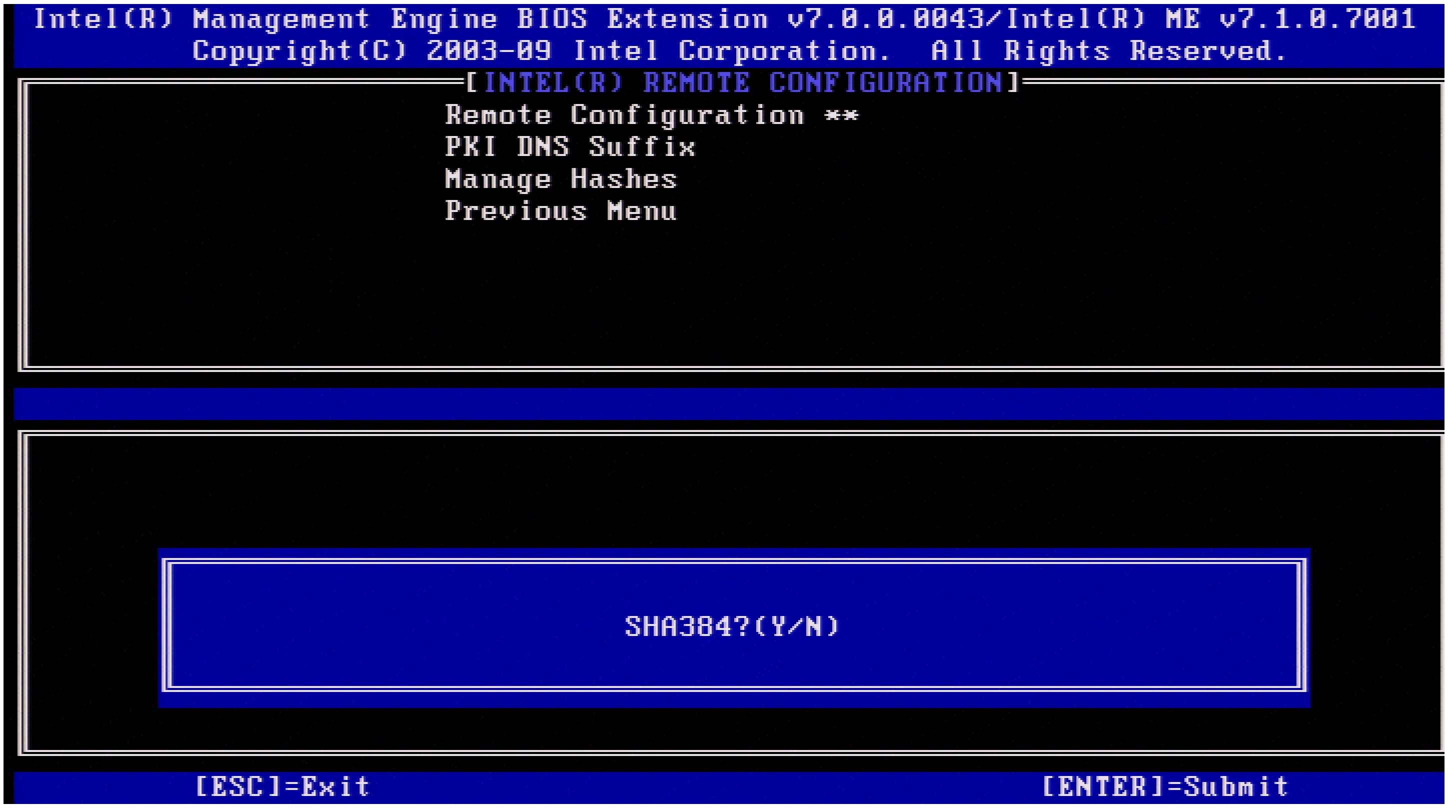

サポートされるハッシュアルゴリズムは次のとおりです。

□□□ SHA1
□□□ SHA2-256
□□□ SHA2-384

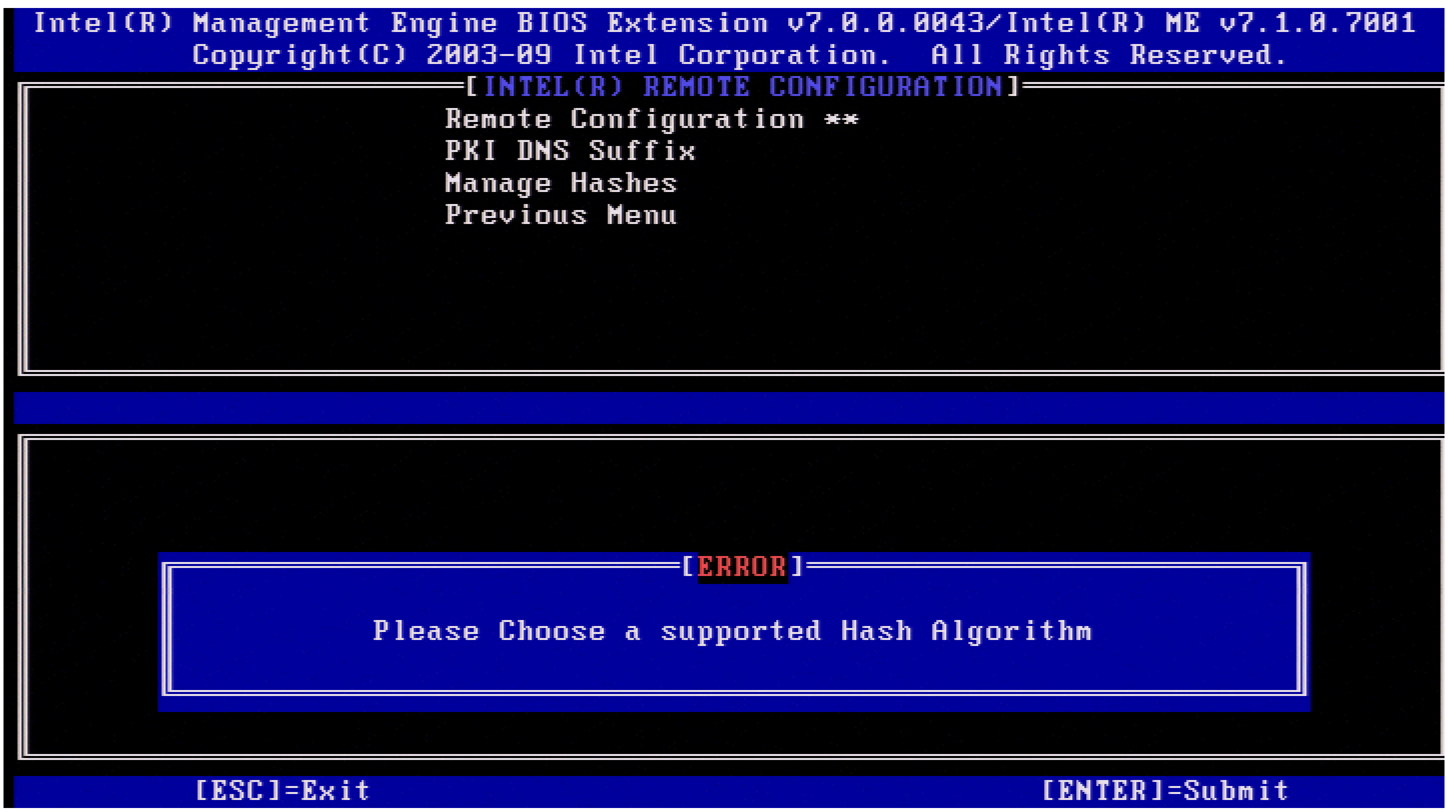
SHA1 を選択しない場合、次の画面で、サポートされている SHA2 アルゴリズムのオプションを選択するプロンプトが表示されます。SHA256 が使用されている場合は **Y** と入力し、それ以外の場合は **N** と入力します。



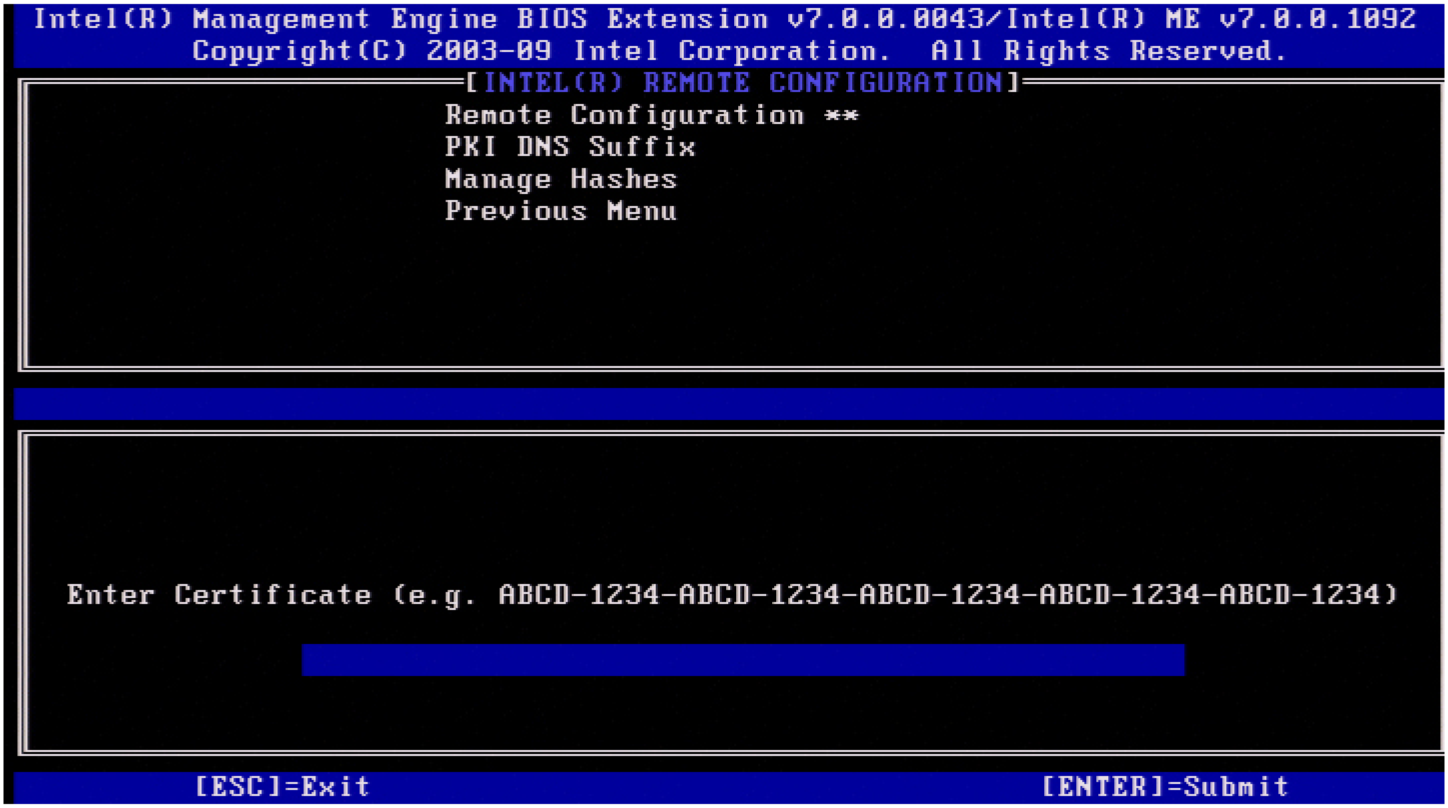

SHA256 を選択しない場合、次の画面で **Y** と入力し、SHA2-384 を選択します。



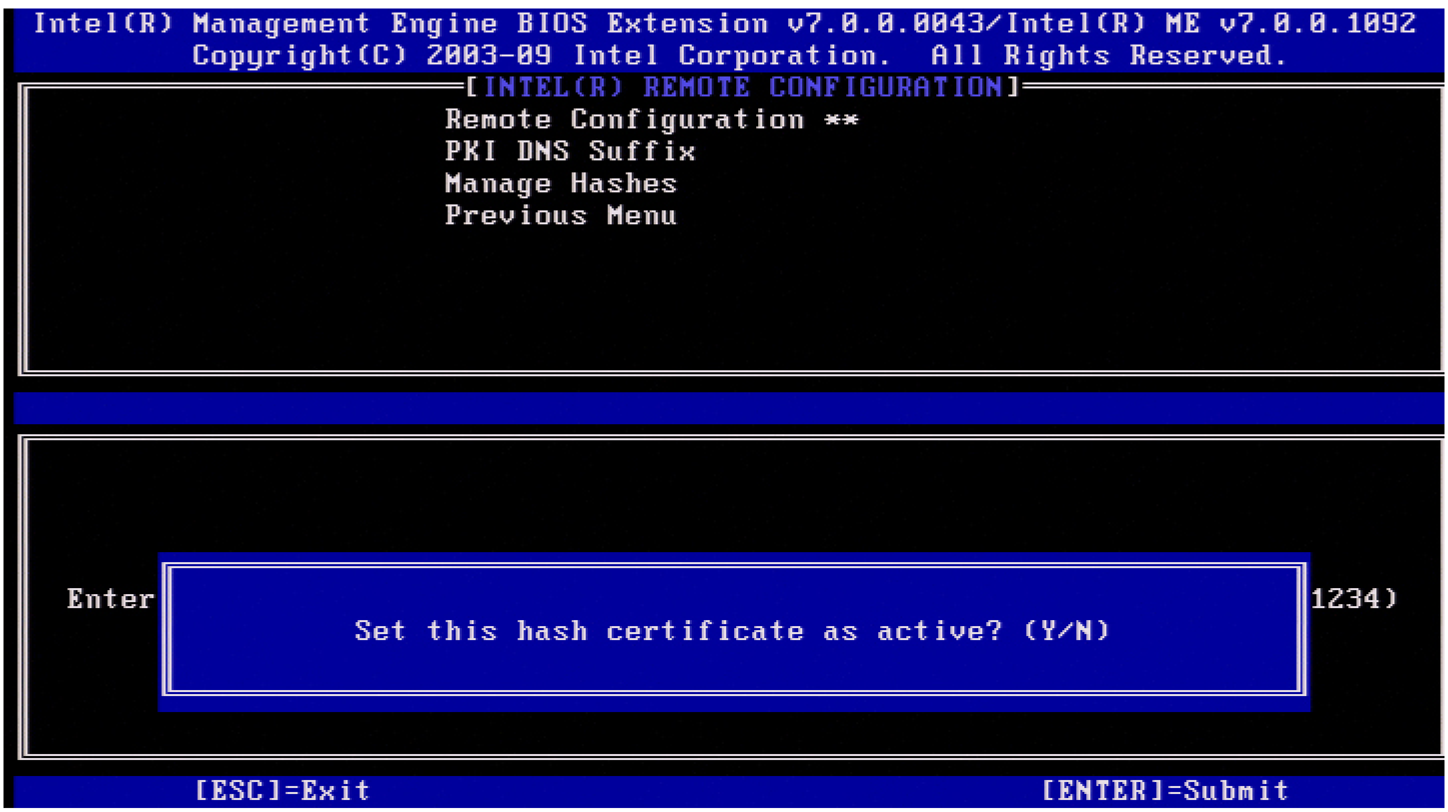

**N** と入力すると、エラーメッセージが表示され、サポートされるいずれかのアルゴリズムを選択するプロンプトが表示されます。




希望のハッシュアルゴリズムを選択したら、証明書のハッシュ値を入力するプロンプトが表示されます。




証明書ハッシュの値は16 進数です（SHA-1 には 20 バイト、SHA-2 には 32 バイト）。値が正しい形式で入力されなかった場合、「Invalid Hash Certificate Entered - Try Again」（無効なハッシュ証明書が入力されました - 再試行してください）というメッセージが表示されます。<Enter> を押すと、ハッシュのアクティブ状態を設定するプロンプトが表示されます。




選択によって、カスタマイズされたハッシュのアクティブ状態が次のように設定されます。

- **Yes**（はい）– カスタマイズされたハッシュにアクティブのマークがつきます。
- **No**（いいえ：デフォルト）– カスタマイズされたハッシュは EPS に追加されますが、アクティブにはなりません。

## ハッシュの削除

Manage Certificate Hash（証明書ハッシュの管理）画面で削除が押されると、次の画面が表示されます。

**メモ：**デフォルトに設定された証明書ハッシュは削除できません。

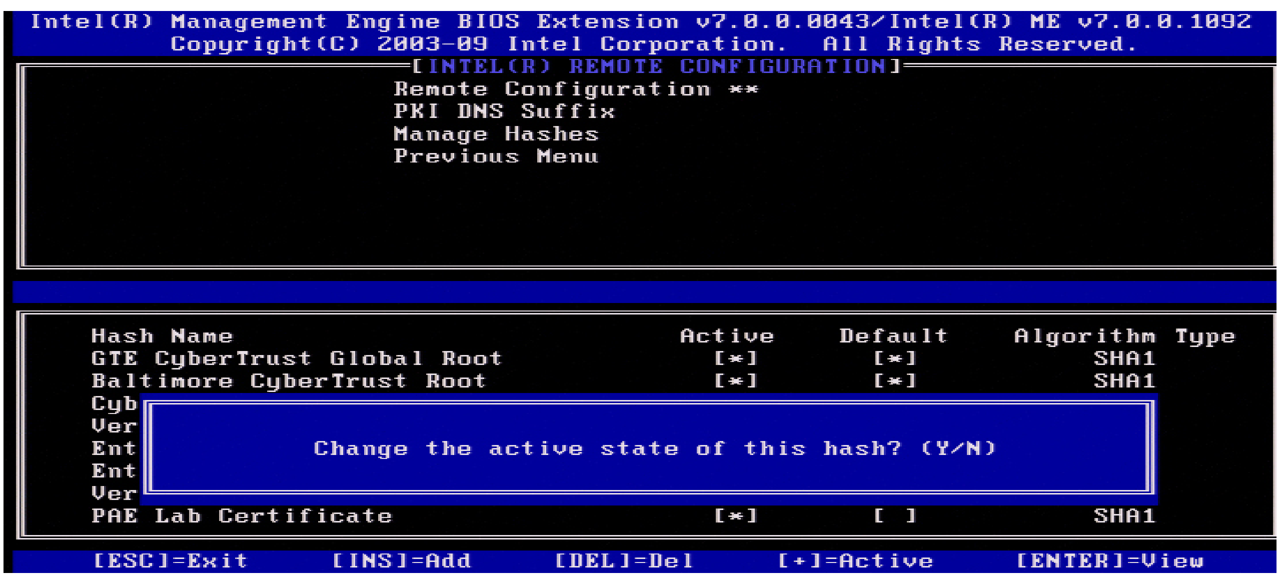



このオプションでは、選択した証明書ハッシュを削除できます。

- **Yes**（はい）– Intel MEBx は、選択したハッシュを削除するようファームウェアにメッセージを送信します。
- **No**（いいえ）– Intel MEBx は、選択されたハッシュを削除せず、Remote Configuration（リモート設定）に戻ります。

## アクティブな状態の変更

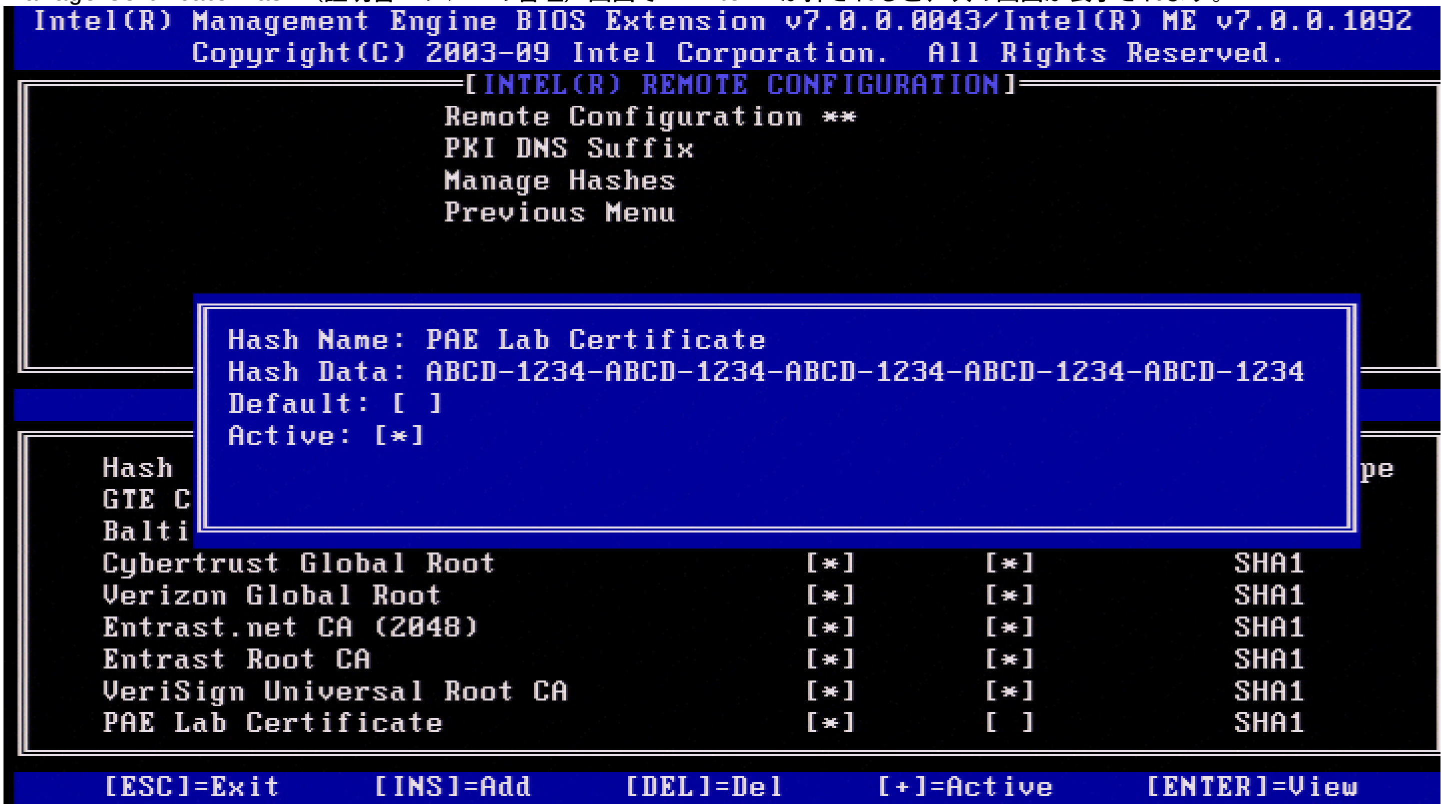
Manage Certificate Hash（証明書ハッシュの管理）画面で **+** が押されると、次の画面が表示されます。




**Y**（はい）と答えると、現在選択されている証明書ハッシュのアクティブな状態が切り替わります。ハッシュをアクティブな状態に設定するということは、PSK のプロビジョニング中にハッシュを使用できることを示します。

#### 証明書ハッシュの表示

Manage Certificate Hash（証明書ハッシュの管理）画面で <Enter> が押されると、次の画面が表示されます。




次を含む、選択された証明書ハッシュの詳細がユーザーに表示されます。

- Hash Name（ハッシュ名）
- Certificate Hash Data（証明書ハッシュデータ）
- Active and Default States（アクティブおよびデフォルト状態）

#### Previous Menu（前のメニュー）

Intel Remote Configuration（Intel リモート設定）メニューで、**Previous Menu**（前のメニュー）を選択して <Enter> を押します。
Intel Automated Setup and Configuration（Intel 自動セットアップと設定）ページが表示されます。

### Previous Menu（前のメニュー）

Intel Automated Setup and Configuration（自動セットアップおよび設定）メニューで、**Previous Menu**（前のメニュー）を選択して <Enter> を押します。
Intel AMT Configuration（Intel AMT 設定）メニューが表示されます。

## Previous Menu（前のメニュー）

Intel AMT Configuration（Intel AMT 設定）メニューで、**Previous Menu**（前のメニュー）を選択して <Enter> を押します。
メインメニューが表示されます。

* 本ページに記載の情報は Intel により提供されています。

# Intel Fast Call for Help

Intel Fast Call for help は、VPro SKU で使用可能な機能です。Intel Fast Call for help 接続では、VPro システムが企業ネットワーク外に存在する場合にエンドユーザーがサポートを要求することを可能にします。

メモ：<F12> を押して、Fast Call for Help を選択することをお勧めします。この機能は、IT 管理者が機能をサポートするようにシステムを設定した場合にのみ、利用可能になります。

## 要件

オペレーティングシステムから Intel Fast Call 接続を確立するためには、 VPro システムに次の要件が必要です。

□□□ 環境検知が有効になっている
□□□ リモート接続ポリシー
□□□ Management Presence Server（MPS）

## Intel Fast Call for help 使用のための準備

Intel Fast Call for help を得るためには、システムがプロビジョニング済みの状態である必要があります。システムで Full VPro（フル VPro）がサポートされていれば、Intel Fast Call for help を使用できます。Intel Standard Manageability（Intel 標準管理機能）のみがシステムでサポートされている場合は、Intel Fast call for help を有効にすることはできません。

□□□ Intel Fast Call for help を起動するには、環境検知を有効にする必要があります。この機能を有効にすると、Intel AMT は、システムが企業ネットワーク内に存在するかどうかを判別できます。この機能は、ISV アプリケーションを使用して設定されます。
□□□ リモート接続ポリシーは、Intel Fast call for help を起動する前に作成する必要があります。BIOS 設定による呼び出しポリシーを設定する必要はありませんが、BIOS からのヘルプ呼び出しを開始するには別のポリシーが存在する必要があります。BIOS は、Intel Fast call for help を起動するホットキーをサポートする必要があります。
□□□ Intel Fast Call for help に対して応答するためには、Management Presence Server が存在する必要があります。Management Presence Server は DMZ ゾーンにあります。

すべての条件が満たされると、システムは Intel Fast Call for help を起動できます。

## Intel Fast Call for Help の起動

この機能が完全に設定されると、次の 3 つの方法で Intel Fast Call for help セッションを開始できます。これには、次が含まれます。

- Dell スプラッシュ画面で <Ctrl> と <h> を同時に押します。
- Dell スプラッシュ画面で <F12> を押し、One Time Boot（1 回起動）メニューを表示します。
  - **Intel Fast Call for Help** という最後のオプションを選択します。
- Windows からは次の操作を実行します。
  □□□ Intel AMT プライバシーアイコン / **Intel Management Security Status**（Intel 管理セキュリティステータス）アプリケーションを起動します。
  □□□ **Intel AMT** タブに切り替えます。
  □□□ **Remote Connectivity**（リモート接続）ボックスで、**Connect**（接続）をクリックします。

# ME General Settings（ME 一般設定）

次の表では、一般設定ページにある Intel Management Engine BIOS Extension（MEBx）のデフォルト設定をリストします。

## Password（パスワード）

| | |
|---|---|
| **Password**（パスワード） | admin |

## Change Intel ME Password（Intel ME パスワードの変更）

| | |
|---|---|
| **Change Intel ME Password**（**Intel ME** パスワードの変更） | 空白 |

## Set PRTC（PRTC の設定）

| | |
|---|---|
| **Set PRTC**（**PRTC** の設定） | 空白 |

## Power Control（電源制御）

| **Power Control**（電源制御） | |
|---|---|
| Intel ME ON in Host Sleep（ホストのスリープ時に Intel ME をオン） | Mobile: ON is S0（モバイル：S0 でオン）<br>Mobile: ON is S0, ME Wake in S3, S4-5 (AC only)（モバイル：S0 でオン、S3 で ME Wake、S4-5（AC のみ））* |
| Idle Timeout（アイドルタイムアウト） | 1 |

*デフォルト設定
**Intel AMT が部分的にプロビジョニング解除される可能性があります。
[1] Intel ME Platform State Control（Intel ME プラットフォーム状態の制御）は、Management Engine（ME）のトラブルシューティング時にのみ変更されます。
[2] Un-Provision（プロビジョニング解除）が表示されるのは、このボックスがプロビジョニングされている場合だけです。

# AMT 設定

次の表に、AMT Configuration（AMT 設定）ページでの Intel Management Engine BIOS Extension（MEBx）のデフォルト設定を記載しています。

## 管理性 / 機能選択

| **SOL / IDER** | |
|---|---|
| Username and Password（ユーザー名とパスワード） | Disabled（無効）<br>Enabled（有効）* |
| SOL | Disabled（無効）<br>Enabled（有効）* |
| IDER | Disabled（無効）<br>Enabled（有効）* |
| Legacy Redirection Mode（Legacy リダイレクションモード） | Disabled（無効）<br>Enabled（有効）* |
| KVM | Disabled（無効）<br>Enabled（有効）* |
| **User Consent**（ユーザーの同意） | |
| User Opt-in（ユーザー選択） | None（なし）<br>KVM *<br>All（すべて） |
| Opt-in Configurable from remote IT（リモート IT からの選択設定） | Disable Remote Control of KVM Opt-In Policy（KVM 選択ポリシーのリモートコントロールを無効化）<br>Enable Remote Control of KVM Opt-In Policy（KVM 選択ポリシーのリモートコントロールを有効化）* |

メモ：KVM が動作するための要件は、CPU が Intel i3/i5/i7/Celeron/Pentium であることです。

## Password Policy（パスワードポリシー）

| | |
|---|---|
| **Password Policy**（パスワードポリシー） | Default Password Only（デフォルトのパスワードのみ）*<br>During Setup and Configuration（セットアップおよび設定中）<br>Anytime（随時） |

## Network Setup（ネットワークのセットアップ）

| **Network Name Settings**（ネットワーク名の設定） | |
|---|---|
| Host Name（ホスト名） | 空白 |
| Domain Name（ドメイン名） | 空白 |
| Shared/Dedicated FQDN（共有 / 専用 FQDN） | Dedicated（専用）<br>Shared（共有）* |
| Dynamic DNS Update（ダイナミック DNS アップデート） | Disabled（無効）*<br>Enabled（有効） |
| **TCP / IP Settings**（TCP / IP 設定） | |

| | |
|---|---|
| **Wired LAN IPv4 Configuration**（有線 **LAN IPv4** 設定） | |
| DHCP Mode（DHCP モード） | Disabled（無効）<br>Enabled（有効）*<br>Enabled（有効）が選択されている場合のみ、下の設定ページが表示される |
| IPv4 Address（IPv4 アドレス） | 0.0.0.0 |
| Subnet Mask Address（サブネットマスクアドレス） | 0.0.0.0 |
| Default Gateway Address（デフォルトゲートウェイアドレス） | 0.0.0.0 |
| Preferred DNS Address（優先 DNS アドレス） | 0.0.0.0 |
| Alternate DNS Address（代替 DNS アドレス） | 0.0.0.0 |
| **Wired LAN IPv6 Configuration**（有線 **LAN IPv6** 設定） | |
| **IPv6 Feature Selection**（**IPv6** 機能選択） | Disabled（無効）*<br>Enabled（有効）<br>Enabled（有効）が選択されている場合のみ、下の設定ページが表示される |
| IPv6 Interface ID Type（IPv6 インタフェース ID タイプ） | Random ID（ランダム ID）*<br>Intel ID<br>Manual ID（手動 ID） |
| IPv6 Address（IPv6 アドレス） | 空白 |
| IPv6 Default Router（IPv6 デフォルトルータ） | 空白 |
| Preferred DNS IPv6 Address（優先 DNS IPv6 アドレス） | 空白 |
| Alternate DNS IPv6 Address（代替 DNS IPv6 アドレス） | 空白 |

| | |
|---|---|
| **Activate Network Access**（ネットワークアクセスの有効化） | Y/N（はい / いいえ） |

| | |
|---|---|
| **Unconfigure Network Access**（ネットワークアクセスの設定解除） | Y/N（はい / いいえ） |

## Remote Setup and Configuration（リモートセットアップおよび設定）

| | |
|---|---|
| **Current Provisioning Mode**（現在のプロビジョニングモード） | |
| **Provisioning Record**（プロビジョニング記録） | |
| **RCFG** | |
| Start Configuration（設定の開始） | Y/N（はい / いいえ） |
| **Provisioning Server IPv4 / IPv6**（プロビジョニングサーバー **IPv4 / IPv6**） | 空白 |
| プロビジョニングサーバー **FQDN** | 空白 |
| **TLS PSK** | |

| | |
|---|---|
| Set PID and PPS（PID および PPS の設定） | 空白 |
| Delete PID and PPS（PID および PPS の削除） | Y/N（はい / いいえ） |
| **TLS PKI** | |
| Remote Configuration（リモート設定） | Disabled（無効）<br>Enabled（有効）* |
| PKI DNS Suffix（PKI DNS サフィックス） | 空白 |
| Manage Hashes（ハッシュの管理） | |

*デフォルト設定

**Intel AMT が部分的にプロビジョニング解除される可能性があります。

[1] Intel ME Platform State Control（Intel ME プラットフォーム状態の制御）は、Management Engine（ME）のトラブルシューティング時にのみ変更されます。

[2] Enterprise（エンタープライズ）モードの場合、DHCP が自動的にドメイン名をロードします。

[3] Un-Provision（プロビジョニング解除）が表示されるのは、このボックスがプロビジョニングされている場合だけです。

# 設定方法の概要

セットアップおよび設定の概要で説明したとおり、Intel AMT 機能を管理アプリケーションで使用できるようにする前に、コンピュータを設定する必要があります。プロビジョニングプロセスを完了するには 3 通りの方法があります（単純な方法から最も複雑な方法まで）。

- 設定サービス — 設定サービスを使用すると、サーバーの GUI コンソールからワンタッチで各 Intel AMT 対応コンピュータのプロビジョニングプロセスを完了できます。PPS および PID フィールドは、USB 大容量ストレージデバイスに保存されている、設定サービスで作成されたファイルを使用して入力します。
- **MEBx** インタフェース — IT 管理者が各 Intel AMT 対応コンピュータで、Management Engine BIOS Extension（MEBx）設定を手動で行います。PPS および PID フィールドには、設定サービスで作成される 32 文字と 8 文字の英数字キーを MEBx インタフェースに入力します。
- **TLS-PKI** — 一般にリモート設定（RCFG）またはゼロタッチ設定（ZTC）と呼ばれます。このプロセスは、ProvisionServer に関連する証明書を利用します。関連する証明書ハッシュは Intel Management Engine BIOS Extension（MEBx）内にリストされている必要があります。
  *TLS-PKI は Transport Layer Security（トランスポート層セキュリティ）- Public Key Infrastructure（公開キー基盤）と呼ばれます*

上記の各方法の詳細については、次の項で説明します。

# USB デバイスの使い方

本項では、USB ストレージデバイスを使用した Intel AMT のセットアップおよび設定について説明します。USB ドライブキーを使用して、セットアップ、ローカルでのパスワード、プロビジョニング ID（PID）、プロビジョニングパスフレーズ（PPS）情報の設定を行えます。この操作は、USB プロビジョニングとも呼ばれます。USB プロビジョニングでは、コンピュータを手動でセットアップおよび設定でき、エントリでの手動入力に関連する問題も発生しません。

**メモ：**USB プロビジョニングは、MEBx パスワードが工場出荷時のデフォルトである `admin` に設定されている場合にのみ実行できます。パスワードが変更されている場合は、CMOS をクリアしてパスワードを工場出荷時のデフォルトにリセットしてください。

USB ドライブキーを使用した標準的なセットアップおよび設定手順を以降に示します。Altiris Dell Client Manager（DCM）の使用に関する一連の詳しい手順については、 USB デバイスの手順ページを参照してください。

□□□ 管理コンソールを備えたコンピュータに USB ドライブキーを挿入します。
□□□ コンソールからセットアップおよび設定用サーバー（SCS）にローカルセットアップおよび設定記録を要求します。
□□□ SCS は以下を実行します。
　　□□□ 適切なパスワード、PID、PPS のセットの生成。
　　□□□ 上記情報のデータベースへの保存。
　　□□□ 上記情報の管理コンソールへの返送。
□□□ 管理コンソールは、パスワード、PID、PPS のセットを USB ドライブキーの **setup.bin** ファイルに書き込みます。
□□□ 新しい Intel AMT 対応コンピュータが配置されているステージングの場所に USB ドライブキーを持って行きます。以下の手順を実行します。
　　□□□ 必要に応じてコンピュータを開梱して接続します。
　　□□□ コンピュータに USB ドライブキーを挿入します。
　　□□□ コンピュータの電源を入れます。
□□□ コンピュータの BIOS が USB ドライブキーを検出します。
- 検出された場合、BIOS はドライブキーの先頭にある **setup.bin** ファイルを検索します。手順 7 に進みます。
- USB ドライブキーまたは **setup.bin** ファイルが検出されない場合は、コンピュータを再起動します。以降の手順は無視してください。

□□□ コンピュータの BIOS に、自動セットアップおよび設定が実行されることを知らせるメッセージが表示されます。
　　□□□ **setup.bin** ファイルで最初に使用可能な記録が メモリに読み込まれます。このプロセスにより以下が実行されます。
- ファイルのヘッダー記録の検証。
- 次に使用可能な記録の検索。
- この手順が正常に実行された場合、現在の記録が再使用されないよう無効にされます。

　　□□□ このプロセスにより、メモリのアドレスが MEBx パラメータブロックに配置されます。
　　□□□ このプロセスにより、MEBx が呼び出されます。
□□□ MEBx により、記録が処理されます。
□□□ MEBx により、処理が完了したことを示すメッセージが表示されます。
□□□□ コンピュータの電源を切ります。以上の手順により、コンピュータはセットアップ状態となり、Enterprise（エンタープライズ）モード環境のユーザーへ配布する準備が整います。
□□□□ 複数のコンピュータがある場合は、手順 5 を繰り返します。

USB ドライブキーのセットアップおよび設定の詳細については、管理コンソールのサプライヤにお問い合わせください。

# USB ドライブキー要件

Intel AMT をセットアップおよび設定するには、USB ドライブキーは次の要件を満たす必要があります。

- 容量が 16 MB 以上であること。
- FAT16 または FAT32 ファイルシステムでフォーマットされていること。
- セクタサイズが 1 KB であること。
- 起動可能でないこと。
- USB ドライブキーは AMT プロビジョニング用で、その他の目的では使用できません。
- USB キーには、隠しファイル、削除されたファイル、またはその他のファイルのいずれのファイルも含まれていないことが必要です。
- **setup.bin** ファイルは、USB ドライブキーに最初に置かれる必要があります（**Legacy BIOS** または **Wembley** の場合）。
- **setup.bin** ファイルは最上位ディレクトリに存在する必要があります（**UEFI BIOS** または **RAM** の場合）。

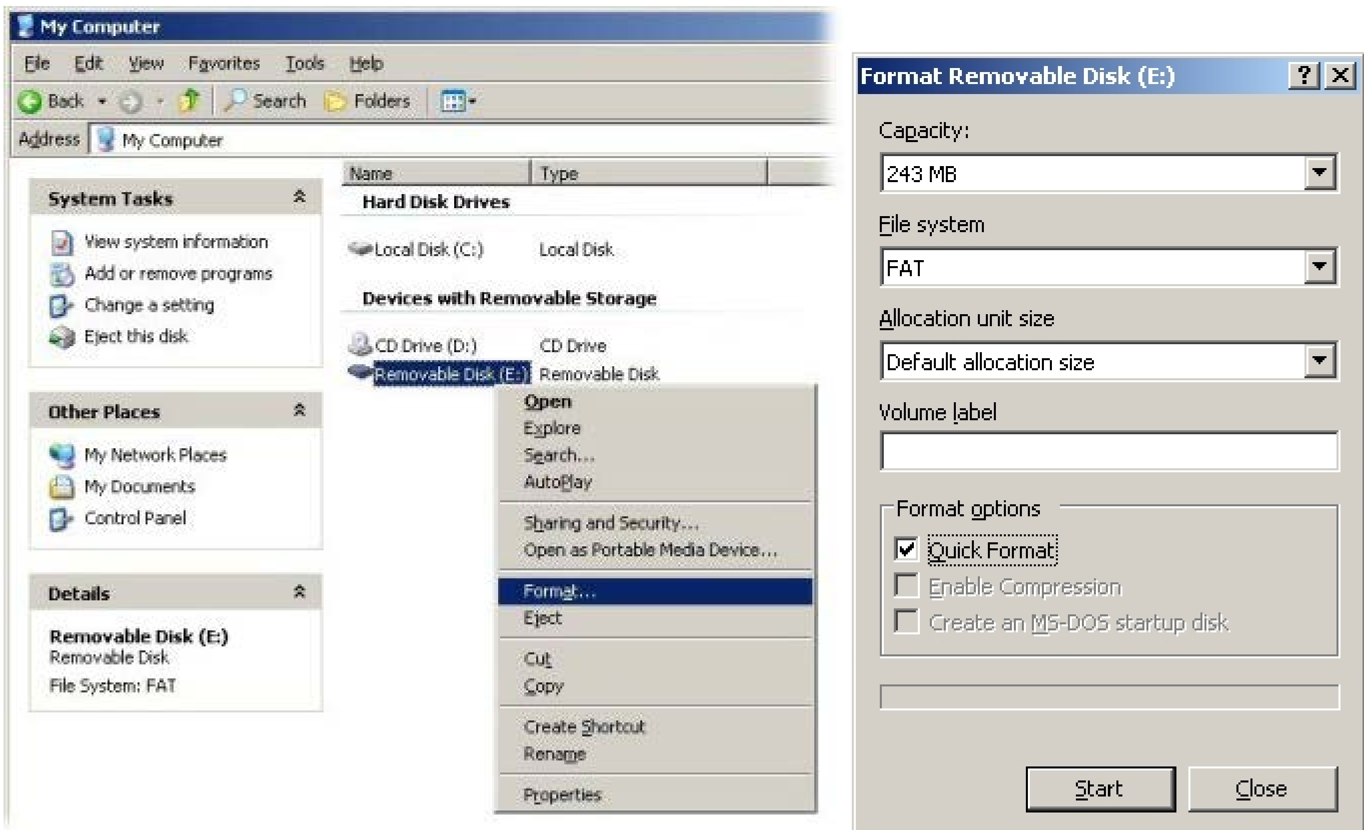
# USB デバイスでの手順

デフォルトで提供されるコンソールパッケージは、Dell Client Management（DCM）アプリケーションです。本項では、DCM パッケージを使用して Intel AMT をセットアップおよび設定する手順を説明します。本ドキュメントで既に説明したとおり、上記以外の複数のパッケージがサードパーティベンダーから提供されています。

このプロセスを開始する前に、コンピュータを設定して DNS サーバーから認識されることが必要です。また、USB ストレージデバイスも必要であり、[USB デバイスの使い方](#)ページにリストされている要件に準拠している必要があります。

**メモ：**管理ソフトウェアはその性質上、必ずしも動的またはリアルタイムではありません。結果が出るまで、操作を複数回繰り返す必要がある場合があります。

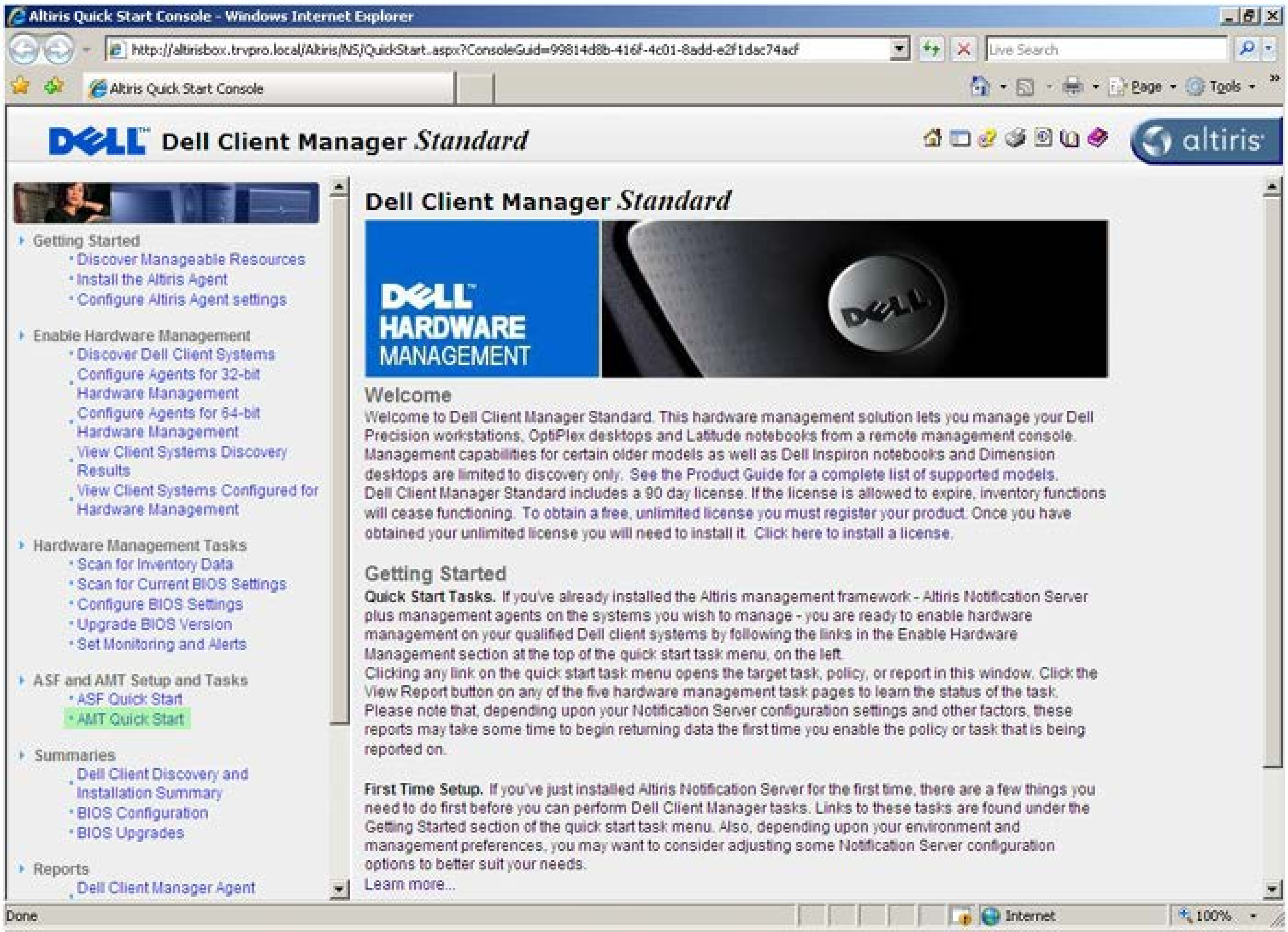
□□□ USB デバイスを、FAT16 ファイルシステムを使用し、ボリュームラベルなしでフォーマットしておきます。



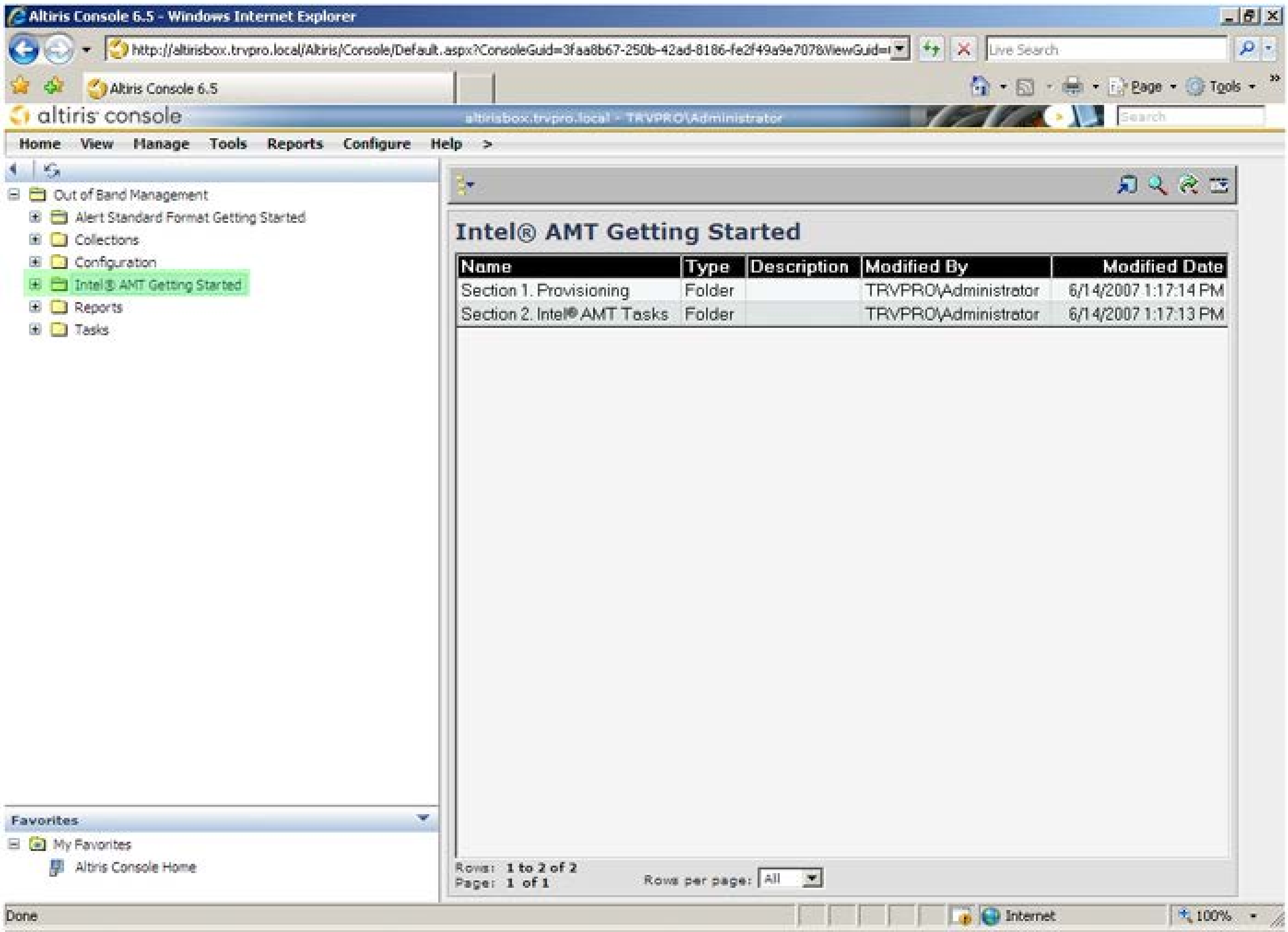

□□□ デスクトップアイコンをダブルクリックするか、スタート メニューから **Altiris Dell Client Manager** アプリケーションを開きます。



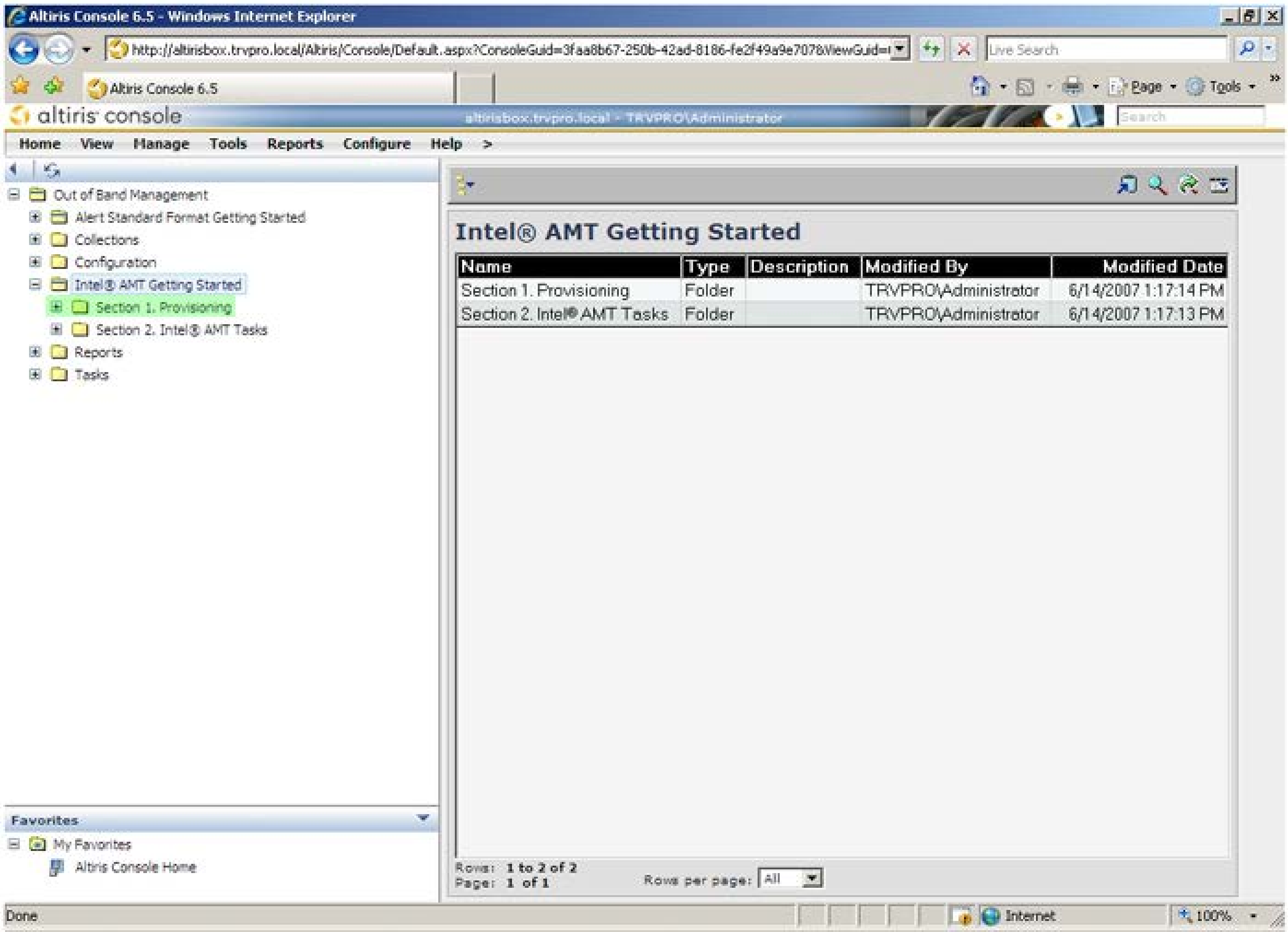

□□□ 左のナビゲーションメニューから **AMT Quick Start**（AMT クイックスタート）を選択して、**Altiris Console** を開きます。



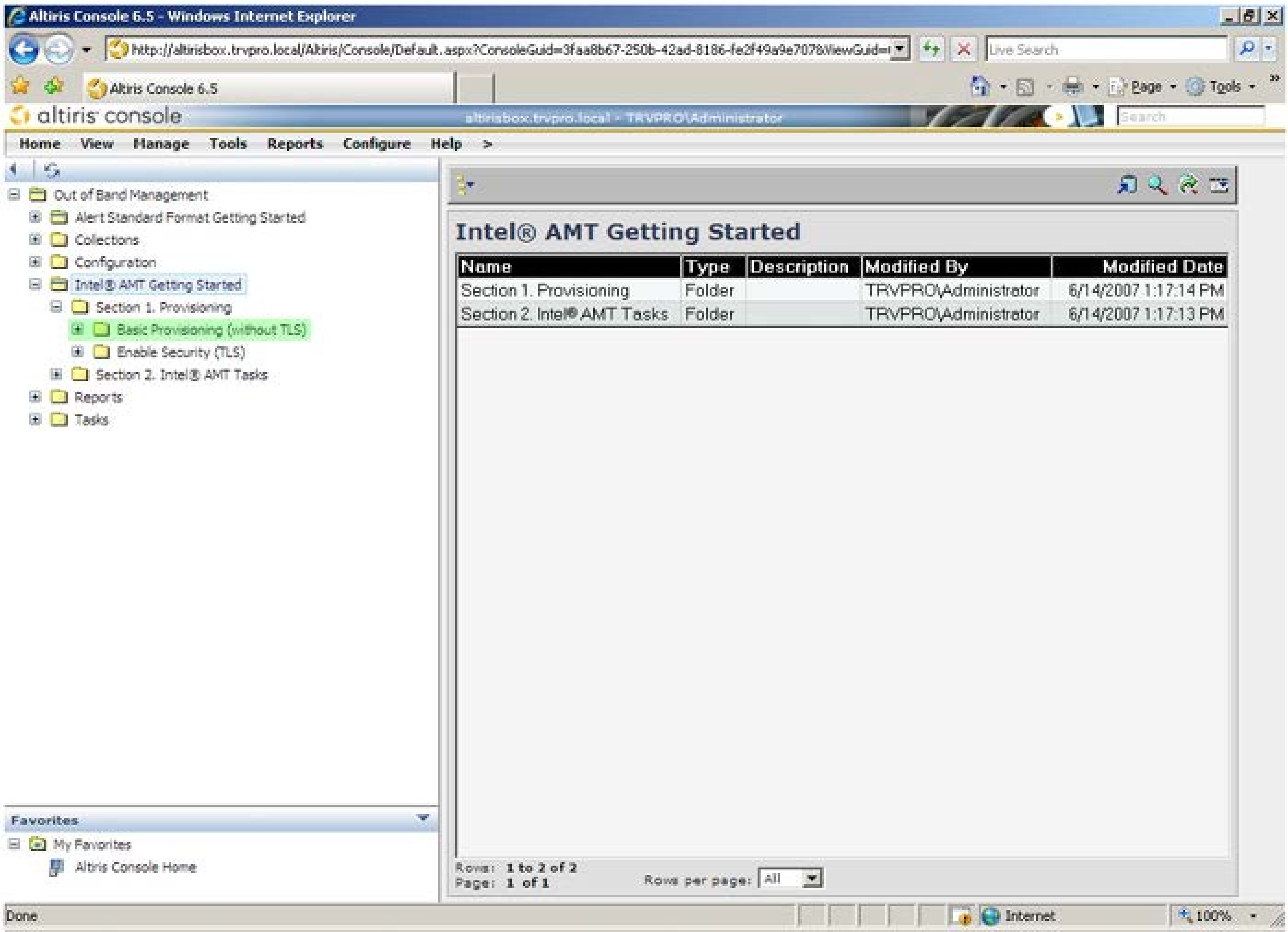

□□□ <+> をクリックして、**Intel AMT Getting Started**（はじめに）セクションを展開します。




□□□ <+> をクリックして、**Section 1. Provisioning**（セクション 1. プロビジョニング）セクションを展開します。

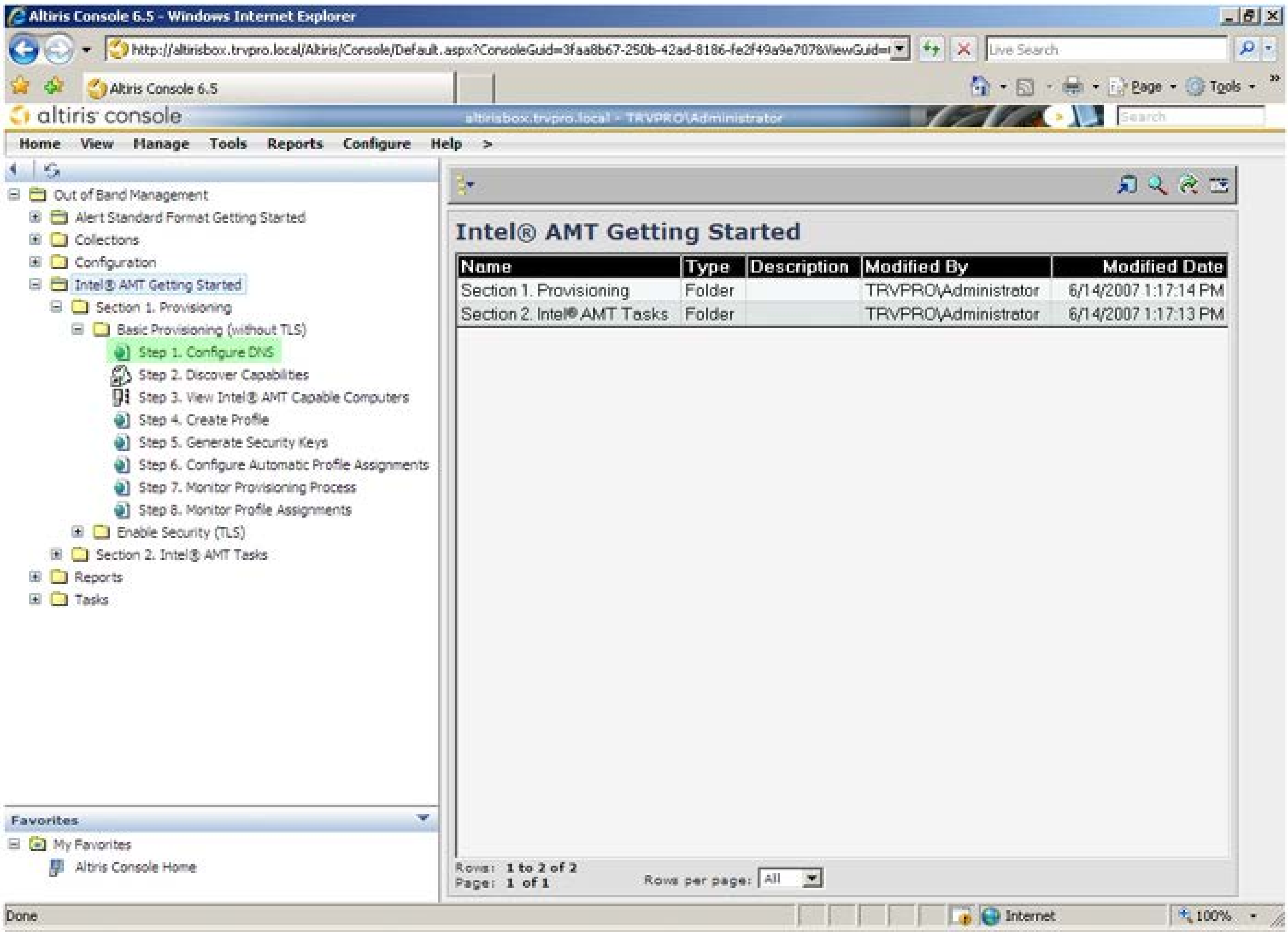



□□□ <+> をクリックして、**Basic Provisioning (without TLS)**（基本プロビジョニング（TLS なし））セクションを展開します。

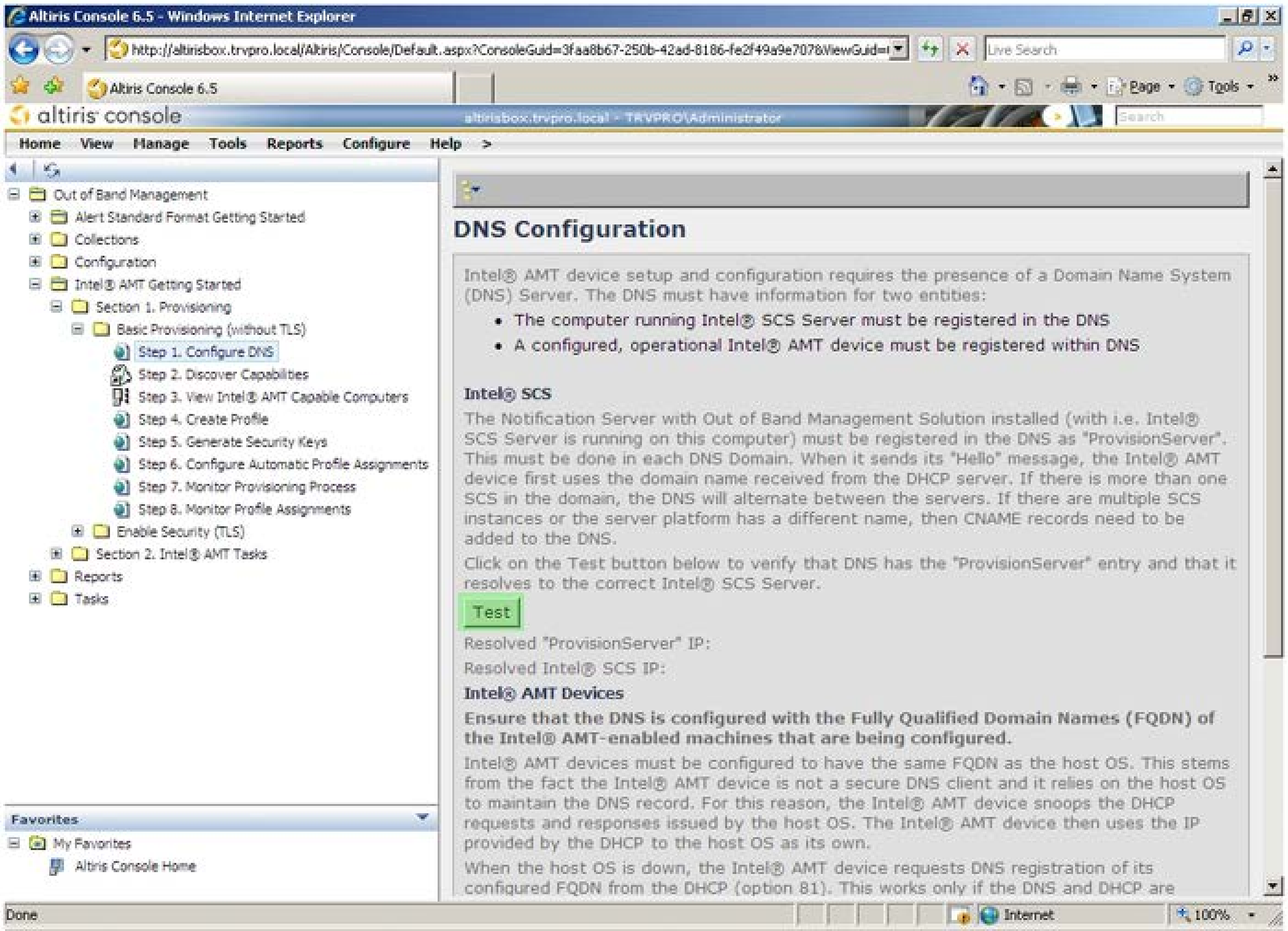



□□□ **Step 1. Configure DNS**（手順 1．DNS の設定）を選択します。

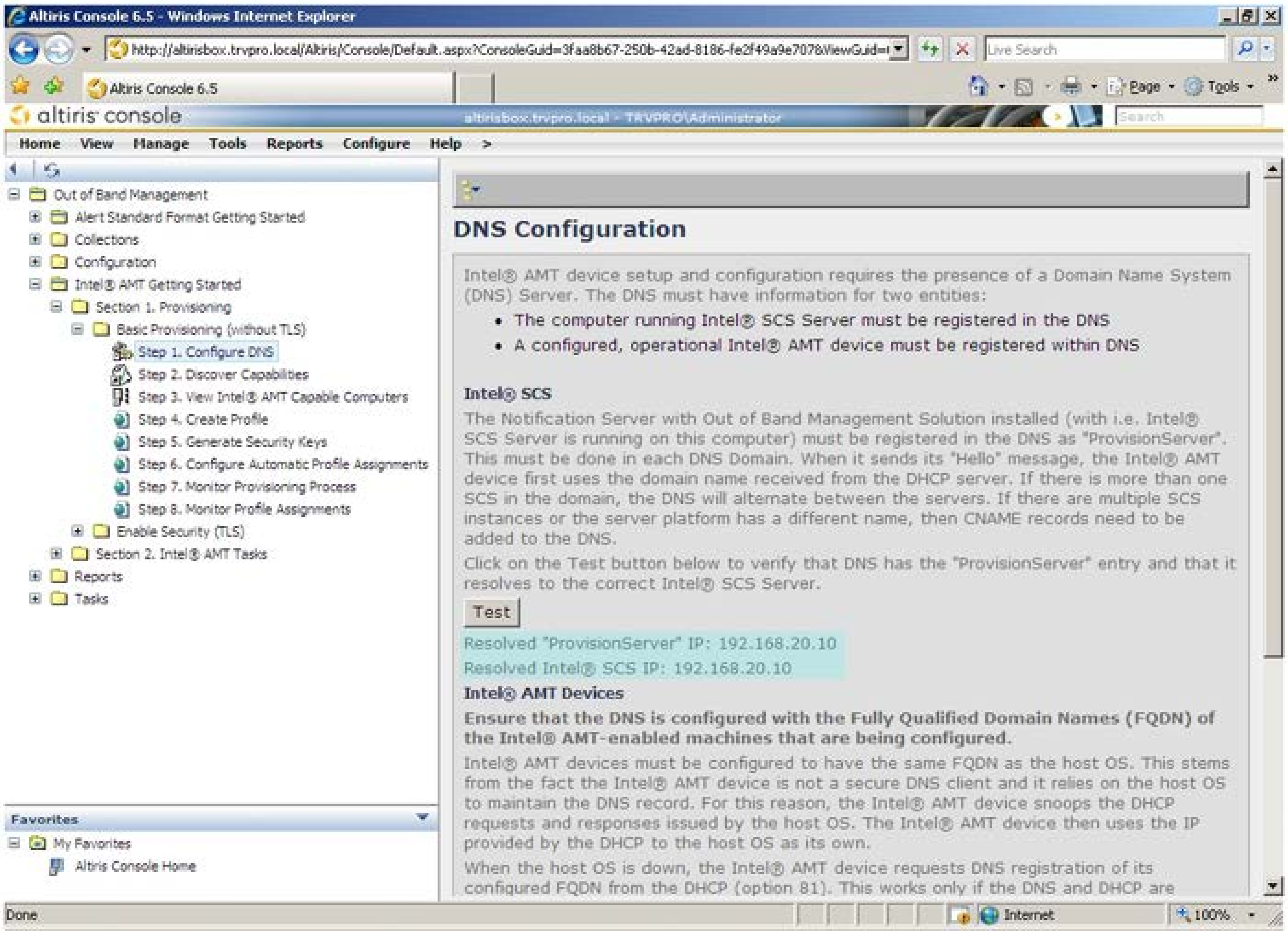
□□□ 帯域外管理ソリューションがインストールされた通知サーバーを「ProvisionServer」として DNS に登録しておく必要があります。



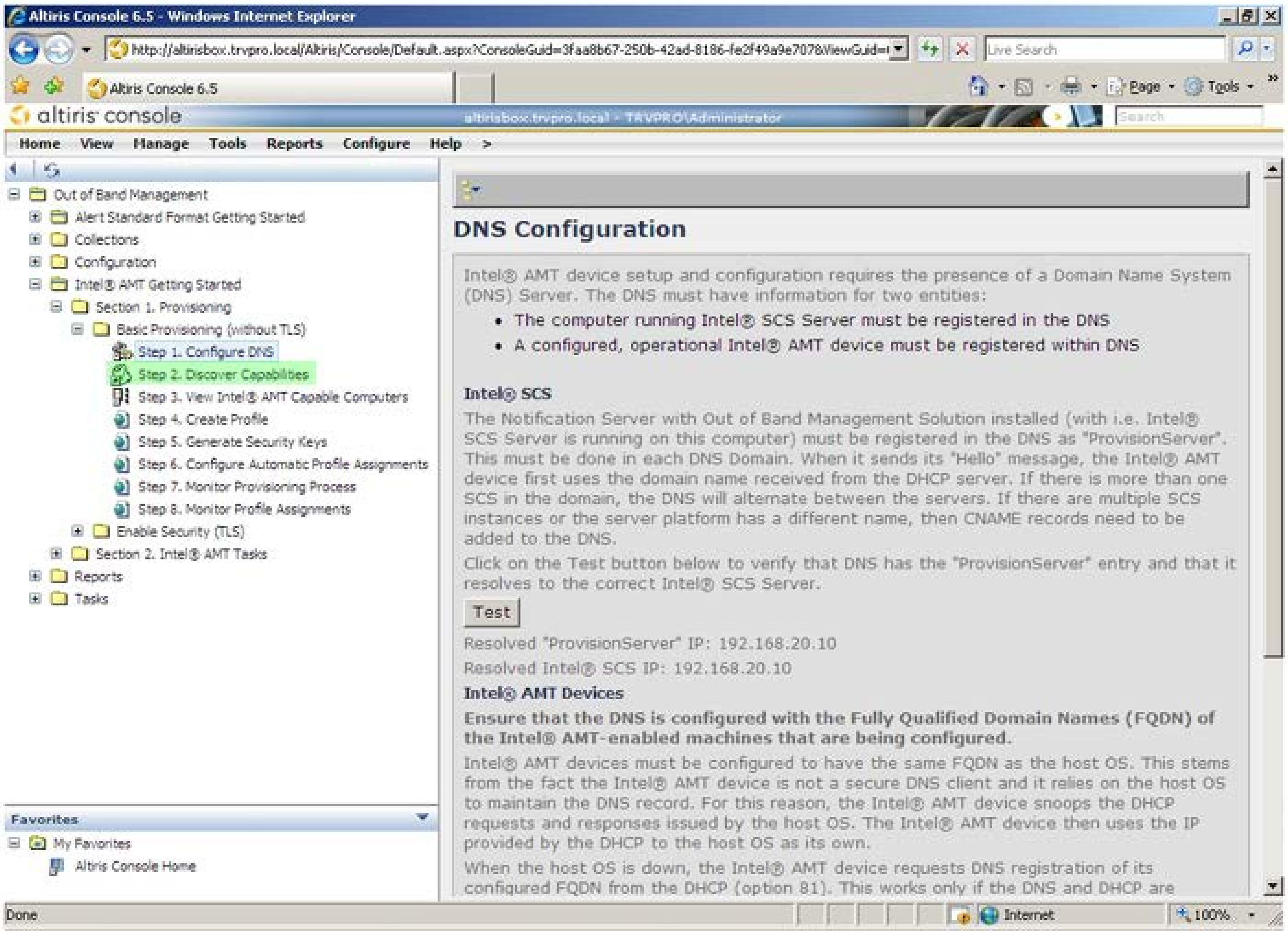

□□□ **DNS Configuration**（DNS 設定）画面で **Test**（テスト）をクリックし、DNS に ProvisionServer エントリがあり、このエントリによって適切な Intel セットアップおよび設定用サーバー（SCS）への接続が解決されていることを確認します。



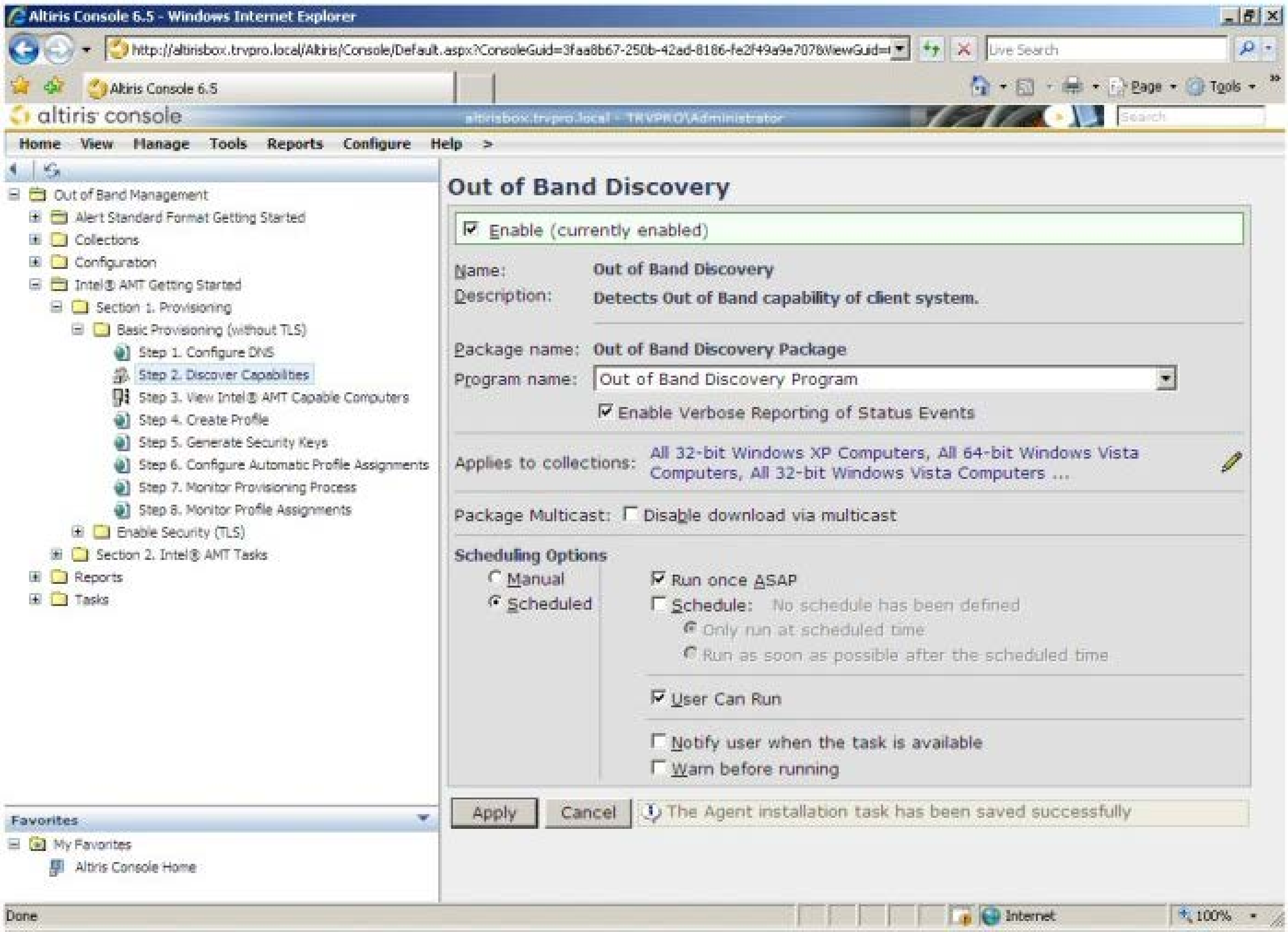

コ□□□ 以上により、ProvisionServer と Intel SCS の IP アドレスが表示されます。



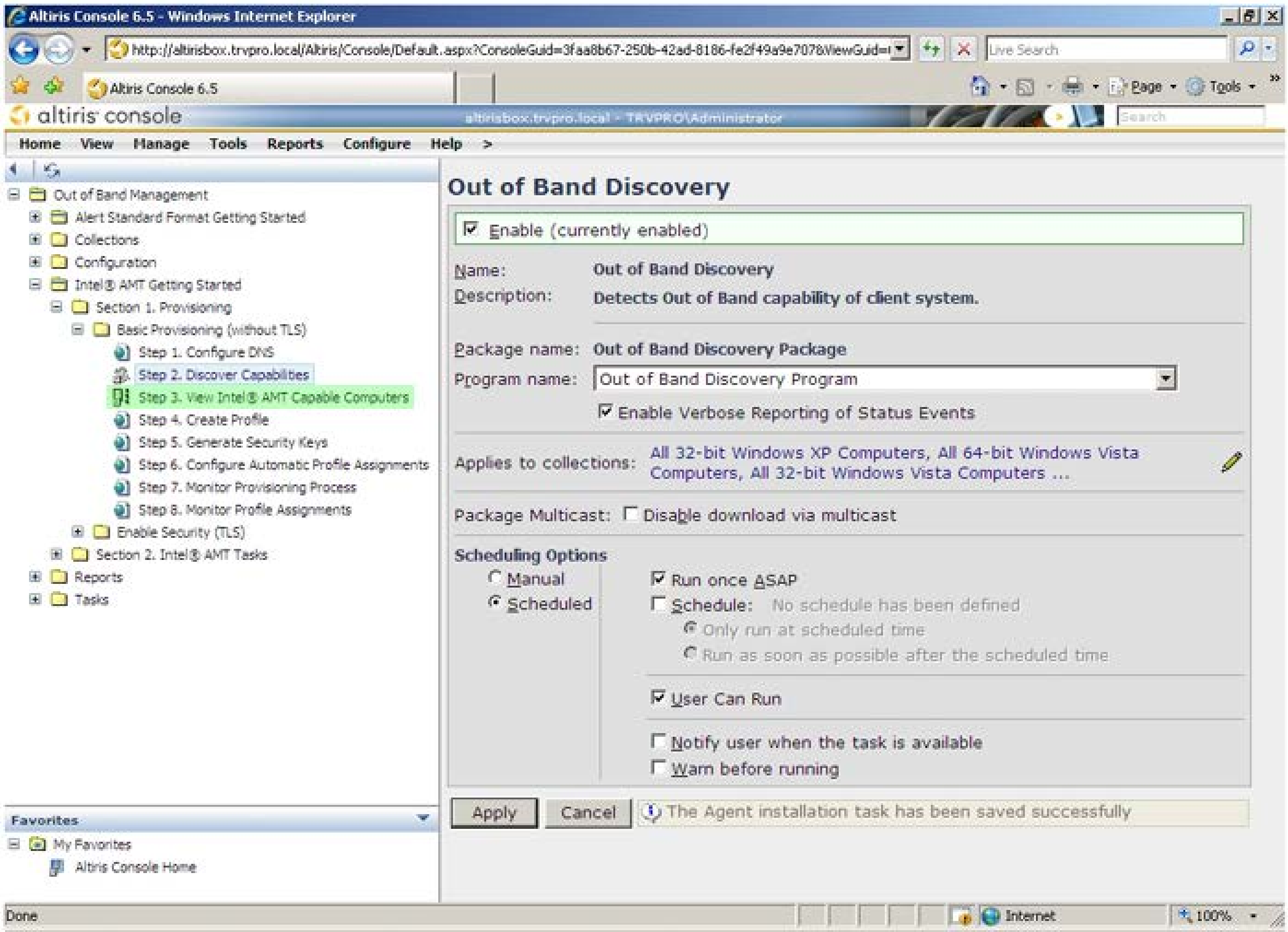

コ□□□ **Step 2. Discovery Capabilities**（手順 2．機能の検出）を選択します。



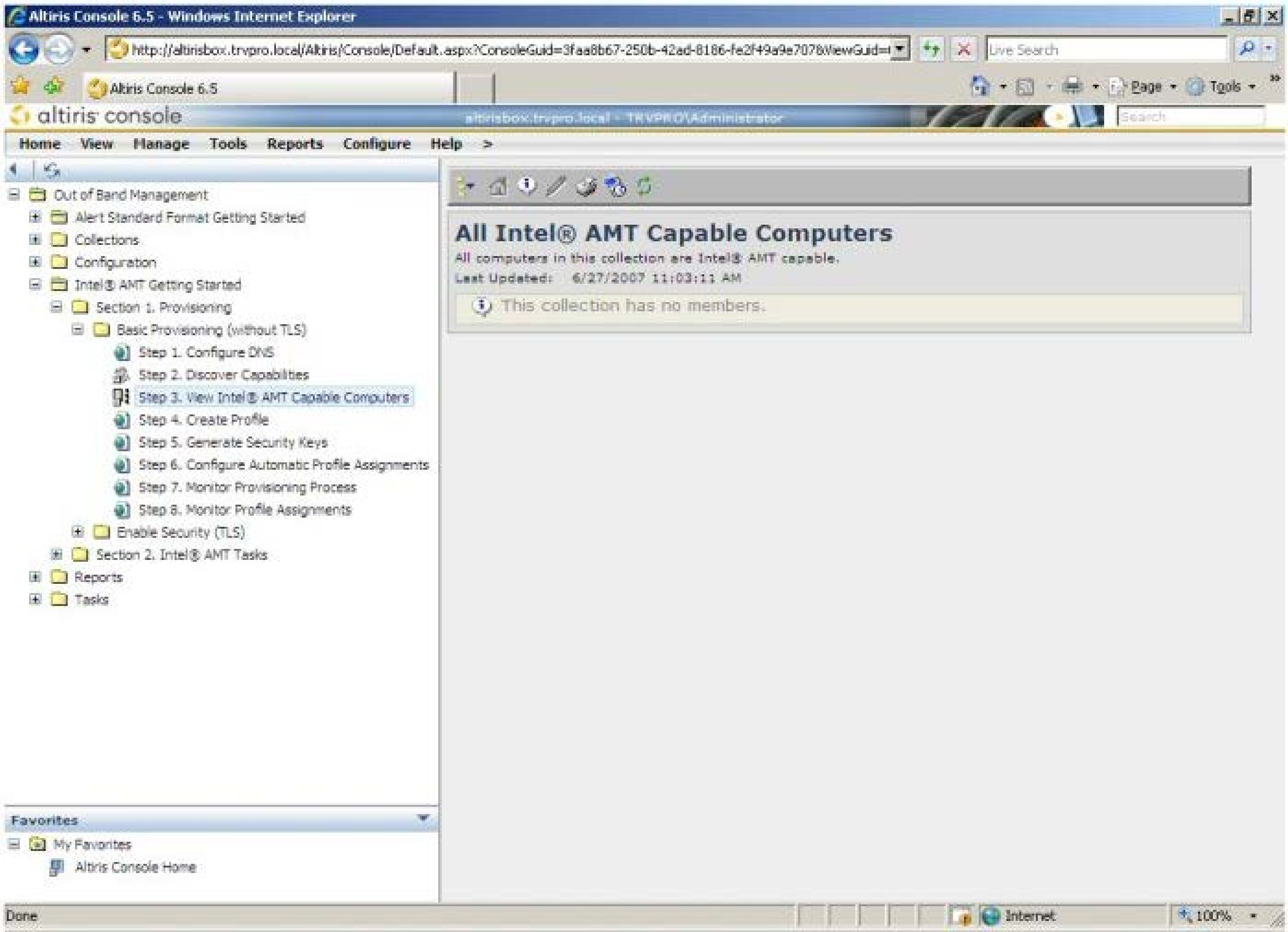

コ□□□ 設定が **Enabled**（有効）になっていることを確認します。**Disable**（無効）の場合は、**Disabled**（無効）の横のチェックボックスをクリックして **Apply**（適用）をクリックします。



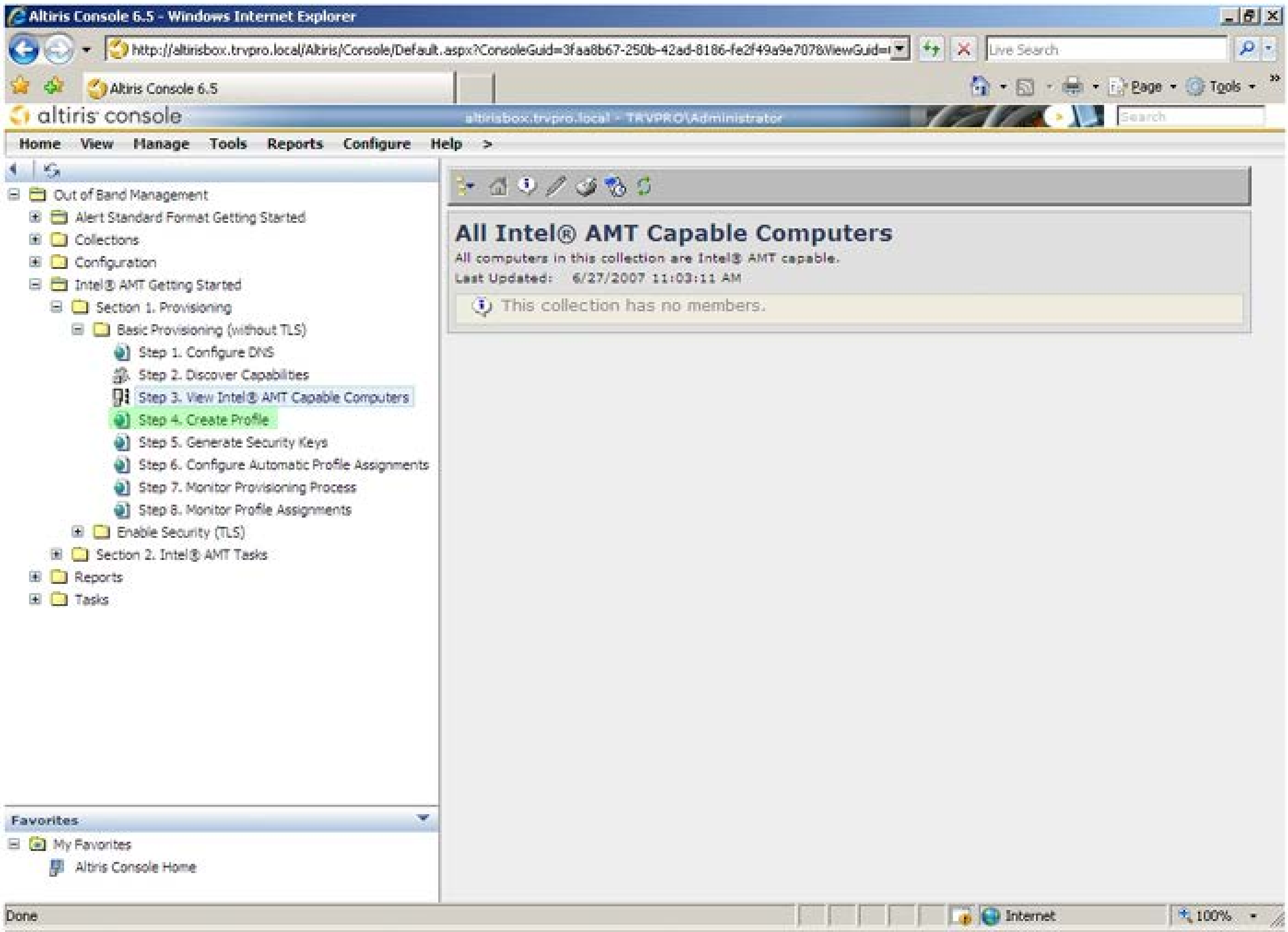

コ□□□ **Step 3. View Intel AMT Capable Computers**（手順 3． Intel AMT 対応コンピュータの表示）を選択します。



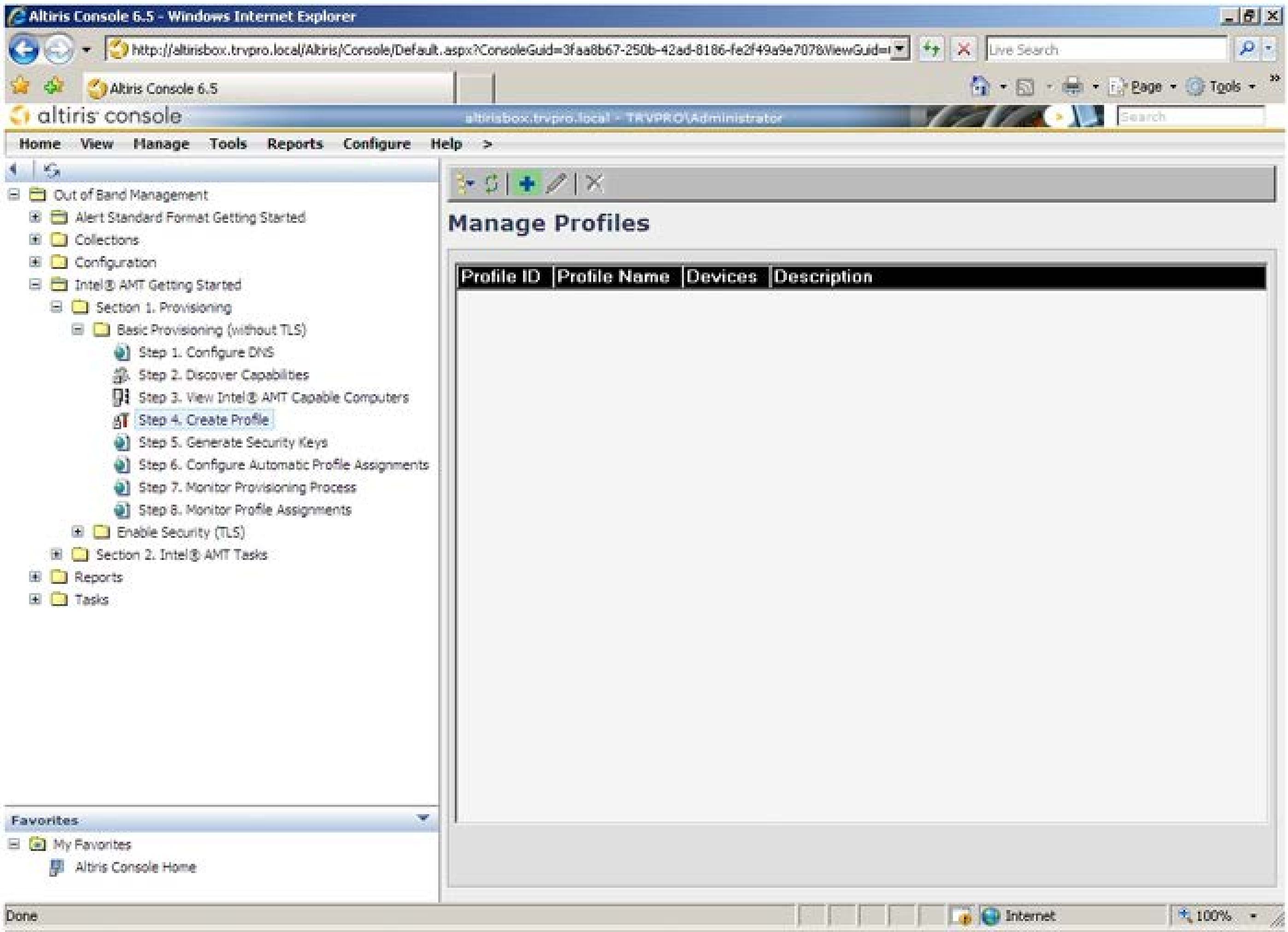

コ□□□ ネットワーク上の Intel AMT 対応コンピュータがリストに表示されます。



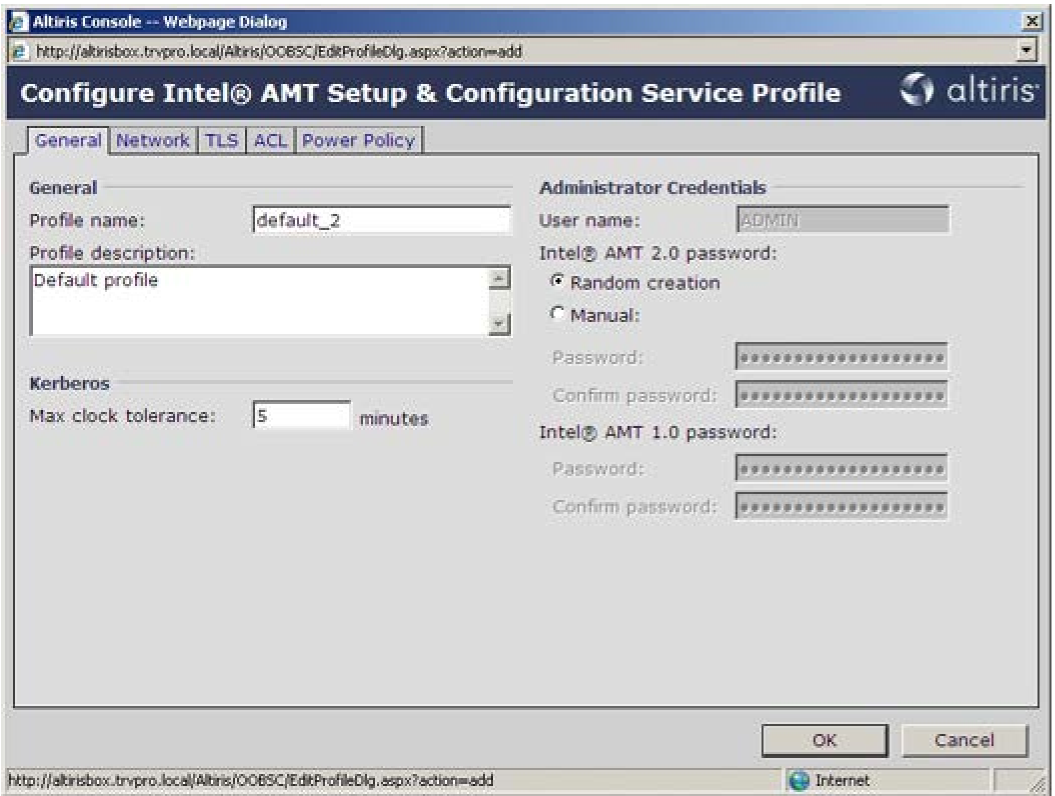

コ□□□ **Step 4. Create Profile**（手順 4．プロファイルの作成）を選択します。



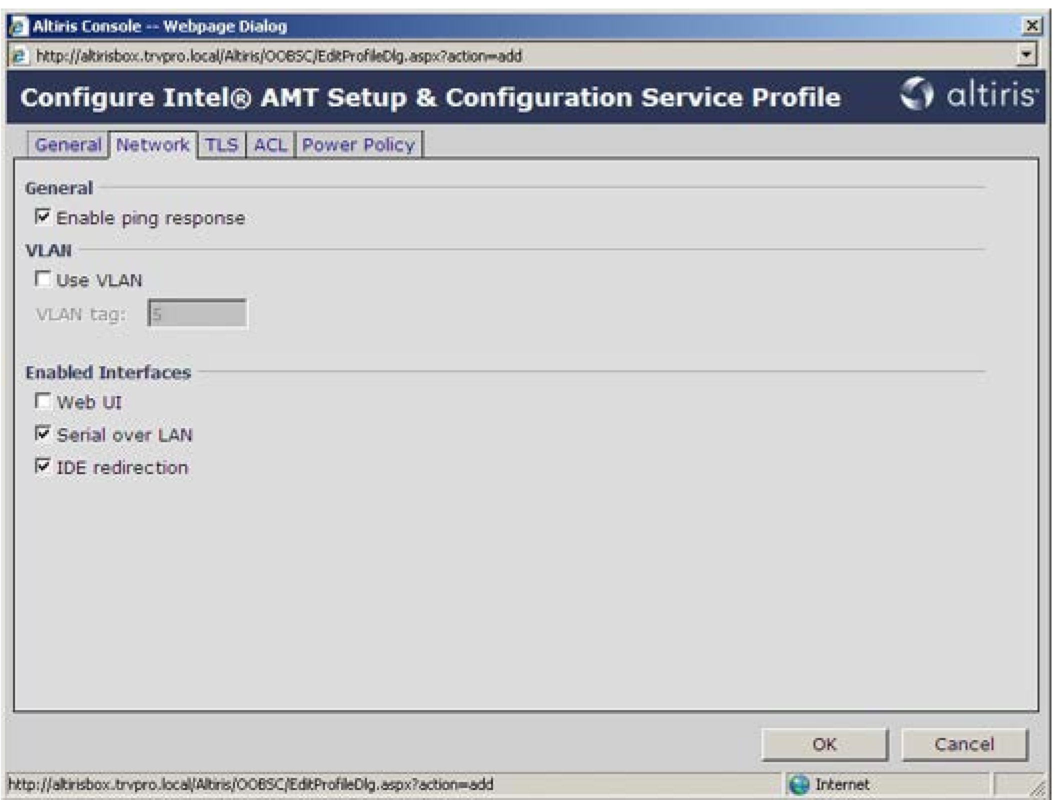
コ□□□ プラス記号をクリックして新しいプロファイルを追加します。



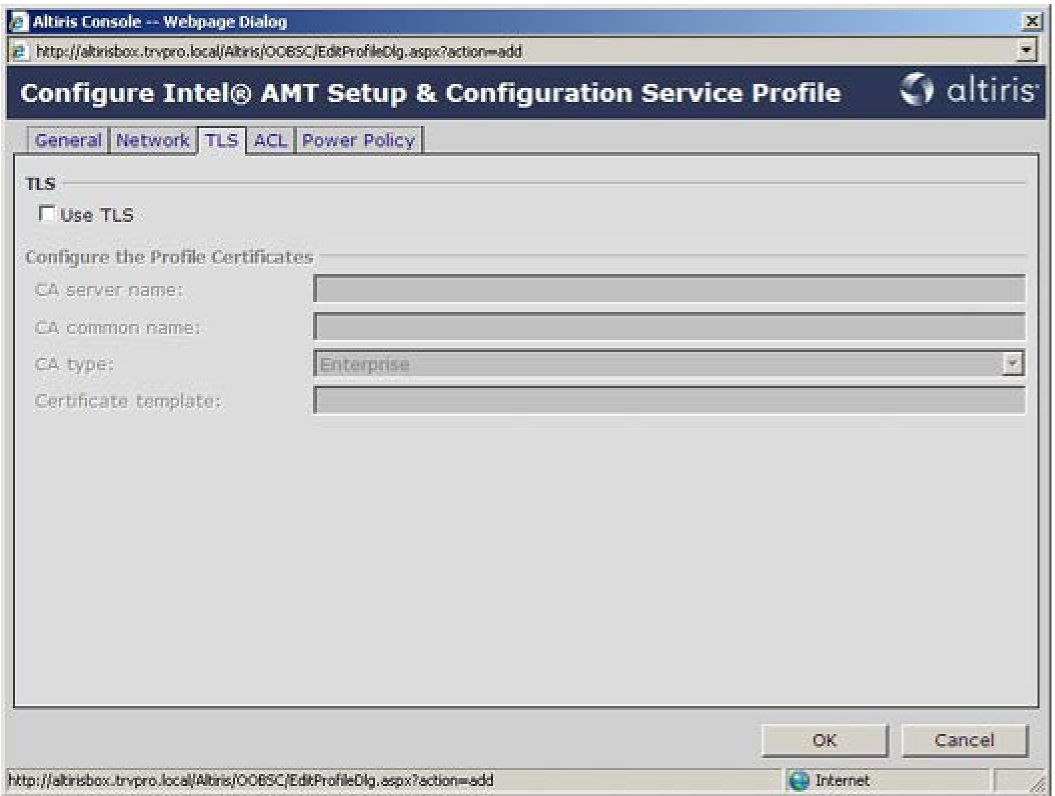

コ□□□ **General**（全般）タブで、管理者はプロファイル名と説明、およびパスワードを変更できます。管理者は、今後の保守を容易にするため、標準的なパスワードを設定します。**Manual**（手動）ラジオボタンを選択し、新しいパスワードを入力します。



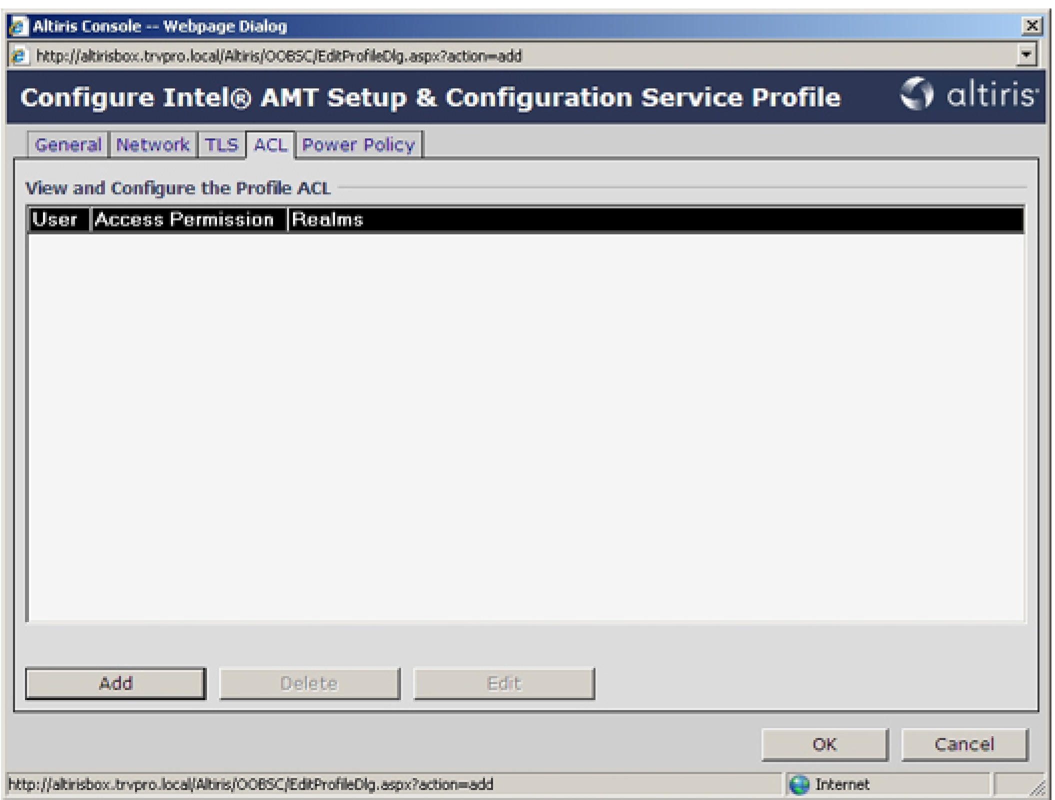

コ□□□□ **Network**（ネットワーク）タブには、Ping への応答、VLAN、WebUI、Serial over LAN（シリアルオーバー LAN）、および IDE Redirection（IDE リダイレクション）を有効にするオプションがあります。Intel AMT を手動で設定する場合、すべての設定値は MEBx でも使用できます。




コ□□□□ **TLS**（Transport Layer Security（トランスポート層セキュリティ））タブには、TLS を有効にする機能があります。この機能が有効な場合、その他の情報（認証機関（CA）サーバー名、CA 共通名、CA の種類、証明書テンプレートなど）が必要となります。

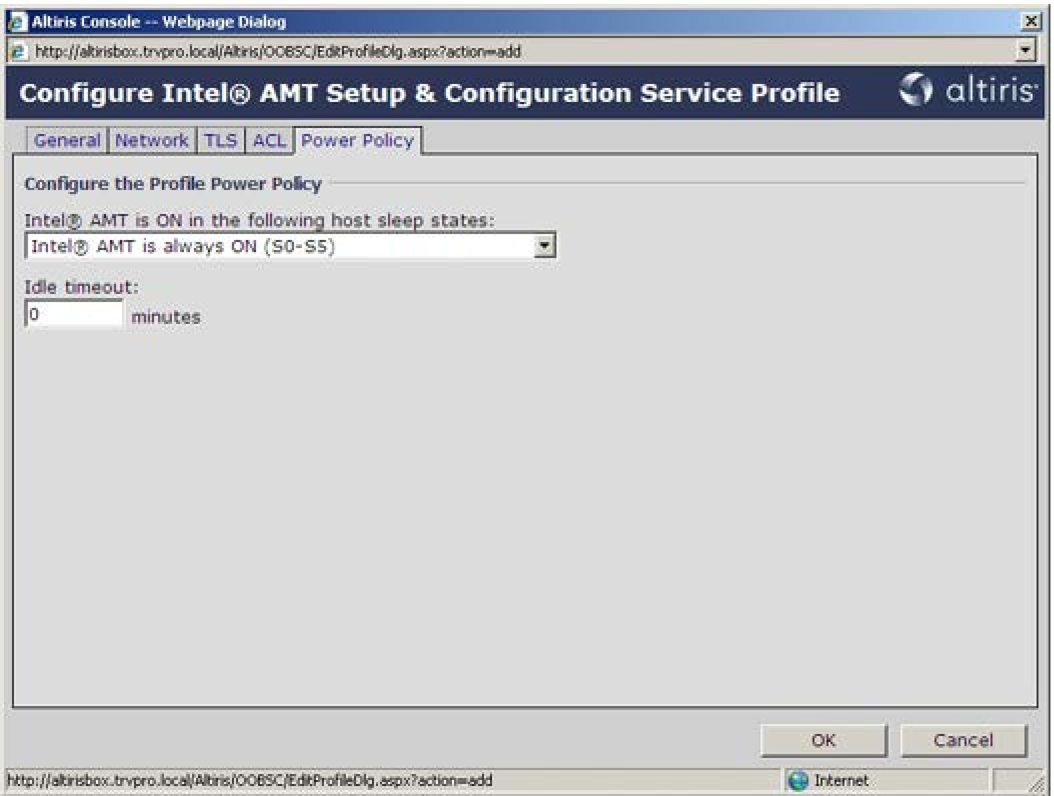



□□□□ **ACL**（アクセスコントロールリスト）タブは、既にこのプロファイルと関連付けられているユーザーを表示したり、新しいユーザーを追加してアクセス権を定義する際に使用します。

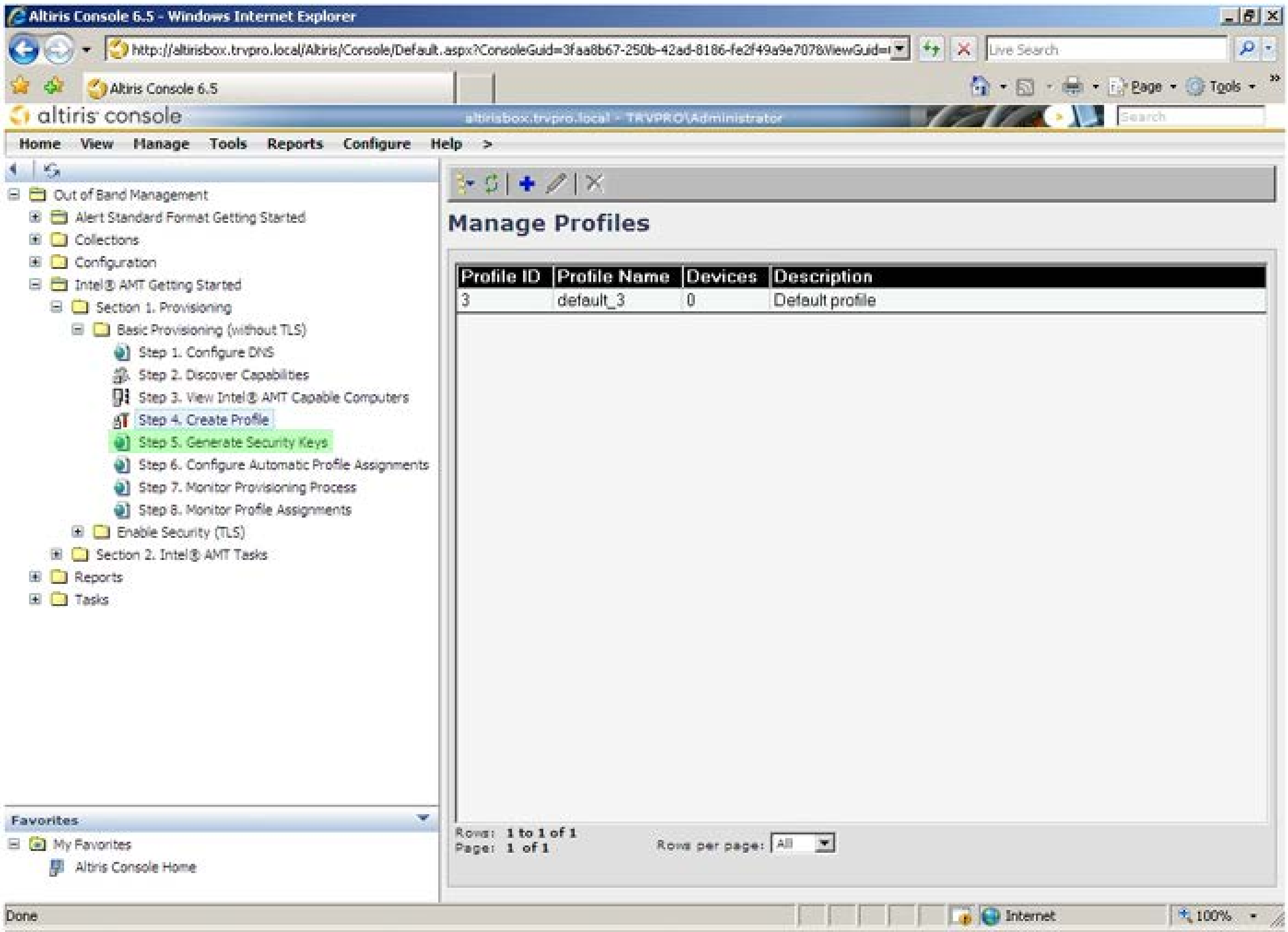



□□□□ **Power Policy**（電源ポリシー）タブには、Intel AMT のスリープ状態や **Idle Timeout**（アイドルタイムアウト）設定を選択するための設定オプションがあります。最適な性能を確保するため、アイドルタイムアウトを常に 0 に設定することをお勧めします。

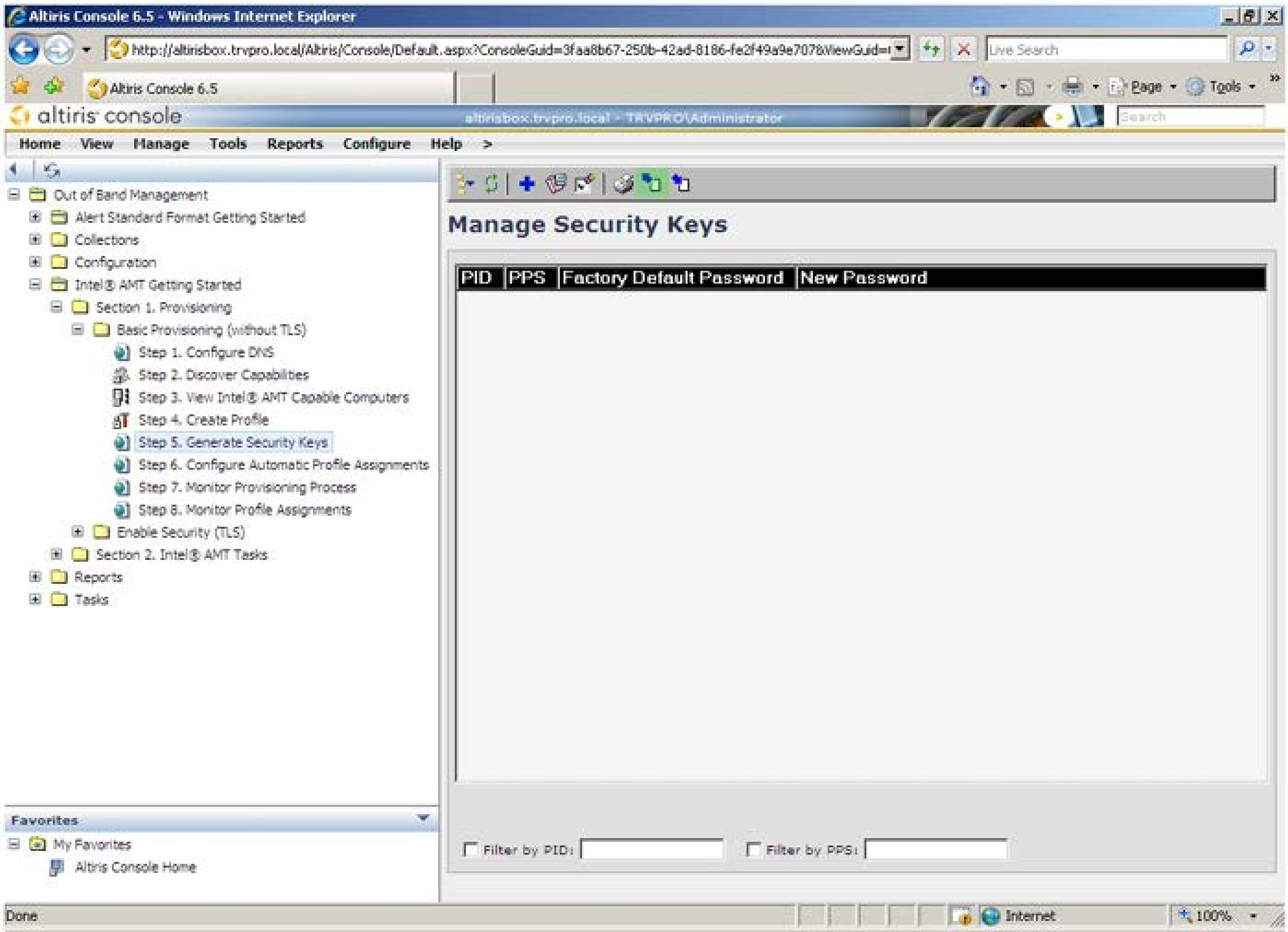
メモ：**Power Policy**（電源ポリシー）タブの設定は、E-Star 4.0 への準拠の維持に影響を与える場合があります。




コ□□□ **Step 5. Generate Security Keys**（手順 5. セキュリティキーの生成）を選択します。



□□□□ **Export Security Keys to USB Key**（セキュリティキーを USB キーにエクスポート）を指す矢印の付いたアイコンを選択します。




□□□□ **Generate keys before export**（エクスポート前にキーを生成）ラジオボタンを選択します。




□□□□ 生成するキーの数を入力します（キーの数は設定が必要なコンピュータの台数によって異なります）。デフォルト値は 50 です。




□□□□ Intel ME のデフォルトのパスワードは **admin** です。環境に応じて新しい Intel ME パスワードを設定します。




コ□□□ **Generate**（生成）をクリックします。キーが作成されると、**Generate**（生成）ボタンの左側にリンクが表示されます。



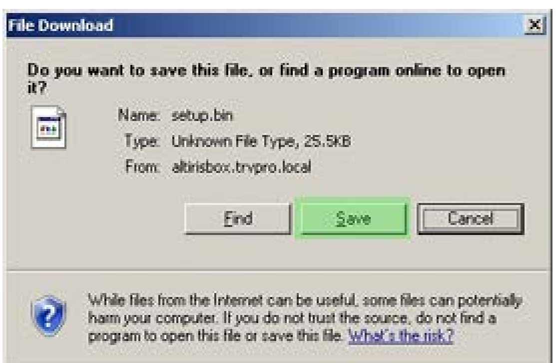

コ□□□ あらかじめフォーマットした USB デバイスをプロビジョニングサーバーの USB コネクタに挿入します。

□□□□ **Download USB key file**（USB キーファイルのダウンロード）リンクをクリックして、**setup.bin** ファイルを USB デバイスにダウンロードします。デフォルトでは、USB デバイスが認識され、ファイルが USB デバイスに保存されます。

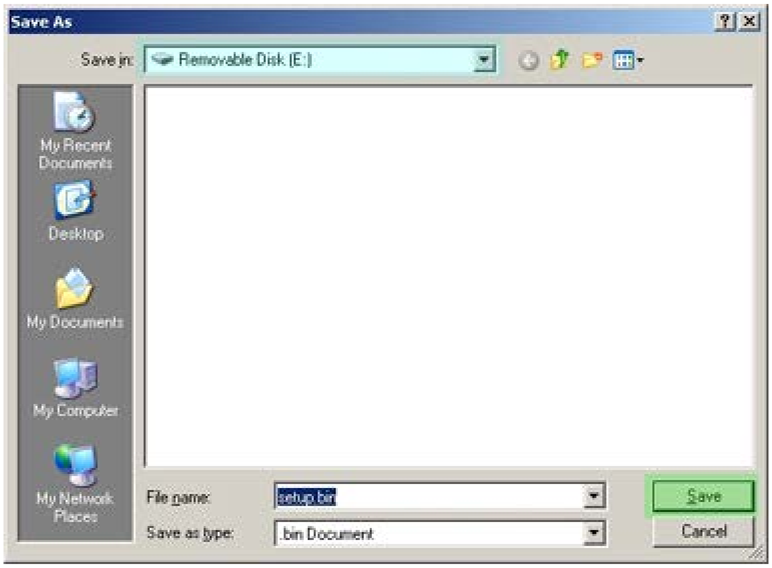
メモ：今後追加のキーが必要になった場合、USB デバイスを再フォーマットしてから **setup.bin** ファイルを保存する必要があります。



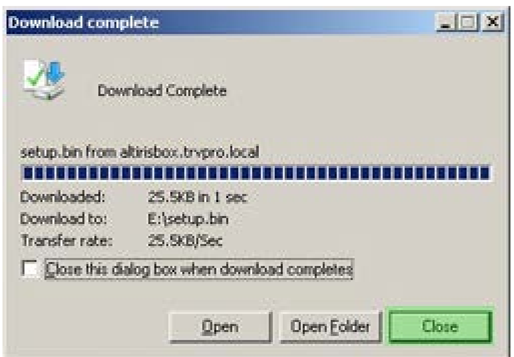

□□□ **File Download**（ファイルのダウンロード）ダイアログボックスで **Save**（保存）をクリックします。



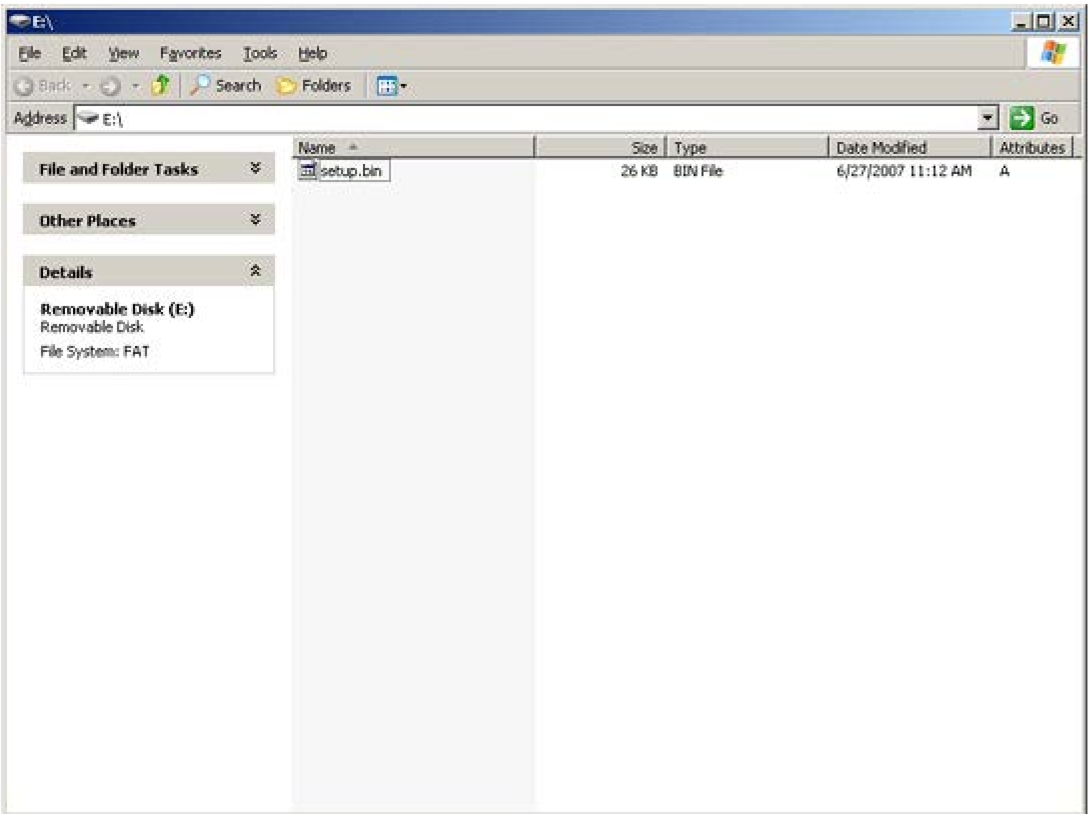

□□□ **Save in:**（保存先）が USB デバイスに指定されていることを確認します。保存 をクリックします。




□□□ **Download complete**（ダウンロードの完了）ダイアログボックスで **Close**（閉じる）をクリックします。



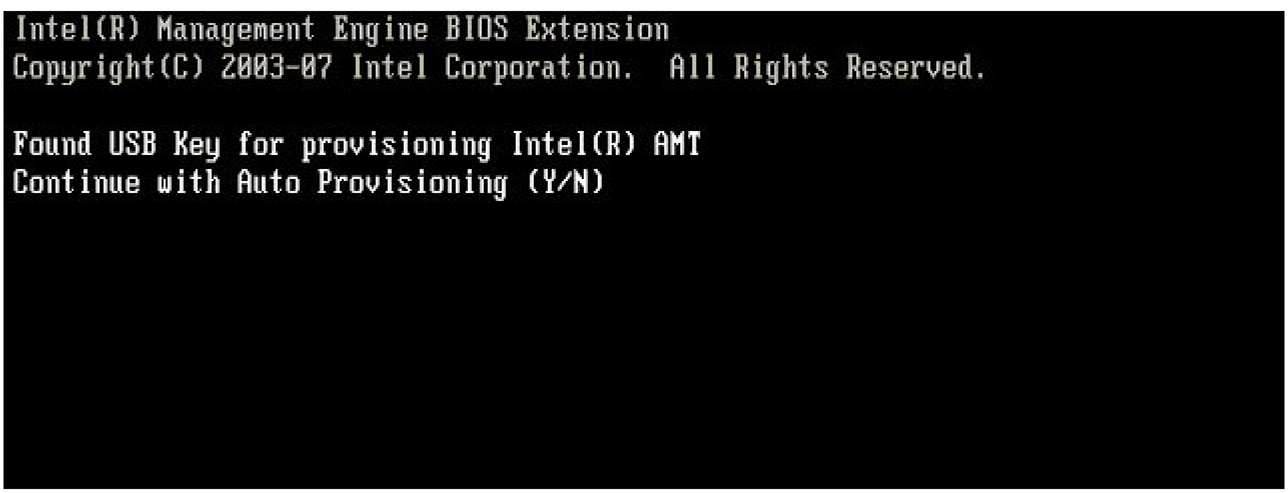

コ□□□ ドライブのエクスプローラウィンドウには **setup.bin** ファイルが表示されます。



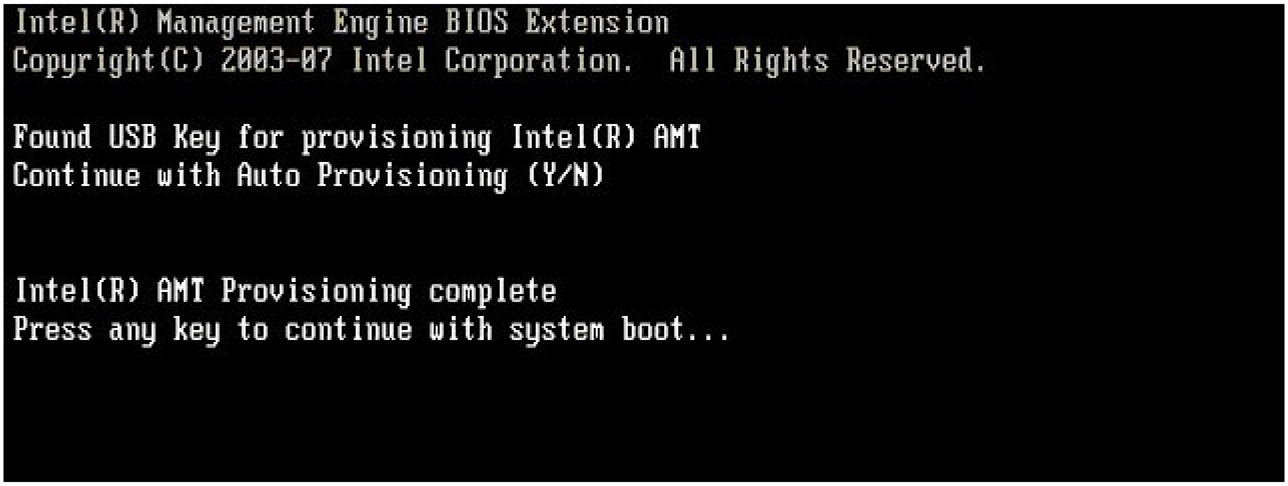

コ□□□ **Export Security Keys to USB Key**（セキュリティキーを USB キーにエクスポート）とドライブのエクスプローラウィンドウを閉じて、Altiris Console に戻ります。

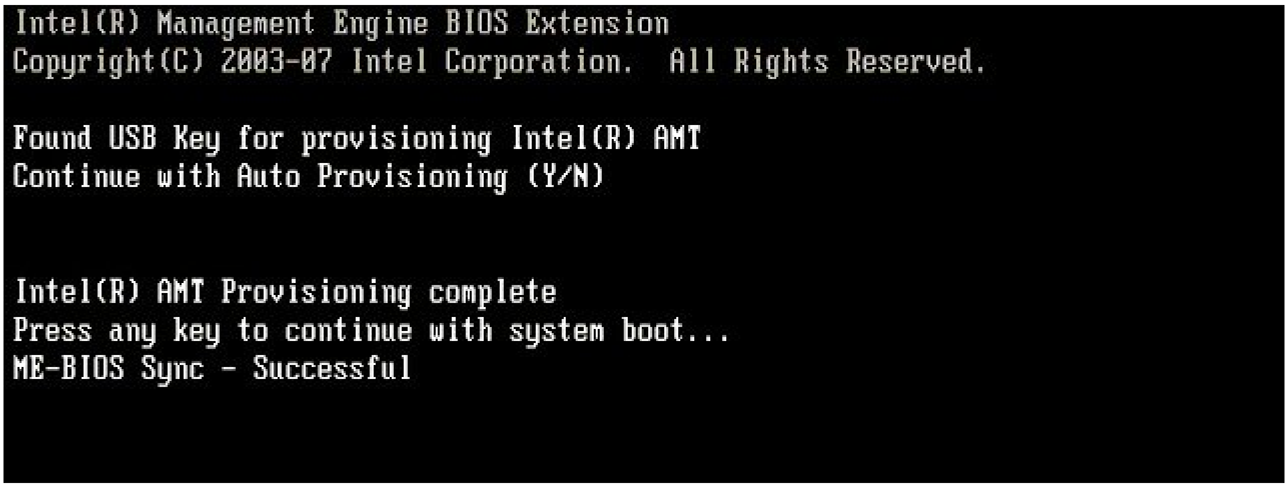
コ□□□ USB デバイスを挿入し、コンピュータの電源を入れます。すぐに USB デバイスが認識され、以下のプロンプトが表示されます。
`Continue with Auto Provisioning (Y/N)`（自動設定を続行しますか（`Y/N`））

コ□□□ <**Y**> を押します。



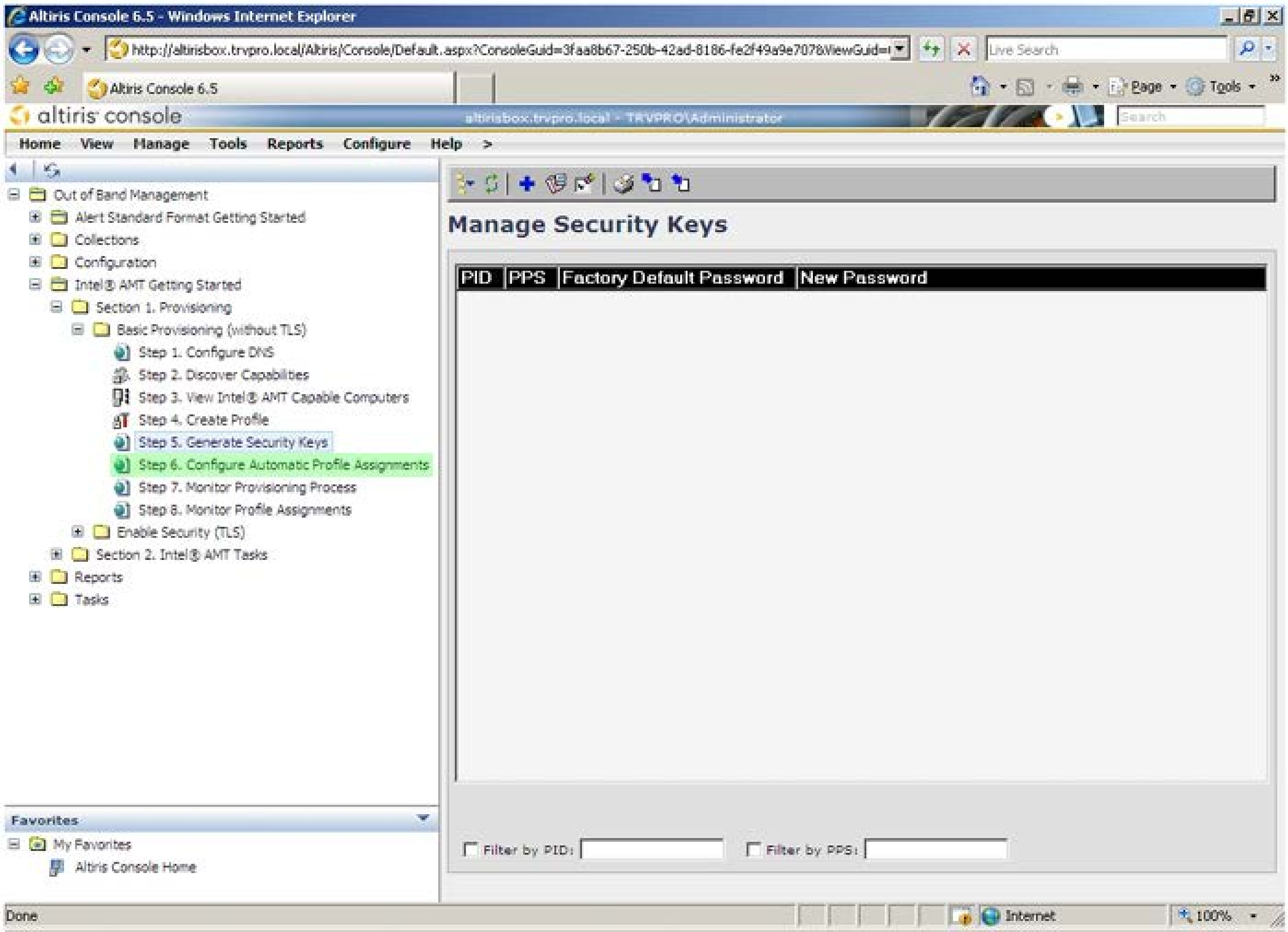

`Press any key to continue with system boot...`（システムの起動を続行するには任意のキーを押します。）



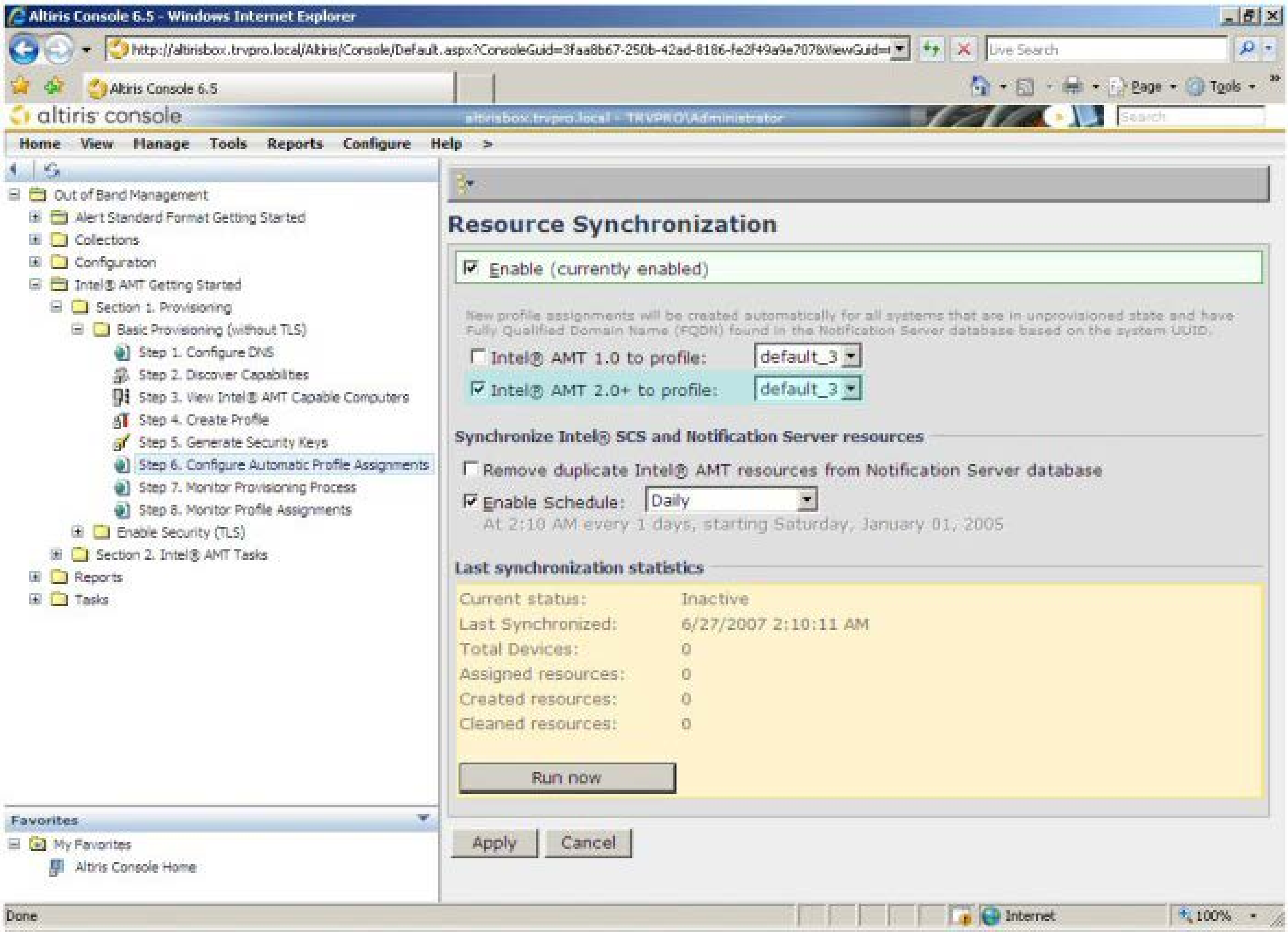




コ□□□ 完了後、コンピュータの電源を切って、管理サーバーに戻ります。

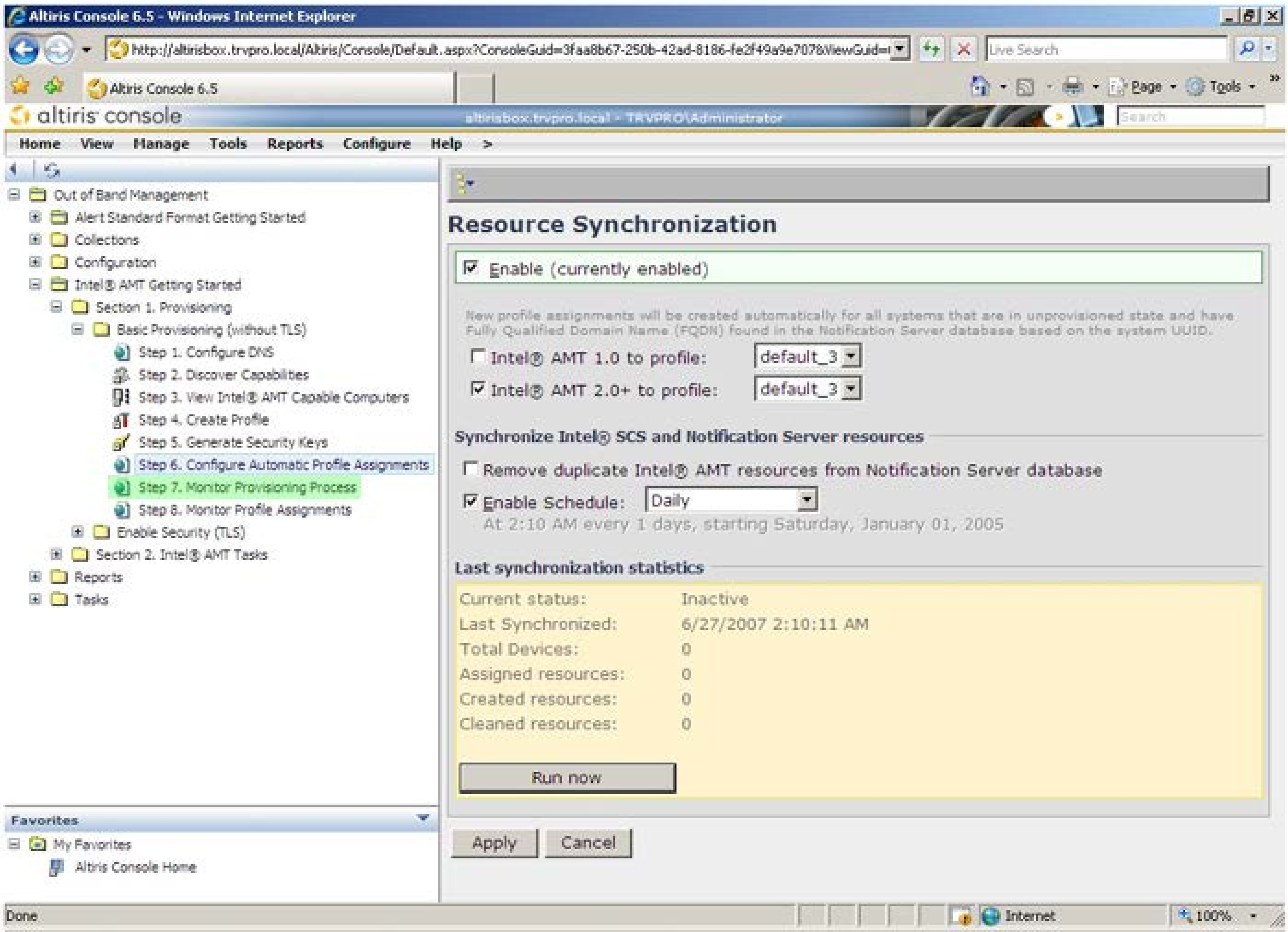
コ□□□ **Step 6. Configure Automatic Profile Assignments**（手順 6. 自動プロファイル割り当ての設定）を選択します。



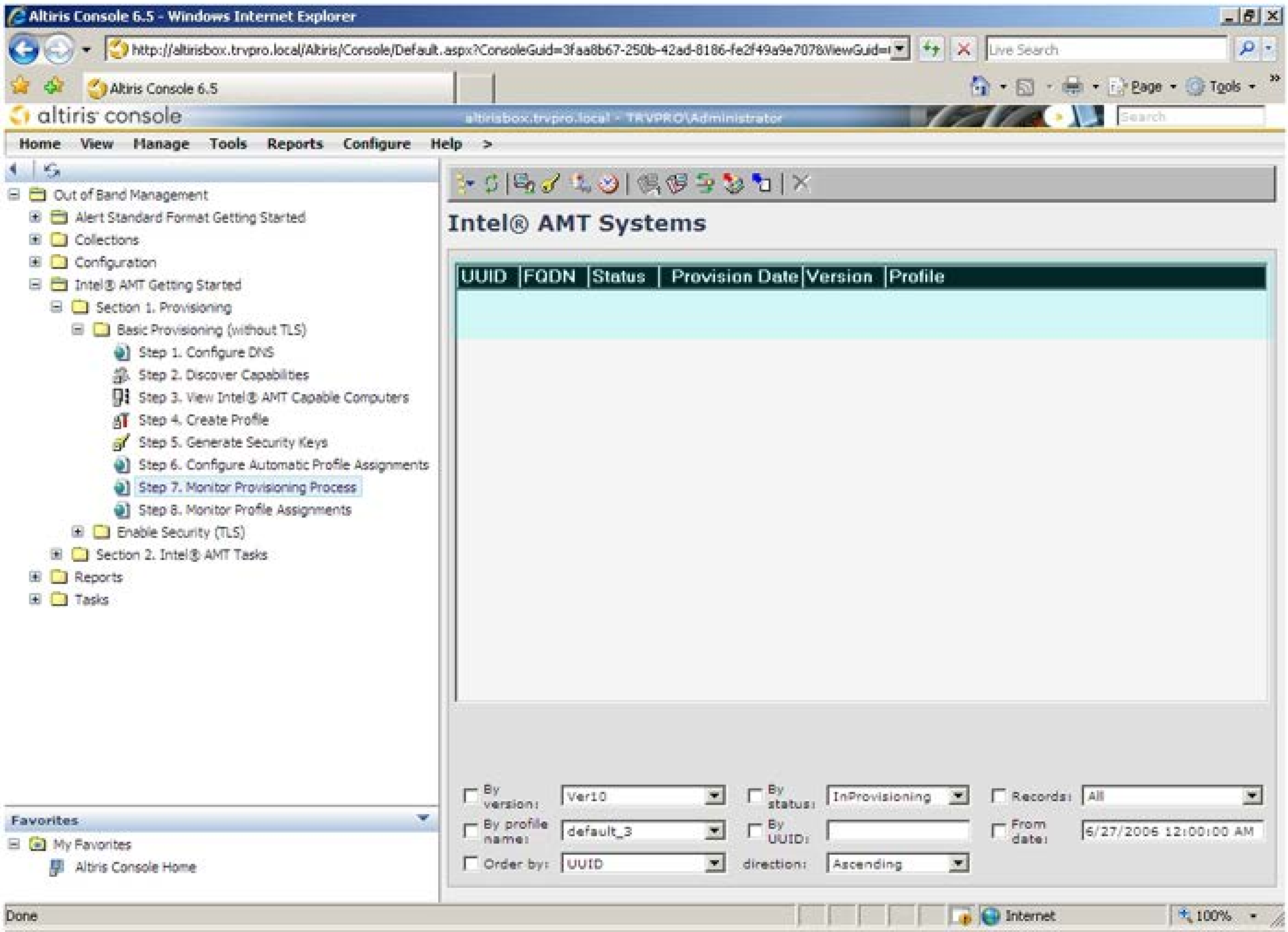

コ□□□ 設定が有効になっていることを確認します。**Intel AMT 2.0+** ドロップダウンで、事前に作成されたプロファイルを選択します。環境に応じてその他の設定を行います。



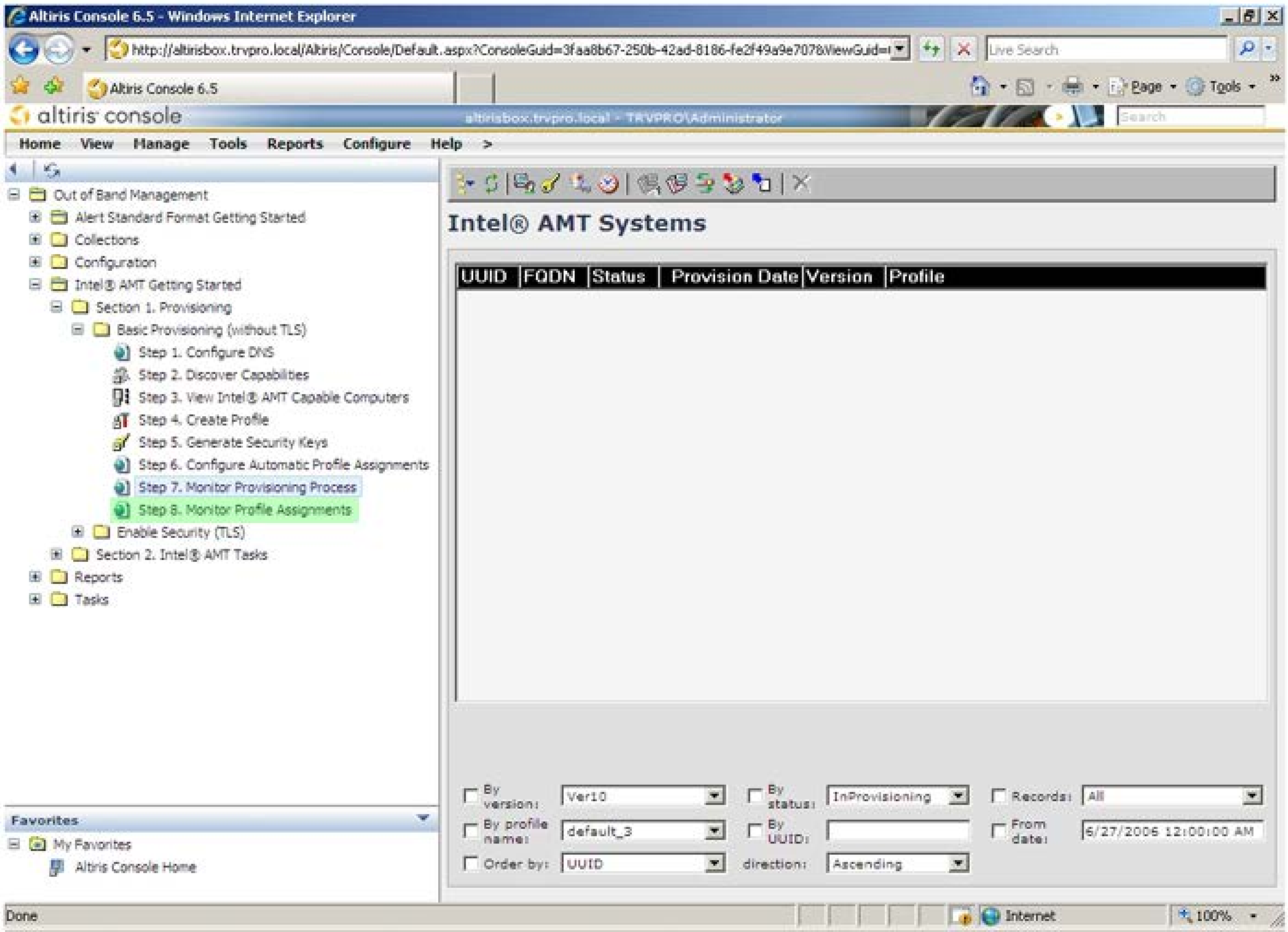

コ□□□ **Step 7. Monitor Provisioning Process**（手順 7．プロビジョニング処理の監視）を選択します。



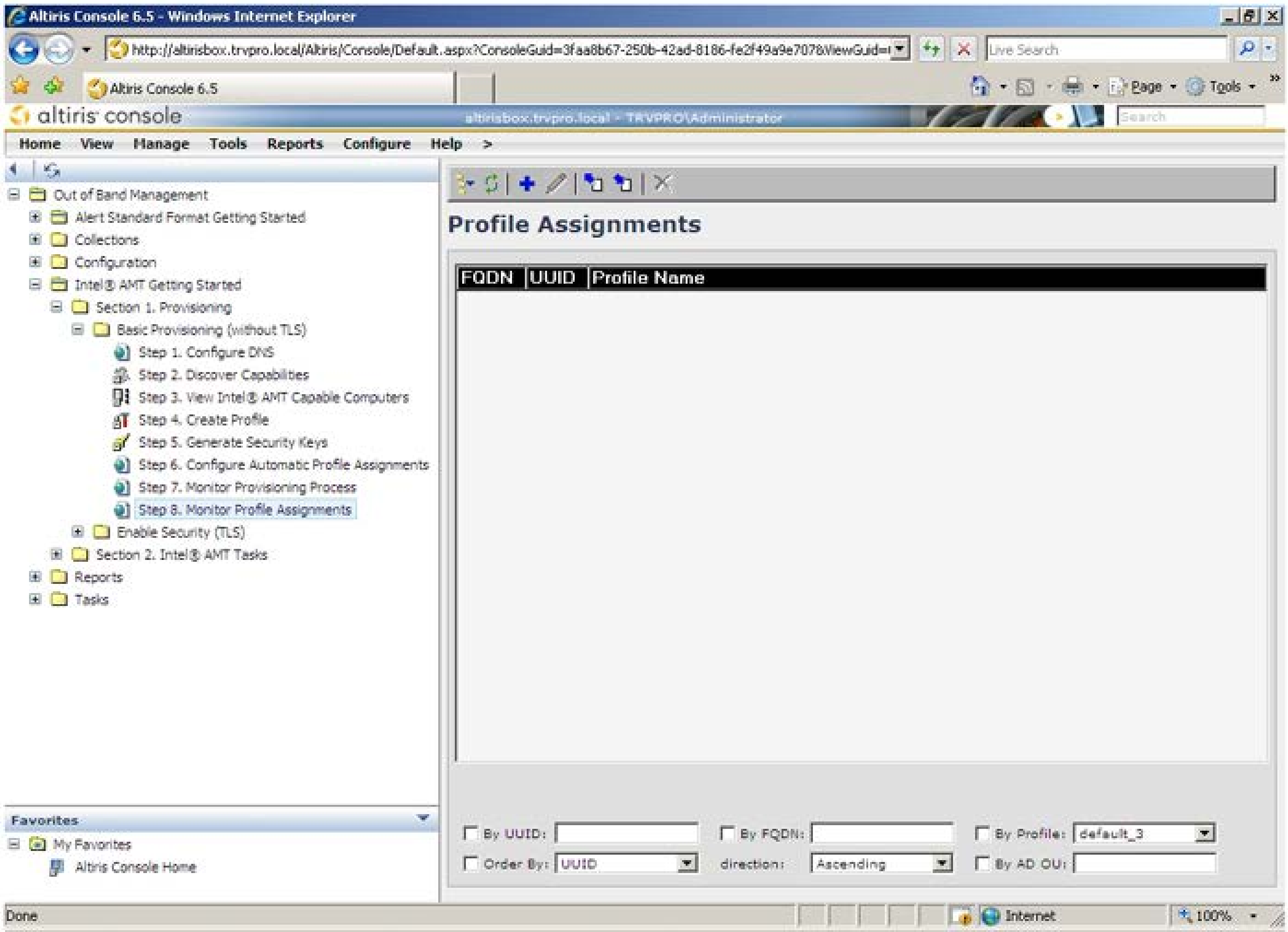

□□□□ キーが適用されたコンピュータがシステムリストに表示されます。最初のうち、ステータスは **Unprovisioned**（プロビジョニング解除）で、その後 **In provisioning**（プロビジョニング中）に変わり、プロセス終了時には **Provisioned**（プロビジョニング済み）となります。



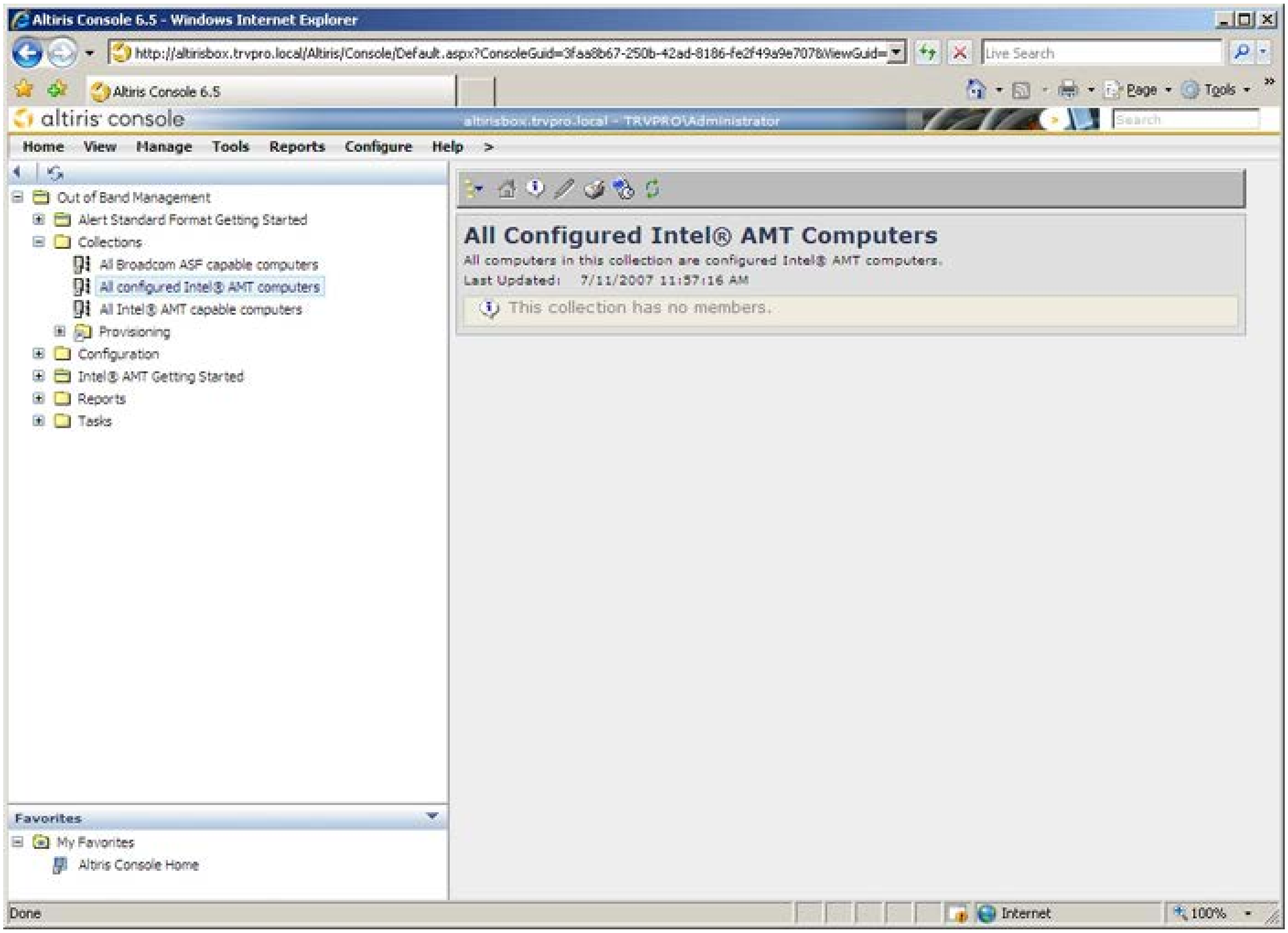

コ□□□ **Step 8. Monitor Profile Assignments**（手順 8．プロファイル割り当ての監視）を選択します。




□□□□ プロファイルが割り当てられたコンピュータがリストに表示されます。各コンピュータは **FQDN**、**UUID**、および **Profile Name**（プロファイル名）の各列で識別されます。




□□□□ コンピュータはプロビジョニング後、**All configured Intel AMT computers**（設定済みの全 Intel AMT コンピュータ）の **Collections**（コレクション）フォルダに表示されます。


Altiris Console 6.5 - Windows Internet Explorer
http://altirisbox.trvpro.local/Altiris/Console/Default.aspx?ConsoleGuid=3faa8b67-250b-42ad-8186-fe2f49a9e707&ViewGuid=
Live Search
Altiris Console 6.5
Page
Tools
altiris console
altirisbox.trvpro.local - TRVPRO\Administrator
Search
Home
View
Manage
Tools
Reports
Configure
Help
Out of Band Management
Alert Standard Format Getting Started
Collections
All Broadcom ASF capable computers
All configured Intel® AMT computers
All Intel® AMT capable computers
Provisioning
Configuration
Intel® AMT Getting Started
Reports
Tasks
All Configured Intel® AMT Computers
All computers in this collection are configured Intel® AMT computers.
Last Updated: 7/11/2007 11:57:16 AM
This collection has no members.
Favorites
My Favorites
Altiris Console Home
Done
Internet
100%

# システムの展開

コンピュータをユーザーに展開する準備ができたら、コンピュータを電源に接続してネットワークに接続します。内蔵 Intel 82566DM ネットワークインタフェースカード（NIC）を使用します。Intel Active Management Technology（Intel AMT）はこれ以外の NIC では動作しません。

コンピュータは、電源を入れるとすぐに、セットアップおよび設定用サーバー（SCS）を検索します。このサーバーが見つかると、Intel AMT 対応コンピュータがこのサーバーに **Hello** メッセージを送信します。

メモ：ユーザーはまず、MEBx を介して、または Intel Activator を使用してネットワークアクセスをアクティブ化する必要があります。

セットアップおよび設定用サーバーの検索が自動的に正しく実行されるためには、DHCP と DNS が使用可能であることが必要です。DHCP と DNS が使用できない場合は、セットアップおよび設定用サーバー（SCS）の IP アドレスを、Intel AMT 対応コンピュータの MEBx に手動で入力する必要があります。

**Hello** メッセージには次の情報が含まれます。

- プロビジョニング ID（PID）
- 汎用一意識別子（UUID）
- IP アドレス
- ROM およびファームウェア（FW）のバージョン番号

**Hello** メッセージはエンドユーザーには見えません。

□□□ AMT 7 では、OS で IMSS を選択します。
□□□ 詳細設定タブで **Extended System Details**（拡張システム詳細）を選択します。
□□□ **Intel ME Information**（Intel ME 情報）をクリックします。

プロビジョニングモードが 「In Provisioning（プロビジョニング中）」である場合、ネットワーク上のサーバーをプロビジョニングするために Hello パケットが送信されています。SCS は、TLS がサポートされている場合は、**Hello** メッセージ内の情報を使用して、TLS Pre-Shared キー（PSK）の暗号スイートを使用する Intel AMT 対応コンピュータへの Transport Layer Security（TLS）接続を開始します。

SCS は、PID を使用してプロビジョニングサーバーデータベースのプロビジョニングパスフレーズ（PPS）を検索し、PPS や PID を使用して、TLS Pre-Master Secret を生成します。TLS はオプションです。安全で暗号化されたトランザクションを行うには、インフラストラクチャがある場合は TLS を使用します。TLS を使用しない場合、相互認証には HTTP Digest が使用されます。HTTP Digest は TLS ほど安全ではありません。SCS は、ユーザー名とパスワードを使って Intel AMT コンピュータにログインし、次の必須データ項目のプロビジョニングを行います。

- 新しい PPS と PID（今後のセットアップおよび設定のため）
- TLS 証明書
- プライベートキー
- 現在の日付と時刻
- HTTP Digest 信用証明書
- HTTP Negotiate 信用証明書

コンピュータはセットアップ状態からプロビジョニングされた状態となり、Intel AMT が完全に動作可能になります。コンピュータがプロビジョニングされた状態になると、リモート管理が可能になります。

# オペレーティングシステムのドライバ

オペレーティングシステム内で、デバイスマネージャにある不明デバイスを削除するには、AMT 統合ドライバがインストールされている必要があります。以前のバージョン 3、4、5 とは異なり（これらには、ユーザーによる再インストールの観点で捉えると、2 つの別個の **HECI** ドライバと **LMS/SOL** ドライバがありました）、これらは両方とも **AMT** 統合ドライバと呼ばれる共通パッケージに含まれています。統合ドライバパッケージがインストールされると、デバイスマネージャ内の PCI デバイス両方が管理されます。

# AMT 統合ドライバ

Intel AMT Serial-Over-LAN（SOL）/ Local Manageability Service（LMS）ドライバは、support.jp.dell.com および ResourceCD のチップセットドライバから入手できます。このドライバには Intel AMT SOL/LMS というラベルが付いています。インストーラをダブルクリックしてドライバをインストールします。

SOL/LMS ドライバをインストールすると、**PCI Serial Port**（PCI シリアルポート） エントリは **Intel Active Management Technology - SOL**（**COM3**）エントリになります。

Intel AMT Host Embedded Controller Interface（HECI）ドライバは、support.jp.dell.com および ResourceCD の **Chipset Drivers**（チップセットドライバ）から入手できます。このドライバには Intel AMT HECI というラベルが付いています。インストーラをダブルクリックしてドライバをインストールします。

HECI ドライバをインストールすると、**PCI Simple Communications Controller**（PCI シンプルコミュニケーションコントローラ）エントリは **Intel Management Engine Interface**（Intel Management Engine インタフェース）エントリになります。

# Intel AMT Web GUI

Intel AMT WebGUI は、Web ブラウザをベースとしたインタフェースであり、制限付きでリモートコンピュータを管理できます。WebGUI は、多くの場合、Intel AMT のセットアップおよび設定がコンピュータで正しく行われたかどうかを確認するためのテストツールとして使用されます。リモートコンピュータと WebGUI を実行するホストコンピュータとの間でリモート接続が正常に行われた場合、リモートコンピュータ上で Intel AMT が正しくセットアップおよび設定されていることになります。

Intel AMT WebGUI にアクセスするには、Internet Explorer または Netscape などの Web ブラウザを使用します。

制限付きのリモートコンピュータ管理には次の項目が含まれます。

- ハードウェアの在庫管理
- イベントのログ
- リモートコンピュータのリセット
- ネットワーク設定の変更
- 新しいユーザーの追加

メモ：WebGUI インタフェースの使い方については、 次の場所を参照してください。Intel AMT の Web サイト

次の手順に従い、セットアップおよび設定済みのコンピュータで Intel AMT WebGUI に接続します。

□□□ Intel AMT のセットアップおよび設定の完了した Intel AMT 対応のコンピュータの電源を入れます。
□□□ Intel AMT コンピュータと同じサブネット上にある管理コンピュータなど、別のコンピュータから Web ブラウザを起動します。
□□□ MEBx および Intel AMT 対応コンピュータのポートで指定されている IP アドレスに接続します。
（例：`http://ip_address:16992` または `http://192.168.2.1:16992`）

- デフォルトのポートは 16992 です。

  メモ：Enterprise（エンタープライズ）モードでセットアップおよび設定されたコンピュータの Intel AMT WebGUI には、ポート 16993 と https:// を使用して接続します。

- DHCP が使用されている場合は、ME の完全修飾ドメイン名（FQDN）を使用します。FQDN はホスト名とドメインの組み合わせです。（例：`http://host_name:16992` または `http://system1:16992`）

□□□ 管理コンピュータは、Intel AMT 対応コンピュータに TCP 接続を行い、Intel AMT 対応コンピュータの Management Engine 内にある、Intel AMT が組み込まれた Web ページの最上位レベルにアクセスします。
□□□ ユーザー名とパスワードを入力します。デフォルトのユーザー名は `admin` で、パスワードは MEBx での Intel AMT セットアップ時に設定されたものです。
□□□ コンピュータ情報を確認し、必要に応じて変更します。

メモ：WebGUI でリモートコンピュータの MEBx パスワードを変更できます。WebGUI またはリモートコンソールでパスワードを変更すると、2 つのパスワードが作成されます。新しいパスワードは、リモート MEBx パスワードと呼ばれ、WebGUI またはリモートコンソールをリモートで使用する場合にのみ機能します。ローカルアクセスに使用されるローカルの MEBx パスワードは変更されません。MEBx にローカルおよびリモートでアクセスするには、ローカルおよびリモート双方の MEBx パスワードを記憶しておくことが必要です。Intel AMT セットアップで MEBx パスワードが最初に設定された場合、パスワードはローカルおよびリモートのどちらのパスワードとしても使用できます。リモートパスワードを変更すると、パスワードが同期しなくなります。

□□□ **Exit**（終了）を選択します。

# AMT リダイレクションの概要

Intel AMT により、管理されているクライアントの起動および電源状態に関係なく、管理されているクライアントから管理コンソールへのシリアル通信と IDE 通信をリダイレクトできます。クライアントで必要なのは、Intel AMT 機能、電源への接続、ネットワーク接続だけです。Intel AMT は、TCP/IP 経由の Serial Over LAN（シリアルオーバー LAN、SOL、テキスト / キーボードリダイレクション）と IDE Redirection（IDER、CD-ROM リダイレクション）をサポートしています。

# Serial Over LAN（シリアルオーバー LAN）の概要

Serial Over LAN（シリアルオーバー LAN、SOL）とは、標準的なネットワーク接続を経由してシリアルポート通信をエミュレートする機能です。SOL は、通常シリアルポート接続が必要とされる大部分の管理アプリケーションに使用できます。

Intel AMT リダイレクションライブラリを使用して、Intel AMT 対応クライアントと管理コンソールとの間でアクティブな SOL セッションを確立すると、クライアントの シリアルトラフィックは LAN 接続経由で Intel AMT を介してリダイレクトされ、管理コンソールで使用できるようになります。同様に、管理コンソールは、クライアントのシリアルポートを介して受信されるシリアルデータを LAN 接続経由で 送信できます。

# IDE Redirection（IDE リダイレクション）の概要

IDE Redirection（IDE リダイレクション、IDER）では、標準的なネットワーク接続経由で、IDE CD ドライブまたはレガシーフロッピー、または LS-120 ドライブをエミュレートできます。IDER により、管理マシンはローカルドライブのいずれか 1 つを、管理されているクライアントへネットワークを通じて接続できます。IDER セッションの確立後は、管理されているクライアントは、クライアント自体の IDE チャネルにリモートデバイスが直接接続されているかのように、リモートデバイスを使用できます。これは、応答のないコンピュータをリモートで起動する際に便利です。IDER は、DVD フォーマットをサポートしていません。

たとえば、IDER を使用して、オペレーティングシステムが破損しているクライアントを起動します。最初に、有効な起動ディスクを管理コンソールのディスクドライブにロードします。次に、管理コンソールが IDER TCP セッションを開始すると、このドライブが引数として渡されます。Intel AMT は、このデバイスの電源または起動状態に関係なく、このデバイスをクライアント上の仮想 IDE デバイスとして登録します。クライアントの BIOS を仮想 IDE デバイスから起動する設定が必要な場合があるので、SOL および IDER の両方を使用します。

# Intel Management and Security Status アプリケーション

Intel Management and Security Status（IMSS）は、プラットフォームの Intel Active Management Technology（Intel AMT）および Intel Standard Manageability（Intel 標準管理機能）サービスに関する情報を表示するアプリケーションです。

IMSS アイコンは、Intel AMT および Intel Standard Manageability がプラットフォームで実行されているかどうかを示します。このアイコンはタスクトレイにあります。デフォルトで、通知アイコンは Windows* が起動するたびに表示されます。

Intel Management and Security Status アプリケーションには、Intel AMT の世代（4.x、5.x、6.x）それぞれに個別のバージョンがあります。これは、Intel AMT 6.x 世代用の Intel Management and Security Status アプリケーションを説明するものです。

**メモ：**ユーザーが Windows にログオンすることにより Intel Management and Security Status アプリケーションが自動的に起動する場合があります。このとき、Intel AMT または Intel Standard Manageability がプラットフォームで有効になっている場合にのみアイコンがタスクトレイにロードされます。Intel Management and Security Status アプリケーションが（スタートメニューから）手動で起動された場合、これらのテクノロジが有効化されていない場合でも、ドライバがすべてインストールされていればアイコンがロードされます。

**メモ：**Intel Management and Security Status に表示される情報はリアルタイムで表示されるわけではありません。データは異なる時間間隔でリフレッシュされます。

* 本ページに記載の情報は Intel により提供されています。

# トラブルシューティング

ここでは、Intel AMT 設定時に問題が発生した場合の基本的なトラブルシューティング手順をいくつか説明します。詳しいトラブルシューティングオプションについては、DSN をチェックしてください。

# デフォルトに戻す

デフォルトに戻す操作は、プロビジョニング解除とも呼ばれます。Intel AMT がセットアップおよび設定されたコンピュータは、ME General Settings（ME 一般設定）画面の **Unconfigure Network Access**（ネットワークアクセスの設定解除）を使用してプロビジョニングを解除することができます。

次の手順に従って、コンピュータのプロビジョニングを解除します。

□□□ **Un-Provision**（プロビジョニング解除）を選択した後、**Full Un-provision**（完全なプロビジョニング解除）を選択します。

このオプションにより、Intel AMT のすべての設定が工場出荷時のデフォルトにリセットされますが、ME の設定やパスワードはリセットされません。約 1 分後に、プロビジョニング解除に関するメッセージが表示されます。プロビジョニング解除が完了すると、ME General Settings（ME 一般設定）画面に制御が戻されます。

□□□ **Return to previous menu**（前のメニューに戻る）を選択します。
□□□ **Exit**（終了）を選択し、<y> を押します。コンピュータが再起動します。

# ファームウェアのフラッシュ

ファームウェアをフラッシュして、新しいバージョンの Intel AMT にアップグレードします。自動フラッシュ機能は、MEBx インタフェースの **Secure Firmware Update**（ファームウェアのセキュアなアップデート）設定で **Disabled** （無効）を選択すると表示されます。この設定を無効にすると、BIOS のフラッシュ時にファームウェアのエラーメッセージが表示されます。

# **Serial-Over-LAN (SOL)（シリアルオーバー LAN（SOL））/ IDE Redirection (IDE-R)（IDE リダイレクション（IDE-R））**

IDE-R および SOL を使用できない場合は、次の手順に従います。

□□□ 初期起動画面で、<Ctrl><p> を押して、MEBx 画面を表示します。
□□□ パスワードを入力するプロンプトが表示されます。新しい Intel ME パスワードを入力します。
□□□ **Unconfigure Network Access**（ネットワークアクセスの設定解除）を選択します。<Enter> を押します。
□□□ **Y** を選択します。<Enter> を押します。
□□□ **Full Unprovision**（完全なプロビジョニング解除）を選択します。<Enter> を押します。
□□□ **AMT Configuration**（AMT 設定）（ここに表示されます）メニューオプションで設定値を再設定します。